

印西市

障がい福祉に関するアンケート調査

結果報告書

令和 8 年 5 月

印西市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象者.....	1
3. 調査の方法と回収状況	1
4. 調査結果の見方	2
第2章 障がい者アンケート.....	3
1. あなたのことについて	3
2. 住まいや暮らしについて	9
3. 外出や社会参加について	17
4. 災害時の対応について	22
5. 収入や就労について	29
6. 医療について.....	36
7. 障がいに対する理解について	39
8. 情報や相談について	45
9. 障がい者施策について	54
第3章 障がい児アンケート.....	62
1. あなたのことについて	62
2. 教育などについて	70
3. 保護者のことについて	76
4. 外出について.....	82
5. 災害時の対応について	86
6. 医療について.....	94
7. 障がいに対する理解について	97
8. 情報や相談について	104
9. 障がい者施策について	114
第4章 保護者アンケート	120
1. 子どものことについて	120
2. 療育(児童発達支援・放課後等デイサービス)の利用について.....	123
3. 保護者のことについて	137
4. 教育などについて	147
5. 災害対策について	152
6. 市の施策について	156

第5章 一般アンケート	159
1. あなたのことにについて	159
2. 障がいへの理解について	163
3. 障がいのある人の社会参加について	170
4. 障がい者雇用について	179
5. 福祉のまちづくりについて	181

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和9年度から令和11年度までを計画期間とする「第6次印西市障害者基本計画・第8期印西市障害福祉計画・第4期印西市障害児福祉計画」の策定にあたり、障がい者福祉等の実態を踏まえ、障害福祉サービスの現状と需要を把握するとともに、本市における課題の整理を行い、今後目指すべき方向性を検討する基礎資料を得るため、実施したものです。

2. 調査対象者

調査の種類と対象者は、次のとおりです。

種類	対象者
障がい者アンケート	18歳以上の手帳所持者
障がい児アンケート	18歳未満の手帳所持者
保護者アンケート	児童発達支援及び放課後等デイサービスの利用者（非手帳所持者）
一般アンケート	18歳以上の一般市民

3. 調査の方法と回収状況

調査の方法と回収状況は、次のとおりです。

【調査方法】

◇郵送による配布・回収

※郵送とインターネット回答の併用

（調査票に二次元コードを記載、専用ウェブサイトにて回答）

【調査期間】

◇令和8年2月9日（月）～3月6日（金）

【配布・回収状況】※括弧内はインターネット回答者数

種類	配布数	回収数	回収率	【参考・前回】 令和5年調査 回収率
障がい者アンケート	3,448	1,601（320）	46.4%	48.8%
障がい児アンケート	382	203（122）	53.1%	52.6%
保護者アンケート	530	272（175）	51.3%	43.9%
一般アンケート	1,940	762（356）	39.3%	

4. 調査結果の見方

- ◇タイトル右には、設問に応じ、S A（単数回答）、M A（複数回答）、F A（自由記述）を示しています。
- ◇各設問のカテゴリー（選択肢）等について、表現を短縮・簡略化している場合があります。
- ◇集計結果のグラフのnの値は、当該設問の回答者数を示しています。
- ◇前回調査（令和5年実施）との比較が可能な設問については、グラフに前回調査の数値を掲載しています。
- ◇集計結果のグラフ・表における比率（％）は、小数点第2位を四捨五入して算出・表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ◇各集計結果のコメントは、特徴的な事項のみ記載しています。また、回答者数が少ない場合は、コメントの記載を省略している場合があります。
- ◇表における 表示はその種別の第一位の項目（無回答を除く）を示しています。
- ◇居住地域については、下記の地域区分によって分析を行っています。

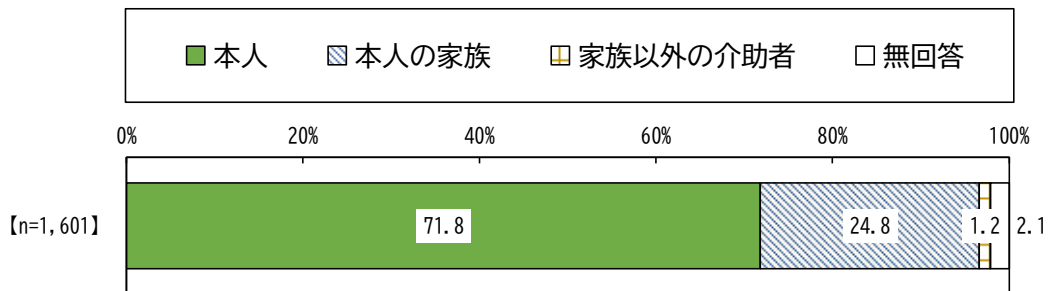
居住地域	対象地区
北部	木下・木下南・竹袋・別所・宗甫・木下東・平岡・平岡官堤・小林・小林官堤・小林官堤腹・小林北・小林浅間・小林大門下・大森・鹿黒・鹿黒南・亀成・発作・相嶋・浅間前・大森官堤・浦部・浦部村新田・白幡・浦幡新田・高西新田・小倉・和泉・牧の台
南部	小倉台・大塚・牧の木戸・木刈・武西学園台・戸神台・中央北・中央南・内野・原山・高花
船穂・草深	草深・東の原・西の原・原・泉・松崎・松崎台・結縁寺・多々羅田・武西・戸神・船尾・泉野
印旛	瀬戸・山田・平賀・平賀学園台・吉高・萩原・松虫・岩戸・師戸・鎌苅・大廻・造谷・つくりや台・吉田・美瀬・舞姫・若萩
本埜	中根・荒野・角田・竜腹寺・惣深新田飛地・滝・物木・笠神・行徳・川向・下曾根・中・萩埜・桜野・押付・佐野屋・和泉屋・甚兵衛・立埜原・松木・中田切・下井・長門屋・酒直ト杭・安食ト杭・将監・本埜小林・滝野・みどり台・牧の原

第2章 障がい者アンケート

1. あなたのことについて

問1. 調査票の記入者 【SA】

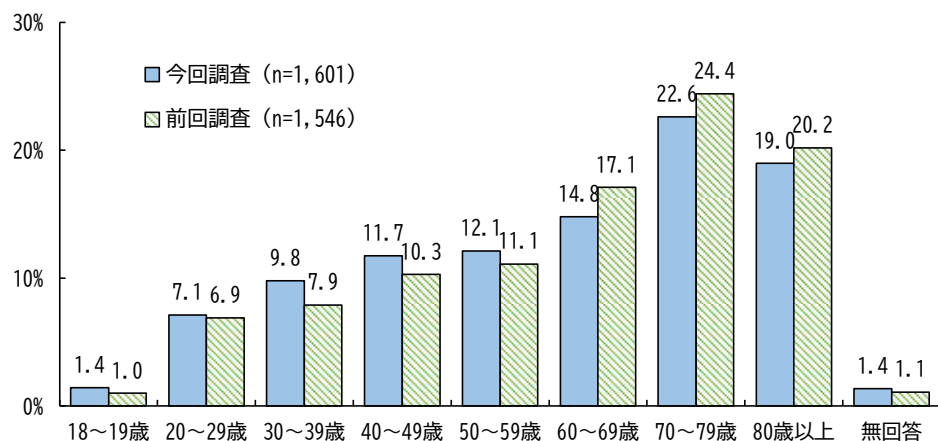
○「本人」が71.8%で最も高く、「本人の家族」が24.8%、「家族以外の介助者」が1.2%となっています。



問2. 年齢（宛名のご本人）※令和8年1月1日時点 【SA】

○「70～79歳」が22.6%で最も高く、以下「80歳以上」が19.0%、「60～69歳」が14.8%となっています。

○前回調査と比べると、60歳以上で減少傾向となっています。



【障がい種別の集計】

○障がいの種類別にみると、「身体障がい」は「70～79歳」が32.6%、「知的障がい」は「20歳～29歳」が30.7%、「精神障がい」は「40～49歳」が25.7%で最も高くなっています。

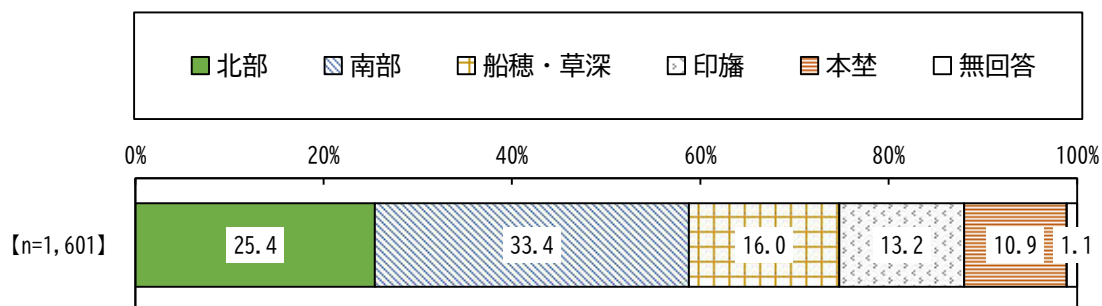
	合計(n)	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答
全体	1601	1.4	7.1	9.8	11.7	12.1	14.8	22.6	19.0	1.4
障がい種別										
身体障がい	1054	0.3	1.6	2.7	6.4	9.4	18.0	32.6	27.8	1.2
知的障がい	192	8.9	30.7	30.2	15.1	10.9	3.6	0.0	0.5	0.0
精神障がい	393	1.5	12.2	19.8	25.7	21.6	10.7	6.4	1.3	0.8

単位：％

問 3. 居住地

【SA】

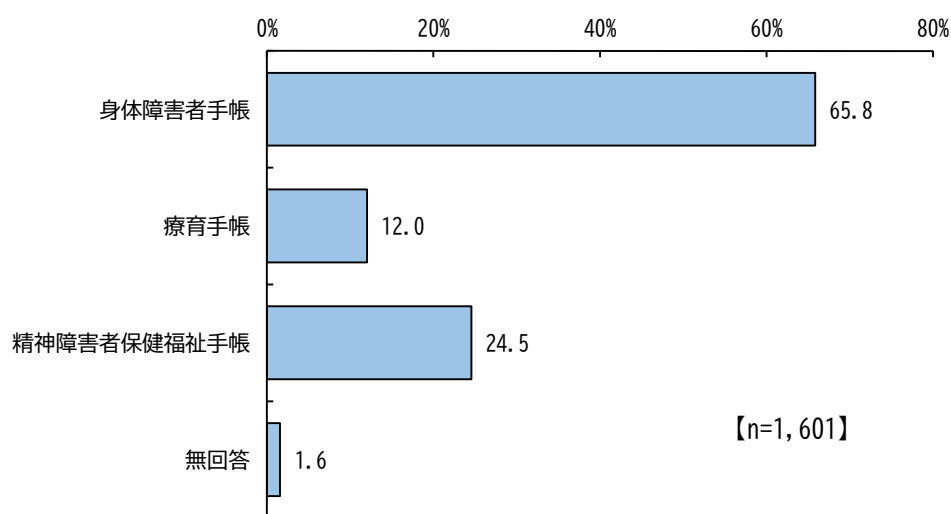
○「南部」が33.4%で最も高く、以下「北部」が25.4%、「船穂・草深」が16.0%「印旛」が13.2%、「本埜」が10.9%となっています。



問 4. 持っている手帳の種類

【SA】

○「身体障害者手帳」が65.8%で最も高く、以下「精神障害者保健福祉手帳」が24.5%、「療育手帳」が12.0%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、「10歳～20歳代」は「療育手帳」、「30歳代」と「40歳代」は「精神障害者保健福祉手帳」、「50歳代」以上は「身体障害者手帳」が最も高くなっています。

		合計(n)	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	無回答
全体		1601	65.8	12.0	24.5	1.6
年齢別	10～20歳代	137	14.6	55.5	39.4	0.0
	30歳代	157	17.8	36.9	49.7	1.3
	40歳代	188	35.6	15.4	53.7	0.5
	50歳代	194	51.0	10.8	43.8	0.5
	60歳代	237	80.2	3.0	17.7	1.3
	70歳以上	666	95.6	0.2	4.5	1.8

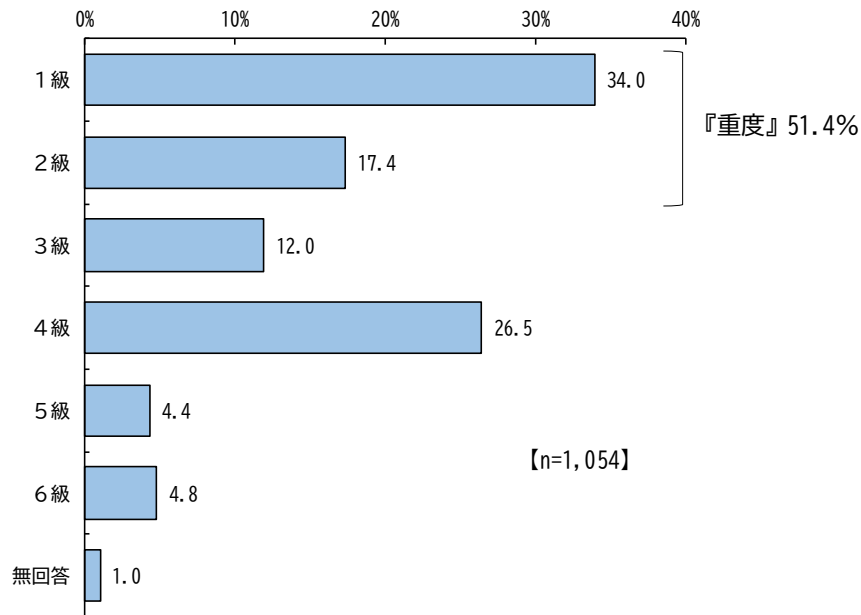
単位：%

【問4において「1 身体障害者手帳」を回答した方限定】

問4①. 身体障害者手帳の等級

【SA】

○「身体障害者手帳1級」が34.0%で最も高く、「身体障害者手帳2級」の17.4%と合わせた『重度』は、51.4%となっています。

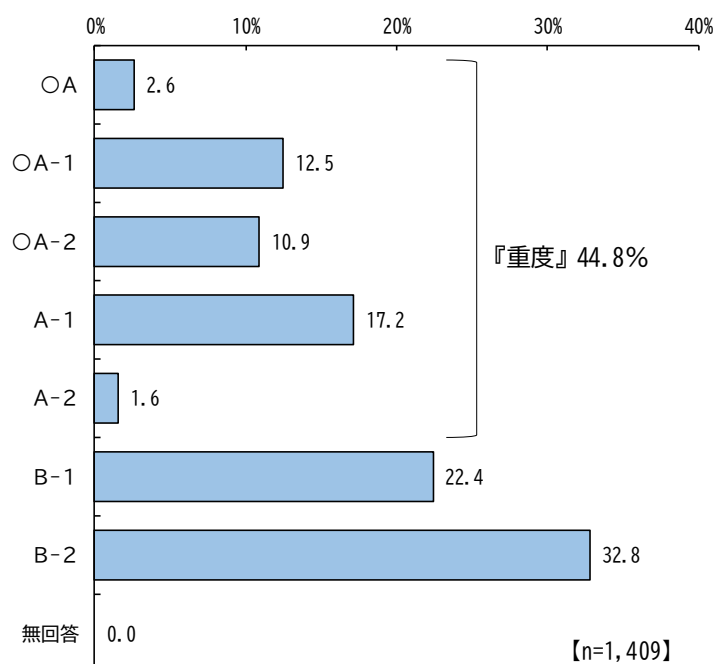


【問4において「2 療育手帳」を回答した方限定】

問4②. 療育手帳の等級

【SA】

○「B-2」が32.8%で最も高くなっています。なお、「OA~A-2」までの『重度』は44.8%となっています。

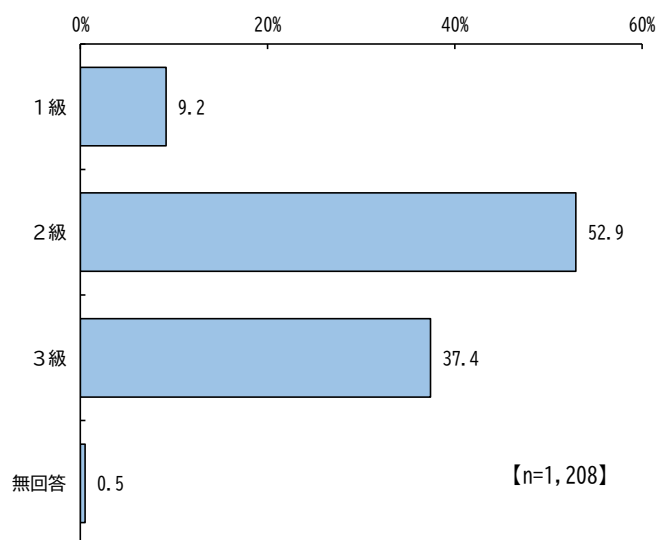


【問 4 において「3 精神障害者保健福祉手帳」を回答した方限定】

問 4③. 精神障害者保健福祉手帳の等級

【SA】

○「2 級」が 52.9% で最も高く、次いで「3 級」が 37.4%、「1 級」が 9.2% となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、身体障害者手帳は“4 級”を除いて「70～79 歳」が最も高くなっています。療育手帳は“OA”から“OA-2”で「20～29 歳」が高くなっています。精神障害者保健福祉手帳は“1 級”を除いて「40～49 歳」が最も高くなっています。

	合計(n)	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答
全体	1601	1.4	7.1	9.8	11.7	12.1	14.8	22.6	19.0	1.4
身体障害者手帳										
1 級	358	0.6	2.0	3.4	8.9	11.5	17.6	32.7	22.6	0.8
2 級	183	0.0	1.6	3.3	3.3	15.8	20.2	30.6	24.6	0.5
3 級	126	0.0	0.8	1.6	13.5	4.8	17.5	32.5	28.6	0.8
4 級	279	0.0	1.4	2.2	3.2	4.7	15.1	35.5	35.8	2.2
5 級	46	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7	28.3	30.4	30.4	2.2
6 級	51	2.0	3.9	3.9	5.9	9.8	21.6	25.5	25.5	2.0
療育手帳										
OA	5	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
OA-1	24	12.5	25.0	20.8	12.5	16.7	12.5	0.0	0.0	0.0
OA-2	21	4.8	38.1	28.6	19.0	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A-1	33	12.1	27.3	39.4	15.2	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A-2	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
B-1	43	7.0	32.6	25.6	14.0	16.3	4.7	0.0	0.0	0.0
B-2	63	6.3	30.2	33.3	17.5	9.5	1.6	0.0	1.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳										
1 級	36	2.8	11.1	8.3	11.1	25.0	16.7	19.4	5.6	0.0
2 級	208	1.0	11.5	19.2	26.9	23.1	11.5	4.8	1.0	1.0
3 級	147	2.0	13.6	23.1	27.9	19.0	8.2	4.8	0.7	0.7

※黄色網掛けは重度

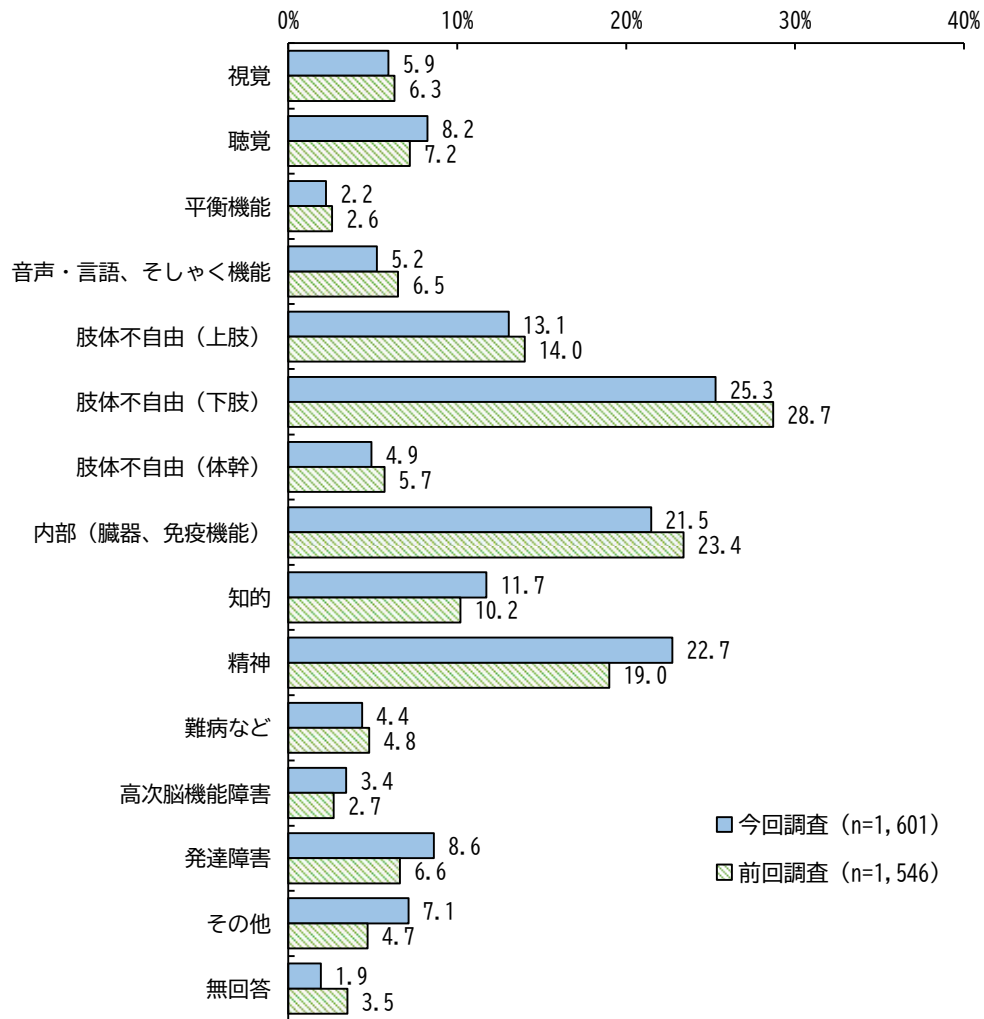
単位：%

問 5. 障がいの種類

【MA】

○「肢体不自由（下肢）」が25.3%で最も高く、以下「精神」が22.7%、「内部（臓器、免疫機能）」が21.5%となっています。

○前回調査に比べ、「精神」が3.7ポイント増加しています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10歳～20歳代”は「知的」、「30歳代」から“50歳代”は「精神」がそれぞれ最も高くなっています。“60歳代”は「肢体不自由（下肢）」、“70歳以上”で「内部（臓器、免疫機能）」がそれぞれ高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”と“精神障がい”は「発達障害」が高くなっています。

		合計(n)	視覚	聴覚	平衡機能	音声・言語、そ しゃく機能	肢体不自由(上 肢)	肢体不自由(下 肢)	肢体不自由(体 幹)	内部(臓器、免疫 機能)
全体		1601	5.9	8.2	2.2	5.2	13.1	25.3	4.9	21.5
年齢別	10～20歳代	137	2.9	0.0	1.5	5.1	6.6	11.7	1.5	3.6
	30歳代	157	3.2	4.5	1.3	4.5	5.7	7.6	3.8	3.8
	40歳代	188	4.3	3.2	1.1	3.7	8.5	13.8	3.2	12.2
	50歳代	194	6.2	5.7	3.1	5.7	13.9	21.6	6.7	16.5
	60歳代	237	7.6	6.8	2.5	8.0	21.1	37.6	4.2	23.6
	70歳以上	666	7.2	13.7	2.6	4.8	14.3	32.0	6.0	33.0
障がい 種別	身体障がい	1054	8.1	11.7	3.1	6.5	19.4	37.0	7.3	32.2
	知的障がい	192	2.6	3.1	1.6	8.9	6.3	6.8	1.0	1.6
	精神障がい	393	3.6	2.0	1.0	2.0	2.5	5.6	0.5	1.3

		合計(n)	知的	精神	難病など	高次脳機能 障害	発達障害	その他	無回答
全体		1601	11.7	22.7	4.4	3.4	8.6	7.1	1.9
年齢別	10～20歳代	137	52.6	34.3	2.9	0.7	37.2	2.9	0.7
	30歳代	157	35.0	46.5	3.8	3.2	24.8	3.8	0.6
	40歳代	188	14.9	50.0	2.1	3.7	16.0	4.8	1.1
	50歳代	194	11.3	43.8	5.2	6.2	6.7	2.1	0.0
	60歳代	237	3.4	16.9	3.4	6.3	0.8	6.8	1.3
	70歳以上	666	0.5	3.5	5.4	2.3	0.3	11.3	2.6
障がい 種別	身体障がい	1054	2.6	3.6	5.5	4.1	1.3	8.6	1.2
	知的障がい	192	89.1	8.9	1.6	0.0	30.2	3.1	2.1
	精神障がい	393	3.6	85.5	2.3	4.1	20.1	5.3	0.5

単位：％

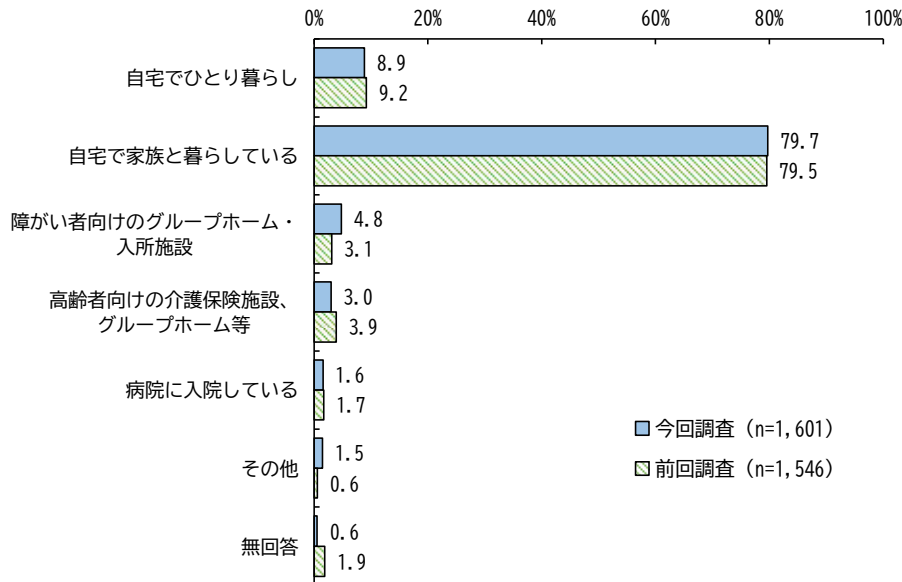
2. 住まいや暮らしについて

問 6. 現在の暮らし

【SA】

○「自宅で家族と暮らしている」が79.7%で最も高く、以下「自宅でひとり暮らし」が8.9%、「障がい者向けのグループホーム・入所施設」が4.8%となっています。

○前回調査に比べ、傾向に変わりはありませんが、「障がい者向けのグループホーム・入所施設」が微増しています。



【年齢別・障がい種別・居住地域別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「自宅で家族と暮らしている」が最も高くなっていますが、“50歳代”は71.1%で他の年齢を下回ります。“50歳代”以上の「自宅でひとり暮らし」は1割程度となっています。

○障がい種別にみると、“知的障がい”は「障がい者向けのグループホーム・入所施設」20.3%が他の障がいを大きく上回ります。

○居住地域別にみると、“北部”と“印旛”で「自宅で一人暮らし」が他の地域を上回り高くなっています。

		合計(n)	自宅でひとり暮らし	自宅で家族と暮らしている	障がい者向けのグループホーム・入所施設	高齢者向けの介護保険施設、グループホーム等	病院に入院している	その他	無回答
全体		1601	8.9	79.7	4.8	3.0	1.6	1.5	0.6
年齢別	10～20歳代	137	2.9	87.6	6.6	0.7	0.7	1.5	0.0
	30歳代	157	1.3	82.8	10.8	0.6	0.6	3.8	0.0
	40歳代	188	7.4	83.0	8.0	0.0	0.5	0.5	0.5
	50歳代	194	12.9	71.1	10.8	1.5	2.1	1.5	0.0
	60歳代	237	10.1	82.3	4.2	1.3	1.7	0.4	0.0
	70歳以上	666	10.5	78.2	0.8	6.0	2.1	1.7	0.8
障がい種別	身体障がい	1054	10.1	80.0	2.5	4.0	1.8	1.2	0.5
	知的障がい	192	1.6	75.5	20.3	1.6	0.0	1.0	0.0
	精神障がい	393	8.7	80.2	5.9	1.0	1.8	2.0	0.5
居住地域	北部	407	11.5	73.5	8.1	3.2	1.2	1.7	0.7
	南部	534	8.4	81.5	3.7	2.4	2.2	1.1	0.6
	船穂・草深	256	5.9	84.8	4.7	2.7	1.6	0.4	0.0
	印旛	212	10.4	79.7	3.3	2.4	1.4	2.8	0.0
	本埜	174	7.5	81.0	2.9	5.7	0.6	2.3	0.0

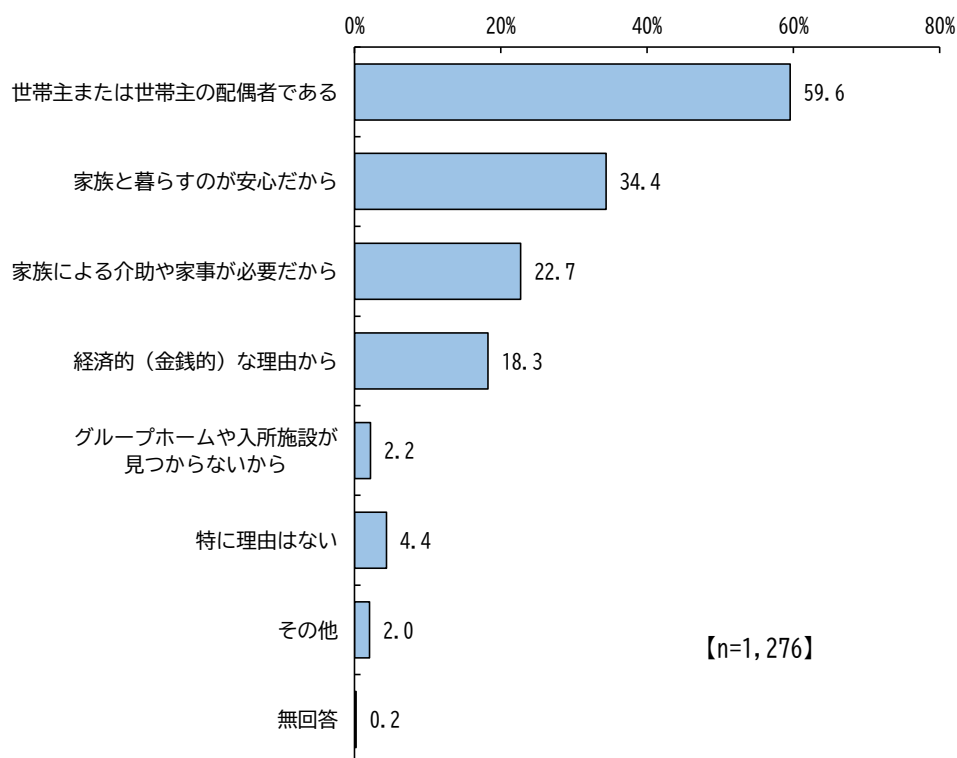
単位：%

【問 6 において「2 自宅で家族と暮らしている」を回答した方限定】

問 6-1. 家族と暮らしている理由

【MA】

- 「世帯主または世帯主の配偶者である」が 59.6%で最も高く、以下「家族と暮らすのが安心だから」が 34.4%、「家族による介助や家事が必要だから」が 22.7%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

- 年齢別にみると、「10～20 歳代」と「30 歳代」の低い年齢は、「家族と暮らすのが安心だから」が最も高く、5 割を超えています。一方、「40 歳代」以上は「世帯主または世帯主の配偶者である」が最も高くなっています。

- 障がい種別にみると、「身体障がい」と「精神障がい」は「世帯主または世帯主の配偶者である」が最も高い一方、「知的障がい」は「家族と暮らすのが安心だから」が 63.4%で他の障がいを大きく上回ります。

		合計(n)	世帯主または世帯主の配偶者である	家族による介助や家事が必要だから	家族と暮らすのが安心だから	グループホームや入所施設が見つからないから	経済的（金銭的）な理由から	特に理由はない	その他	無回答
全体		1276	59.6	22.7	34.4	2.2	18.3	4.4	2.0	0.2
年齢別	10～20歳代	120	6.7	40.8	51.7	6.7	30.0	5.8	3.3	0.0
	30歳代	130	22.3	29.2	53.1	9.2	28.5	2.3	3.8	0.0
	40歳代	156	48.1	19.9	37.2	1.3	28.8	3.8	3.8	0.6
	50歳代	138	65.9	18.8	26.8	0.7	17.4	4.3	1.4	0.0
	60歳代	195	80.5	16.9	28.7	0.5	15.4	3.1	2.6	0.0
	70歳以上	521	74.7	21.5	29.6	0.8	10.7	5.2	0.8	0.4
障がい種別	身体障がい	843	73.2	20.4	27.8	0.8	11.9	5.1	1.4	0.2
	知的障がい	145	4.8	42.1	63.4	13.1	20.0	5.5	1.4	0.0
	精神障がい	315	44.8	22.9	40.3	1.3	35.9	1.9	4.1	0.3

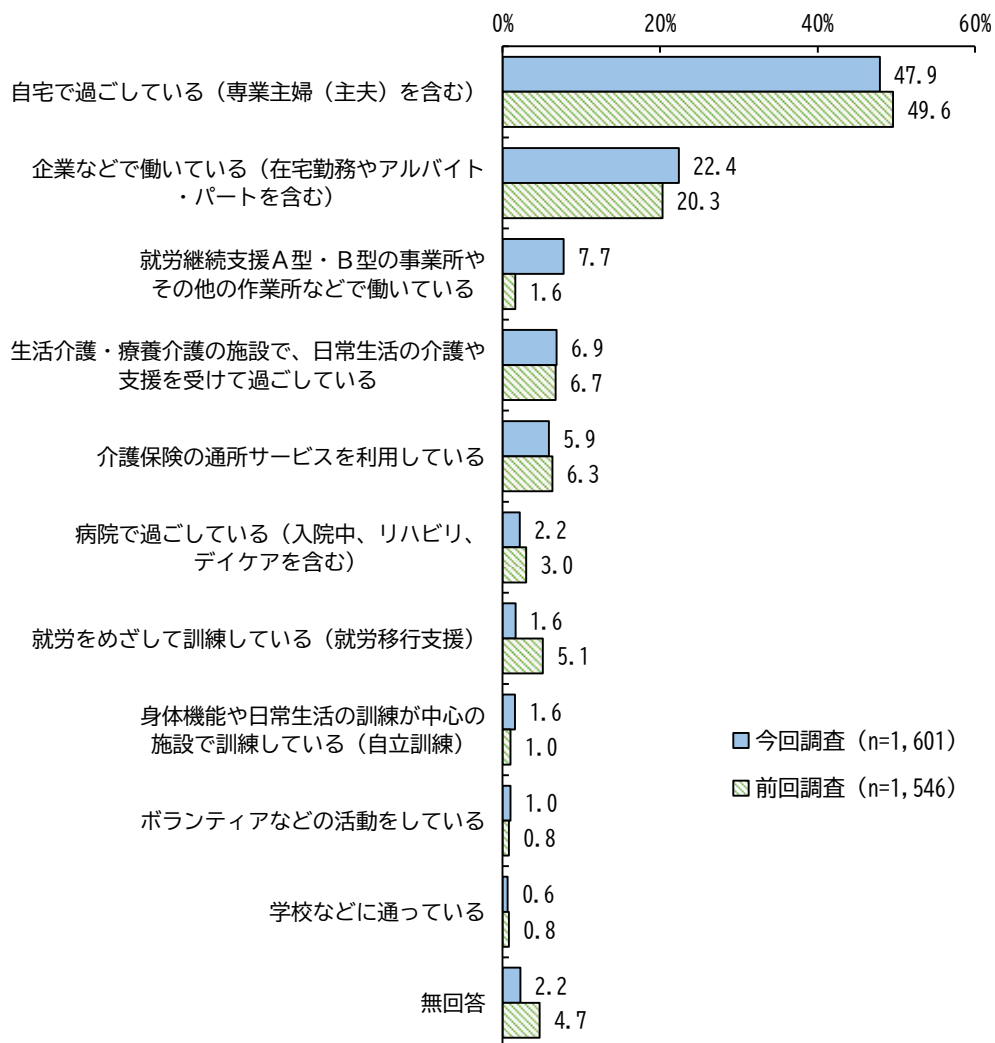
単位：%

問 7. 平日の日中の過ごし方

【SA】

○「自宅で過ごしている（専業主婦（主夫）を含む）」が47.9%で最も高く、以下「企業などで働いている（在宅勤務やアルバイト・パートを含む）」が22.4%、「就労継続支援A型・B型の事業所やその他の作業所などで働いている」が7.7%となっています。

○前回調査に比べると、「自宅で過ごしている（専業主婦（主夫）を含む）」が2.0ポイント減少する一方、「企業等で働いている（在宅勤務やアルバイト・パートを含む）」が2.1ポイント増加しています。また、「就労継続支援A型・B型の事業所やその他の作業所などで働いている」が6.1ポイント増加しています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別でみると、“40歳代”以下は「企業で働いている」が最も高く、“60歳代”以上の高い年齢で「自宅で過ごしている」が高くなっています。（“50歳代”は「企業で働いている」と「自宅で過ごしている」が同率で最も高い。）

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「企業などで働いている」、「就労継続支援A型・B型の事業所やその他の作業所などで働いている」が高い一方、“身体障がい”と“精神障がい”は「自宅で過ごしている（専業主婦（主夫）を含む）」が最も高くなっています。

		合計(n)	学校など に通って いる	企業など で働いて いる（在 宅勤務や アルバイト・パートを含む）	就労継続 支援A 型・B型 の事業所 やその他 の作業所 などで働 いている	就労をめ ざして訓 練してい る（就労 移行支 援）	身体機能 や日常生 活の訓練 が中心の 施設で訓 練してい る（自立 訓練）	生活介護・療養 介護の施設で、日常生活の 介護や支援を受けて過 ぎしている
全体		1601	0.6	22.4	7.7	1.6	1.6	6.9
年 齢 別	10～20歳代	137	7.3	31.4	21.9	5.8	3.6	12.4
	30歳代	157	0.0	43.9	17.2	7.6	2.5	9.6
	40歳代	188	0.0	39.4	14.9	1.1	1.6	5.3
	50歳代	194	0.0	36.6	12.9	2.1	1.5	5.7
	60歳代	237	0.0	27.0	5.1	0.0	1.3	5.5
	70歳以上	666	0.0	5.1	0.3	0.0	1.1	6.5
障がい 種別	身体障がい	1054	0.0	18.9	2.2	0.6	1.2	6.3
	知的障がい	192	3.6	30.2	29.7	0.5	1.6	23.4
	精神障がい	393	0.8	27.7	13.0	5.9	2.5	3.1

		合計(n)	介護保険 の通所 サービス を利用し ている	ボラン ティアな どの活動 をしてい る	病院で過 ぎしてい る（入院 中、リハ ビリ、デ イケアを 含む）	自宅で過 ぎしてい る（専業 主婦（主 夫）を含 む）	無回答
全体		1601	5.9	1.0	2.2	47.9	2.2
年 齢 別	10～20歳代	137	1.5	0.0	0.7	15.3	0.0
	30歳代	157	0.6	1.3	1.9	13.4	1.9
	40歳代	188	1.6	0.0	1.1	34.0	1.1
	50歳代	194	0.5	0.0	2.1	36.6	2.1
	60歳代	237	6.8	1.7	2.1	49.8	0.8
	70歳以上	666	10.7	1.4	3.0	68.8	3.3
障がい 種別	身体障がい	1054	8.2	1.3	2.5	56.6	2.3
	知的障がい	192	3.1	0.0	0.0	5.7	2.1
	精神障がい	393	1.0	0.3	2.5	42.0	1.3

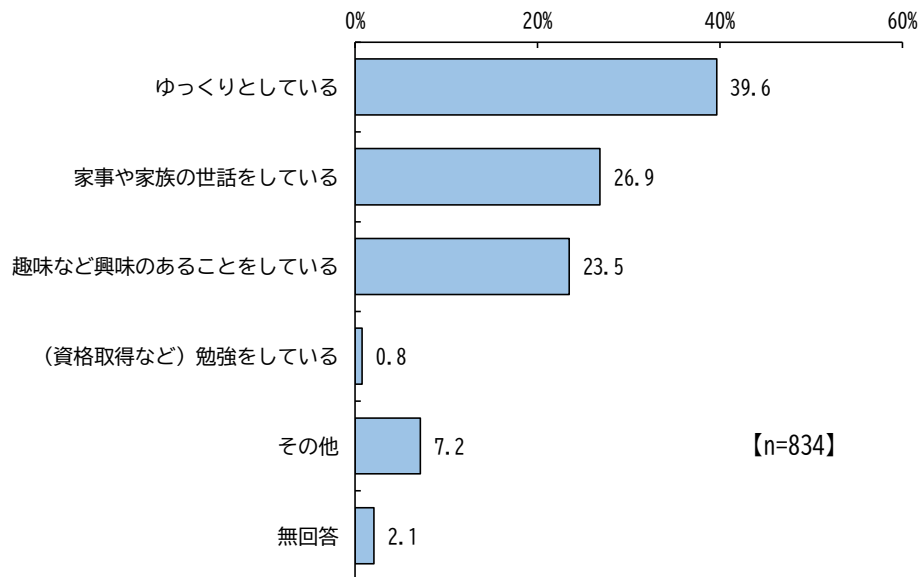
単位：％

【問7において「10 自宅で過ごしている」を回答した方限定】

問7-1. 自宅での過ごし方

【SA】

- 「ゆっくりとしている」が39.6%で最も高く、以下「家事や家族の世話をしている」が26.9%、「趣味など興味のあることをしている」が23.5%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

- 年齢別にみると、“30歳代”と“40歳代”を除いて「ゆっくりとしている」が最も高くなっています。“30歳代”と“40歳代”では「家事や家族の世話をしている」が高くなっています。“70歳以上”では「趣味など興味のあることをしている」29.5%が他の年齢を大きく上回ります。
- 障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「ゆっくりとしている」が最も高くなっています。“知的障がい”は「趣味など興味のあることをしている」が他の障がいを上回ります。

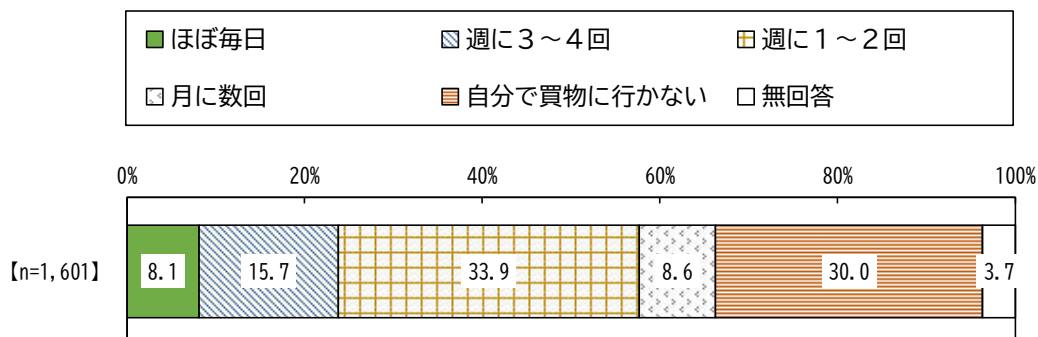
		合計(n)	家事や家族の世話をしている	(資格取得など)勉強をしている	趣味など興味のあることをしている	ゆっくりとしている	その他	無回答
全体		767	26.9	0.8	23.5	39.6	7.2	2.1
年齢別	10～20歳代	21	23.8	0.0	19.0	33.3	23.8	0.0
	30歳代	21	33.3	9.5	19.0	28.6	9.5	0.0
	40歳代	64	39.1	1.6	12.5	34.4	10.9	1.6
	50歳代	71	39.4	0.0	7.0	45.1	7.0	1.4
	60歳代	118	31.4	0.8	17.8	41.5	8.5	0.0
	70歳以上	458	22.3	0.4	29.5	39.7	5.5	2.6
障がい種別	身体障がい	597	25.8	0.5	25.8	39.2	6.2	2.5
	知的障がい	11	18.2	9.1	36.4	27.3	9.1	0.0
	精神障がい	165	32.1	1.2	13.9	40.0	12.7	0.0

単位：%

問 8. 買い物の頻度

【SA】

○「週に 1～2 回」が 33.9%で最も高く、以下「自分で買物に行かない」が 30.0%、「週に 3～4 回」が 15.7%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“30 歳代”以下の低い年齢で「自分で買物に行かない」が最も高く、“40 歳代”以上では「週に 1～2 回」が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”を除いて「週に 1～2 回」が最も高く、“身体障がい” 35.2%、“精神障がい” 35.4%となっています。“知的障がい”は「自分で買物に行かない」50.5%が最も高く、5 割を超えています。

		合計(n)	ほぼ毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に数回	自分で買物に行かない	無回答
全体		1601	8.1	15.7	33.9	8.6	30.0	3.7
年齢別	10～20歳代	137	5.1	5.8	23.4	14.6	50.4	0.7
	30歳代	157	6.4	18.5	28.0	14.6	28.7	3.8
	40歳代	188	11.7	13.8	36.7	10.6	23.9	3.2
	50歳代	194	9.8	16.5	40.7	7.2	23.2	2.6
	60歳代	237	9.7	16.9	34.6	8.0	28.7	2.1
	70歳以上	666	7.2	17.0	34.2	5.9	30.8	5.0
障がい種別	身体障がい	1054	8.2	17.2	35.2	6.1	29.6	3.8
	知的障がい	192	5.7	4.2	21.9	12.5	50.5	5.2
	精神障がい	393	8.4	17.0	35.4	13.7	22.9	2.5
居住地域	北部	407	6.6	16.7	36.9	8.8	27.0	3.9
	南部	534	10.3	18.4	28.5	7.1	31.1	4.7
	船穂・草深	256	8.6	15.2	32.4	9.4	33.2	1.2
	印旛	212	3.8	11.3	39.2	12.3	30.2	3.3
	本埜	174	10.3	12.1	36.8	6.9	31.0	2.9

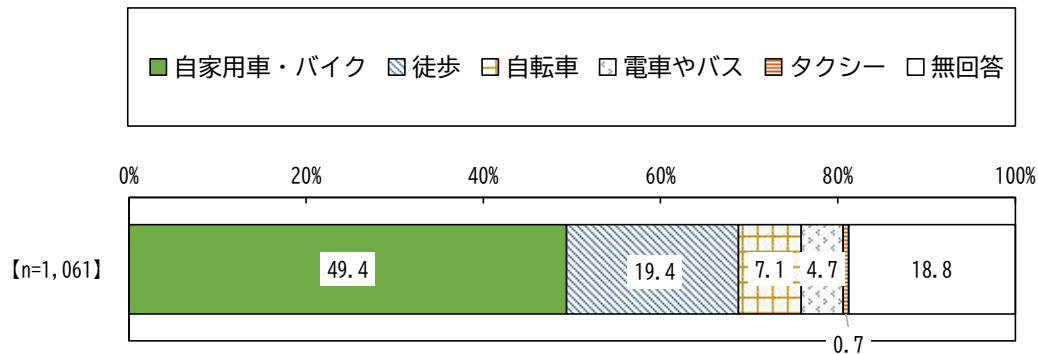
単位：%

【問8において「1 ほぼ毎日」から「4 月に数回」を回答した方限定】

問8-1. 買い物の移動手段

【SA】

○「自家用車・バイク」が49.4%で最も高く、以下「徒歩」が19.4%、「自転車」が7.1%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“40歳代”以下は「徒歩」が全体を上回り高くなっています。一方、“50歳代”以上は「自家用車・バイク」が5割以上と高くなっています。

○障がい種別にみると、“知的障がい”は「自家用車・バイク」と「徒歩」がともに29.4%で最も高くなっています。

○居住地域別にみると、“印旛”は「徒歩」が5.0%で他の地域を大きく下回っている一方、「電車やバス」は10.0%で他の地域を上回ります。“本埜”は「自転車」が12.2%とやや高くなっています。

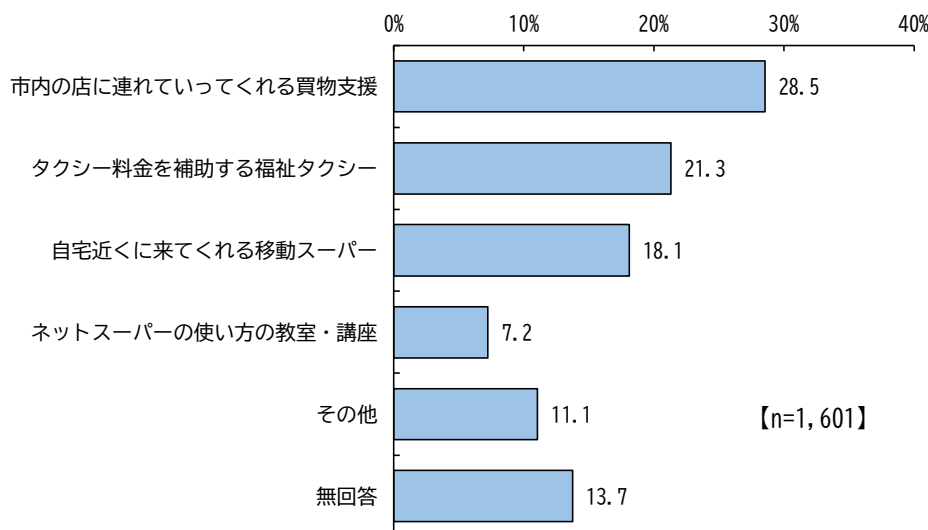
		合計(n)	電車やバス	タクシー	自家用車・バイク	自転車	徒歩	無回答
全体		1061	4.7	0.7	49.4	7.1	19.4	18.8
年齢別	10～20歳代	67	7.5	0.0	38.8	6.0	35.8	11.9
	30歳代	106	9.4	0.0	33.0	15.1	28.3	14.2
	40歳代	137	3.6	0.0	40.9	10.9	22.6	21.9
	50歳代	144	4.9	0.7	52.1	7.6	16.0	18.8
	60歳代	164	3.0	0.6	61.0	3.0	14.6	17.7
	70歳以上	428	4.0	1.2	53.0	5.6	16.1	20.1
障がい種別	身体障がい	702	3.8	0.6	54.7	4.8	15.8	20.2
	知的障がい	85	12.9	0.0	29.4	11.8	29.4	16.5
	精神障がい	293	5.1	1.0	42.0	11.3	24.6	16.0
居住地域	北部	281	5.7	0.7	56.6	2.8	13.9	20.3
	南部	343	3.2	0.3	40.8	9.9	27.7	18.1
	船穂・草深	168	2.4	0.6	47.0	7.7	26.8	15.5
	印旛	141	10.6	1.4	58.2	4.3	5.0	20.6
	本埜	115	1.7	0.9	52.2	12.2	14.8	18.3

単位：%

問 9. 買い物や移動が困難な場合に望む支援

【SA】

○「市内の店に連れて行ってくれる買物支援」が28.5%で最も高く、以下「タクシー料金を補助する福祉タクシー」が21.3%、「自宅近くに来てくれる移動スーパー」が18.1%となっています。



【「その他」の主な回答】

- ・ネットスーパー（手数料補助等）
- ・バス便の増加・支援
- ・シルバーカー ・買い物代行 等

【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「市内の店に連れて行ってくれる買物支援」が最も高く、“50歳代”は「自宅近くに来てくれる移動スーパー」が21.6%で他の年齢を上回ります。

○障がい種別にみると、“知的障がい”は「市内の店に連れて行ってくれる買物支援」が44.8%で他の障がいを大きく上回ります。また、“精神障がい”は「タクシー料金を補助する福祉タクシー」26.7%で高くなっています。

○居住地域別にみると、“印旛”は「自宅近くに来てくれる移動スーパー」が23.6%でやや高くなっています。

		合計(n)	自宅近く に来てく れる移動 スーパー	ネット スーパー の使い方 の教室・ 講座	タクシー 料金を補 助する福 祉タクシ ー	市内の店 に連れて いってく れる買物 支援	その他	無回答
全体		1601	18.1	7.2	21.3	28.5	11.1	13.7
年齢別	10～20歳代	137	19.7	5.1	15.3	35.0	12.4	12.4
	30歳代	157	19.1	10.2	23.6	32.5	6.4	8.3
	40歳代	188	16.5	8.5	20.2	32.4	12.2	10.1
	50歳代	194	21.6	8.2	23.7	24.7	12.9	8.8
	60歳代	237	16.5	7.6	24.9	35.0	9.7	6.3
	70歳以上	666	18.0	6.2	20.3	24.6	11.1	19.8
障がい 種別	身体障がい	1054	19.4	6.8	21.5	26.7	11.5	14.1
	知的障がい	192	12.0	4.2	10.4	44.8	9.9	18.8
	精神障がい	393	17.3	9.2	26.7	27.2	11.5	8.1
居住 地域	北部	407	17.9	4.7	21.4	31.4	9.3	15.2
	南部	534	16.3	10.1	22.8	28.3	10.7	11.8
	船穂・草深	256	19.1	7.0	21.5	25.4	15.2	11.7
	印旛	212	23.6	6.6	15.6	31.6	9.0	13.7
	本埜	174	17.2	4.0	23.6	24.7	12.6	17.8

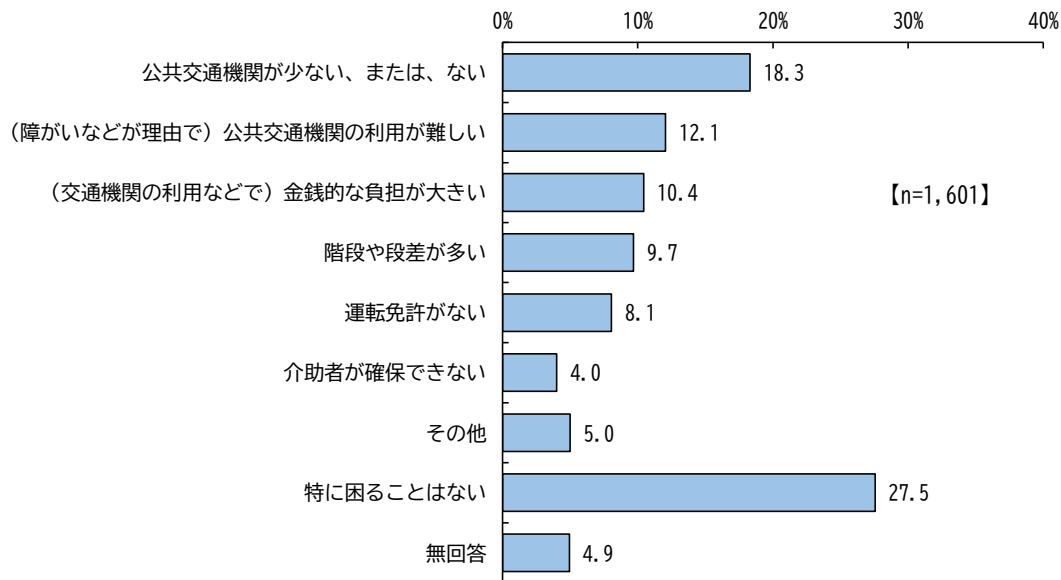
単位：%

3. 外出や社会参加について

問10. 外出するときの移動で困ること

【SA】

○「公共交通機関が少ない、または、ない」が18.3%で最も高く、以下「（障がいなどが理由で）公共交通機関の負担が大きい」が12.1%、「（交通機関の利用などで）金銭的な負担が大きい」が10.4%となっています。一方で、「特に困ることはない」は27.5%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

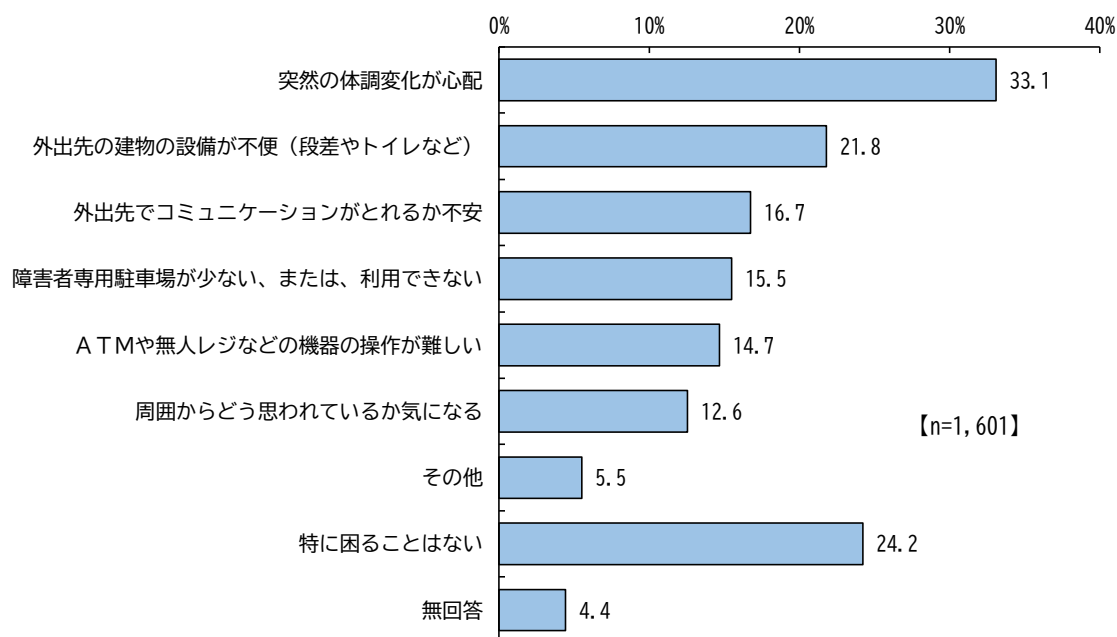
○年齢別にみると、“30歳代”は「（交通機関の利用などで）金銭的な負担が大きい」が最も高くなっています。“40歳代”と“60歳代”は「公共交通機関が少ない、または、ない」で2割を超えて高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「公共交通機関が少ない、または、ない」が約2割と高く、“知的障がい”は「（障がいなどが理由で）公共交通機関の利用が難しい」17.7%が高くなっています。

○居住地域別にみると、“本埜”は「公共交通機関が少ない、または、ない」が最も高くなっています。

		合計(n)	公共交通機関が少ない、または、ない	(障がいなどが理由で) 公共交通機関の利用が難しい	階段や段差が多い	運転免許がない	介助者が確保できない	(交通機関の利用などで) 金銭的な負担が大きい	その他	特に困ることはない	無回答
全体		1601	18.3	12.1	9.7	8.1	4.0	10.4	5.0	27.5	4.9
年齢別	10～20歳代	137	13.9	14.6	2.2	13.9	6.6	16.8	4.4	27.0	0.7
	30歳代	157	14.6	12.7	3.8	14.6	5.7	22.9	8.3	15.9	1.3
	40歳代	188	20.2	13.8	3.7	8.5	2.7	15.4	5.9	27.1	2.7
	50歳代	194	16.5	13.9	7.2	8.8	3.1	13.4	5.2	28.4	3.6
	60歳代	237	21.1	16.0	13.9	5.5	4.6	10.1	1.3	24.1	3.4
	70歳以上	666	19.2	9.3	13.7	5.9	3.5	4.2	5.3	31.1	8.0
障がい種別	身体障がい	1054	18.7	11.4	13.3	6.1	3.7	6.9	4.0	30.4	5.6
	知的障がい	192	11.5	17.7	3.6	10.9	10.9	12.5	5.2	21.9	5.7
	精神障がい	393	20.6	11.5	3.3	12.0	2.5	19.3	7.4	20.6	2.8
居住地域	北部	407	19.9	10.8	9.3	8.6	4.7	6.9	4.2	30.7	4.9
	南部	534	13.5	13.7	12.2	7.1	4.1	12.2	6.4	26.6	4.3
	船穂・草深	256	16.8	12.1	9.0	9.8	4.7	12.5	5.1	26.6	3.5
	印旛	212	22.6	11.8	7.1	7.5	1.4	9.4	2.8	32.1	5.2
	本埜	174	25.3	10.9	8.0	6.9	4.0	12.6	5.2	19.5	7.5

○「突然の体調変化が心配」が 33.1%で最も高く、以下「外出先の建物の設備が不便」が 21.8%、「外出先でコミュニケーションがとれるか不安」が 16.7%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20 歳代”は「外出先でコミュニケーションがとれるか不安」35.8%、“60 歳代”は「外出先の建物の設備が不便 (段差やトイレなど)」31.6%が最も高く、“30 歳代”から“50 歳代”は「突然の体調変化が心配」が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「突然の体調変化が心配」、「知的障がい」は「外出先でコミュニケーションがとれるか不安」が最も高く、5 割となっています。

○居住地域別にみると、“本埜”は「外出先の建物の設備が不便 (段差やトイレなど)」25.9%が他の地域をやや上回ります。

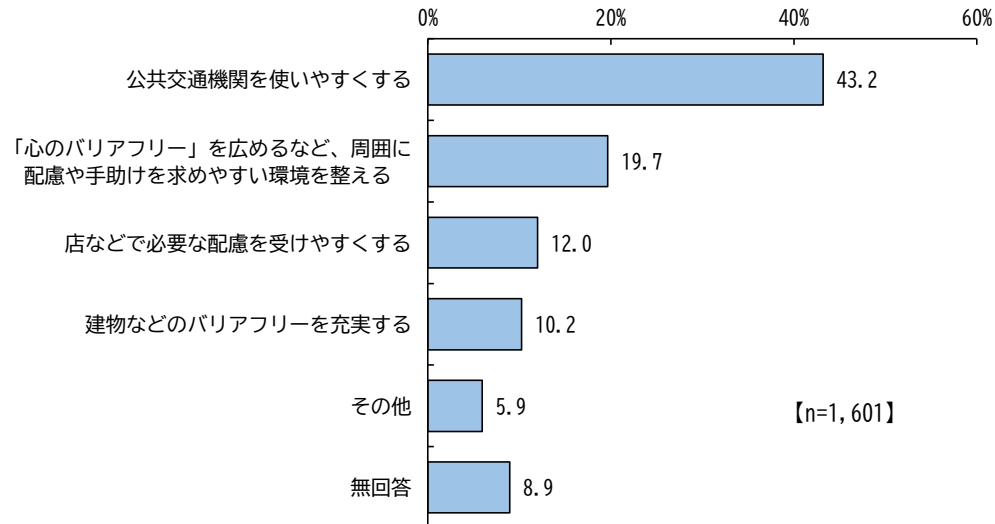
		合計(n)	外出先の建物の設備が不便 (段差やトイレなど)	障害者専用駐車場が少ない、または、利用できない	外出先でコミュニケーションがとれるか不安	ATMや無人レジなどの機器の操作が難しい	突然の体調変化が心配	周囲からどう思われているか気になる	その他	特に困ることはない	無回答
全体		1601	21.8	15.5	16.7	14.7	33.1	12.6	5.5	24.2	4.4
年齢別	10～20歳代	137	12.4	5.8	35.8	16.8	35.0	30.7	5.8	21.9	0.0
	30歳代	157	13.4	8.9	38.2	12.1	42.0	28.7	3.8	14.0	1.3
	40歳代	188	14.9	10.1	25.0	11.2	43.6	21.3	8.0	21.8	2.1
	50歳代	194	19.1	15.5	18.6	11.3	39.7	16.5	4.6	21.6	3.6
	60歳代	237	31.6	26.2	12.7	14.3	29.5	9.7	4.6	23.2	2.1
	70歳以上	666	25.2	17.0	6.6	17.0	27.2	2.6	5.1	28.5	7.7
障がい種別	身体障がい	1054	27.9	21.7	8.5	14.4	28.8	5.6	4.9	26.8	5.5
	知的障がい	192	12.5	5.7	50.0	26.6	20.3	21.4	7.8	16.1	4.2
	精神障がい	393	10.4	4.1	24.2	9.9	52.2	27.5	6.4	19.6	1.5
居住地域	北部	407	21.1	17.4	15.0	16.7	30.7	11.1	3.9	24.6	5.7
	南部	534	21.5	14.4	17.6	12.7	34.5	14.2	6.0	24.0	3.4
	船穂・草深	256	21.5	13.7	18.4	16.8	35.9	12.5	6.3	23.8	4.7
	印旛	212	21.2	16.5	16.0	14.2	28.3	11.3	4.7	25.9	2.8
	本埜	174	25.9	16.1	17.2	12.6	36.8	11.5	6.3	22.4	5.7

単位：%

問12. 外出しやすくするために市に望む取組

【SA】

○「公共交通機関を使いやすくする」が43.2%で最も高く、以下「『心のバリアフリー』を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える」が19.7%、「店などで必要な配慮を受けやすくする」が12.0%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、年齢が下がるほど、「『心のバリアフリー』を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える」が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「公共交通機関を使いやすくする」が最も高い一方、“知的障がい”は「『心のバリアフリー』を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える」35.9%が最も高くなっています。

○居住地域別にみると、いずれの地域も「公共交通機関を使いやすくする」が最も高く、“北部”、“印旛”と“本埜”で4割半ばとやや高くなっています。

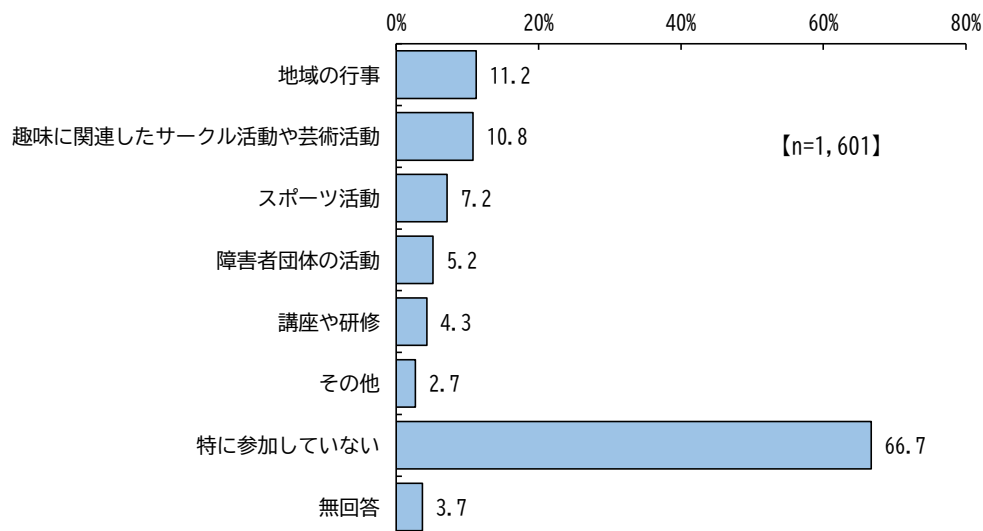
		合計(n)	公共交通機関を使いやすくする	建物などのバリアフリーを充実する	店などで必要な配慮を受けやすくする	「心のバリアフリー」を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える	その他	無回答
全体		1601	43.2	10.2	12.0	19.7	5.9	8.9
年齢別	10～20歳代	137	33.6	5.1	17.5	31.4	7.3	5.1
	30歳代	157	41.4	5.1	11.5	30.6	5.1	6.4
	40歳代	188	42.6	5.9	12.8	26.1	9.6	3.2
	50歳代	194	45.4	6.7	13.9	23.7	6.2	4.1
	60歳代	237	42.2	14.3	16.0	19.0	4.2	4.2
	70歳以上	666	45.3	13.7	9.0	12.0	5.3	14.7
	70歳以上	666	45.3	13.7	9.0	12.0	5.3	14.7
障がい種別	身体障がい	1054	45.4	14.1	11.5	13.2	5.4	10.4
	知的障がい	192	26.6	5.2	19.3	35.9	4.2	8.9
	精神障がい	393	43.0	1.8	12.0	30.8	8.7	3.8
居住地域	北部	407	45.5	9.1	10.1	21.4	3.9	10.1
	南部	534	40.8	10.3	14.0	19.9	7.1	7.9
	船穂・草深	256	39.5	9.4	12.9	23.4	7.0	7.8
	印旛	212	46.7	14.2	9.4	16.0	6.6	7.1
	本埜	174	45.4	9.8	12.6	15.5	4.6	12.1

単位：%

問 13. 社会活動への参加経験（令和 7 年 4 月～令和 8 年 1 月）

【MA】

○参加している活動では、「地域の行事」が 11.2%で最も高く、以下「趣味に関連したサークル活動や芸術活動」が 10.8%、「スポーツ活動」が 7.2%となっています。「特に参加していない」は 66.7%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“30 歳代”は「特に参加していない」56.7%が他の年齢を下回り、「障害者団体の活動」19.1%で他の年齢を大きく上回ります。また、“70 歳以上”は「趣味に関連したサークル活動や芸術活動」14.7%がやや高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“精神障がい”は「特に参加していない」が7割を超えて高い一方、“知的障がい”は「障害者団体の活動」が 22.4%で他の障がいを大きく上回ります。

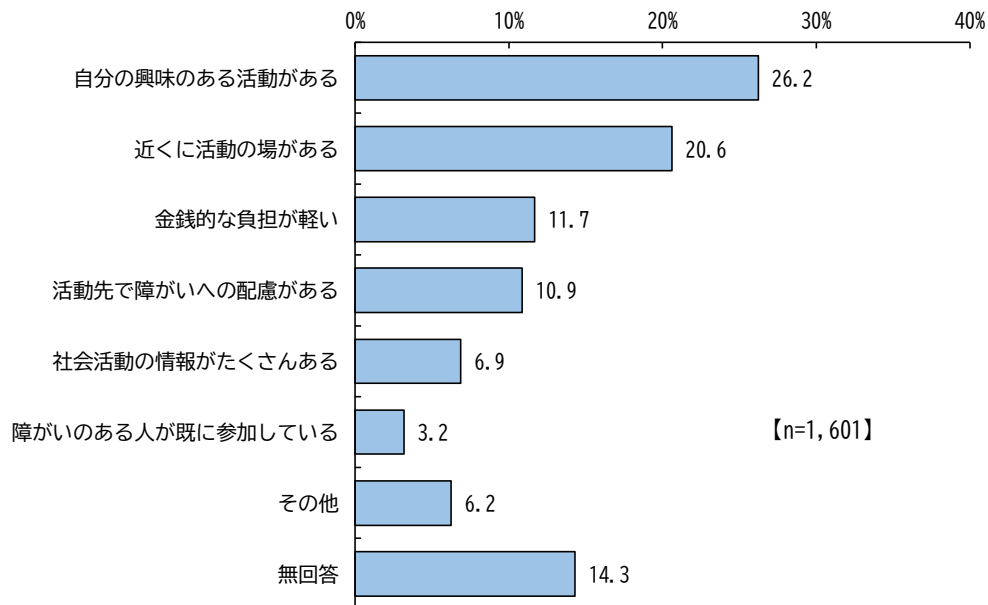
		合計(n)	趣味に関連したサークル活動や芸術活動	スポーツ活動	地域の行事	講座や研修	障害者団体の活動	その他	特に参加していない	無回答
全体		1601	10.8	7.2	11.2	4.3	5.2	2.7	66.7	3.7
年齢別	10～20歳代	137	9.5	6.6	8.8	5.1	8.8	2.9	67.9	0.0
	30歳代	157	10.8	9.6	11.5	4.5	19.1	1.9	56.7	1.9
	40歳代	188	8.5	8.0	11.7	3.7	5.9	1.6	70.7	1.1
	50歳代	194	5.2	5.2	9.3	1.5	7.7	2.6	72.7	1.5
	60歳代	237	6.3	4.6	13.1	5.1	3.0	1.7	71.7	2.5
	70歳以上	666	14.7	8.3	11.4	5.0	1.2	3.6	64.6	6.2
障がい種別	身体障がい	1054	12.2	7.5	11.9	4.7	2.8	2.9	66.6	4.5
	知的障がい	192	9.9	9.9	13.0	1.6	22.4	2.1	52.6	2.6
	精神障がい	393	7.1	4.8	8.7	4.3	4.3	2.8	73.3	2.0

単位：%

問14. 社会活動の参加に必要なこと

【SA】

○「自分の興味のある活動がある」が26.2%で最も高く、以下「近くに活動の場がある」が20.6%、「金銭的な負担が軽い」が11.7%、「活動先で障がいへの配慮がある」が10.9%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”は「自分の興味のある活動がある」37.2%が他の年齢を大きく上回ります。“40歳代”は「近くに活動の場がある」が23.4%で他の年齢よりやや高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「近くに活動の場がある」が2割を超えて高い一方、“知的障がい”は「活動先で障がいへの配慮がある」が24.0%で他の障がいを大きく上回ります。

		合計(n)	近くに活動の場がある	自分の興味のある活動がある	社会活動の情報がたくさんある	活動先で障がいへの配慮がある	障がいのある人が既に参加している	金銭的な負担が軽い	その他	無回答
全体		1601	20.6	26.2	6.9	10.9	3.2	11.7	6.2	14.3
年齢別	10～20歳代	137	18.2	37.2	8.8	16.8	6.6	7.3	2.2	2.9
	30歳代	157	22.9	25.5	7.6	17.2	2.5	14.6	3.8	5.7
	40歳代	188	23.4	26.1	5.9	11.7	4.8	14.9	9.0	4.3
	50歳代	194	13.4	27.8	8.2	14.9	4.1	16.5	5.7	9.3
	60歳代	237	20.7	27.8	8.9	10.5	2.1	16.9	5.5	7.6
	70歳以上	666	21.8	23.3	5.6	7.2	2.0	8.0	7.4	24.9
障がい種別	身体障がい	1054	21.4	25.6	6.9	8.8	2.6	10.1	6.4	18.2
	知的障がい	192	15.6	26.6	5.2	24.0	8.9	6.8	4.2	8.9
	精神障がい	393	21.4	26.5	7.4	10.7	3.1	17.8	7.9	5.3

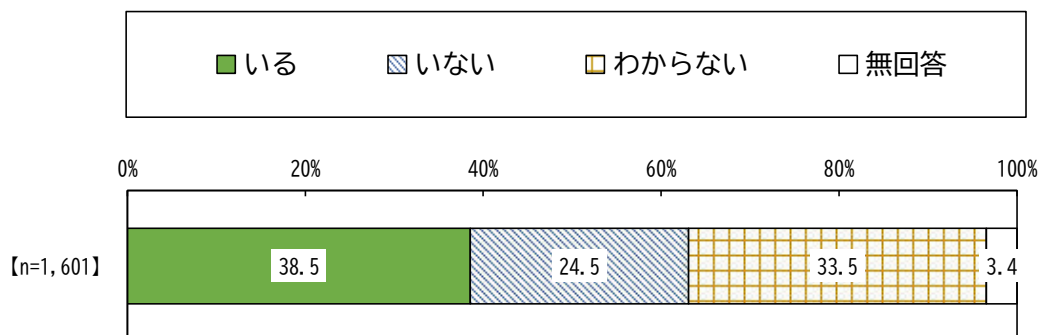
単位：%

4. 災害時の対応について

問 15. 災害時に近所で手助けしてくれる人

【SA】

○「いる」が 38.5%で最も高く、以下「わからない」が 33.5%、「いない」が 24.5%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20 歳代”を除いて「いる」が最も高くなっています。“10～20 歳代”は「わからない」42.3%が最も高く、“50 歳代”は「いる」と「わからない」がともに 33.0%となっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「いる」41.7%、“知的障がい”は「わからない」42.7%、“精神障がい”は「いない」35.1%が最も高くなっています。

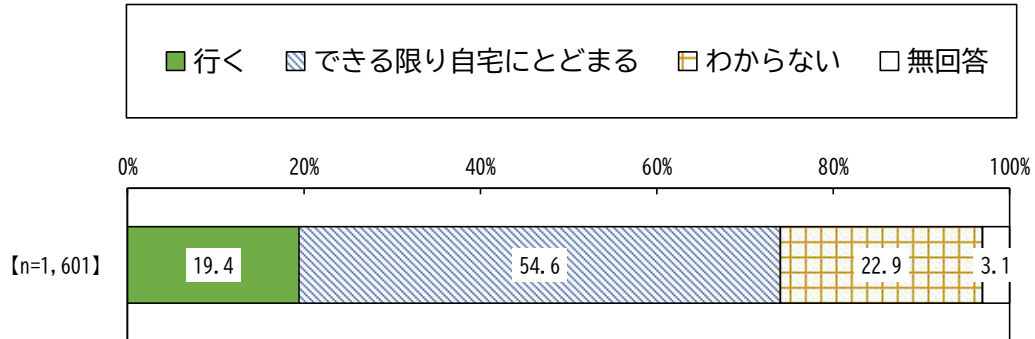
		合計(n)	いる	いない	わからない	無回答
全体		1601	38.5	24.5	33.5	3.4
年齢別	10～20歳代	137	35.8	21.9	42.3	0.0
	30歳代	157	38.2	24.8	35.7	1.3
	40歳代	188	35.6	31.9	31.4	1.1
	50歳代	194	33.0	32.0	33.0	2.1
	60歳代	237	35.0	30.0	32.9	2.1
	70歳以上	666	43.5	18.5	32.1	5.9
障がい種別	身体障がい	1054	41.7	21.4	32.7	4.1
	知的障がい	192	31.3	22.9	42.7	3.1
	精神障がい	393	32.8	35.1	30.3	1.8

単位：％

問16. 災害時に積極的に避難所に行くか

【SA】

○「できる限り自宅にとどまる」が54.6%で最も高く、以下「わからない」が22.9%、「行く」が19.4%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“30歳代”は「できる限り自宅にとどまる」61.8%が他の年齢よりやや高く、“70歳以上”は「行く」23.6%が他の年齢を上回ります。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”で「わからない」32.8%が他の障がいを大きく上回ります。

		合計(n)	行く	できる限り自宅にとどまる	わからない	無回答
全体		1601	19.4	54.6	22.9	3.1
年齢別	10～20歳代	137	16.8	58.4	24.8	0.0
	30歳代	157	17.8	61.8	18.5	1.9
	40歳代	188	17.0	57.4	24.5	1.1
	50歳代	194	16.0	56.7	26.3	1.0
	60歳代	237	13.9	53.6	30.0	2.5
	70歳以上	666	23.6	51.4	20.0	5.1
障がい種別	身体障がい	1054	20.3	54.0	22.1	3.6
	知的障がい	192	14.6	50.5	32.8	2.1
	精神障がい	393	17.8	58.5	21.9	1.8

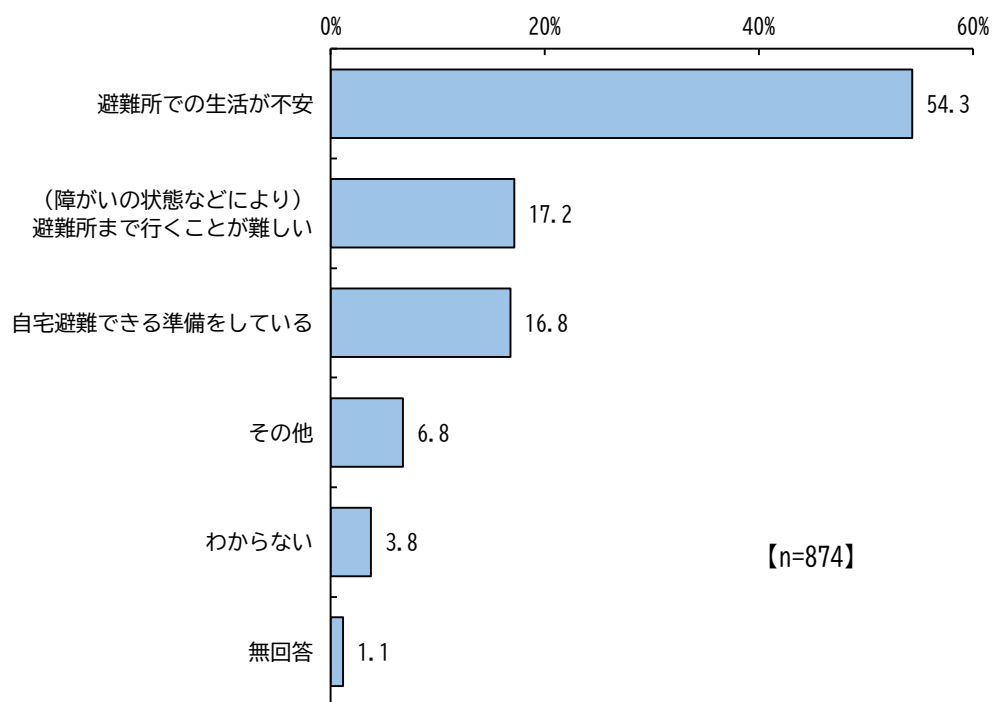
単位：％

【問 16 において「2 できる限り自宅にとどまる」を回答した方限定】

問 16-1. 【自宅にとどまる】を選んだ理由

【SA】

○「避難所での生活が不安」が 54.3%で最も高く、以下「（障がいの状態などにより）避難所まで行くことが難しい」が 17.2%、「自宅避難できる準備をしている」が 16.8%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“70 歳以上”は「避難所での生活が不安」43.6%が他の年齢を大きく下回る一方、「（障がいの状態などにより）避難所まで行くことが難しい」が 27.5%で他の年齢を大きく上回ります。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「避難所での生活が不安」が 7 割を超えて高くなっています。「自宅避難できる準備をしている」は 10.3%で他の障がいを下回ります。

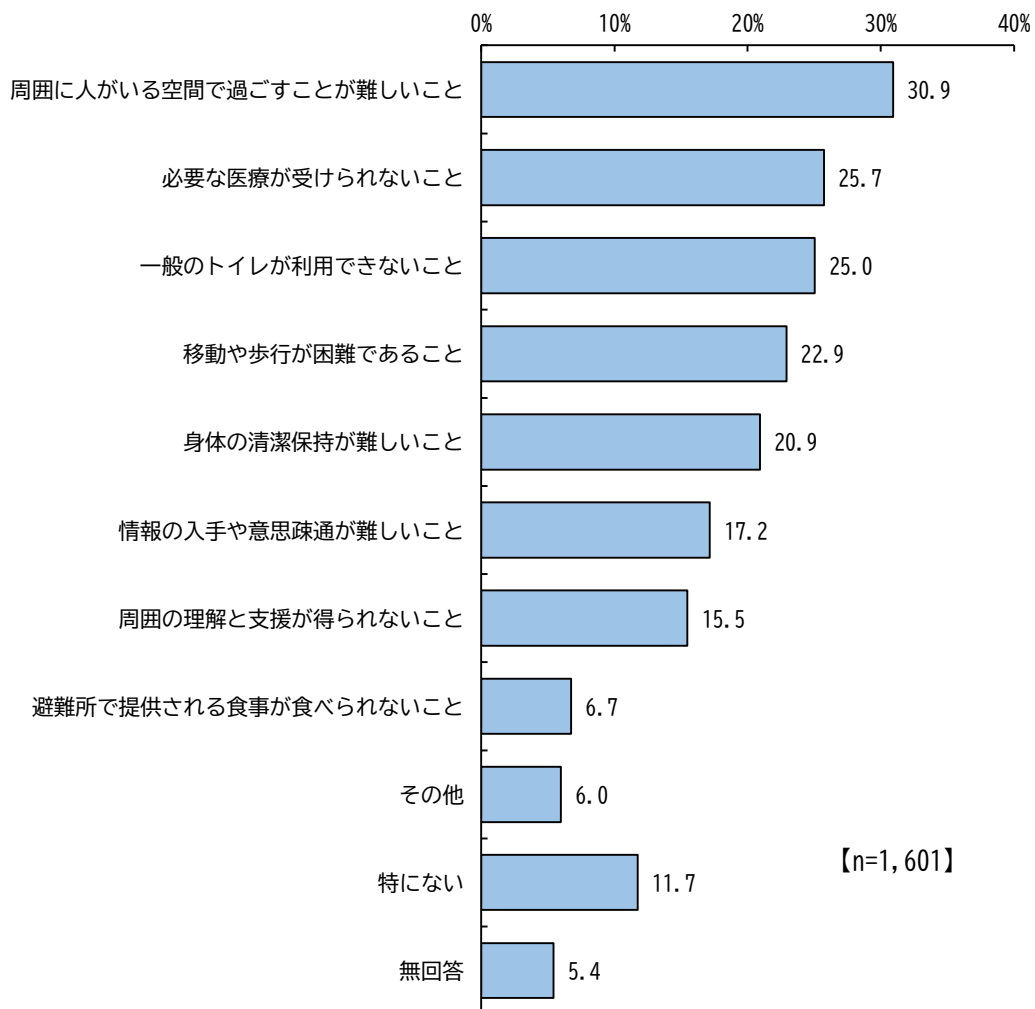
		合計(n)	避難所での生活が不安	(障がいの状態などにより) 避難所まで行くことが難しい	自宅避難できる準備をしている	その他	わからない	無回答
全体		874	54.3	17.2	16.8	6.8	3.8	1.1
年齢別	10～20歳代	80	65.0	7.5	17.5	7.5	2.5	0.0
	30歳代	97	60.8	5.2	19.6	10.3	2.1	2.1
	40歳代	108	62.0	9.3	16.7	10.2	1.9	0.0
	50歳代	110	61.8	10.9	15.5	8.2	3.6	0.0
	60歳代	127	60.6	16.5	12.6	4.7	3.9	1.6
	70歳以上	342	43.6	27.5	17.5	4.7	5.0	1.8
障がい種別	身体障がい	569	49.4	22.5	17.8	5.3	3.7	1.4
	知的障がい	97	72.2	11.3	10.3	4.1	2.1	0.0
	精神障がい	230	62.6	5.2	16.1	11.3	3.9	0.9

単位：%

問 17. 避難所での生活で心配なこと

【MA】

○「周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと」が30.9%で最も高く、以下「必要な医療が受けられないこと」が25.7%、「一般のトイレが利用できないこと」が25.0%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“50歳代”以下は「周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと」、「60歳代」は「一般のトイレが利用できないこと」、「70歳以上」は「移動や歩行が困難であること」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「移動や歩行が困難であること」、「知的障がい」は「情報の入手や意思疎通が難しいこと」、「精神障がい」は「周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと」が最も高くなっています。

		合計(n)	一般のトイレが利用できないこと	情報の入手や意思疎通が難しいこと	避難所で提供される食事が食べられないこと	移動や歩行が困難であること	身体の清潔保持が難しいこと	周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと
全体		1601	25.0	17.2	6.7	22.9	20.9	30.9
年齢別	10～20歳代	137	16.1	33.6	9.5	7.3	14.6	47.4
	30歳代	157	13.4	32.5	7.6	7.6	15.9	50.3
	40歳代	188	18.1	13.8	6.9	13.3	15.4	49.5
	50歳代	194	20.6	17.5	5.2	15.5	22.2	40.7
	60歳代	237	33.3	14.8	4.2	27.4	24.9	26.2
	70歳以上	666	30.2	12.2	7.5	33.2	23.3	16.5
障がい種別	身体障がい	1054	29.8	12.5	6.6	32.4	23.5	18.3
	知的障がい	192	14.1	47.9	8.9	7.3	14.1	44.3
	精神障がい	393	16.5	16.3	6.6	5.9	16.5	59.0

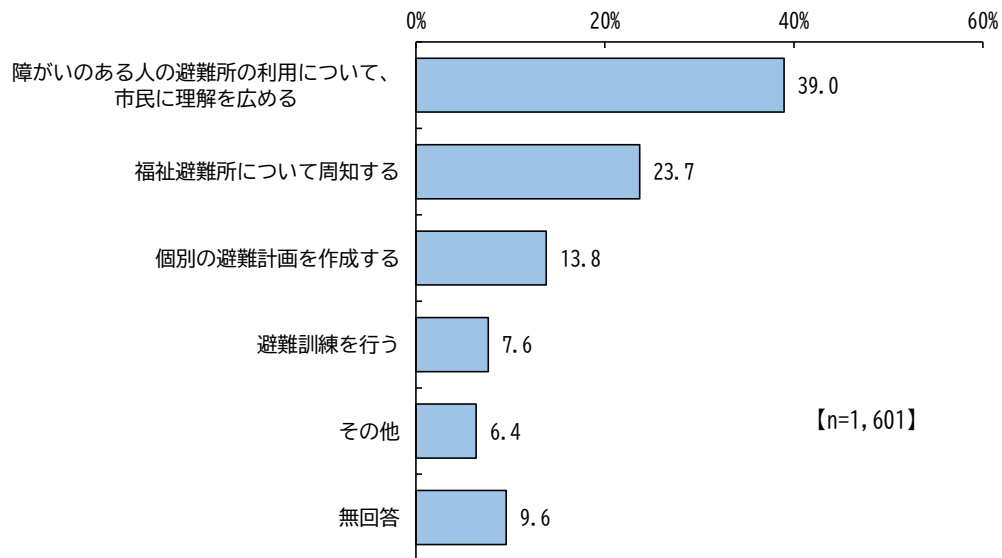
		合計(n)	周囲の理解と支援が得られないこと	必要な医療が受けられないこと	その他	特にない	無回答
全体		1601	15.5	25.7	6.0	11.7	5.4
年齢別	10～20歳代	137	32.1	18.2	7.3	12.4	0.7
	30歳代	157	34.4	19.1	7.0	8.9	1.9
	40歳代	188	22.9	27.7	8.5	13.3	1.6
	50歳代	194	19.1	26.3	7.2	13.9	2.1
	60歳代	237	13.5	23.6	8.0	9.3	3.8
	70歳以上	666	5.0	29.0	3.9	11.9	9.5
障がい種別	身体障がい	1054	7.6	27.3	5.0	13.1	6.6
	知的障がい	192	40.1	9.9	6.3	8.9	3.1
	精神障がい	393	26.2	27.7	8.9	9.2	2.5

単位：％

問18. 災害時の不安解消のために市に望むこと

【SA】

○「障害のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が39.0%で最も高く、以下「福祉避難所について周知する」が23.7%、「個別の避難計画を作成する」が13.8%となっています。



【年齢別・障がい種類の集計】

○年齢別にみると、“50歳代”以下は「福祉避難所について周知する」が2割半ばを超えて高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「障害のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」46.4%が5割近くと他の障がいを上回ります。

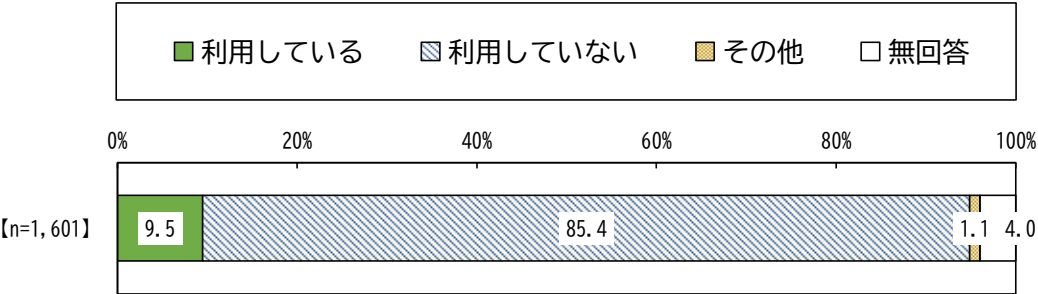
		合計(n)	避難訓練を行う	個別の避難計画を作成する	福祉避難所について周知する	障害のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める	その他	無回答
全体		1601	7.6	13.8	23.7	39.0	6.4	9.6
年齢別	10～20歳代	137	6.6	16.8	27.7	41.6	3.6	3.6
	30歳代	157	11.5	18.5	27.4	33.1	5.7	3.8
	40歳代	188	6.4	10.1	25.0	43.6	11.2	3.7
	50歳代	194	8.2	11.9	25.8	40.2	7.2	6.7
	60歳代	237	5.1	15.2	22.8	43.9	6.3	6.8
	70歳以上	666	7.8	13.4	21.5	36.9	5.6	14.9
障がい種別	身体障がい	1054	7.3	13.6	23.1	39.2	5.1	11.8
	知的障がい	192	7.3	14.6	21.9	46.4	3.1	6.8
	精神障がい	393	7.9	13.0	26.7	36.1	11.5	4.8

単位：%

問 19. 在宅時の電気を必要とする医療機器の利用有無

【SA】

○「利用している」が9.5%、「利用していない」が85.4%となっています。

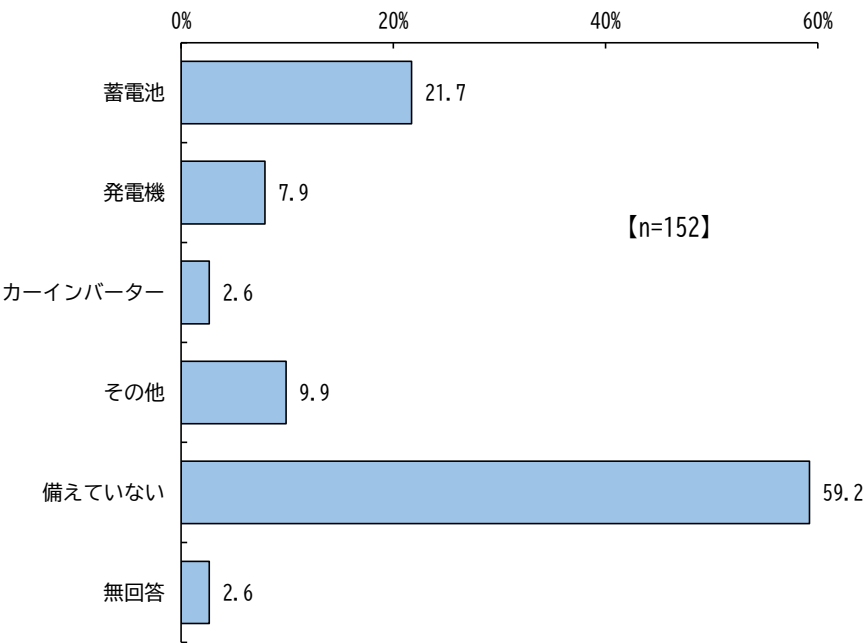


【問 19 において「1 利用している」を回答した方限定】

問 19-1. 停電時の備え

【MA】

○備えているものでは、「蓄電池」が21.7%で最も高く、以下「発電機」が7.9%、「カーインバーター」が2.6%である一方、「備えていない」が59.2%となっています。

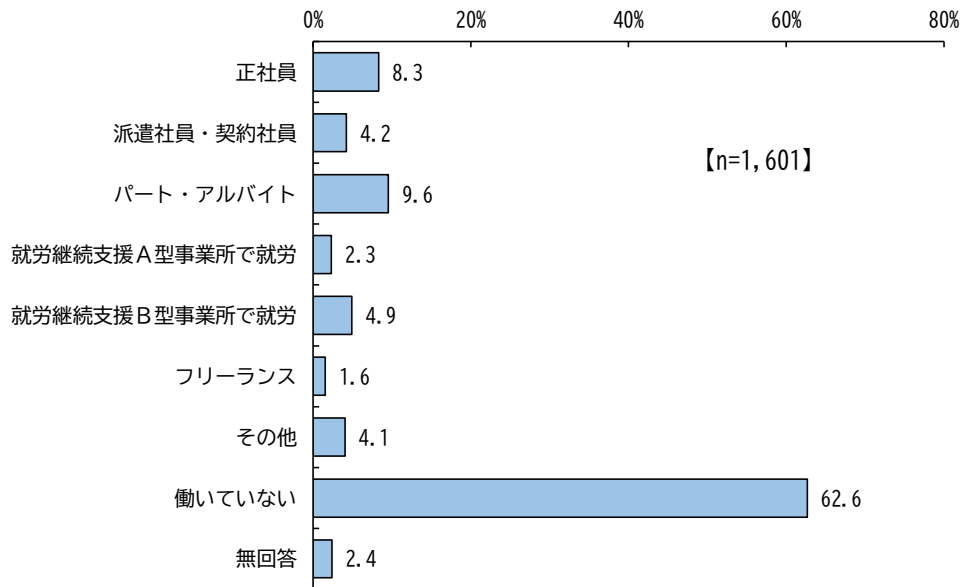


5. 収入や就労について

問 20. 現在の働き方

【SA】

○就労者の働き方では、「パート・アルバイト」が9.6%で最も高く、以下「正社員」が8.3%、「就労継続支援 B 型事業所で就労」が4.9%となっています。一方で、「働いていない」は62.6%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20 歳代”と“30 歳代”では「パート・アルバイト」や「就労継続支援 B 型事業所で就労」、「40 歳代」と“50 歳代”では「正社員」での就労の割合が高くなっています。

“70 歳以上”は「働いていない」が86.8%となっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「働いていない」が7割を超えて他の障がいを大きく上回ります。“知的障がい”は「就労継続支援 B 型事業所で就労」や「パート・アルバイト」、「精神障がい」は「パート・アルバイト」での就労の割合が高くなっています。

		合計(n)	働いていない	正社員	派遣社員・契約社員	パート・アルバイト	就労継続支援 A 型事業所で就労	就労継続支援 B 型事業所で就労	フリーランス	その他	無回答
全体		1601	62.6	8.3	4.2	9.6	2.3	4.9	1.6	4.1	2.4
年齢別	10～20歳代	137	34.3	8.0	8.0	16.1	7.3	13.9	2.2	10.2	0.0
	30歳代	157	33.8	11.5	10.2	21.0	1.9	13.4	0.6	5.1	2.5
	40歳代	188	39.9	22.9	3.7	12.8	4.8	8.5	2.7	3.7	1.1
	50歳代	194	45.4	17.5	6.7	10.3	4.6	8.2	2.1	3.6	1.5
	60歳代	237	62.0	5.9	7.6	11.8	1.3	2.5	2.1	5.1	1.7
	70歳以上	666	86.8	1.7	0.5	3.8	0.5	0.2	1.1	2.6	3.2
障がい種別	身体障がい	1054	71.3	8.1	2.8	7.4	0.5	1.5	1.4	4.3	2.7
	知的障がい	192	31.3	6.8	8.9	14.6	6.8	19.8	0.0	9.9	2.1
	精神障がい	393	52.9	9.4	5.6	12.7	4.8	7.9	2.8	2.8	1.0

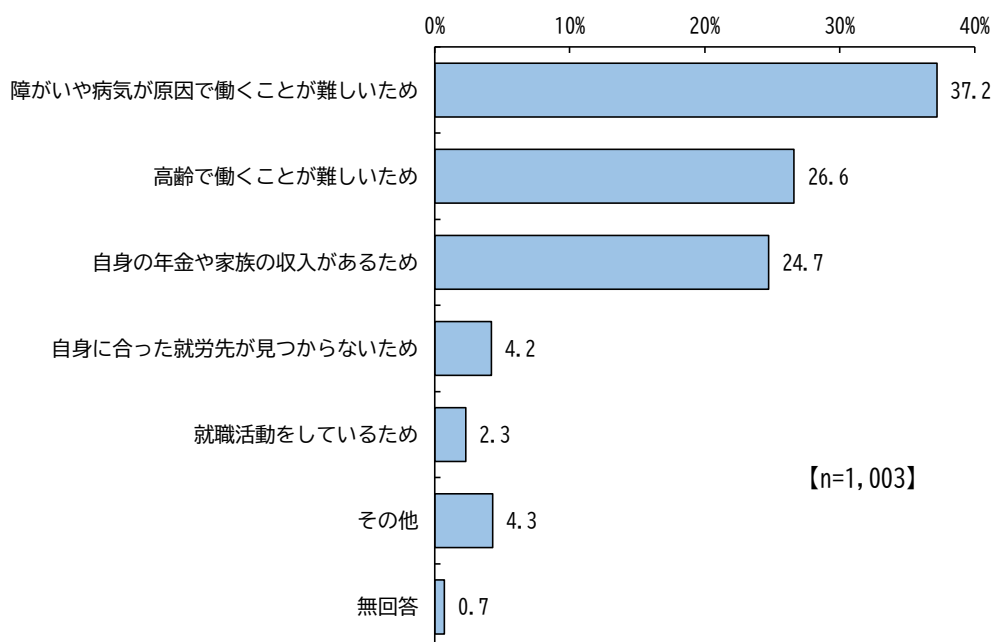
単位：％

【問 20 において「1 働いていない」を回答した方限定】

問 20-1. 働いていない理由

【SA】

○「障がいや病気が原因では働くことが難しいため」が 37.2%で最も高く、以下「高齢で働くことが難しいため」が 26.6%、「自分の年金や家族の収入があるため」が 24.7%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“70 歳以上”を除いて「障がいや病気が原因では働くことが難しいため」が最も高く、“40 歳代”と“50 歳代”は約 7 割となっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”と“精神障がい”は「障がいや病気が原因では働くことが難しいため」が最も高い一方、“身体障がい”は「自身の年金や家族の収入があるため」30.5%も高くなっています。

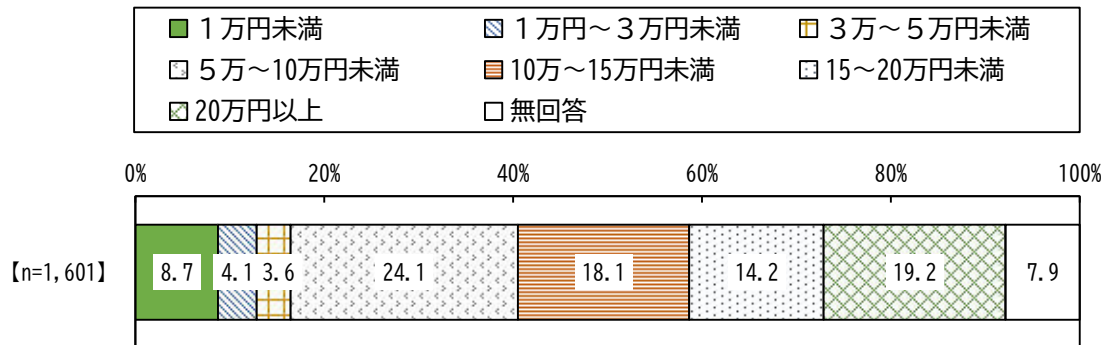
		合計(n)	障がいや病気が原因で働くことが難しいため	自身の年金や家族の収入があるため	自身に合った就労先が見つからないため	就職活動をしているため	高齢で働くことが難しいため	その他	無回答
全体		1003	37.2	24.7	4.2	2.3	26.6	4.3	0.7
年齢別	10～20歳代	47	61.7	0.0	12.8	10.6	0.0	14.9	0.0
	30歳代	53	64.2	5.7	11.3	13.2	0.0	5.7	0.0
	40歳代	75	69.3	6.7	8.0	8.0	0.0	8.0	0.0
	50歳代	88	72.7	8.0	5.7	3.4	2.3	8.0	0.0
	60歳代	147	46.3	26.5	7.5	0.0	15.6	4.1	0.0
	70歳以上	578	20.9	32.9	1.4	0.3	41.0	2.4	1.0
	身体障がい	752	28.9	30.5	3.5	0.8	32.4	3.2	0.8
障がい種別	知的障がい	60	68.3	10.0	3.3	0.0	3.3	15.0	0.0
	精神障がい	208	60.1	7.2	8.2	8.2	8.2	7.7	0.5

単位：％

問21. 収入の月額平均

【SA】

○「5万～10万円未満」が24.1%で最も高く、以下「20万円以上」が19.2%、「10万～15万円未満」が18.1%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「5万～10万円未満」が最も高くなっていますが、“40歳代”以上は「20万円以上」が2割を超えています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”と“精神障がい”は「5万～10万円未満」が最も高い一方、“身体障がい”は「20万円以上」が2割半ばと高くなっています。

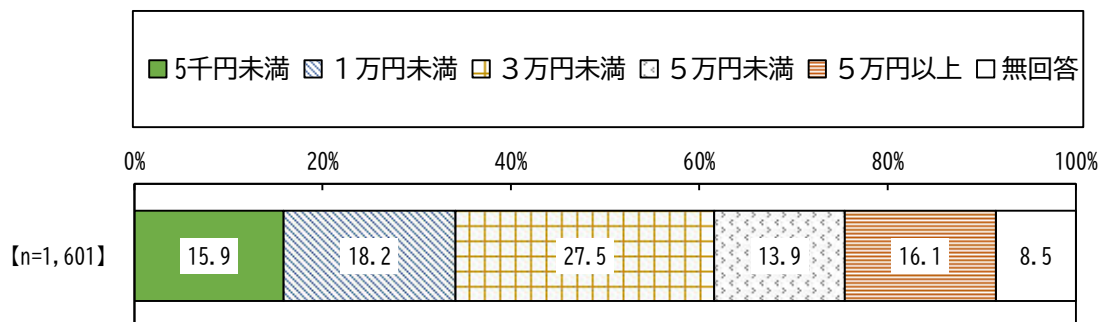
		合計(n)	1万円未満	1万円～3万円未満	3万～5万円未満	5万～10万円未満	10万～15万円未満	15～20万円未満	20万円以上	無回答
全体		1601	8.7	4.1	3.6	24.1	18.1	14.2	19.2	7.9
年齢別	10～20歳代	137	19.0	9.5	3.6	32.1	13.1	10.9	5.1	6.6
	30歳代	157	19.1	5.7	3.2	22.9	17.2	10.8	14.0	7.0
	40歳代	188	13.8	5.9	4.3	22.9	20.2	7.4	20.7	4.8
	50歳代	194	16.5	4.6	2.6	26.8	14.4	6.2	23.2	5.7
	60歳代	237	5.9	4.2	1.3	25.3	16.0	17.7	23.2	6.3
	70歳以上	666	1.5	2.1	4.7	22.4	20.9	18.9	20.4	9.2
	70歳以上	666	1.5	2.1	4.7	22.4	20.9	18.9	20.4	9.2
障がい種別	身体障がい	1054	5.4	2.8	3.8	21.3	18.6	15.8	24.4	7.8
	知的障がい	192	16.1	9.4	3.1	35.4	13.5	13.0	1.6	7.8
	精神障がい	393	16.8	4.6	3.3	27.2	18.8	9.7	13.5	6.1

単位：%

問 22. 生活費を除いた自由に使える金額

【SA】

○「3 万円未満」が 27.5%で最も高く、以下「1 万円未満」が 18.2%、「5 万円以上」が 16.1%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「3 万円未満」が最も高くなっていますが、“10～20 歳代”は「1 万円未満」、「50 歳代」は「5 千円未満」がそれぞれ 2 割を超えて高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「3 万円未満」が最も高く、“精神障がい”は 3 割となっています。

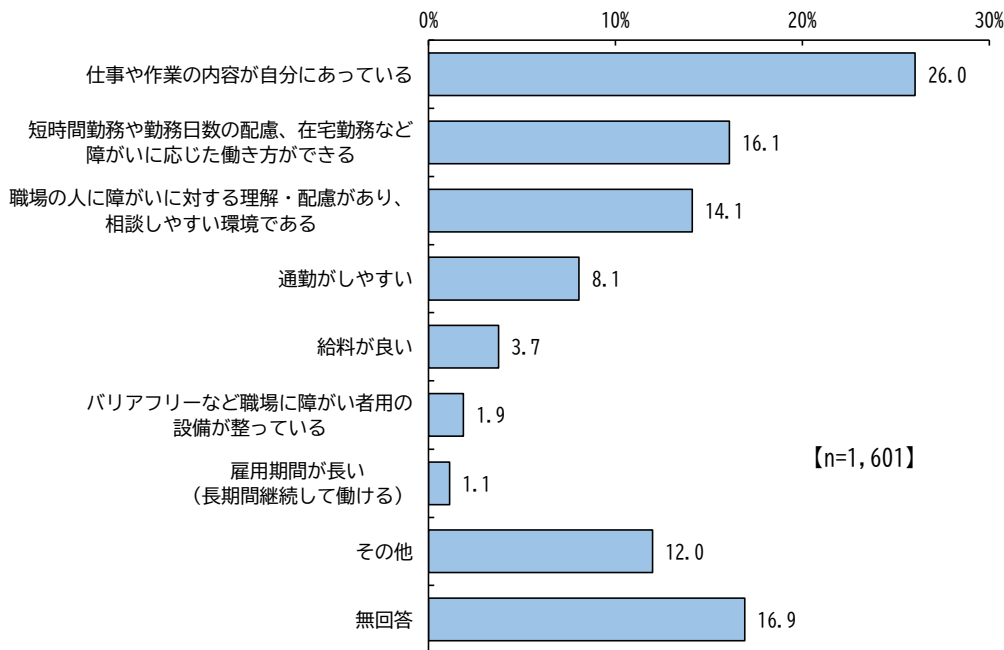
		合計(n)	5千円未満	1万円未満	3万円未満	5万円未満	5万円以上	無回答
全体		1601	15.9	18.2	27.5	13.9	16.1	8.5
年齢別	10～20歳代	137	20.4	21.9	20.4	14.6	12.4	10.2
	30歳代	157	21.7	15.9	31.8	7.6	15.3	7.6
	40歳代	188	18.6	19.1	28.2	10.6	16.5	6.9
	50歳代	194	22.7	18.6	21.6	16.5	14.9	5.7
	60歳代	237	17.7	15.6	31.2	12.7	18.1	4.6
	70歳以上	666	10.2	19.1	28.5	16.1	16.1	10.1
障がい種別	身体障がい	1054	12.9	17.5	26.9	15.3	18.8	8.7
	知的障がい	192	19.8	21.9	22.9	11.5	8.9	15.1
	精神障がい	393	21.9	19.1	30.0	11.5	13.0	4.6

単位：%

問 23. 仕事探して重視する点

【SA】

○「仕事や作業の内容が自分にあっている」が26.0%で最も高く、以下「短時間勤務や勤務日数の配慮、在宅勤務など障がいに応じた働き方ができること」が16.1%、「職場の人に障がいに対する理解・配慮があり、相談しやすい環境である」が14.1%となっています。



【「その他」の主な回答】

- ・ルール、管理体制が整っている（交通費補助やトイレ休憩など）
- ・差別やハラスメントのない職場
- ・やりがいや充実感 等

【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”を除いて「仕事や作業の内容が自分にあっている」が最も高くなっています。“10～20歳代”は「職場の人に障がいに対する理解・配慮があり、相談しやすい環境である」が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「仕事や作業の内容が自分にあっている」、「知的障がい」は「職場の人に障がいに対する理解・配慮があり、相談しやすい環境である」が最も高くなっています。

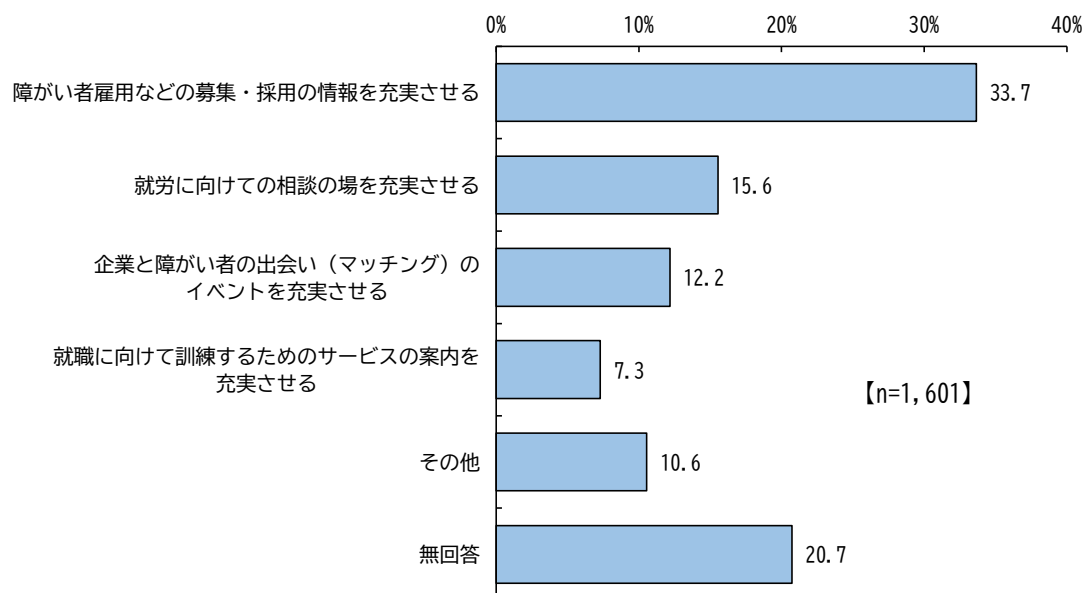
		合計(n)	給料が良い	仕事や作業の内容が自分にあっている	雇用期間が長い（長期間継続して働ける）	通勤がしやすい	職場の人に障がいに対する理解・配慮があり、相談しやすい環境である	バリアフリーなど職場に障がい者用の設備が整っている	短時間勤務や勤務日数の配慮、在宅勤務など障がいに応じた働き方ができる	その他	無回答
年齢別	全体	1601	3.7	26.0	1.1	8.1	14.1	1.9	16.1	12.0	16.9
	10～20歳代	137	2.9	27.7	2.9	10.2	32.8	0.0	10.2	7.3	5.8
	30歳代	157	5.1	28.0	0.6	10.8	24.8	1.9	21.0	3.2	4.5
	40歳代	188	9.6	31.4	1.6	6.9	16.0	1.1	23.9	4.8	4.8
	50歳代	194	6.7	32.5	1.0	10.3	18.6	1.0	21.1	6.2	2.6
	60歳代	237	1.3	31.6	1.7	8.4	14.3	2.5	20.7	8.4	11.0
	70歳以上	666	1.8	20.6	0.6	6.8	5.9	2.4	11.1	20.1	30.8
障がい種別	身体障がい	1054	3.4	25.1	0.9	7.9	9.0	2.6	15.0	14.1	22.0
	知的障がい	192	4.2	27.6	0.5	6.3	38.5	0.5	4.2	7.3	10.9
	精神障がい	393	5.3	27.2	2.0	10.7	18.1	0.5	24.9	7.6	3.6

単位：%

問 24. 就職活動において市に望む取組

【SA】

○「障がい者雇用などの募集・採用の情報を充実させる」が33.7%で最も高く、以下「就労に向けての相談の場を充実させる」が15.6%、「企業と障がい者の出会い（マッチング）のイベントを充実させる」が12.2%となっています。



【「その他」の主な回答】

- ・就労者同士の交流
- ・資格取得など在宅での支援
- ・企業への教育や指導 等

【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”は「企業と障がい者の出会い（マッチング）のイベントを充実させる」21.9%、“30歳代”は「職場に介助や相談等の支援をしてくれる人がいること」20.4%が2割を超えて高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「障がい者雇用などの募集・採用の情報を充実させる」が最も高く、“精神障がい”は40.5%で他の障がいを大きく上回ります。

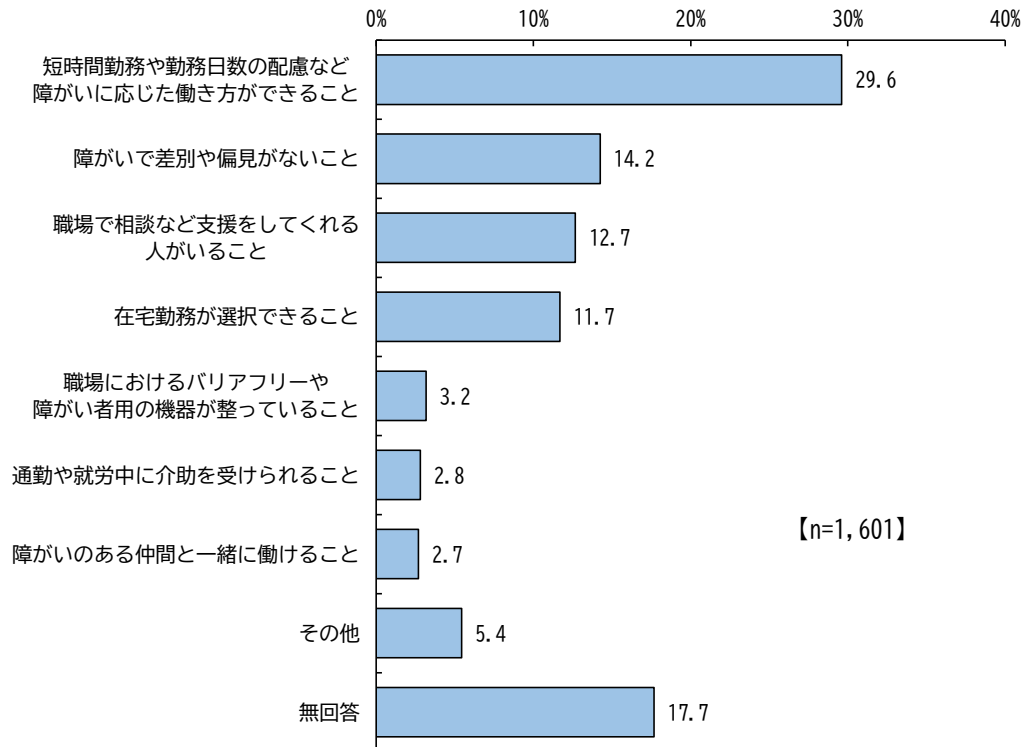
		合計(n)	障がい者雇用などの募集・採用の情報を充実させる	就労に向けての相談の場を充実させる	企業と障がい者の出会い（マッチング）のイベントを充実させる	就職に向けて訓練するためのサービスの案内を充実させる	その他	無回答
全体		1601	33.7	15.6	12.2	7.3	10.6	20.7
年齢別	10～20歳代	137	38.7	16.8	21.9	8.8	8.0	5.8
	30歳代	157	37.6	20.4	19.7	9.6	6.4	6.4
	40歳代	188	42.6	13.3	19.1	9.0	10.1	5.9
	50歳代	194	35.6	18.6	17.0	10.3	11.3	7.2
	60歳代	237	45.6	19.8	5.9	8.0	8.4	12.2
	70歳以上	666	24.8	12.9	7.1	5.1	12.8	37.4
障がい種別	身体障がい	1054	32.4	14.3	9.8	6.0	10.8	26.8
	知的障がい	192	28.1	21.4	19.3	11.5	6.8	13.0
	精神障がい	393	40.5	16.8	15.5	9.9	12.2	5.1

単位：%

問 25. 働き続けるために職場で必要なこと

【SA】

- 「短時間勤務や勤務日数の配慮など障がいに応じた働き方ができること」が 29.6%で最も高く、以下「障がいで差別や偏見がないこと」が 14.2%、「職場で相談など支援をしてくれる人がいること」が 12.7%、「在宅勤務が選択できること」が 11.7%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

- 年齢別にみると、“10～20 歳代”を除いて「短時間勤務や勤務日数の配慮など障がいに応じた働き方ができること」が最も高くなっています。“10～20 歳代”は「職場で相談など支援をしてくれる人がいること」が高くなっています。

- 障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「短時間勤務や勤務日数配慮等障がいに応じた働き方ができること」、「知的障がい」は「職場で相談など支援をしてくれる人がいること」が最も高くなっています。

		合計(n)	職場におけるバリアフリーや障がい者用の機器が整っていること	短時間勤務や勤務日数の配慮など障がいに応じた働き方ができること	障がいで差別や偏見がないこと	通勤や就労中に介助を受けられること	障がいのある仲間と一緒に働けること	職場で相談など支援をしてくれる人がいること	在宅勤務が選択できること	その他	無回答
全体		1601	3.2	29.6	14.2	2.8	2.7	12.7	11.7	5.4	17.7
年齢別	10～20歳代	137	1.5	27.0	16.8	5.8	6.6	27.7	5.1	3.6	5.8
	30歳代	157	1.3	28.0	17.8	3.8	4.5	22.9	13.4	3.2	5.1
	40歳代	188	2.1	38.8	17.0	2.7	2.7	14.4	12.8	3.7	5.9
	50歳代	194	2.1	35.1	20.1	1.5	3.6	16.0	13.9	3.6	4.1
	60歳代	237	5.9	36.7	15.2	3.8	2.1	10.5	15.2	3.4	7.2
	70歳以上	666	3.8	24.0	9.9	2.1	1.5	6.8	10.5	8.0	33.5
障がい種別	身体障がい	1054	4.5	29.1	12.3	2.8	1.5	8.1	12.5	6.5	22.8
	知的障がい	192	0.5	16.1	17.7	5.7	10.9	32.8	1.0	3.6	11.5
	精神障がい	393	0.8	38.4	19.8	2.0	1.8	15.3	13.7	4.6	3.6

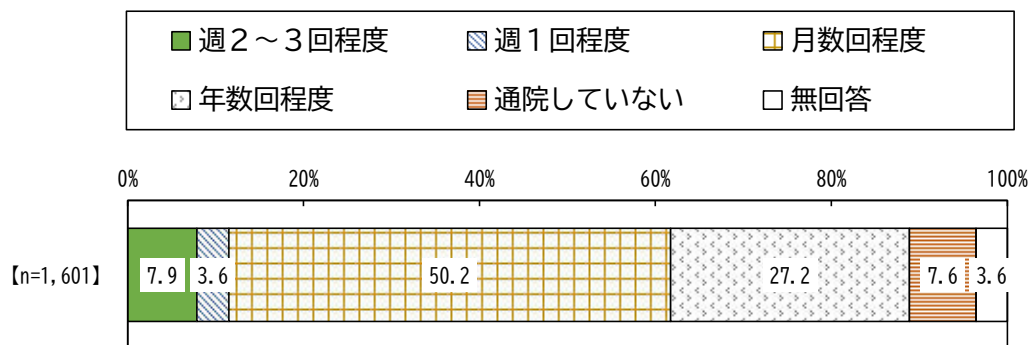
単位：％

6. 医療について

問 26. 通院の頻度

【SA】

○「月数回程度」が50.2%で最も高く、以下「年数回程度」が27.2%、「週2～3回程度」が7.9%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、年齢が高いほど「週2～3回程度」や「週1回程度」の割合が高い傾向にあり、通院の頻度が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「月数回程度」、「知的障がい」は「年数回程度」が最も高くなっています。

		合計(n)	週2～3回程度	週1回程度	月数回程度	年数回程度	通院していない	無回答
全体		1601	7.9	3.6	50.2	27.2	7.6	3.6
年齢別	10～20歳代	137	2.2	1.5	49.6	29.9	16.8	0.0
	30歳代	157	1.3	1.9	57.3	29.3	8.3	1.9
	40歳代	188	6.4	1.6	49.5	30.9	10.1	1.6
	50歳代	194	6.2	2.6	56.7	22.7	8.8	3.1
	60歳代	237	9.7	5.5	49.8	24.9	6.8	3.4
	70歳以上	666	10.7	4.8	47.3	27.8	4.2	5.3
	70歳以上	666	10.7	4.8	47.3	27.8	4.2	5.3
障がい種別	身体障がい	1054	11.2	4.5	45.1	28.3	7.2	3.8
	知的障がい	192	1.6	2.6	35.4	38.5	19.3	2.6
	精神障がい	393	3.3	2.0	71.8	16.8	3.1	3.1

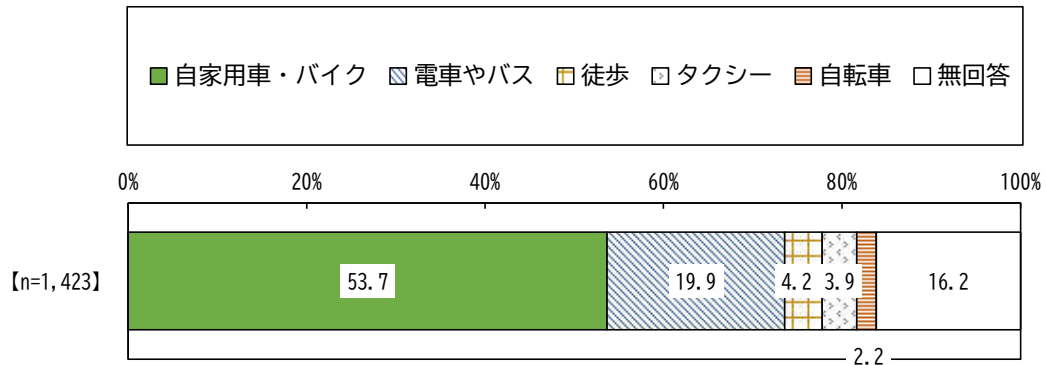
単位：%

【問 26 で「1 週 2～3 回程度」から「4 年数回程度」を回答された方】

問 26-1. 病院への移動手段

【SA】

○「自家用車・バイク」が 53.7%で最も高く、以下「電車やバス」が 19.9%、「徒歩」が 4.2%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“30 歳代”と“40 歳代”は「電車やバス」が約 3 割と他の年齢を上回ります。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「自家用車・バイク」が最も高くなっています。“精神障がい”は「電車やバス」29.5%が他の障がいを大きく上回ります。

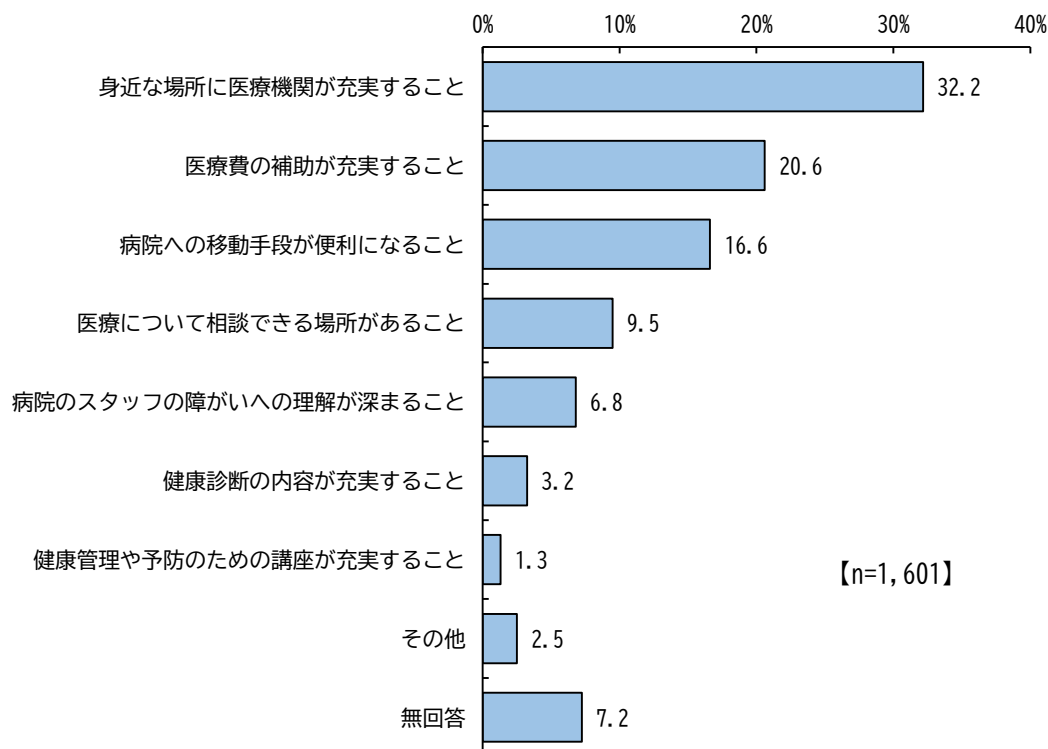
		合計(n)	電車やバス	タクシー	自家用車・バイク	自転車	徒歩	無回答
全体		1423	19.9	3.9	53.7	2.2	4.2	16.2
年齢別	10～20歳代	114	22.8	3.5	54.4	0.9	1.8	16.7
	30歳代	141	29.8	1.4	50.4	5.0	3.5	9.9
	40歳代	166	28.9	2.4	41.0	4.8	4.2	18.7
	50歳代	171	19.3	2.3	57.9	1.8	4.1	14.6
	60歳代	213	16.9	4.7	57.7	0.5	5.2	15.0
	70歳以上	603	15.4	5.1	55.1	1.8	4.5	18.1
障がい種別	身体障がい	938	15.9	4.9	56.9	1.4	4.4	16.5
	知的障がい	150	18.7	1.3	56.0	2.7	3.3	18.0
	精神障がい	369	29.5	2.7	44.4	4.3	4.1	14.9

単位：%

問 27. 健康管理や医療について望む支援

【S A】

○「身近な場所に医療機関が充実すること」が32.2%で最も高く、以下「医療費の補助が充実すること」が20.6%、「病院への移動手段が便利になること」が16.6%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”と“40歳代”から“60歳代”は「医療費の補助が充実すること」がやや高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいで「身近な場所に医療機関が充実すること」が最も高く、特に“身体障がい”では34.0%と他の障がいを上回ります。“知的障がい”は「病院のスタッフの障がいへの理解が深まること」21.4%、“精神障がい”は「医療費の補助が充実すること」27.2%が高くなっています。

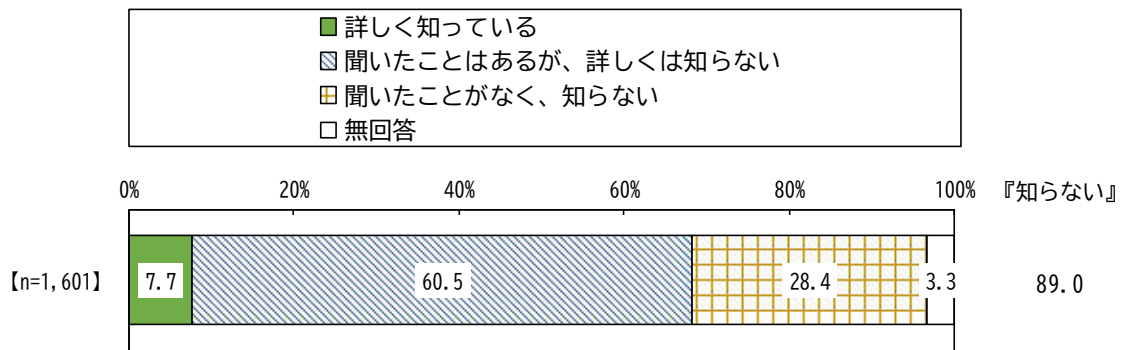
		合計(n)	身近な場所に医療機関が充実すること	医療について相談できる場所があること	医療費の補助が充実すること	健康管理や予防のための講座が充実すること	健康診断の内容が充実すること	病院のスタッフの障がいへの理解が深まること	病院への移動手段が便利になること	その他	無回答
全体		1601	32.2	9.5	20.6	1.3	3.2	6.8	16.6	2.5	7.2
年齢別	10～20歳代	137	28.5	11.7	27.0	0.7	2.9	14.6	9.5	1.5	3.6
	30歳代	157	36.9	10.8	18.5	1.9	6.4	7.6	12.1	1.3	4.5
	40歳代	188	28.7	7.4	25.5	0.0	2.7	10.1	17.0	3.2	5.3
	50歳代	194	26.3	12.4	23.7	3.1	1.5	8.8	16.5	3.1	4.6
	60歳代	237	30.4	10.5	25.3	1.3	4.2	6.8	17.3	1.3	3.0
	70歳以上	666	34.7	7.8	16.2	1.2	3.0	3.8	19.2	3.2	11.0
	身体障がい	1054	34.0	8.7	19.7	1.4	3.2	4.0	18.0	2.8	8.1
障がい種別	知的障がい	192	28.6	14.1	12.5	1.0	4.2	21.4	8.9	0.5	8.9
	精神障がい	393	28.8	8.9	27.2	1.5	2.5	7.9	17.0	2.8	3.3

単位：%

7. 障がいに対する理解について

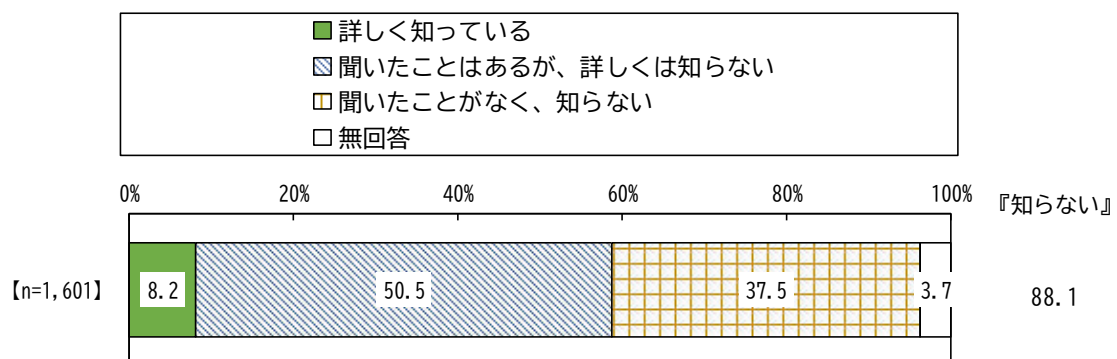
問 28. 障害者虐待防止法の内容（虐待の禁止、通報義務等）を知っているか 【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が60.5%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は、89.0%となっています。



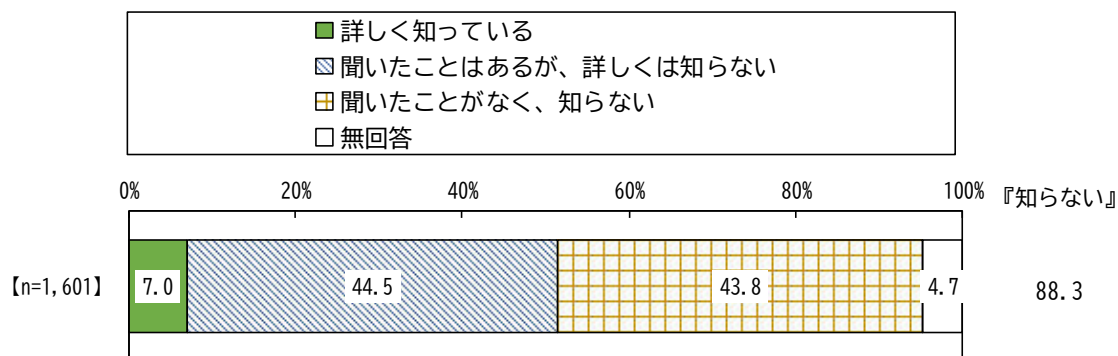
問 29. 障害者差別解消法の内容（障害を理由とした差別の禁止、「合理的配慮」の提供等）を知っているか 【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が50.5%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は、88.1%となっています。



問 30. 手話施策推進法の内容（重要な意思疎通の手段として位置付け）を知っているか【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が44.5%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は、88.3%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○【問 28.障害者虐待防止法】【問 29.障害者差別解消法】【問 30.手話施策推進法】の各内容の認知度について年齢別にみると、すべての年齢で「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も高くなっています。

○障がい種別にみると、【問 29.障害者差別解消法】については“精神障がい”で「聞いたことがなく、知らない」44.8%が最も高く、【問 30.手話施策推進法】については“身体障がい”で「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」48.4%が最も高くなっています。

		問28. 障害者虐待防止法の内容の認知度					問29. 障害者差別解消法の内容の認知度				
		合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答	合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答
全体		1601	7.7	60.5	28.4	3.3	1601	8.2	50.5	37.5	3.7
年齢別	10～20歳代	137	10.9	54.7	34.3	0.0	137	12.4	51.1	35.8	0.7
	30歳代	157	11.5	58.6	29.3	0.6	157	14.6	46.5	38.2	0.6
	40歳代	188	10.1	55.9	33.0	1.1	188	13.8	47.9	36.2	2.1
	50歳代	194	7.2	57.7	33.0	2.1	194	7.7	45.4	44.3	2.6
	60歳代	237	8.9	59.1	31.2	0.8	237	8.9	47.7	42.2	1.3
	70歳以上	666	5.3	65.5	23.1	6.2	666	3.9	55.1	34.5	6.5
障がい種別	身体障がい	1054	6.5	64.0	25.5	4.0	1054	6.7	54.0	34.9	4.4
	知的障がい	192	13.0	57.8	27.1	2.1	192	12.0	50.0	34.9	3.1
	精神障がい	393	9.4	52.9	36.1	1.5	393	11.2	42.2	44.8	1.8

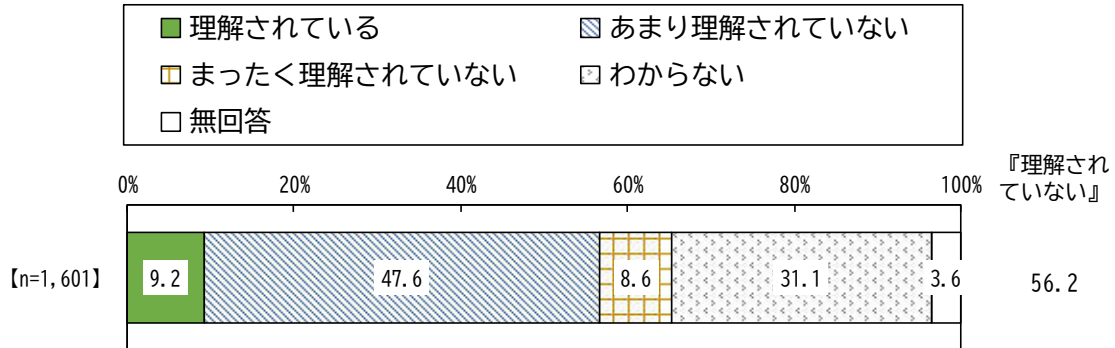
		問30. 手話施策推進法の内容の認知度				
		合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答
全体		1601	7.0	44.5	43.8	4.7
年齢別	10～20歳代	137	7.3	42.3	49.6	0.7
	30歳代	157	7.6	40.8	50.3	1.3
	40歳代	188	12.2	37.8	46.8	3.2
	50歳代	194	5.7	36.6	55.2	2.6
	60歳代	237	7.2	41.8	47.3	3.8
	70歳以上	666	5.6	50.6	36.3	7.5
障がい種別	身体障がい	1054	7.6	48.4	38.2	5.8
	知的障がい	192	7.8	37.5	51.0	3.6
	精神障がい	393	6.6	38.2	53.4	1.8

単位：%

問31. 障がいに対する市民の理解

【SA】

○「あまり理解されていない」が47.6%で最も高くなっています。「あまり理解されていない」と「まったく理解されていない」を合わせた『理解されていない』は、56.2%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「あまり理解されていない」が最も高くなっています。“70歳代”では「理解されている」が12.8%と他の年齢に比べやや高くなっています。

○障がい種別にみると、“身体障がい”で「理解されている」が11.3%、“精神障がい”で「まったく理解されていない」が16.5%であり、他の障がいを上回ります。

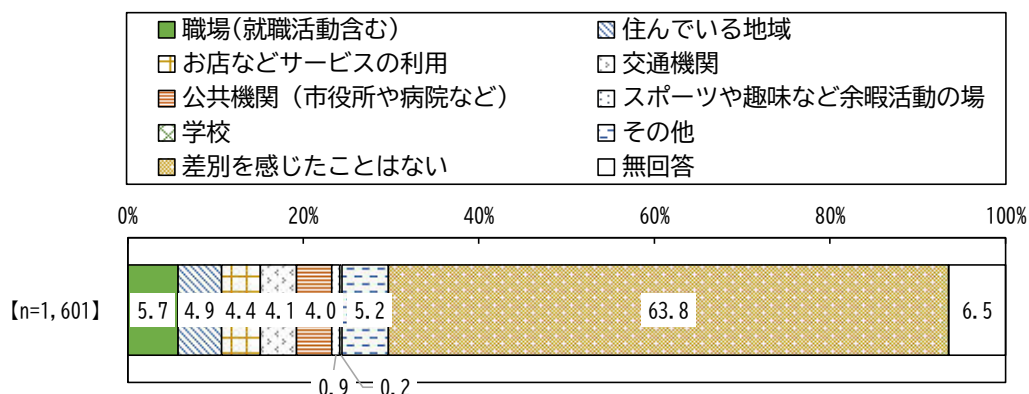
		合計(n)	理解されている	あまり理解されていない	まったく理解されていない	わからない	無回答
全体		1601	9.2	47.6	8.6	31.1	3.6
年齢別	10～20歳代	137	7.3	46.7	13.1	32.8	0.0
	30歳代	157	6.4	53.5	9.6	28.0	2.5
	40歳代	188	3.2	44.7	14.4	36.7	1.1
	50歳代	194	5.7	50.5	15.5	27.3	1.0
	60歳代	237	9.3	52.3	10.5	25.7	2.1
	70歳以上	666	12.8	45.2	2.9	33.0	6.2
障がい種別	身体障がい	1054	11.3	47.8	5.8	30.8	4.3
	知的障がい	192	6.3	46.9	10.4	33.9	2.6
	精神障がい	393	4.3	47.8	16.5	30.3	1.0

単位：%

問 32. 1 年以内に差別・偏見を感じた場面があるか

【SA】

○差別を感じた場面では、「差別を感じたことはない」が 63.8%で最も高いものの、「職場（就職活動含む）」が 5.7%、「住んでいる地域」が 4.9%、「お店などサービスの利用」が 4.4%などの順となっています。



【年齢別・障がい種類の集計】

○年齢別にみると、差別・偏見を感じた場面では“30 歳代”と“40 歳代”で「職場（就職活動含む）」が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”で「差別を感じたことではない」が約 7 割と他の年齢を大きく上回ります。また、“精神障がい”で「職場（就職活動含む）」が 14.8%と高くなっています。

		合計(n)	差別を感じたこと はない	職場(就 職活動含 む)	学校	住んでい る地域	交通機関
全体		1601	63.8	5.7	0.2	4.9	4.1
年齢別	10～20歳代	137	62.0	6.6	0.7	5.1	5.8
	30歳代	157	47.8	14.6	0.6	5.1	6.4
	40歳代	188	52.7	13.8	0.0	6.9	4.8
	50歳代	194	57.2	8.8	0.5	8.8	5.2
	60歳代	237	62.0	4.6	0.0	6.3	4.2
	70歳以上	666	74.0	0.8	0.2	2.9	2.9
障がい 種別	身体障がい	1054	70.8	2.3	0.2	3.8	3.6
	知的障がい	192	53.6	5.7	0.5	7.8	3.1
	精神障がい	393	49.6	14.8	0.3	8.1	6.1

		合計(n)	公共機関 (市役所 や病院な ど)	お店など サービスの 利用	スポーツ や趣味な ど余暇活 動の場	その他	無回答
全体		1601	4.0	4.4	0.9	5.2	6.5
年齢別	10～20歳代	137	1.5	5.8	1.5	8.8	2.2
	30歳代	157	5.7	5.7	1.3	7.6	5.1
	40歳代	188	3.7	6.9	1.1	8.0	2.1
	50歳代	194	7.2	3.6	1.0	4.6	3.1
	60歳代	237	5.1	6.3	1.3	4.6	5.5
	70歳以上	666	2.9	2.4	0.6	3.8	9.8
障がい 種別	身体障がい	1054	3.0	4.2	0.8	3.8	7.6
	知的障がい	192	3.6	7.8	2.1	9.4	6.3
	精神障がい	393	7.4	3.3	0.8	7.9	1.8

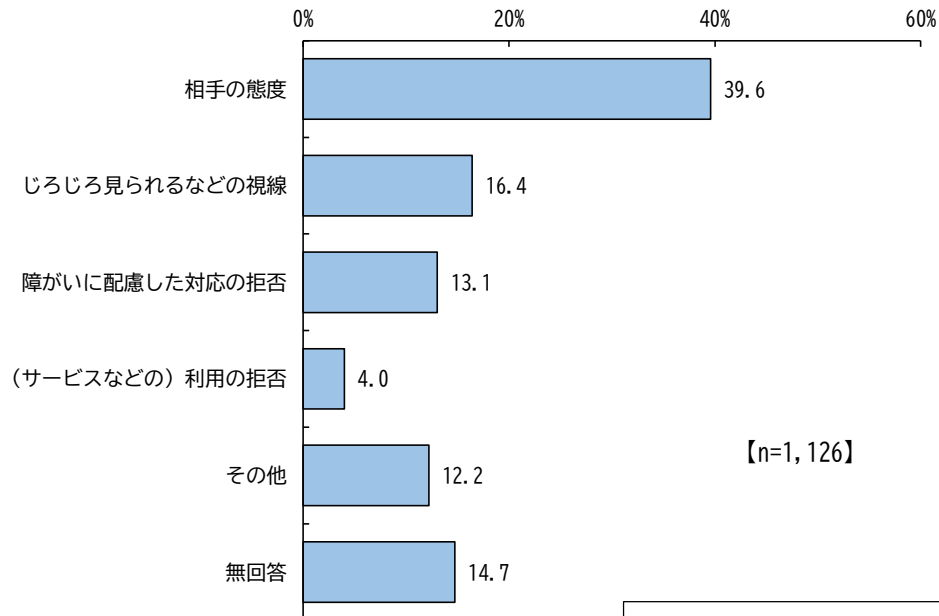
単位：％

【問 32 で「1 差別を感じたことはない」以外を回答した方限定】

問 32-1. 差別・偏見を感じた内容

【MA】

○「相手の態度」が39.6%で最も高く、以下「じろじろ見られるなどの視線」が16.4%、「障がいに配慮した対応の拒否」が13.1%となっています。



【「その他」の主な回答】

- ・過剰な配慮
- ・無意識の偏見
- ・バリアフリーの不足 等

【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「相手の態度」が最も高く、“10～20 歳代”で「じろじろ見られるなどの視線」が26.5%、“60 歳代”で「障がいに配慮した対応の拒否」が23.4%とそれぞれ高くなっています。

○障がい種別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”で「相手の態度」、「知的障がい」で「じろじろ見られるなどの視線」が最も高くなっています。

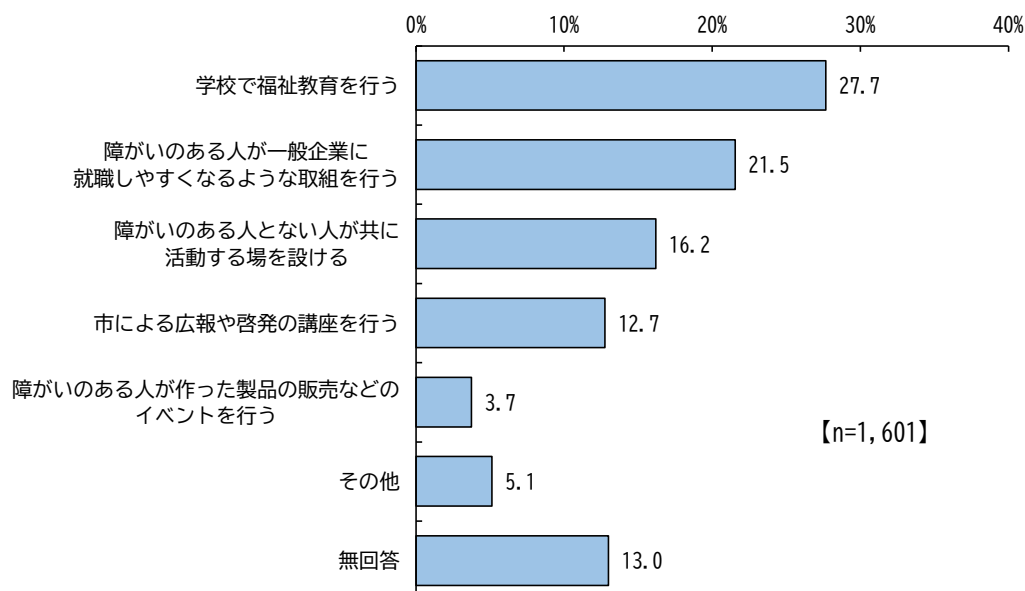
		合計(n)	(サービスなどの) 利用の拒否	障がいに配慮した対応の拒否	じろじろ見られるなどの視線	相手の態度	その他	無回答
全体		1601	4.0	13.1	16.4	39.6	12.2	14.7
年齢別	10～20歳代	137	4.1	8.2	26.5	38.8	10.2	12.2
	30歳代	157	5.4	8.1	17.6	43.2	14.9	10.8
	40歳代	188	2.4	11.8	16.5	45.9	15.3	8.2
	50歳代	194	6.5	9.1	11.7	48.1	5.2	19.5
	60歳代	237	2.6	23.4	18.2	33.8	10.4	11.7
	70歳以上	666	1.9	15.7	13.0	30.6	15.7	23.1
障がい種別	身体障がい	1054	4.8	14.5	15.8	35.5	12.3	17.1
	知的障がい	192	2.6	6.5	32.5	28.6	10.4	19.5
	精神障がい	393	4.2	13.1	10.5	48.7	12.0	11.5

単位：％

問 33. 障がいへの理解を深めるために市に望む取組

【SA】

○「学校で福祉教育を行う」が27.7%で最も高く、以下「障害のある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う」が21.5%、「障害のある人が共に活動する場を設ける」が16.2%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”から“50歳代”は「障害のある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う」が最も高く、“60歳代”以上では「学校で福祉教育を行う」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“知的障がい”は「学校で福祉教育を行う」、「精神障がい」は「障害のある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う」が最も高くなっています。

		合計(n)	学校で福祉教育を行う	市による広報や啓発の講座を行う	障がいのある人とない人が共に活動する場を設ける	障がいのある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う	障がいのある人が作った製品の販売などのイベントを行う	その他	無回答
全体		1601	27.7	12.7	16.2	21.5	3.7	5.1	13.0
年齢別	10～20歳代	137	28.5	4.4	18.2	33.6	5.1	4.4	5.8
	30歳代	157	30.6	5.1	16.6	33.8	4.5	5.1	4.5
	40歳代	188	27.7	9.0	16.5	29.8	5.3	5.9	5.9
	50歳代	194	25.3	10.8	16.5	28.9	6.2	7.2	5.2
	60歳代	237	30.8	16.0	15.6	22.4	2.1	4.6	8.4
	70歳以上	666	26.9	16.2	15.9	11.6	2.7	4.8	21.9
障がい種別	身体障がい	1054	27.8	14.4	16.6	17.0	3.3	4.3	16.6
	知的障がい	192	32.3	4.7	21.9	21.9	7.8	3.6	7.8
	精神障がい	393	24.9	11.2	13.0	34.6	3.8	8.4	4.1

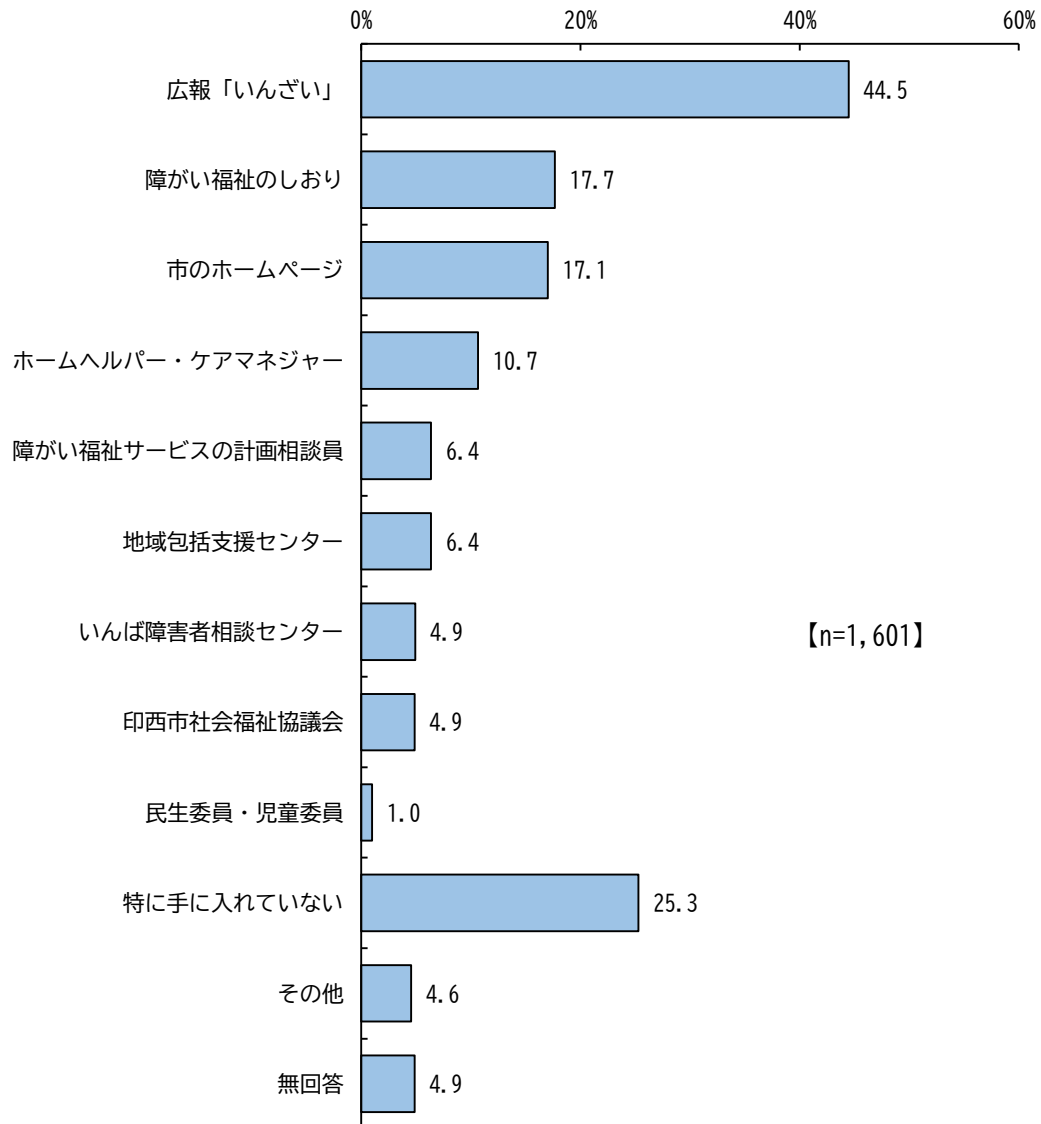
単位：%

8. 情報や相談について

問 34. 障がい福祉に関する情報の入手先

【MA】

○「広報『いんざい』」が44.5%で最も高く、以下「障がい福祉のしおり」が17.7%、「市のホームページ」が17.1%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”を除いて「広報『いんざい』」が最も高くなっています。“10～20歳代”は「特に手に入れていない」が最も高く、情報の入手先では「市のホームページ」の23.4%が高くなっています。

○障がい種別にみると、いずれの障がいも「広報『いんざい』」が最も高く、“身体障がい”は約5割と他の障がいを大きく上回ります。

		合計(n)	広報「いんざい」	市のホームページ	障がい福祉のしおり	障がい福祉サービスの計画相談員	いんば障害者相談センター	民生委員・児童委員
全体		1601	44.5	17.1	17.7	6.4	4.9	1.0
年齢別	10～20歳代	137	27.0	23.4	16.1	21.9	12.4	0.0
	30歳代	157	29.3	21.7	15.9	17.2	8.3	0.0
	40歳代	188	37.2	20.2	19.7	8.0	6.9	0.5
	50歳代	194	39.2	17.0	17.5	6.2	10.8	0.0
	60歳代	237	50.2	20.3	18.6	3.4	2.5	0.8
	70歳以上	666	53.6	12.8	17.9	1.2	1.4	1.8
障がい種別	身体障がい	1054	48.3	16.4	18.6	2.4	2.0	1.4
	知的障がい	192	32.8	14.6	19.8	23.4	17.7	0.0
	精神障がい	393	37.7	20.1	16.8	9.9	8.1	0.0

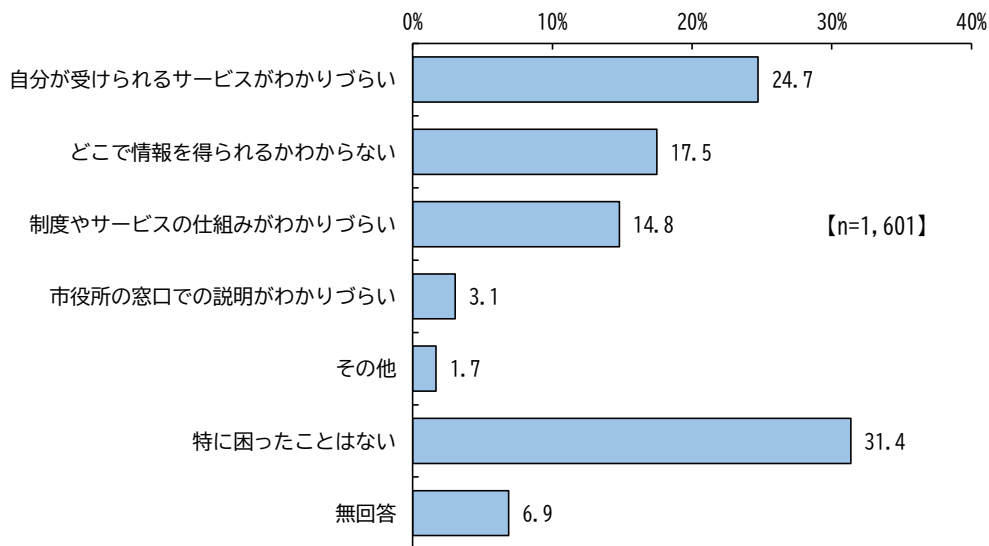
		合計(n)	ホームヘルパー・ケアマネジャー	地域包括支援センター	印西市社会福祉協議会	特に手に入れていない	その他	無回答
全体		1601	10.7	6.4	4.9	25.3	4.6	4.9
年齢別	10～20歳代	137	2.9	1.5	1.5	35.0	9.5	0.0
	30歳代	157	1.9	5.1	3.2	28.7	5.7	2.5
	40歳代	188	5.3	1.1	2.7	31.4	9.6	1.6
	50歳代	194	6.7	3.6	4.1	33.0	3.6	2.1
	60歳代	237	12.7	5.5	5.1	22.8	3.4	2.1
	70歳以上	666	16.4	10.5	6.6	19.4	2.7	8.7
障がい種別	身体障がい	1054	13.9	7.8	6.2	23.1	3.1	6.0
	知的障がい	192	5.2	4.7	4.7	23.4	6.3	1.6
	精神障がい	393	4.3	3.8	2.3	32.1	8.1	1.8

単位：％

問 35. 障がい福祉の情報を得るために困ったこと

【SA】

○困ったことでは、「自分が受けられるサービスがわかりづらい」が24.7%で最も高く、以下「どこで情報を得られるかわからない」が17.5%、「制度やサービスの仕組みがわかりづらい」が14.8%となっています。一方で、「特に困ったことはない」は31.4%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20 歳代”から“50 歳代”で「自分が受けられるサービスがわかりづらい」が高く、“60 歳代”以上は「特に困ったことはない」が最も高くなっています。（“40 歳代”は「自分が受けられるサービスがわかりづらい」と「特に困ったことはない」が同率で最も高い。）

○障がい種別にみると、“精神障がい”で「自分が受けられるサービスがわかりづらい」が最も高くなっています。

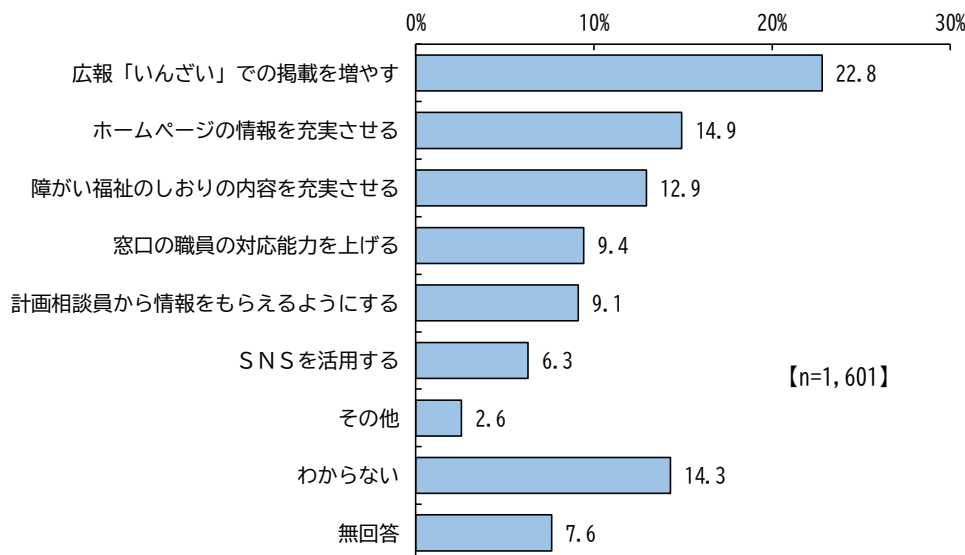
		合計(n)	どこで情報を得られるかわからない	制度やサービスの仕組みがわかりづらい	自分が受けられるサービスがわかりづらい	市役所の窓口での説明がわかりづらい	その他	特に困ったことはない	無回答
全体		1601	17.5	14.8	24.7	3.1	1.7	31.4	6.9
年齢別	10～20歳代	137	19.7	18.2	31.4	4.4	2.2	22.6	1.5
	30歳代	157	19.1	19.1	30.6	1.9	2.5	22.9	3.8
	40歳代	188	25.0	13.3	27.1	1.6	2.7	27.1	3.2
	50歳代	194	24.2	15.5	28.4	3.6	1.5	25.3	1.5
	60歳代	237	19.4	13.5	27.4	4.6	2.1	30.0	3.0
	70歳以上	666	12.2	14.0	19.5	2.3	0.9	38.7	12.5
障がい種別	身体障がい	1054	15.7	14.1	22.9	3.0	1.0	34.7	8.4
	知的障がい	192	18.2	15.6	25.0	5.7	1.6	28.6	5.2
	精神障がい	393	22.6	15.3	30.3	2.8	3.1	23.9	2.0

単位：%

問 36. 障がい福祉の情報を得やすくするために望む取組

【SA】

○「広報『いんざい』での掲載を増やす」が22.8%で最も高く、以下「ホームページの情報を充実させる」が14.9%、「障がい福祉のしおりの内容を充実させる」が12.9%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”から“40歳代”は「ホームページの情報を充実させる」が最も高く、“50歳代”以上は「広報『いんざい』での掲載を増やす」が2割を超えて高くなっています。

○“身体障がい”は「広報『いんざい』での掲載を増やす」26.7%、“精神障がい”は「ホームページの情報を充実させる」18.1%が最も高い一方、“知的障がい”は「わからない」19.8%が最も高くなっています。

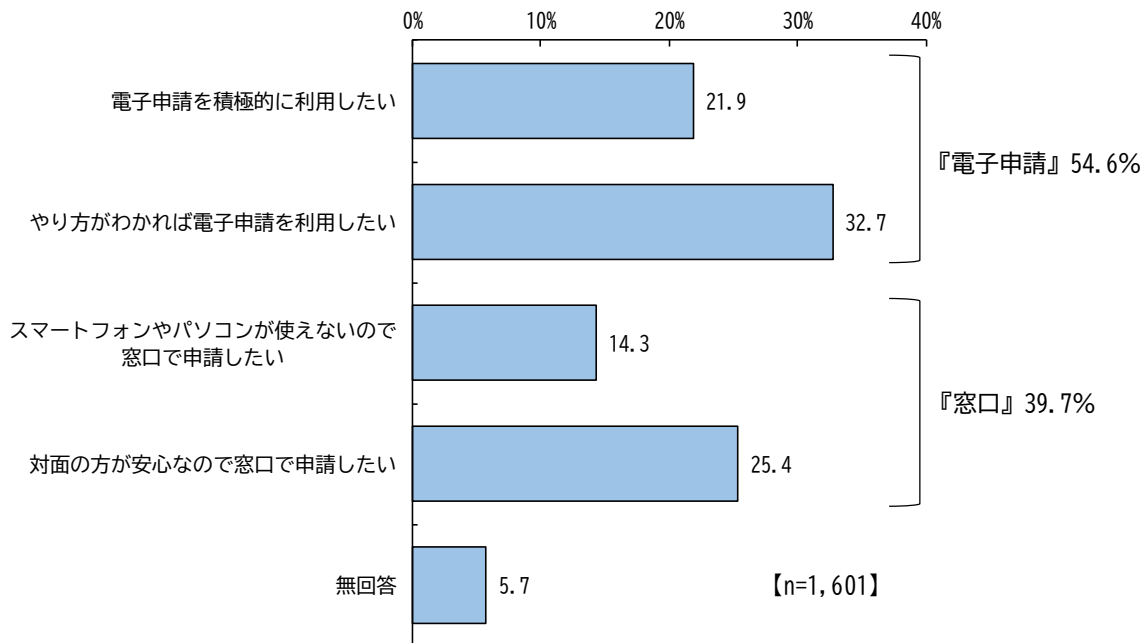
		合計(n)	障がい福祉のしおりの内容を充実させる	ホームページの情報を充実させる	広報「いんざい」での掲載を増やす	SNSを活用する	窓口の職員の対応能力を上げる	計画相談員から情報をもらえるようにする	その他	わからない	無回答
年齢別	全体	1601	12.9	14.9	22.8	6.3	9.4	9.1	2.6	14.3	7.6
	10～20歳代	137	8.0	19.7	7.3	16.8	8.8	16.1	2.2	19.0	2.2
	30歳代	157	11.5	17.2	12.1	12.7	10.2	15.3	2.5	15.9	2.5
	40歳代	188	12.2	17.6	16.5	13.3	8.5	9.6	4.3	15.4	2.7
	50歳代	194	12.9	16.5	27.7	8.2	10.8	8.8	4.1	15.5	2.1
	60歳代	237	11.0	21.5	24.5	4.2	11.0	6.8	3.0	14.3	3.8
	70歳以上	666	15.2	10.1	30.3	1.1	8.1	7.4	1.7	12.6	13.7
障がい種別	身体障がい	1054	13.9	14.3	26.7	4.5	8.3	7.1	2.3	13.2	9.7
	知的障がい	192	9.9	11.5	15.1	6.8	13.5	17.7	2.1	19.8	3.6
	精神障がい	393	12.0	18.7	14.5	11.5	11.5	11.5	3.8	15.3	2.0

単位：％

問 37. 市の電子化の方向性について

【SA】

○「やり方がわかれば電子申請を利用したい」が32.7%であり、「電子申請を積極的に利用したい」(21.9%)と合わせた『電子申請』は54.6%となっています。一方で、「対面の方が安心なので窓口で申請したい」25.4%と「スマートフォンやパソコンが使えないので窓口申請したい」(14.3%)と合わせた『窓口』は39.7%となっています。



【年齢別・障がい種類の集計】

○年齢別にみると、“30歳代”と“40歳代”は「電子申請を積極的に利用したい」が最も高く、“10～20歳代”と“50歳代”、“60歳代”は「やり方がわかれば電子申請を利用したい」が高くなっています。“70歳代”は「対面の方が安心なので窓口で申請したい」が3割以上で他の年齢を上回ります。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「やり方がわかれば電子申請を利用したい」、「知的障がい」は「対面の方が安心なので窓口で申請したい」が最も高くなっています。

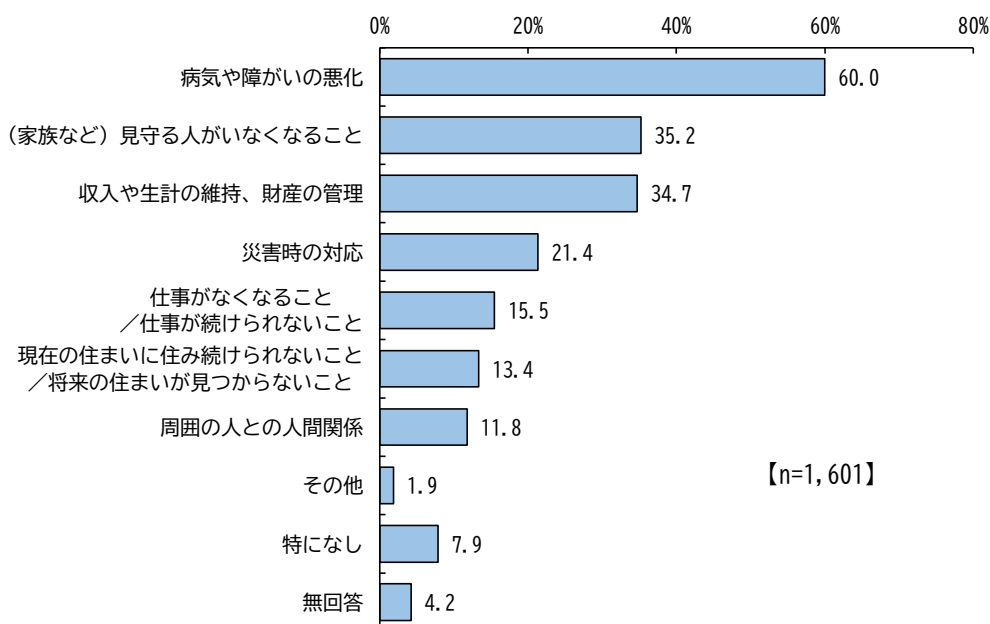
		合計(n)	電子申請を積極的に利用したい	やり方がわかれば電子申請を利用したい	スマートフォンやパソコンが使えないので窓口で申請したい	対面の方が安心なので窓口で申請したい	無回答
全体		1601	21.9	32.7	14.3	25.4	5.7
年齢別	10～20歳代	137	29.9	43.1	5.1	20.4	1.5
	30歳代	157	35.7	31.2	8.9	21.7	2.5
	40歳代	188	38.3	30.3	8.0	21.8	1.6
	50歳代	194	32.0	36.6	11.3	18.6	1.5
	60歳代	237	17.7	44.7	16.0	18.6	3.0
	70歳以上	666	11.0	26.4	19.5	32.6	10.5
障がい種別	身体障がい	1054	18.8	31.4	15.6	27.0	7.2
	知的障がい	192	12.0	32.3	19.3	33.3	3.1
	精神障がい	393	34.6	35.4	10.2	18.8	1.0

単位：％

問 38. 現在または将来に対する不安や心配

【MA】

○「病気や障がいの悪化」が60.0%で最も高く、以下「（家族など）見守る人がいなくなること」が35.2%、「収入や生計の維持、財産の管理」が34.7%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“40 歳代”以上は「病気や障がいの悪化」が最も高く、“60 歳代”では7 割を超え特に高くなっています。“10～20 歳代”は「（家族など）見守る人がいなくなること」57.7%、“30 歳代”は「収入や生計の維持、財産の管理」49.0%が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「病気や障がいの悪化」が最も高く、“知的障がい”は「（家族など）見守る人がいなくなること」が7 割を超え、特に高くなっています。また、“精神障がい”は「収入や生計の維持、財産の管理」が5 割以上と他の障がいを大きく上回ります。

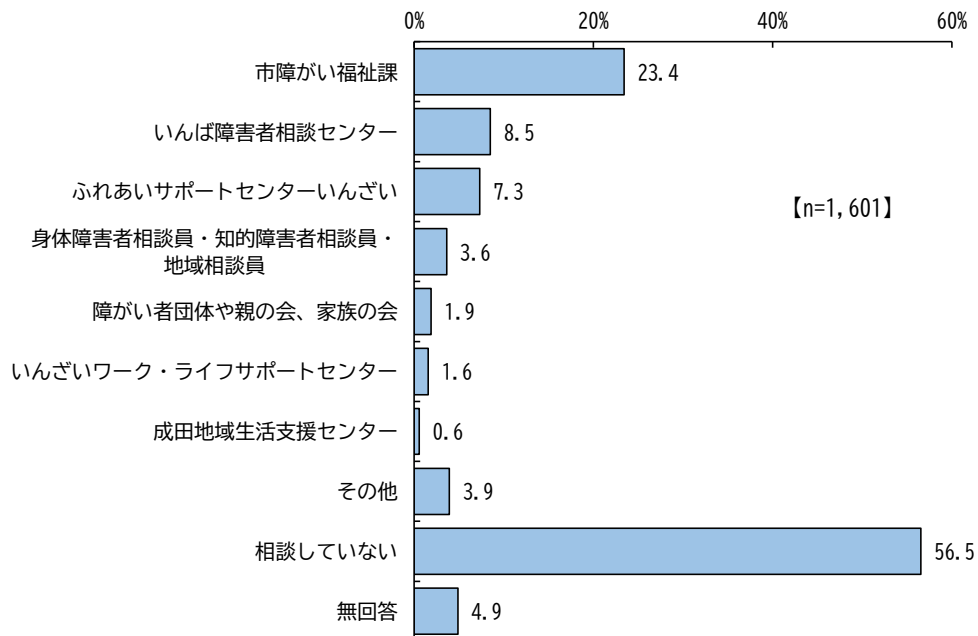
		合計(n)	病気や障 がいの悪 化	現在の住 まいに住 み続けら れないこ と／将来 の住まい が見つか らないこ と	仕事がな くなるこ と／仕事 が続けら れないこ と	収入や生 計の維 持、財産 の管理	(家族な ど)見守 る人がい なくなる こと	災害時の 対応	周囲の人 との人間 関係	その他	特になし	無回答
全体		1601	60.0	13.4	15.5	34.7	35.2	21.4	11.8	1.9	7.9	4.2
年 齢 別	10～20歳代	137	40.1	19.0	27.0	47.4	57.7	10.9	27.7	2.9	4.4	0.0
	30歳代	157	47.8	24.2	29.9	49.0	45.2	14.0	18.5	1.9	5.7	1.3
	40歳代	188	59.0	16.5	34.0	53.2	45.2	9.6	17.6	4.3	3.2	0.0
	50歳代	194	62.9	18.0	23.7	43.8	36.6	17.5	11.3	2.6	4.1	2.1
	60歳代	237	70.9	13.9	13.1	38.0	30.0	20.7	11.8	1.7	5.5	3.4
	70歳以上	666	62.9	7.1	3.0	20.1	27.2	30.3	5.4	0.9	12.3	7.7
障がい 種別	身体障がい	1054	65.0	9.2	9.0	26.8	29.2	27.0	6.4	1.1	9.9	5.7
	知的障がい	192	35.4	19.3	17.7	38.0	71.9	15.6	21.4	1.6	4.7	1.6
	精神障がい	393	59.5	22.9	32.1	53.9	35.6	9.9	22.9	4.3	2.8	1.8

単位：％

問 39. 3 年以内に相談した相談窓口

【SA】

○相談した窓口では、「市障がい福祉課」が23.4%で最も高く、以下「いんば障害者相談センター」が8.5%、「ふれあいサポートセンターいんざい」が7.3%となっています。一方で、「相談していない」は56.5%となっています。



【年齢別・障がい種類の集計】

○年齢別にみると、相談した相談窓口では、“50 歳代”は「市障がい福祉課」34.0%が3割半ばで高くなっています。“60 歳代”以上は「相談していない」が6割を超えて他の年齢を上回ります。

○障がいの種類別にみると、相談した相談窓口では、いずれの障がいも「市障がい福祉課」が高くなっています。“知的障がい”は「いんば障害者相談センター」も21.4%と他の障害に比べ高くなっています。

		合計(n)	いんば障害者相談センター	ふれあいサポートセンターいんざい	いんざいワーク・ライフサポートセンター	成田地域生活支援センター	身体障害者相談員・知的障害者相談員・地域相談員	市障がい福祉課	障がい者団体や親の会、家族の会	その他	相談していない	無回答
年齢別	全体	1601	8.5	7.3	1.6	0.6	3.6	23.4	1.9	3.9	56.5	4.9
	10～20歳代	137	19.7	19.0	2.2	0.0	13.1	23.4	2.9	2.9	43.1	0.0
	30歳代	157	15.9	16.6	1.3	1.3	5.1	26.8	8.3	5.7	39.5	2.5
	40歳代	188	11.7	10.6	3.2	0.0	3.7	27.1	2.7	4.8	54.8	1.6
	50歳代	194	15.5	12.9	1.5	0.0	3.1	34.0	1.5	4.1	44.3	1.0
	60歳代	237	5.5	3.4	2.5	0.4	1.7	22.8	0.8	4.2	62.0	4.2
	70歳以上	666	2.4	1.8	0.8	0.9	2.3	19.2	0.5	3.2	65.2	8.4
障がい種類別	身体障がい	1054	4.5	3.0	0.9	0.7	2.5	22.1	0.9	2.8	63.6	6.2
	知的障がい	192	21.4	10.4	1.0	0.0	11.5	21.9	8.3	4.7	39.6	3.1
	精神障がい	393	12.7	18.1	3.3	0.5	3.6	31.0	2.3	6.1	43.5	1.5

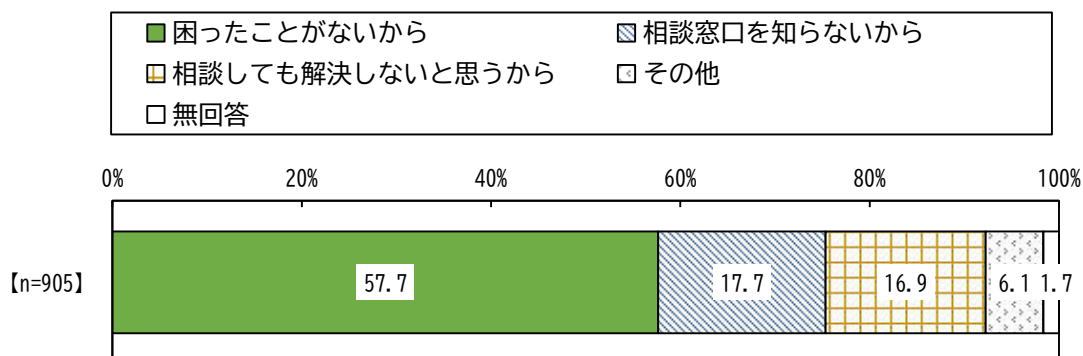
単位：%

【問 39 で「9 相談していない」を回答した方限定】

問 39-1. 相談していない理由

【SA】

○「困ったことがないから」が 57.7%で最も高く、以下「相談窓口を知らないから」が 17.7%、「相談しても解決しないと思うから」が 16.9%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「困ったことがないから」が最も高くなっています。“30 歳代”と“60 歳代”は「相談窓口を知らないから」、「40 歳代」は「相談しても解決しないと思うから」が高くなっています。

○障がい種別にみると、いずれの障がいで「困ったことがないから」が最も高く、“身体障がい”は 6 割以上となっています。一方、“精神障がい”は「相談しても解決しないと思うから」が 3 割を超えて他の障がいを大きく上回ります。

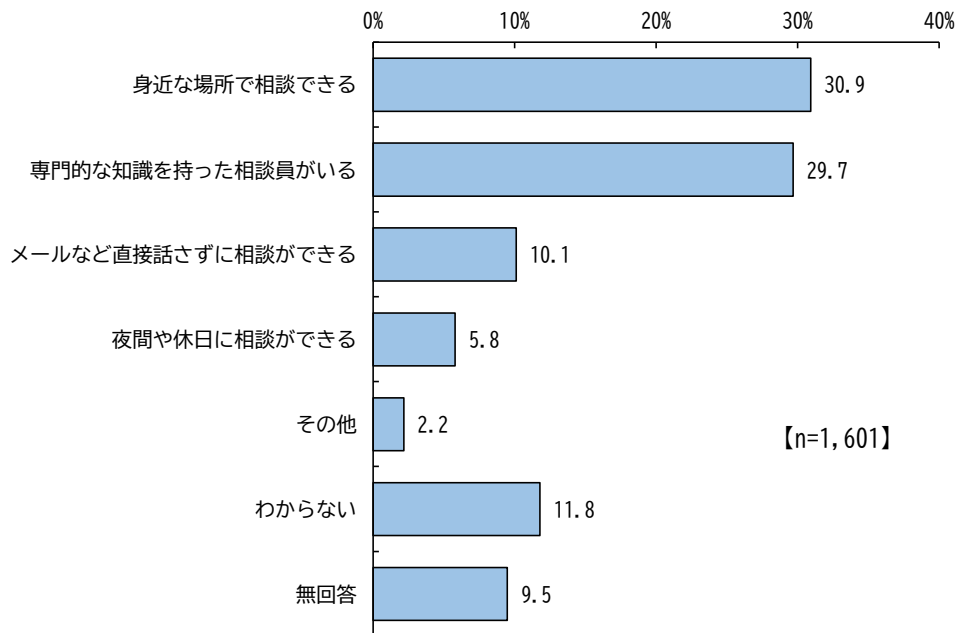
		合計(n)	困ったことがないから	相談窓口を知らないから	相談しても解決しないと思うから	その他	無回答
全体		905	57.7	17.7	16.9	6.1	1.7
年齢別	10～20歳代	59	55.9	16.9	18.6	8.5	0.0
	30歳代	62	46.8	25.8	21.0	6.5	0.0
	40歳代	103	47.6	14.6	28.2	7.8	1.9
	50歳代	86	51.2	18.6	19.8	9.3	1.2
	60歳代	147	55.1	23.1	18.4	3.4	0.0
	70歳以上	434	64.1	15.4	12.4	5.5	2.5
障がい種別	身体障がい	670	62.2	17.2	12.7	5.7	2.2
	知的障がい	76	56.6	18.4	14.5	9.2	1.3
	精神障がい	171	40.9	22.2	31.0	5.8	0.0

単位：%

問 40. 相談しやすい窓口

【SA】

○「身近な場所で相談できる」が 30.9%で最も高く、以下「専門的な知識を持った相談員がいる」が 29.7%、「メールなど直接話さずに相談ができる」が 10.1%となっています。また、「わからない」は 11.8%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“70 歳代以上”を除いて「専門的な知識を持った相談員がいる」が最も高く、“30 歳代”は 4 割以上となっています。“70 歳以上”は「身近な場所で相談できる」37.1%が他の年齢を大きく上回ります。

○障がい種別にみると、“身体障がい”は「身近な場所で相談できる」、「知的障がい」と“精神障がい”は「専門的な知識を持った相談員がいる」が最も高くなっています。

		合計(n)	身近な場所 で相談 できる	専門的な 知識を 持った相 談員が いる	メールな ど直接話 さずに相 談がで きる	夜間や休 日に相談 ができる	その他	わから ない	無回答
全体		1601	30.9	29.7	10.1	5.8	2.2	11.8	9.5
年齢別	10～20歳代	137	27.7	36.5	18.2	6.6	2.2	8.0	0.7
	30歳代	157	28.0	42.7	8.3	8.3	2.5	7.0	3.2
	40歳代	188	26.1	30.3	12.8	7.4	4.8	13.8	4.8
	50歳代	194	21.6	33.5	14.4	13.4	2.1	10.8	4.1
	60歳代	237	27.8	33.8	10.5	5.9	1.3	12.2	8.4
	70歳以上	666	37.1	22.7	7.1	2.6	1.8	13.4	15.5
障がい種別	身体障がい	1054	33.1	27.1	9.1	4.2	2.0	12.4	12.0
	知的障がい	192	28.6	40.6	6.3	6.3	3.1	9.9	5.2
	精神障がい	393	24.9	32.6	14.2	10.7	2.3	10.9	4.3

単位：%

9. 障がい者施策について

問 41. 市が管理する公共施設のバリアフリーについての問題点

【FA】

○自由意見として、223 人から、233 件の回答がありました。主な内容は次のとおりです。

◆交通・歩道（52 件）

- ・市役所本庁舎が遠く行きづらい
- ・移動手段がなく市役所までもタクシーだと数千円かかる。公民館もバス直通がないので、公共施設にいったことがない。
- ・公共施設での障がい者駐車場の増設
- ・公共施設ではないが、市役所、買い物に行く道が歩きにくい。車イスを押して歩いてみると道がガタガタだったり、歩道がすごく狭かったり、とても車イスで通れるような広さが無い。
- ・公共施設ではないかもしれませんが、公園などの段差をなくしてほしいと思ってます。散歩やお花見等で車イスで行けない部分が多いため(印旛沼公園など)。
- ・市役所行きのバスの本数が少ない
- ・本庁舎までの距離が遠く、移動そのものが身体的・時間的に大きな負担（バリア）となっています。
- ・ふれあいバスの本数が少なすぎる
- ・図書館の駐車場が少ない

◆トイレ（49 件）

- ・バリアフリーのトイレの数が少ない。一人一人時間がかかるので、一つしかない待ち時間が長くなってしまうので。
- ・障がい者のトイレの設備が、障がい者の使う身になって設置されていない。作ってあれば良いというような程度だ。障がい者の意見を聞いてください。
- ・市役所のトイレがせまいのと古いし暗い。お年寄りが使うシルバーカーが入りにくいし、置けない。
- ・公共施設も含めてあらゆるところで多目的トイレの数が少ないと思います
- ・公民館の身障者用トイレにウォッシュレットが整備されていないケースが多く見られる
- ・市役所の 1 階トイレ、障がい福祉課から遠く、車イスが使えるかも不明。本来なら 1 階の受付にあるべき。
- ・図書館のトイレが狭い。個室の中に大きな柱があり、身動きが困難。
- ・外出時利用できるトイレが少ない・市役所や図書館の障害者用駐車場に屋根がついていない。（雨の日の出入りが困難）

◆設備（26 件）

- ・外部から靴のまま入れない施設全部（高花福祉センター、竹袋の社会福祉センター等）
- ・市役所の出入り口が坂になっており、車イスで上れない。一人でも車イスが利用できるようにしてほしい。
- ・市役所本庁舎の車イス通路の出入り口のドアを自動または軽くしてほしい。
- ・図書館について、本館と同様に大文字の本がたくさんあると良いと思います。分館は非常に少ないです。
- ・印西牧の原出張所より、福祉関係を増やしたい。手話通訳のタブレット置位など。

- ・文化ホールの2階席へ行く時、降りる時、階段しかない。障がい者だけでなく、高齢者にとっても不便。
- ・市役所や図書館の障害者用駐車場に屋根がついていない。（雨の日の出入りが困難）

◆案内・掲示（18件）

- ・公民館などの利用方法がわからない
- ・市役所の案内表示がわかりにくい
- ・障害の内容について、障害による相談できる公共施設を明確にしてもらいたい。例えば聴覚障がいであれば本庁に出向かなくても役所近くに相談できる様な公共施設を資料を作成し配布していただければ有難い。
- ・市役所の案内表示が日本語のみでわかりにくい。カラー、マークなどの表示があればわかりやすい。手話通訳者の不在が多く、窓口で手話で相談できないことがたくさんあった。
- ・駐車場の入口。標識の設置は市の管轄ではないのかもしれないが、特に車イス駐車場の入口などはもっと道路の手前(それこそ交通ルールに則り30m以上手前)などから案内があっても良いと思う。さらにそこから、スロープのある経路での案内があるとなお良いと思う。
- ・案内などの文字が小さくて見にくい

◆施設の増設等（18件）

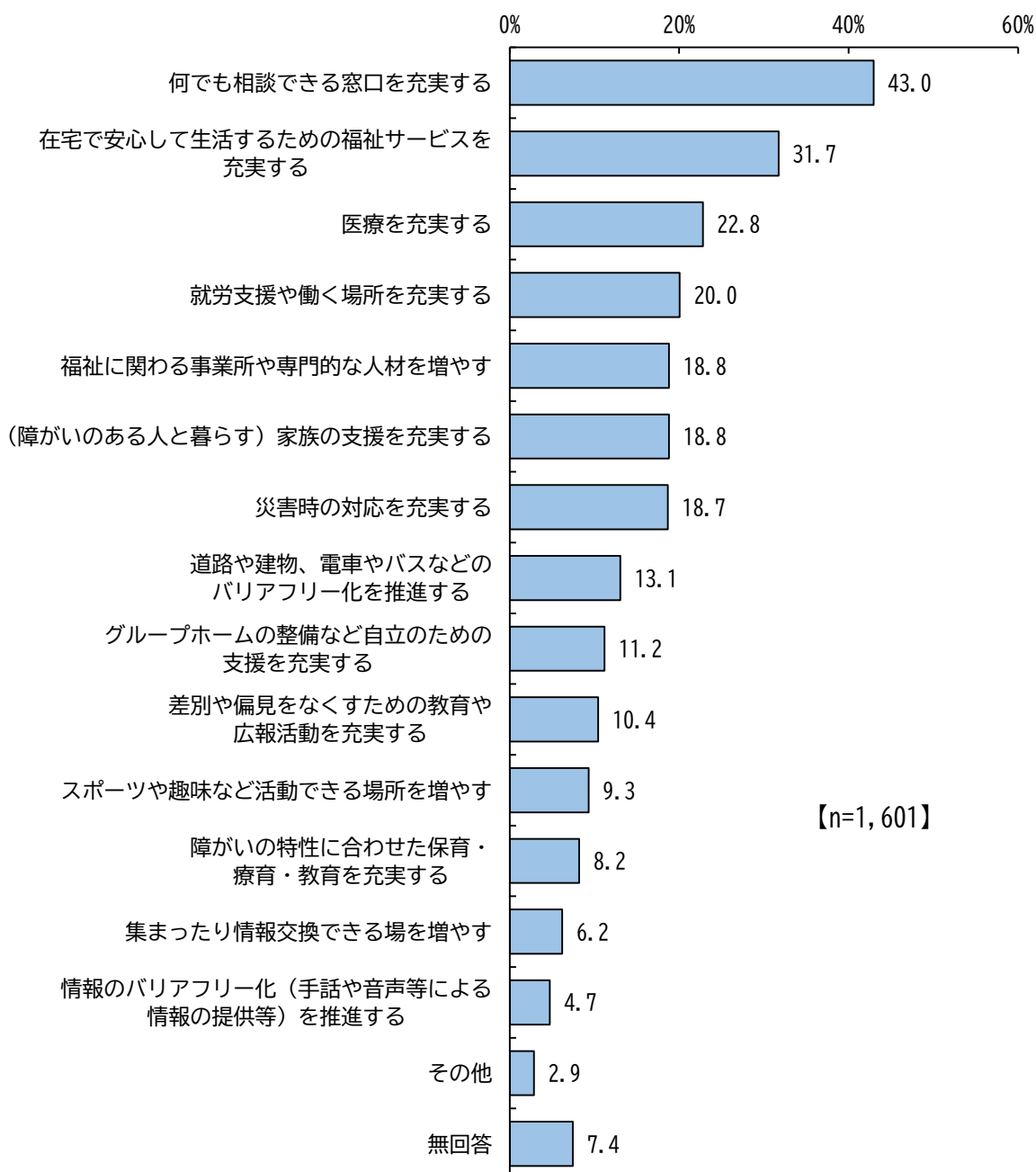
- ・以前住んでいた市では市役所の中に格安で食べられる食事処やATMが設置されていました。印西市は市役所の方の対応がとてもいいので施設の充実を図ってほしいです。
- ・公共の場所などに気分を落ち着ける場所があると嬉しいです(障害者用)
- ・印西牧の原駅前に投票所を設置してほしい
- ・徒歩で行ける図書館がない

◆相談・対応（14件）

- ・市役所まで家から遠いから駅前出張所でできることを増やしてほしい
- ・認知症の家族の悩みや、認知症になった方とのリハビリ的な場所及び相談する所があると良い
- ・市舎を増やし、本庁まで行く手間を軽減してほしい。手続き等付き添いのことも考えれば休日も開いてほしい。一人で行くのが苦しい。
- ・市役所などで困っている人がいたら、職員側から声をかけるようにしてほしい
- ・サザンプラザは補聴器対応のTコイルが設置してあるが、職員が使用方法を理解しておらず、使いたい時に使えなかった。これは障害に対する理解が乏しく、せっかくの機器を利用できない事は、問題だと思います。
- ・市役所での手続き時間が長く、病気のせいで待てないため、大変申し訳なく感じることが多い。待つスペースもせまい所が多いため人目にも気になり、落ち着かない。介助者や支援者は平日働いているため、受診等時の休みとなるが、受診には一日要する。手続き等あっても時間がなく、そのために再び休みを取ってもらうしかなく、生活がままならないことになるため、土・日でも手続きできる等工夫していただきたい。

◆わからない・不明等（56件）

○「何でも相談できる窓口を充実する」が43.0%で最も高く、以下「在宅で安心して生活するための福祉サービスを充実する」が31.7%、「医療を充実する」が22.8%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“40歳代”以上は「何でも相談できる窓口を充実する」が最も高い一方、“30歳代”以下は「就労支援や働く場所を充実する」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“精神障がい”は「何でも相談できる窓口を充実する」が最も高く、“知的障がい”は「グループホームの整備など自立のための支援を充実する」44.8%が他の障がいを大きく上回ります。

		合計(n)	何でも相談できる窓口を充実する	情報のバリアフリー化（手話や音声等による情報の提供等）を推進する	福祉に関わる事業所や専門的な人材を増やす	在宅で安心して生活するための福祉サービスを充実する	医療を充実する	障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する	就労支援や働く場所を充実する	（障がいのある人と暮らす）家族の支援を充実する
全体		1601	43.0	4.7	18.8	31.7	22.8	8.2	20.0	18.8
年齢別	10～20歳代	137	32.1	1.5	28.5	22.6	17.5	18.2	40.1	16.1
	30歳代	157	35.0	3.8	31.2	15.9	18.5	10.8	37.6	19.7
	40歳代	188	45.7	5.3	21.3	25.5	20.2	13.3	33.0	21.8
	50歳代	194	43.8	7.2	16.0	23.7	30.4	9.3	31.4	22.2
	60歳代	237	48.5	6.8	19.0	36.3	24.1	4.6	16.0	18.1
	70歳以上	666	44.0	4.2	14.0	39.9	23.4	5.0	6.8	17.7
障がい種別	身体障がい	1054	43.1	6.0	14.7	35.9	24.3	6.5	12.4	17.7
	知的障がい	192	35.9	0.0	33.3	18.8	12.5	15.1	27.1	22.9
	精神障がい	393	44.8	4.1	24.2	24.9	25.7	10.9	36.6	19.3

		合計(n)	集まった情報交換できる場を増やす	道路や建物、電車やバスなどのバリアフリー化を推進する	グループホームの整備など自立のための支援を充実する	差別や偏見をなくすための教育や広報活動を充実する	スポーツや趣味など活動できる場所を増やす	災害時の対応を充実する	その他	無回答
全体		1601	6.2	13.1	11.2	10.4	9.3	18.7	2.9	7.4
年齢別	10～20歳代	137	3.6	6.6	29.9	16.8	14.6	10.2	3.6	0.0
	30歳代	157	8.3	8.9	23.6	18.5	10.8	12.7	2.5	1.9
	40歳代	188	6.4	10.1	14.4	20.2	8.0	11.7	4.3	1.6
	50歳代	194	7.2	15.5	11.3	9.8	7.7	18.0	3.1	3.1
	60歳代	237	7.6	17.7	6.3	8.4	12.2	24.5	2.5	3.4
	70歳以上	666	5.4	14.1	5.4	5.6	7.8	22.1	2.4	14.1
障がい種別	身体障がい	1054	5.8	16.1	6.0	7.7	9.3	22.5	2.3	10.1
	知的障がい	192	5.2	4.7	44.8	12.5	10.4	10.9	3.1	2.6
	精神障がい	393	7.9	8.1	11.2	16.8	8.9	12.0	4.8	2.0

単位：％

○自由意見として、506 人から、619 件の回答がありました。主な内容は次のとおりです。

主な意見	件数
相談支援・福祉サービス	98 件
◇障がい福祉の各種手続きについて出張所でも出来るようにしてほしい。 ◇仕事で平日にあまり休めないので土曜日も窓口を開けてほしい。隔週でも良いので窓口を開けてほしい。 ◇手続きが難しい、時間がかかる。 ◇障がいのある人も、障がいがあるかどうか分からない人（引きこもり等）やその家族が、気軽に相談できる所がほしいです。相談に乗るだけではなく、専門知識があり、病院のソーシャルワーカーのような、解決へと一歩を進めてくれるそんな場所がほしいです。 ◇本庁舎まで行かなくても手続きなどができるようにしてほしい。電子化有難いです。 ◇市役所の福祉部障がい福祉課の対応が、とても親切で助かりました。 ◇役場の受付では周囲に話しが聞こえないような配慮をお願いします。 ◇グループホームの新設。現在は空き家をグループホームとして利用していることが多いと思う。戸建ての階段や間取りなど危ないと思うことが多々ある。平屋などであったり、アパートタイプのように個が守られるようにしてほしい。親亡き後安心して暮らせるホーム作りをしてほしい。	
交通・駐車場	69 件
◇生活上、障がい専用駐車場を一般車両が独占しており利用できない場合が多い。 ◇ふれあいバスの運行、ダイヤの見直しにより、最寄りのバス停がなくなった。本数も少ない。福祉タクシー助成券をよく利用するが、運転手側が券を知らない、メーターの操作方法を知らないことが多すぎる。 ◇公共交通機関、バスをもっと増やしてほしい。 ◇旧印旛村でバスも通らない過疎地に住んでいます。病院等に苦勞しています。私みたいな人が結構いると思うので、役所に医療タクシーをお願いできたらと思います。 ◇将来的に免許返納を考えているため免許返納後のタクシー含む公共交通機関の充実やサポートに力を入れて欲しい。 ◇段々歩くのが不安になりつつあります。病院へ行くのに福祉タクシーを気軽に利用できたら助かります。 ◇印西市の福祉施設は遠いために非常に不便を感じている。	
行政	54 件
◇ここ数年、印西市は人口がどんどん増え、住みよい町と言われていますが、人口が増えていくのと並行して障がい福祉は進まずの状態です。人口が増えたなりの福祉をしてほしいです。 ◇国の制度施策に準じたものが多く、財政的に豊かになって来ているのだから、独自施策、国・県の制度を補完するものを打ち出してほしい。 ◇介護保険の認定調査が非常に厳しいと感じます。財政の問題もあるのですが、もう少し配慮されてもよろしいのではないかと考えます。 ◇隣の市に合わせるのではなく訪問入浴の回数などそれ以上のサービスを目指して欲しい。医療的ケアが必要な人の入れるグループホームも作ってほしい。	

◇いろいろな所に出かけたり食事に行くのが、段差と車イス対応のトイレがないことです。印西市にある飲食店、その他施設への指導をお願いします。 ◇地域住民に障がい者を知ってもらうための事業を計画してほしい。福祉支援人材の育成、障がい者を日常的に支援するための施設では、基本的な支援を全てのスタッフが徹底に行う、一部の職員だけが任されるのではなく理念を確立向上してほしい。障がい者の福祉サービスは行き届いていると思うが、サービスの連携をわかりやすくして利用できるようにしてほしい。 ◇障害をオープンにしていない人の生活を守っていくことも障害福祉の計画に入れていただけると嬉しいです。	
経済的援助	52 件
◇医療費の無料化、生活支援金など障がい福祉に対する金銭的な支援を充実させてほしい。継続的な治療と通院、検査が必要な状況が長く続いており、印西市民として生きにくさと住みづらさを強く感じている。 ◇生活に必要な器具購入の9割を補助してくれるのがとてもうれしい（白杖、拡大器、音声読書の器具など） ◇今現在障害年金をもらえて何とか生活が成り立っていますが、今後もらえなくなったらどうしようという不安もあります。 ◇年何回とか制限はつくと思いますが、薬があるわけでもなく、医療でどこまで助けられるかわかりませんが、精神疾患の希望の一つであるカウンセリング費用の援助があればと感じています。	
情報アクセシビリティ	47 件
◇印西の情報は広報いんざいが頼りです。ありがたいです。尚の充実を期待しています。 ◇このアンケート以外、福祉の情報が受動的にきたことはありません。手帳を持っている人はもちろん、そうでない人に支援があることの周知が足りないと感じます。 ◇障害に応じて受けられるサービスが記入されているもの、しおり等を配布してほしい。これからも生きやすい優しいまちづくりをお願いします。 ◇デジタル化で殆どの情報をホームページ等で調べるようにと対応されることが多い。老人には無理があり、以前のように（昭和の時代）電話もしくは対面で相談できる方法を必ず継続してほしい。 ◇HPをもっとわかりやすくしてほしい。なんのサービスが受けられて何が受けられないかが分かりづらい。自分の障害の等級などを入力すれば、サービス一覧などが出てくると楽です。現状探すのがとても大変。 ◇障害者団体の活動や名称などの情報を更新してわかりやすく広報していただければ幸いです。 ◇相談窓口があることを知らなかった。それぞれの窓口でどのような相談にのってくれるのか分かりやすい説明がほしい。	
権利擁護・心のバリアフリー	38 件
◇親が元気で面倒を見られるうちはいいのですが、親亡き後、もしくは面倒を見られる状況ではなくなった時、障がいがある子がきちんと楽しく生活できる施設は増やし、将来の不安を少なくしてほしい。 ◇障がい者が高齢者の介護をマンツーマンで行わなければいけず、買物や外出（障がいのため）が困難なのに助けてくれる手立てが金銭的にリスクが強かったりする。 ◇歳をとっても、障がいがあっても、ずっと自分の家で住み続けられるよう手助けしてほしい。	

◇精神疾患を抱えながら、実家での生活環境が病状に悪影響を及ぼしている現状があります。自立を望んでいますが、昨今の物価高や家賃負担が重く、自立に向けた一歩が踏み出せないために「病状の悪化と回復を繰り返す」という悪循環に陥っています。 ◇障がいを持った子の保育、療育、母親の心配を取り除く優しい場所があってほしいです。 ◇私のように障害を隠して生きていきたい人も一定数いると思うので、配慮があると助かります。例えば障害福祉課を他の課と離れたところにしていただいたり、相談を個室でできるようにしていただけると、役所にいるあいだ人目を気にして不安になることが減ると思います。	
人材確保・教育	38 件
◇放課後デイサービスのスタッフ高齢化、スタッフ不足。専門職を増やし療育の場をもっと増やしてほしい。グループホーム、自立の場を増やしてほしい。 ◇福祉行政や現場の人材育成に取り組んでほしい。施設やサービスの量的な充実だけでなく、従事する人の質や知識を高めることが重要。 ◇市役所本庁舎障がい福祉課の窓口が混んでいるので、受付窓口を増やす、職員を増やすなど対策が必要である。 ◇地域や障がいごとに対応する市の担当者がいれればいいです。	
医療・子育て・福祉	35 件
◇町の診療所などがどんどん閉院されていてとても困る。救急で呼んでいるのに、かかりつけにも関わらず病院側から断られることが多い。 ◇医療ケア児（者）を看てくれる医療施設、通所施設、また相談できる施設等の事業者の誘致や体制を作してほしい。 ◇年 1 回健康診断を受診することはわかっているのですが、バスの乗り降りが困難で以前断られたため、それから受診していません。個人の受診は経済的にきびしいため受けていません。 ◇眼科が大混雑します。歯科に比べ特定の医療施設が少なく偏りが大きいと感じます。障がい者が安心して受診できるよう対策してほしい。	
就労・雇用	31 件
◇障害者雇用の給料が、安すぎて障害者枠で就職出来ませんでした。無理して一般枠で就職しましたが、続けられるかわかりません。補助金などのサポートが必要かと思います。 ◇障害者が安心して働ける勤務先がない。障害の性質上、短時間で勤務日数も少なく働きたいのに、週 20 時間以上勤務必須などの勤務先が多い。 ◇仕事には就けていても契約社員という形で 1 年毎に更新しなくてはいけないため、仕事に満足していてもいつまで働かせてもらえるのか不安です。 ◇見た目が普通なので仕事ができない人扱いされて困ることがある。	
障がいの理解・啓発	29 件
◇生活のサポート、仕組みは整ってきていると感じます。人々の内面に残る障害者への偏見や壁を取り除くために学校教育との連携をお願いします。 ◇地域の人達も福祉にかかわりたいと思って障がい者が何を必要としているか、ボランティアの人がどんな活動をしているのかわからないと思う。市民への福祉啓発（ポスター、チラシ配布）障がい者理解の研修会の実施、任意の団体だけ行っても少人数しか集まらないので行政も一緒にやるとより一層成果が期待される。 ◇障害者月間というのがあるのだが、そう言った月間の啓蒙期間を毎年行ったり、広めたりして一般の方や企業にも浸透する様な取り組みを進めてほしい。	

◇障がい者マークがありますが、発達障がい、知的障がいはヘルプマークになりますが、見た目は健康で普通なので、つけづらいです。	
防犯・防災・安全	25 件
◇高齢者や障がい者向けの緊急通報システムがあると安心ですね。 ◇災害時にどうするかが不安ではあります。これは高齢者一般に通じるものであると思います。 ◇道路から歩道への段差や、歩道のタイル等のこわれている所が、つまずきそうで怖い時がある。 ◇災害があった時に避難所で過ごすことは無理だと思っているので、できるだけ自宅にいたい。	
文化活動・交流	21 件
◇障がいの相互理解を深めるために、障がい者や健常者の枠を超えた地域活動の場が増えると良いと思いました。例えばスポーツや音楽、芸術といった文化活動を通して相互理解がより深まれば良いなと願います。 ◇障がい者が集まれるカフェがあると嬉しいです。 ◇体力作りのために運動、リハビリを楽しくできる場所をつくってください。地域のコミュニケーション施設を利用しやすい場所に色々使用できるように改善してほしいです	
アンケートについて	74 件
◇今回このアンケート調査に応じて市の取り組みや政策がわかり、今後の場合を考えて良い学びになりました。 ◇アンケートは障がい者の意見とあるが、介護をしている人の立場で意見をもっと広くとることも必要だと思います。 ◇アンケートによって障害者の支援が充実したらいいと思います。 ◇アンケートの項目が多くて、質問が多かったです。 ◇答えを一つ選ぶものがありましたが、複数○をつけたいものがありました。 ◇ネットで様々な手続きが出来るようになって来ているのはとても良い。このアンケートもポストに投函する必要がないだけでとても回答しやすいと感じる。 ◇返信用封筒が小さすぎて、入れられない(紙の用紙で回答したい)	
その他	82 件
◇印西市は障がい福祉の施策に積極的で良い街だと思います。 ◇今後も障がい福祉施策の向上に期待しています。 ◇何回か福祉課を訪れたことがありますが、いつも気持ちよく対処させていただいてます。これからもよろしくお願いいたします。 ◇ヘルプマークを一枚取得して日常使用しているバックにつけておりますが、リハビリのために使用するスポーツバックにもつけたいので複数枚もらえるようお願いしたい。 ◇紙おむつ給付サービスの全商品のサンプルを用意していただきたいです。 ◇障害者であっても普通の人と同様に生きられるようになりたいと思います。自分のできることをもって社会参加して貢献できたらいいなと思います。	

第3章 障がい児アンケート

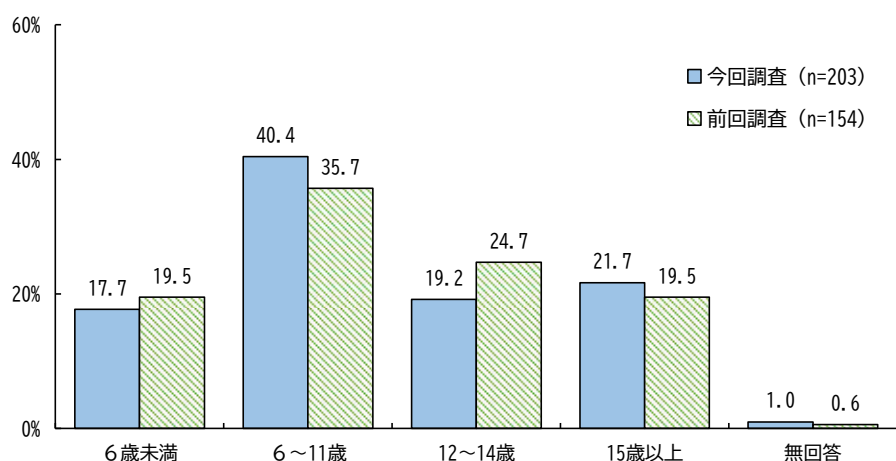
1. あなたのことについて

問1. 年齢（宛名の本人）※令和8年1月1日時点

【SA】

○「6～11歳」が40.4%で最も高く、以下「15歳以上」が21.7%、「12～14歳」が19.2%の順となっています。

○前回調査と比べると、「6～11歳」で4.7ポイント増加する一方、「12～14歳」で5.5ポイント減少しています。



【障害種別の集計】

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”と“知的障がい”は「6歳～11歳」が最も高く、“精神障がい”は「12～14歳」が最も高くなっています。

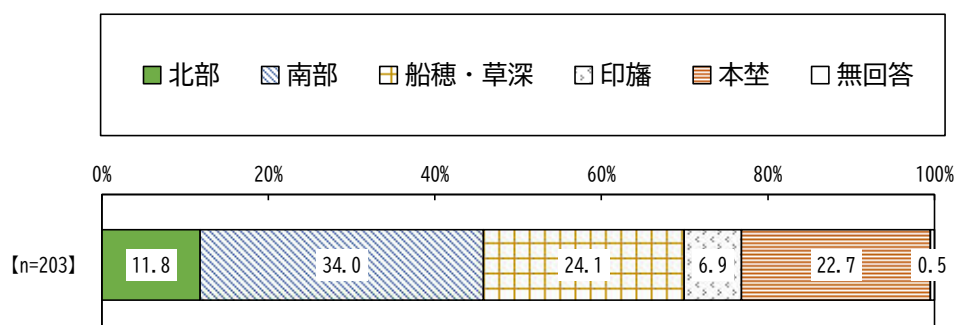
		合計(n)	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15歳以上	無回答
障がい 種別	全体	203	17.7	40.4	19.2	21.7	1.0
	身体障がい	34	29.4	38.2	14.7	17.6	0.0
	知的障がい	168	15.5	43.5	17.9	22.6	0.6
	精神障がい	13	15.4	15.4	38.5	30.8	0.0

単位: %

問2. 居住地域

【SA】

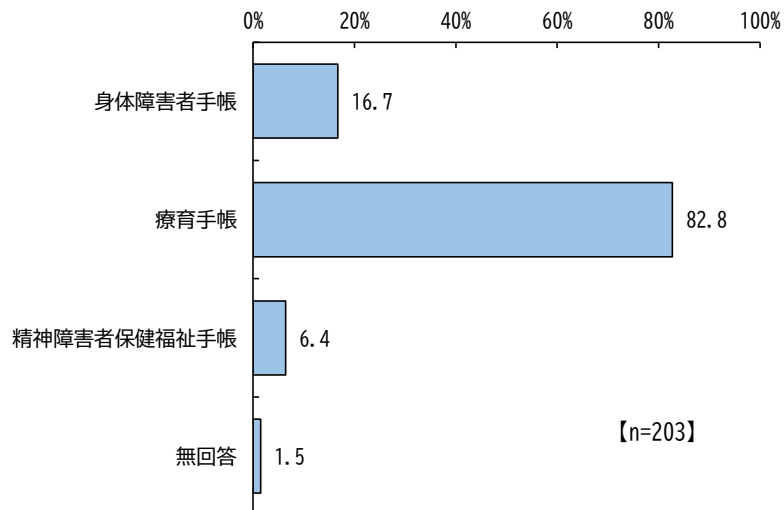
○「南部」が34.0%で最も高く、以下「船穂・草深」が24.1%、「本埜」が22.7%、「北部」が11.8%、「印旛」が6.9%となっています。



問 3. 持っている手帳の種類

【SA】

○「療育手帳」が82.8%で最も高く、以下「身体障害者手帳」が16.7%、「精神障害者保健福祉手帳」が6.4%の順となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「療育手帳」が最も高くなっています。“6歳未満”は「身体障害者手帳」27.8%が他の年齢を上回ります。

		合計(n)	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	無回答
全体		203	16.7	82.8	6.4	1.5
年齢別	6歳未満	36	27.8	72.2	5.6	0.0
	6～11歳	82	15.9	89.0	2.4	0.0
	12～14歳	39	12.8	76.9	12.8	5.1
	15歳以上	44	13.6	86.4	9.1	0.0

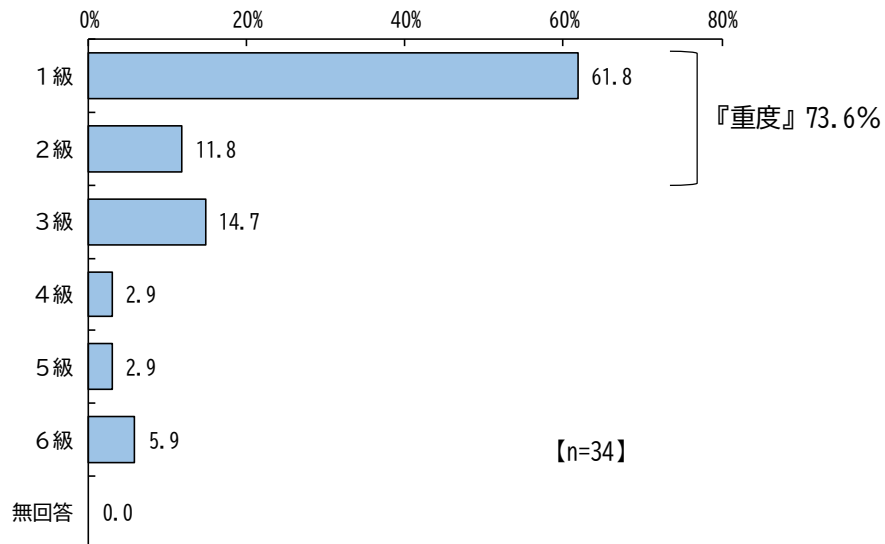
単位：％

【問3において「1 身体障害者手帳」を回答した方限定】

問3①. 身体障害者手帳の等級

【SA】

○「身体障害者手帳1級」が61.8%で最も高く、「身体障害者手帳2級」の11.8%と合わせた『重度』は、73.6%となっています。

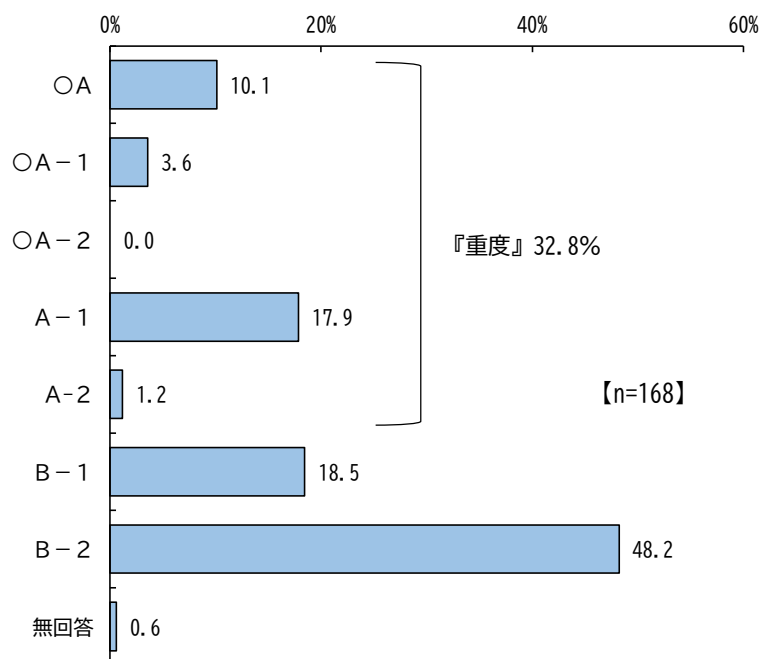


【問3において「2 療育手帳」を回答した方限定】

問3②. 療育手帳の等級

【SA】

○「B-2」が48.2%で最も高くなっています。「OA~A-2」までの『重度』は32.8%となっています。

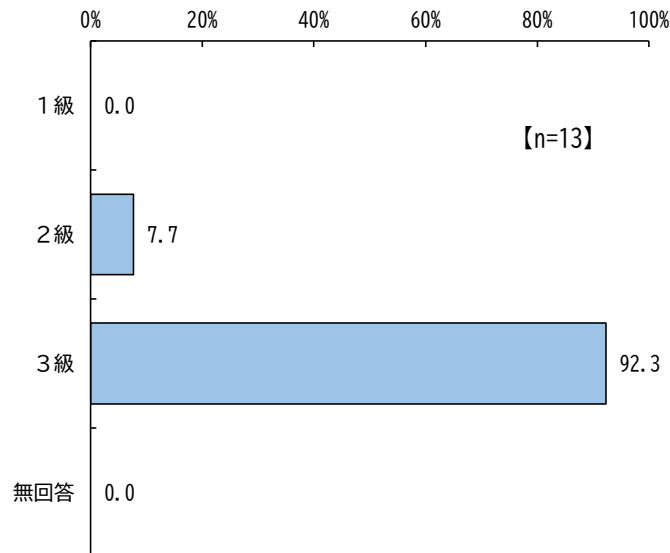


【問3において「3 精神障害者保健福祉手帳」を回答した方限定】

問3③. 精神障害者保健福祉手帳の等級

【SA】

○「3級」が92.3%で最も高くなっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、身体障害者手帳は「1級」が「6～11歳」38.1%で約4割となっています。療育手帳は“A-1”以下で「6～11歳」が高くなっています。

		合計(n)	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15歳以上	無回答
全体		203	17.7	40.4	19.2	21.7	1.0
身体障害者手帳	1級	21	33.3	38.1	9.5	19.0	0.0
	2級	4	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0
	3級	5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0
	4級	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	5級	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	6級	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
療育手帳	○A	17	17.6	41.2	23.5	17.6	0.0
	○A-1	6	16.7	50.0	16.7	16.7	0.0
	○A-2	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	A-1	30	10.0	60.0	16.7	13.3	0.0
	A-2	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	B-1	31	6.5	45.2	22.6	22.6	3.2
精神障害者保健福祉手帳	B-2	81	19.8	35.8	16.0	28.4	0.0
	1級	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2級	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	3級	12	16.7	16.7	41.7	25.0	0.0

※黄色網掛けは重度

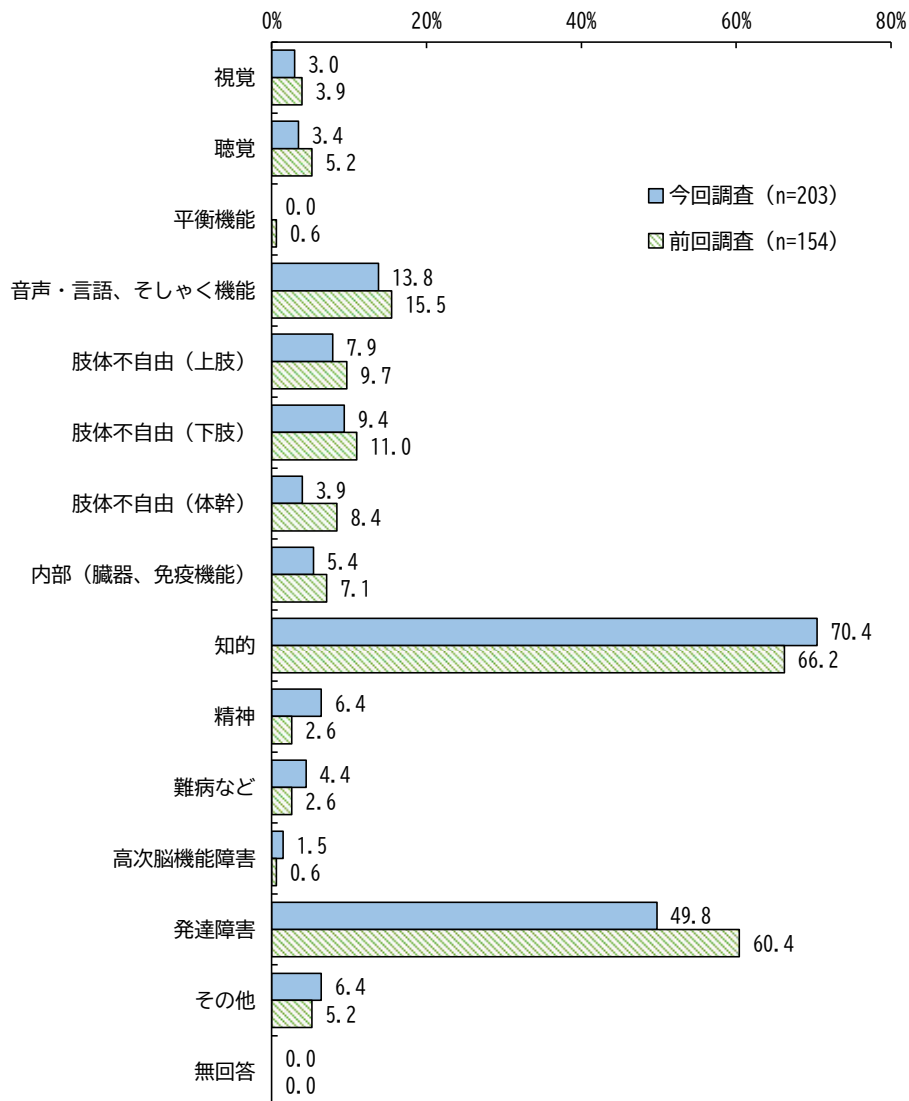
単位：％

問 4. 障がいの種類

【MA】

○「知的」が70.4%で最も高く、以下「発達障害」が49.8%、「音声・言語、そしゃく機能」が13.8%となっています。

○前回調査に比べ、「知的」が4.2ポイント増加、「発達障害」が10.6ポイント減少しています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「知的」が最も高い一方、“12～14歳”以上は「発達障害」が5割半ばを超えて高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「発達障害」が5割以上となっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”“特別支援学校”ともに「知的」が最も高く、「発達障害」はいずれも半数の割合となっています。

		合計(n)	視覚	聴覚	平衡機能	音声・言語、そ しゃく機能	肢体不自 由(上 肢)	肢体不自 由(下 肢)	肢体不自 由(体 幹)	内部(臓 器、免疫 機能)
全体		203	3.0	3.4	0.0	13.8	7.9	9.4	3.9	5.4
年 齢 別	6歳未満	36	0.0	8.3	0.0	30.6	13.9	13.9	11.1	8.3
	6～11歳	82	4.9	4.9	0.0	14.6	6.1	8.5	3.7	6.1
	12～14歳	39	5.1	0.0	0.0	7.7	10.3	7.7	2.6	5.1
	15歳以上	44	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5	9.1	0.0	2.3
障がい 種別	身体障がい	34	11.8	17.6	0.0	17.6	44.1	52.9	23.5	26.5
	知的障がい	168	2.4	2.4	0.0	14.9	4.8	6.5	1.2	2.4
	精神障がい	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学校・ 学級	特別支援学級	72	5.6	1.4	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	4.2
	特別支援学校	64	1.6	4.7	0.0	10.9	7.8	14.1	3.1	4.7

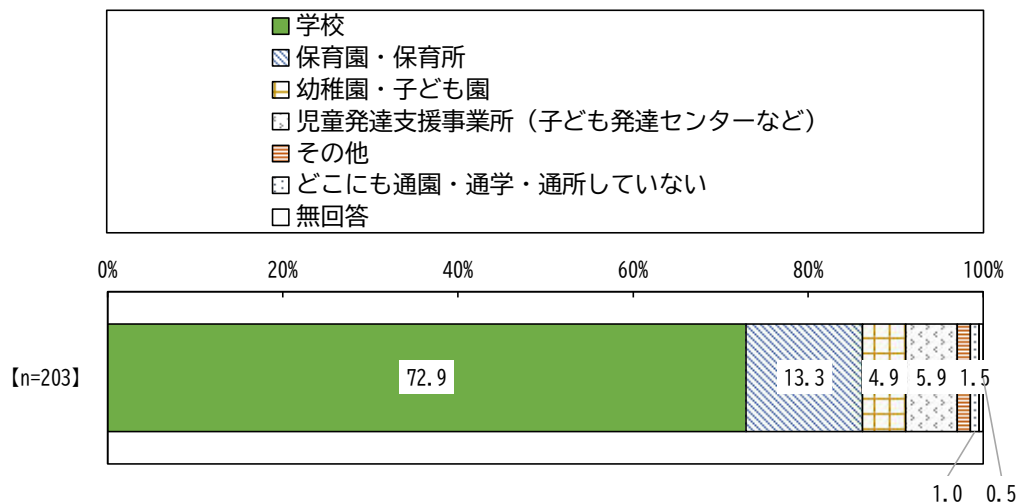
		合計(n)	知的	精神	難病など	高次脳機 能障害	発達障害	その他	無回答
全体		203	70.4	6.4	4.4	1.5	49.8	6.4	0.0
年 齢 別	6歳未満	36	58.3	0.0	13.9	0.0	50.0	5.6	0.0
	6～11歳	82	75.6	2.4	1.2	2.4	42.7	4.9	0.0
	12～14歳	39	66.7	15.4	7.7	0.0	56.4	12.8	0.0
	15歳以上	44	75.0	11.4	0.0	2.3	56.8	4.5	0.0
障がい 種別	身体障がい	34	29.4	0.0	14.7	0.0	17.6	5.9	0.0
	知的障がい	168	82.7	4.2	3.0	1.8	51.8	6.5	0.0
	精神障がい	13	30.8	53.8	0.0	0.0	84.6	15.4	0.0
学校・ 学級	特別支援学級	72	73.6	6.9	4.2	2.8	50.0	8.3	0.0
	特別支援学校	64	84.4	7.8	1.6	1.6	50.0	4.7	0.0

単位：％

問 5. 日中の主な通園・通学・通所先

【SA】

○「学校」が72.9%で最も高く、以下「保育園・保育所」が13.3%、「児童発達支援事業所（子ども発達センターなど）」が5.9%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”を除いて「学校」が最も高くなっています。“6歳未満”は「保育園・保育所」が最も高く、次いで「児童発達支援事業所（子ども発達センターなど）」が2割を超えています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいで「学校」が最も高く、“身体障がい”は「児童発達支援事業所（子ども発達センターなど）」が他の障がいを上回ります。

		合計(n)	学校	保育園・保育所	幼稚園・子ども園	児童発達支援事業所（子ども発達センターなど）	その他	どこにも通園・通学・通所していない	無回答
全体		203	72.9	13.3	4.9	5.9	1.5	1.0	0.5
年齢別	6歳未満	36	2.8	55.6	13.9	22.2	0.0	2.8	2.8
	6～11歳	82	84.1	8.5	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0
	12～14歳	39	97.4	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0
	15歳以上	44	88.6	0.0	4.5	0.0	4.5	2.3	0.0
障がい種別	身体障がい	34	58.8	8.8	5.9	17.6	5.9	2.9	0.0
	知的障がい	168	75.0	13.1	4.8	4.8	1.2	0.6	0.6
	精神障がい	13	76.9	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：％

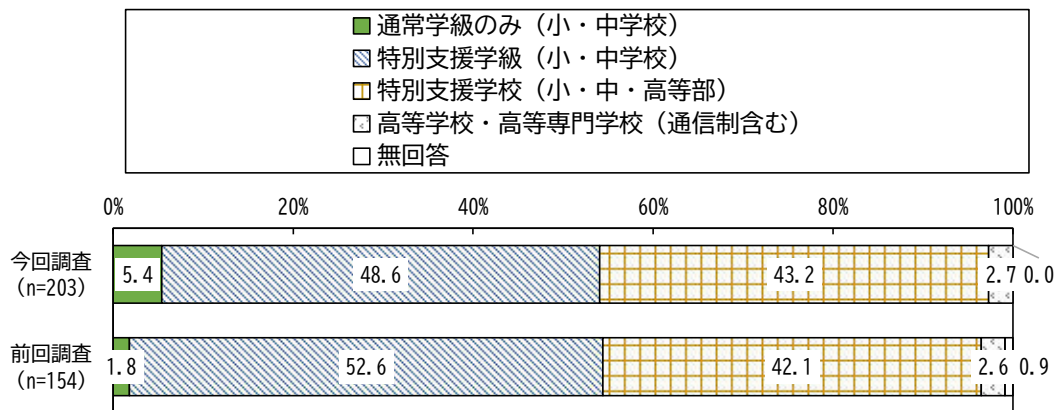
【問5で「1 学校」を回答された方】

問5-1. 現在在籍中の学校・学級

【SA】

○「特別支援学級（小・中学校）」が48.6%で最も高く、以下「特別支援学校（小・中・高等部）」が43.2%、「通常学級のみ（小・中学校）」が5.4%となっています。

○前回調査に比べ、「通常学級のみ（小・中学校）」が3.6ポイント増加しています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“6～11歳”と“12～14歳”は「特別支援学級（小・中学校）」、“15歳以上”は「特別支援学校（小・中・高等部）」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「特別支援学校（小・中・高等部）」、“知的障がい”と“精神障がい”は「特別支援学級（小・中学校）」が最も高くなっています。

		合計(n)	通常学級のみ (小・中学校)	特別支援学級 (小・中学校)	特別支援学校 (小・中・高等部)	高等学校・高等専門学校 (通信制含む)	無回答
全体		148	5.4	48.6	43.2	2.7	0.0
年齢別	6歳未満	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	6～11歳	69	4.3	56.5	39.1	0.0	0.0
	12～14歳	38	7.9	65.8	26.3	0.0	0.0
	15歳以上	39	5.1	17.9	66.7	10.3	0.0
障がい種別	身体障がい	20	25.0	15.0	60.0	0.0	0.0
	知的障がい	126	0.8	51.6	46.0	1.6	0.0
	精神障がい	10	20.0	50.0	10.0	20.0	0.0

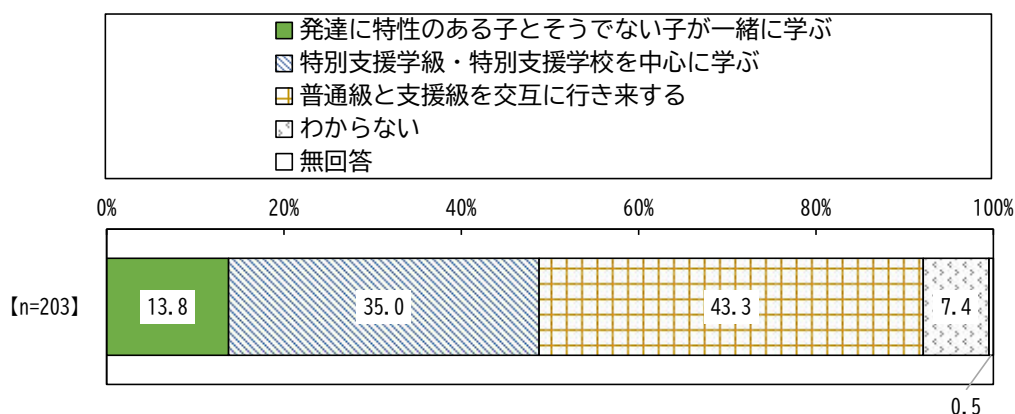
単位：％

2. 教育などについて

問 6. 発達特性のある子どもの学校教育について

【SA】

- 「普通級と支援級を交互に行き来する」が43.3%で最も高く、以下「特別支援学級・特別支援学校を中心に学ぶ」が35.0%、「発達に特性のある子とそうでない子が一緒に学ぶ」が13.8%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

- 年齢別にみると、すべての年齢で「普通級と支援級を交互に行き来する」が最も高くなっています。
- “12～14歳”で「特別支援学級・特別支援学校を中心に学ぶ」が5割以上と他の年齢を上回ります。
- 障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「普通級と支援級を交互に行き来する」が最も高くなっています。（“身体障がい”は「特別支援学級・特別支援学校を中心に学ぶ」と「普通級と支援級を交互に行き来する」が同率で最も高い。）
- 在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「普通級と支援級を交互に行き来する」が7割半ばと最も高い一方、“特別支援学校”は「特別支援学級・特別支援学校を中心に学ぶ」が6割を超えて高くなっています。

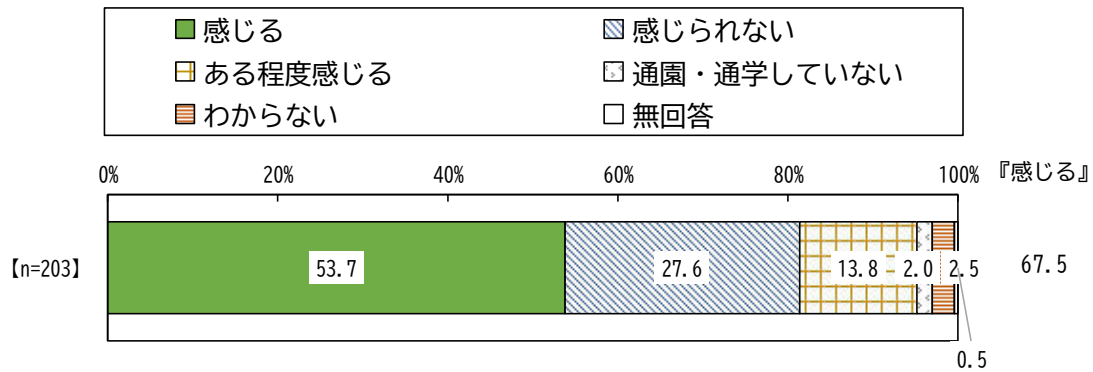
		合計(n)	発達に特性のある子とそうでない子が一緒に学ぶ	特別支援学級・特別支援学校を中心に学ぶ	普通級と支援級を交互に行き来する	わからない	無回答
全体		203	13.8	35.0	43.3	7.4	0.5
年齢別	6歳未満	36	22.2	27.8	33.3	16.7	0.0
	6～11歳	82	13.4	40.2	45.1	1.2	0.0
	12～14歳	39	7.7	30.8	51.3	10.3	0.0
	15歳以上	44	13.6	36.4	40.9	6.8	2.3
障がい種別	身体障がい	34	14.7	35.3	35.3	14.7	0.0
	知的障がい	168	12.5	35.7	44.0	7.1	0.6
	精神障がい	13	30.8	15.4	46.2	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	8.3	15.3	75.0	1.4	0.0
	特別支援学校	64	9.4	64.1	17.2	7.8	1.6

単位：％

問 7. 在籍中の学校や園の、障がいの特性に応じた対応について

【SA】

○「感じる」が53.7%で最も高く、以下「感じられない」が27.6%、「ある程度感じる」が13.8%となっています。「感じる」と「ある程度感じる」を合わせた『感じる』は67.5%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「感じる」が最も高い一方、年齢が下がるほど「感じられない」が高い傾向にあります。

○障がいの種類別にみると、“精神障がい”を除いて「感じる」が6割近くと高い一方、“知的障がい”の3割近くが「感じられない」としています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「感じる」が最も高く、「ある程度感じる」を併せた『感じる』は“特別支援学級”が6割以上、“特別支援学校”で8割以上となっています。一方で、「感じられない」との回答は“特別支援学級”で4割近くとなっています。

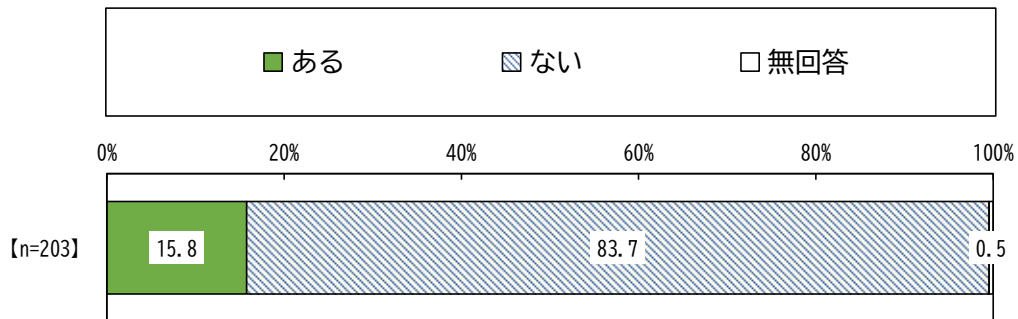
		合計(n)	感じる	感じられない	ある程度感じる	通園・通学していない	わからない	無回答
全体		203	53.7	27.6	13.8	2.0	2.5	0.5
年齢別	6歳未満	36	44.4	33.3	13.9	8.3	0.0	0.0
	6～11歳	82	56.1	32.9	8.5	0.0	1.2	1.2
	12～14歳	39	48.7	23.1	25.6	0.0	2.6	0.0
	15歳以上	44	63.6	15.9	11.4	2.3	6.8	0.0
障がい種別	身体障がい	34	58.8	11.8	14.7	8.8	5.9	0.0
	知的障がい	168	56.5	28.6	11.9	0.6	1.8	0.6
	精神障がい	13	23.1	38.5	30.8	0.0	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	43.1	36.1	19.4	0.0	0.0	1.4
	特別支援学校	64	78.1	15.6	4.7	0.0	1.6	0.0

単位：％

問 8. 不登校・園になった経験

【S A】

○「ある」が15.8%、「ない」が83.7%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「ない」が最も高い一方、年齢が上がるほど「ある」が高い傾向にあります。

○障がいの種類別にみると、“精神障がい”を除いて「ない」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「ない」が最も高くなっています。

		合計(n)	ある	ない	無回答
年齢別	全体	203	15.8	83.7	0.5
	6歳未満	36	5.6	94.4	0.0
	6～11歳	82	11.0	87.8	1.2
	12～14歳	39	23.1	76.9	0.0
	15歳以上	44	25.0	75.0	0.0
障がい種別	身体障がい	34	8.8	91.2	0.0
	知的障がい	168	14.9	84.5	0.6
	精神障がい	13	53.8	46.2	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	13.9	84.7	1.4
	特別支援学校	64	17.2	82.8	0.0

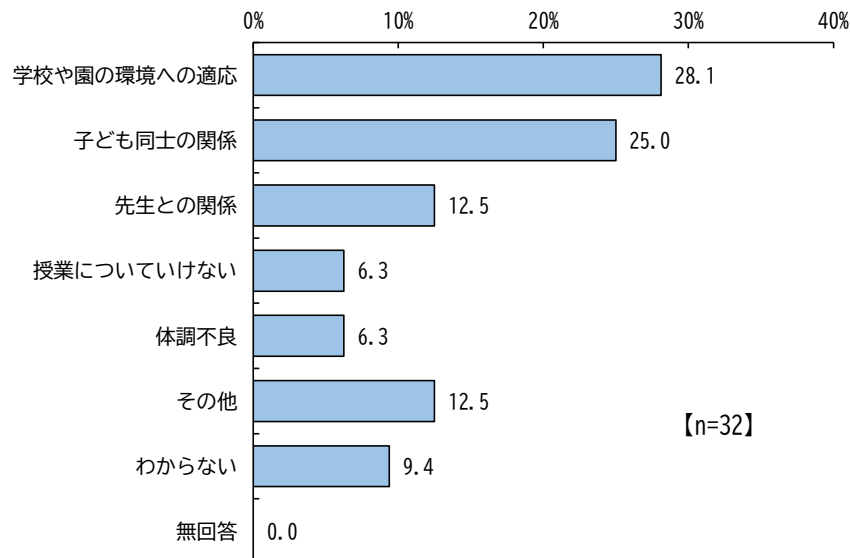
単位：％

【問8において「I ある」を回答した方限定】

問8-1. 不登校・園になった原因

【SA】

○「学校や園の環境への適応」が28.1%で最も高く、以下「子ども同士の関係」が25.0%、「先生との関係」が12.5%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6～11歳”を除いて「学校や園の環境への適応」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「学校や園の環境への適応」が3割近くとなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「学校や園の環境への適応」が最も高くなっています。（“特別支援学級”は「学校や園の環境への適応」と「子ども同士の関係」が同率で最も高い。）

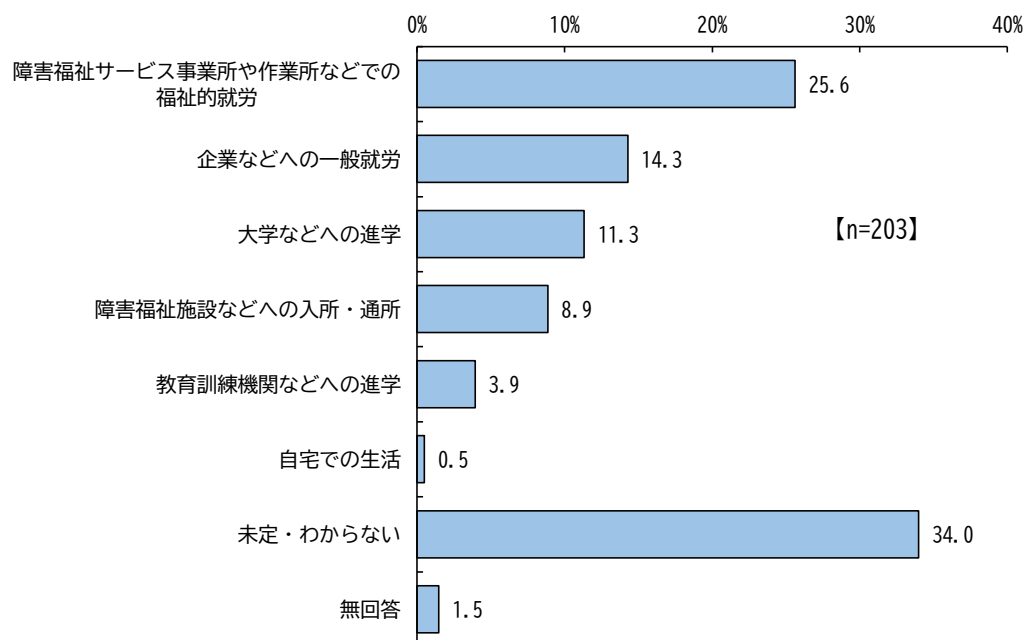
		合計(n)	子ども同士の関係	先生との関係	授業についていけない	体調不良	学校や園の環境への適応	その他	わからない	無回答
全体		32	25.0	12.5	6.3	6.3	28.1	12.5	9.4	0.0
年齢別	6歳未満	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	6～11歳	9	22.2	22.2	11.1	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0
	12～14歳	9	33.3	0.0	11.1	0.0	44.4	11.1	0.0	0.0
	15歳以上	11	18.2	18.2	0.0	9.1	27.3	9.1	18.2	0.0
障がい種別	身体障がい	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
	知的障がい	25	16.0	16.0	8.0	8.0	28.0	12.0	12.0	0.0
	精神障がい	7	57.1	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	10	30.0	10.0	20.0	0.0	30.0	10.0	0.0	0.0
	特別支援学校	11	18.2	18.2	0.0	0.0	36.4	9.1	18.2	0.0

単位：%

問 9. 将来、想定している進路

【S A】

○「障害福祉サービス事業所や作業所などでの福祉的就労」が25.6%で最も高く、以下「企業などへの一般就労」が14.3%、「大学などへの進学」が11.3%となっています。また、「未定・わからない」は34.0%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6～11歳”以下は「未定・わからない」が最も高くなっています。一方で、“12～14歳”は「障害福祉サービス事業所や作業所などでの福祉的就労」が30.8%、“15歳以上”は「企業などへの一般就労」が31.8%で最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”を除いて「未定・わからない」が最も高い一方、“知的障がい”は「障害福祉サービス事業所や作業所などでの福祉的就労」が約3割と高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「未定・わからない」が最も高い一方、“特別支援学校”は「障害福祉サービス事業所や作業所などでの福祉的就労」が4割以上で高くなっています。

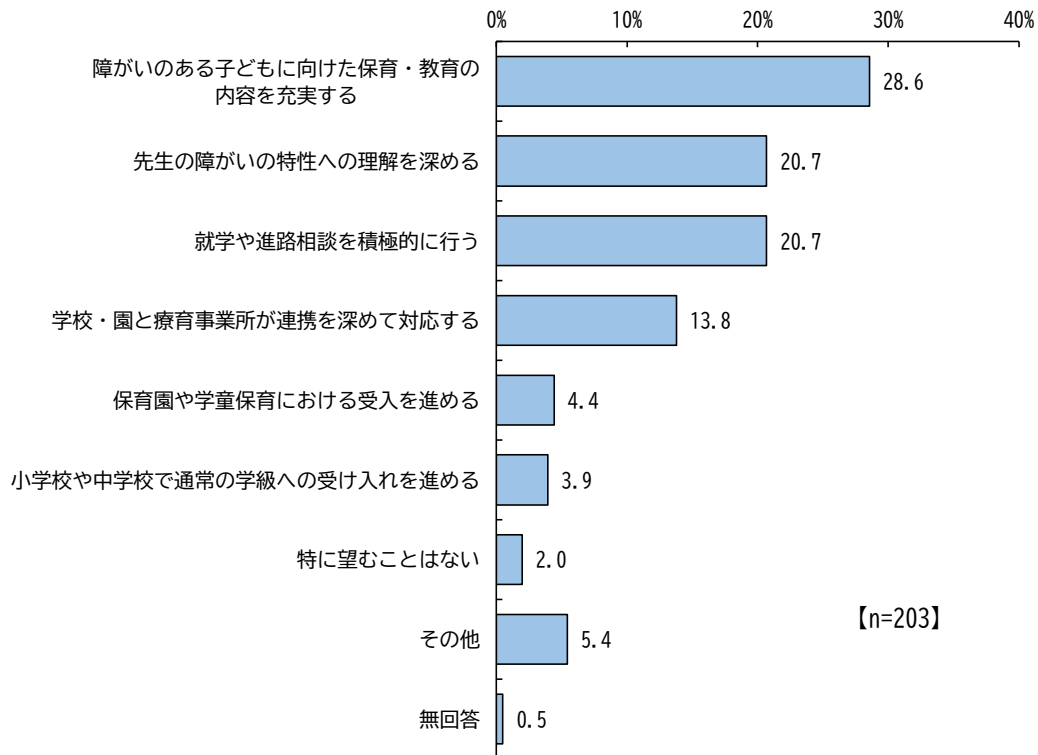
		合計(n)	大学などへの進学	教育訓練機関などへの進学	企業などへの一般就労	障害福祉施設などへの入所・通所	障害福祉サービス事業所や作業所などでの福祉的就労	自宅での生活	未定・わからない	無回答
全体		203	11.3	3.9	14.3	8.9	25.6	0.5	34.0	1.5
年齢別	6歳未満	36	25.0	0.0	2.8	11.1	16.7	0.0	41.7	2.8
	6～11歳	82	9.8	6.1	4.9	7.3	28.0	1.2	41.5	1.2
	12～14歳	39	5.1	5.1	25.6	7.7	30.8	0.0	25.6	0.0
	15歳以上	44	9.1	2.3	31.8	11.4	25.0	0.0	20.5	0.0
障がい種別	身体障がい	34	29.4	0.0	5.9	23.5	14.7	2.9	20.6	2.9
	知的障がい	168	4.8	4.8	16.7	8.9	29.8	0.6	33.3	1.2
	精神障がい	13	38.5	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	46.2	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	5.6	9.7	18.1	1.4	20.8	0.0	43.1	1.4
	特別支援学校	64	0.0	0.0	18.8	15.6	43.8	1.6	20.3	0.0

単位：%

問10. 教育などで、市に優先してほしい取組

【SA】

○「障がいのある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する」が28.6%で最も高く、以下「先生の障がいの特性への理解を深める」と「就学や進路相談を積極的に行う」がともに20.7%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“15歳以上”を除いて「障がいのある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する」が最も高くなっています。“15歳以上”は「先生の障がいの特性への理解を深める」が3割以上で他の年齢を上回ります。

○障がいの種類別にみると、“精神障がい”を除いて「障がいのある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「障がいのある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する」が最も高くなっています。（“特別支援学校”は「障がいのある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する」と「就学や進路相談を積極的に行う」が同率で最も高い。）

		合計(n)	先生の障がいの特性への理解を深める	就学や進路相談を積極的に行う	小学校や中学校で通常の学級への受け入れを進める	保育園や学童保育における受入を進める	障がいのある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する	学校・園と療育事業所が連携を深めて対応する	特に望むことはない	その他	無回答
全体		203	20.7	20.7	3.9	4.4	28.6	13.8	2.0	5.4	0.5
年齢別	6歳未満	36	13.9	5.6	2.8	11.1	36.1	22.2	0.0	8.3	0.0
	6～11歳	82	19.5	22.0	4.9	3.7	30.5	12.2	1.2	6.1	0.0
	12～14歳	39	17.9	25.6	2.6	2.6	28.2	15.4	0.0	7.7	0.0
	15歳以上	44	31.8	25.0	4.5	2.3	18.2	9.1	6.8	0.0	2.3
障がい種別	身体障がい	34	14.7	14.7	5.9	8.8	26.5	17.6	5.9	5.9	0.0
	知的障がい	168	19.6	21.4	4.2	4.2	28.6	14.9	1.2	5.4	0.6
	精神障がい	13	38.5	23.1	0.0	7.7	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	23.6	25.0	6.9	2.8	29.2	8.3	0.0	2.8	1.4
	特別支援学校	64	20.3	26.6	3.1	1.6	26.6	12.5	3.1	6.3	0.0

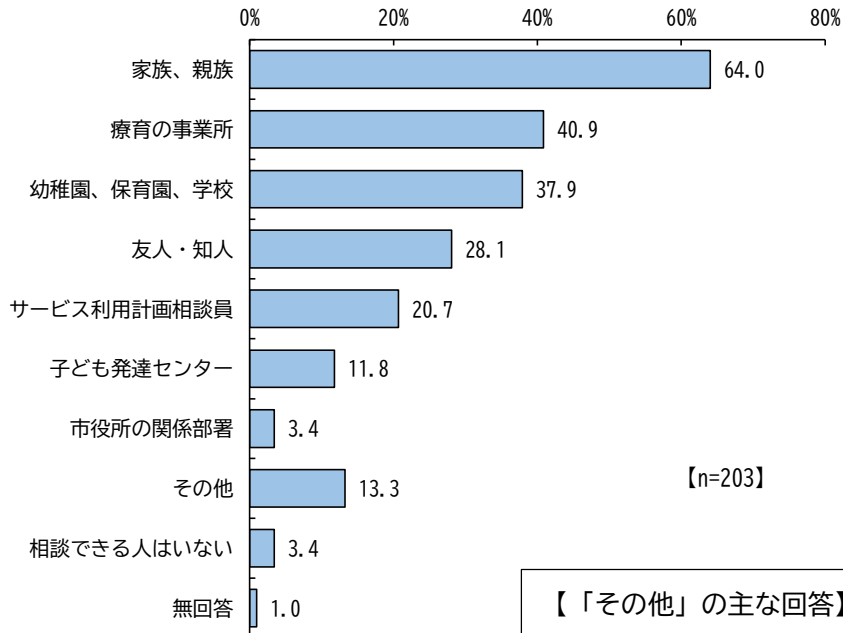
単位：％

3. 保護者のことについて

問11. 子育ての相談先

【MA】

○「家族、親族」が64.0%で最も高く、以下「療育の事業所」が40.9%、「幼稚園、保育園、学校」が37.9%となっています。



【n=203】

【「その他」の主な回答】

- ・病院の医師
- ・理学療法士、作業療法士
- ・いんば障害者相談センター 等

【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”は「療育の事業所」72.2%が7割を超えて最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「家族、親族」が最も高い一方、“知的障がい”は「療育の事業所」が44.0%、「幼稚園、保育園、学校」が41.1%、“身体障がい”は「友人、知人」が44.1%と4割を超えています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「家族、親族」が最も高く、“特別支援学級”では7割を超えています。

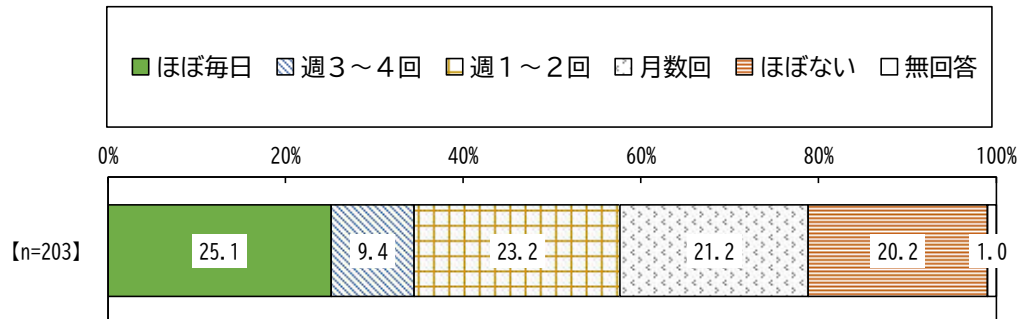
		合計(n)	家族、親族	子ども発達センター	市役所の関係部署	幼稚園、保育園、学校	サービス利用計画相談員	療育の事業所	友人・知人	その他	相談できる人はいない	無回答
全体		203	64.0	11.8	3.4	37.9	20.7	40.9	28.1	13.3	3.4	1.0
年齢別	6歳未満	36	63.9	30.6	2.8	33.3	19.4	72.2	19.4	8.3	5.6	0.0
	6～11歳	82	67.1	14.6	3.7	36.6	23.2	46.3	25.6	14.6	3.7	0.0
	12～14歳	39	66.7	2.6	2.6	43.6	25.6	28.2	35.9	12.8	0.0	0.0
	15歳以上	44	56.8	0.0	4.5	38.6	13.6	18.2	34.1	15.9	4.5	2.3
障がい種別	身体障がい	34	67.6	8.8	5.9	14.7	14.7	38.2	44.1	23.5	2.9	0.0
	知的障がい	168	62.5	12.5	2.4	41.1	20.8	44.0	28.0	10.7	4.2	1.2
	精神障がい	13	69.2	15.4	7.7	15.4	38.5	38.5	23.1	23.1	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	73.6	6.9	5.6	38.9	22.2	30.6	29.2	9.7	1.4	0.0
	特別支援学校	64	53.1	4.7	1.6	46.9	23.4	40.6	29.7	18.8	3.1	0.0

単位：%

問12. 子育てで強いストレスを感じる頻度

【SA】

○「ほぼ毎日」が25.1%で最も高く、以下「週1～2回」が23.2%、「月数回」が21.2%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”は「ほぼ毎日」30.6%、“6～11歳”は「週1～2回」、「15歳以上」は「月数回」31.8%がそれぞれ最も高くなっています。（“12～14歳”は「ほぼ毎日」と「週1～2回」が同率で最も高い。）

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”を除いて「ほぼ毎日」が最も高く、“身体障がい”は「ほぼない」が約4割と高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学校”は「ほぼ毎日」が最も高く、“特別支援学級”は「週1～2回」と「月数回」が同率で最も高くなっています。

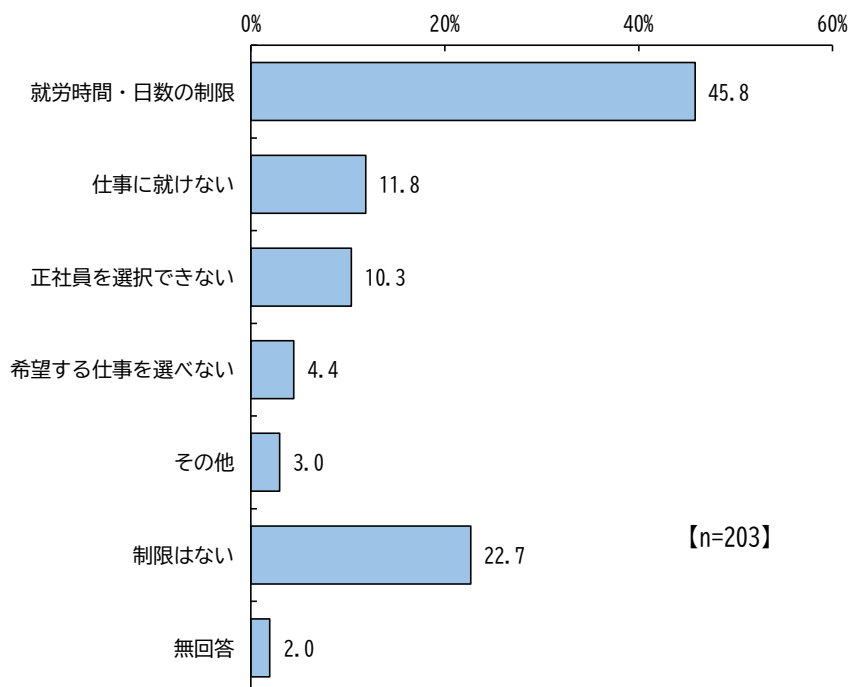
		合計(n)	ほぼ毎日	週3～4回	週1～2回	月数回	ほぼない	無回答
全体		203	25.1	9.4	23.2	21.2	20.2	1.0
年齢別	6歳未満	36	30.6	16.7	16.7	13.9	22.2	0.0
	6～11歳	82	24.4	9.8	26.8	20.7	18.3	0.0
	12～14歳	39	28.2	7.7	28.2	17.9	17.9	0.0
	15歳以上	44	20.5	4.5	15.9	31.8	25.0	2.3
障がい種別	身体障がい	34	23.5	2.9	20.6	14.7	38.2	0.0
	知的障がい	168	26.2	10.7	23.8	20.2	17.9	1.2
	精神障がい	13	46.2	0.0	23.1	23.1	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	22.2	5.6	26.4	26.4	19.4	0.0
	特別支援学校	64	31.3	7.8	20.3	21.9	18.8	0.0

単位：％

問 13. 子どもの特性による保護者の就労制限

【SA】

○「就労時間・日数の制限」が45.8%で最も高く、以下「仕事に就けない」が11.8%、「正社員を選択できない」が10.3%となっています。一方で、「制限はない」は22.7%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「就労時間・日数の制限」が最も高い一方、“12～14歳”以上は「制限はない」が約3割と高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「就労時間・日数の制限」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「就労時間・日数の制限」が最も高い一方、“特別支援学級”は「制限はない」が約3割となっています。

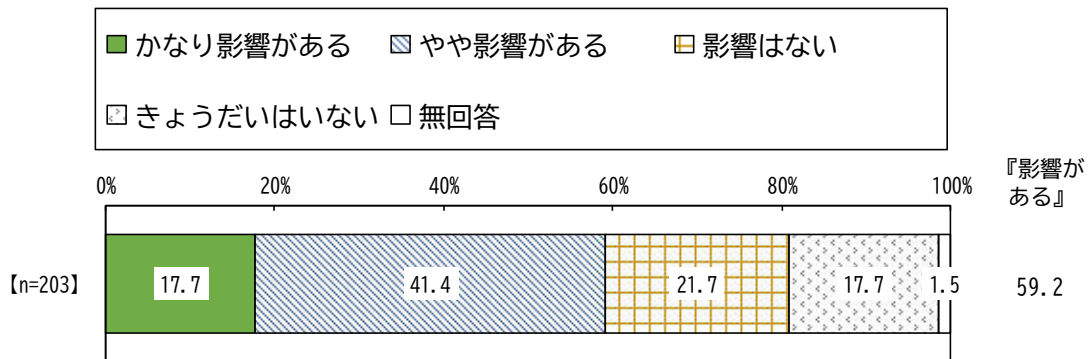
		合計(n)	仕事に就けない	就労時間・日数の制限	正社員を選択できない	希望する仕事を選べない	その他	制限はない	無回答
全体		203	11.8	45.8	10.3	4.4	3.0	22.7	2.0
年齢別	6歳未満	36	13.9	47.2	8.3	2.8	2.8	22.2	2.8
	6～11歳	82	13.4	54.9	7.3	4.9	3.7	14.6	1.2
	12～14歳	39	12.8	35.9	10.3	7.7	2.6	30.8	0.0
	15歳以上	44	6.8	38.6	18.2	2.3	2.3	29.5	2.3
障がい種別	身体障がい	34	26.5	50.0	5.9	0.0	0.0	17.6	0.0
	知的障がい	168	11.9	46.4	11.3	4.2	3.0	20.8	2.4
	精神障がい	13	0.0	38.5	15.4	15.4	7.7	23.1	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	6.9	44.4	6.9	5.6	2.8	31.9	1.4
	特別支援学校	64	17.2	46.9	14.1	4.7	1.6	15.6	0.0

単位：％

問14. 子どもの特性によるきょうだい児の子育てへの影響

【SA】

○「やや影響がある」が41.4%で最も高く、以下「かなり影響がある」が17.7%、「影響はない」が21.7%となっています。「かなり影響がある」と「やや影響がある」を合わせた『影響がある』は59.2%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“12～14歳”は「かなり影響がある」が2割半ばで高い一方、“15歳以上”は「影響はない」が約3割となっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「影響はない」が約3割となっています。

○在籍学校・学級別にみると、『影響がある』は“特別支援学校”の7割近くが“特別支援学級”の6割近くを上回ります。

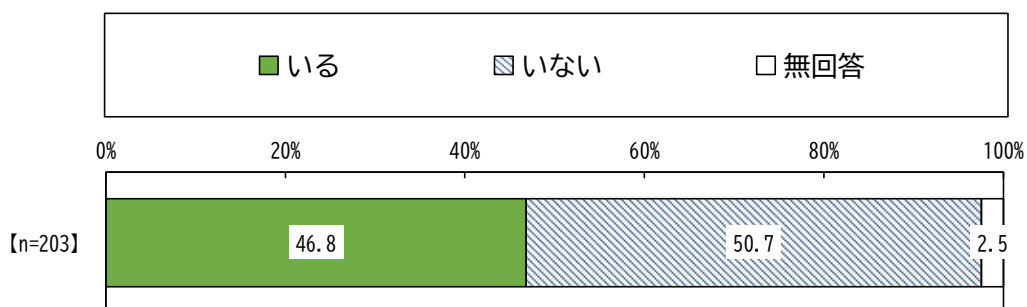
		合計(n)	かなり影響がある	やや影響がある	影響はない	きょうだいはいない	無回答
全体		203	17.7	41.4	21.7	17.7	1.5
年齢別	6歳未満	36	13.9	47.2	13.9	25.0	0.0
	6～11歳	82	17.1	43.9	23.2	14.6	1.2
	12～14歳	39	25.6	33.3	17.9	23.1	0.0
	15歳以上	44	15.9	38.6	29.5	13.6	2.3
障がい種別	身体障がい	34	14.7	44.1	29.4	11.8	0.0
	知的障がい	168	19.0	40.5	19.0	19.6	1.8
	精神障がい	13	23.1	53.8	7.7	15.4	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	15.3	43.1	25.0	15.3	1.4
	特別支援学校	64	28.1	39.1	15.6	17.2	0.0

単位：％

問 15. 保護者入院時などの子どもの預け先

【SA】

○「いる」が46.8%、「いない」が50.7%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6～11 歳”以下で「いない」が最も高い一方、“12～14 歳”以上で「いる」が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”を除いて「いない」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「いる」が最も高い一方、“特別支援学校”は「いない」が最も高くなっています。

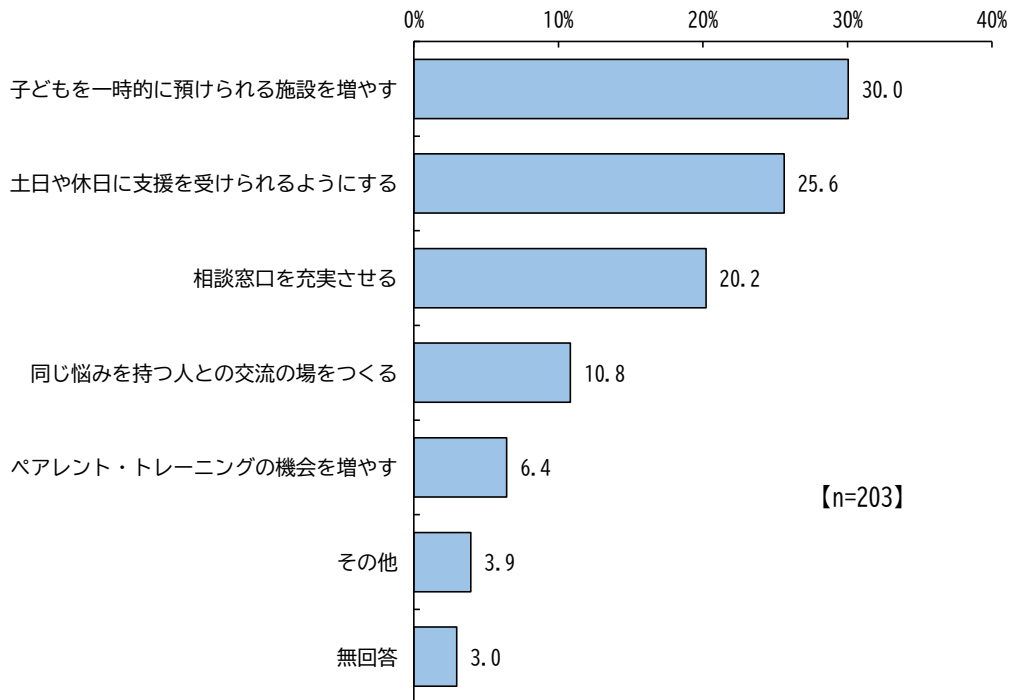
		合計(n)	いる	いない	無回答
全体		203	46.8	50.7	2.5
年齢別	6歳未満	36	25.0	72.2	2.8
	6～11歳	82	45.1	52.4	2.4
	12～14歳	39	51.3	48.7	0.0
	15歳以上	44	65.9	31.8	2.3
障がい種別	身体障がい	34	50.0	47.1	2.9
	知的障がい	168	47.0	51.2	1.8
	精神障がい	13	30.8	61.5	7.7
学校・学級	特別支援学級	72	55.6	43.1	1.4
	特別支援学校	64	42.2	57.8	0.0

単位：％

問16. 子育ての不安やストレス軽減のために望む支援

【SA】

○「子どもを一時的に預けられる施設を増やす」が30.0%で最も高く、以下「土日や休日に支援を受けられるようにする」が25.6%、「相談窓口を充実させる」が20.2%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”は「土日や休日に支援を受けられるようにする」、「6～11歳」と“12～14歳”は「子どもを一時的に預けられる施設を増やす」、「15歳以上」は「相談窓口を充実させる」がそれぞれ最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいで「子どもを一時的に預けられる施設を増やす」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「相談窓口を充実させる」が最も高く、“特別支援学校”は「子どもを一時的に預けられる施設を増やす」が高くなっています。

		合計(n)	相談窓口 を充実さ せる	ペアレン ト・ト レーニ ングの機 会を増 やす	土日や休 日に支 援を受 けられ るよう にする	子どもを 一時的 に預け られ る施設 を増 やす	同じ悩 みを持 つ人 との交 流の場 をつ くる	その他	無回答
全体		203	20.2	6.4	25.6	30.0	10.8	3.9	3.0
年齢別	6歳未満	36	5.6	5.6	38.9	36.1	8.3	2.8	2.8
	6～11歳	82	15.9	4.9	26.8	32.9	11.0	6.1	2.4
	12～14歳	39	23.1	15.4	20.5	30.8	5.1	5.1	0.0
	15歳以上	44	38.6	2.3	18.2	20.5	15.9	0.0	4.5
障がい種別	身体障がい	34	14.7	5.9	20.6	35.3	14.7	5.9	2.9
	知的障がい	168	20.2	6.5	26.2	29.8	10.1	4.2	3.0
	精神障がい	13	30.8	7.7	23.1	38.5	0.0	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	29.2	8.3	15.3	25.0	12.5	5.6	4.2
	特別支援学校	64	21.9	4.7	26.6	34.4	9.4	3.1	0.0

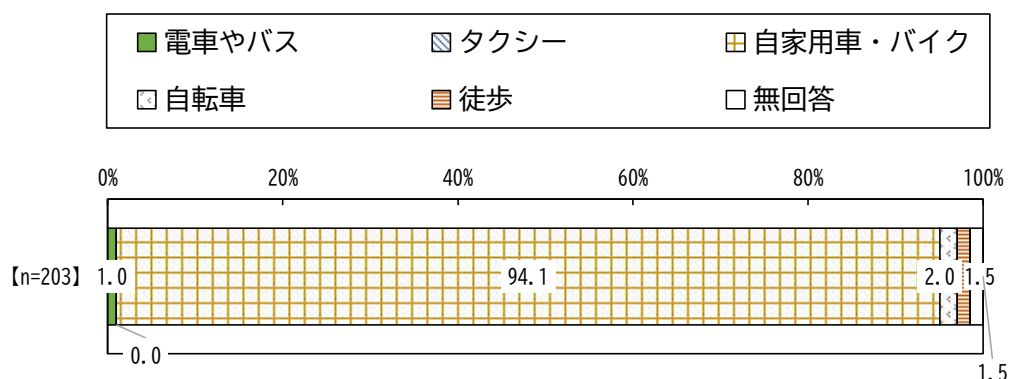
単位：％

4. 外出について

問17. 子連れ外出時の移動方法

【SA】

○「自家用車・バイク」が94.1%で最も高く、次いで差があり「自転車」が2.0%、「徒歩」が1.5%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべて年齢で「自家用車・バイク」が最も高く、“6～11歳”は「自転車」がやや高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「自家用車・バイク」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「自家用車・バイク」が最も高くなっています。

“特別支援学級”は「自転車」がやや高くなっています。

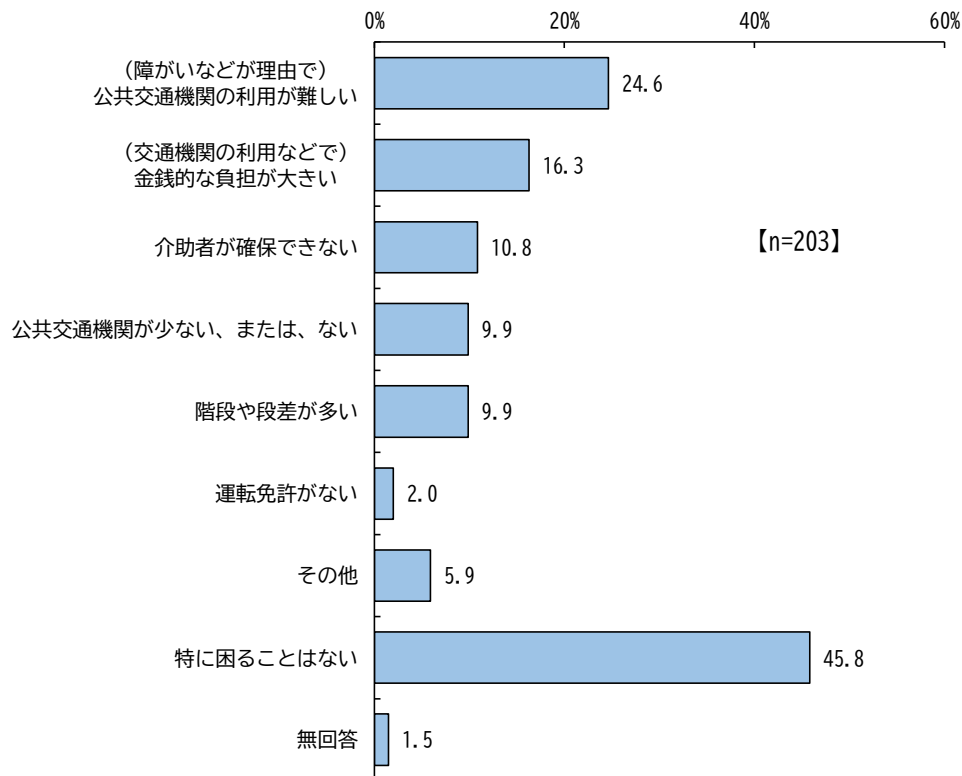
		合計(n)	電車やバス	タクシー	自家用車・バイク	自転車	徒歩	無回答
全体		203	1.0	0.0	94.1	2.0	1.5	1.5
年齢別	6歳未満	36	2.8	0.0	94.4	2.8	0.0	0.0
	6～11歳	82	1.2	0.0	92.7	3.7	2.4	0.0
	12～14歳	39	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	15歳以上	44	0.0	0.0	93.2	0.0	2.3	4.5
障がい種別	身体障がい	34	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	知的障がい	168	1.2	0.0	93.5	1.8	1.8	1.8
	精神障がい	13	0.0	0.0	76.9	15.4	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	0.0	0.0	93.1	4.2	1.4	1.4
	特別支援学校	64	1.6	0.0	96.9	0.0	1.6	0.0

単位：%

問18. 子連れ外出時の移動で困ること

【MA】

○「（障がいなどが理由で）公共交通機関の利用が難しい」が24.6%で最も高く、以下「（交通機関の利用などで）金銭的な負担が大きい」が16.3%、「介助者が確保できない」が10.8%となっています。一方で、「特に困ることはない」は45.8%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、「6歳未満」は「（障がいなどが理由で）公共交通機関の利用が難しい」が約4割と高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「（障がいなどが理由で）公共交通機関の利用が難しい」が2割を超えています。

○在籍学校・学級別にみると、ともに「特に困ることはない」が最も高いものの、その割合は“特別支援学級”が約6割と“特別支援学校”を大きく上回ります。“特別支援学校”は「（障がいなどが理由で）公共交通機関の利用が難しい」が約3割と高くなっています。

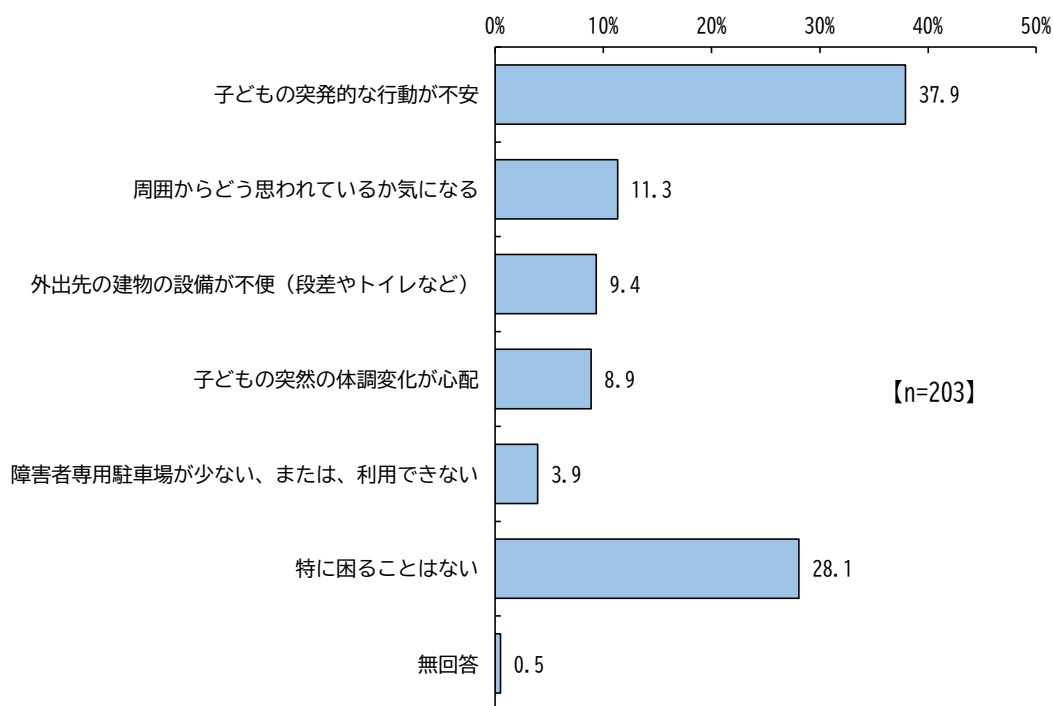
		合計(n)	公共交通機関が少ない、または、ない	(障がいなどが理由で) 公共交通機関の利用が難しい	階段や段差が多い	運転免許がない	介助者が確保できない	(交通機関の利用などで) 金銭的な負担が大きい	その他	特に困ることはない	無回答
全体		203	9.9	24.6	9.9	2.0	10.8	16.3	5.9	45.8	1.5
年齢別	6歳未満	36	2.8	38.9	13.9	0.0	19.4	13.9	13.9	41.7	0.0
	6～11歳	82	11.0	24.4	9.8	3.7	8.5	17.1	3.7	41.5	1.2
	12～14歳	39	12.8	15.4	12.8	2.6	10.3	17.9	2.6	51.3	0.0
	15歳以上	44	9.1	22.7	4.5	0.0	9.1	15.9	6.8	54.5	2.3
障がい種別	身体障がい	34	5.9	26.5	29.4	0.0	11.8	14.7	8.8	35.3	0.0
	知的障がい	168	9.5	25.6	8.3	2.4	10.1	13.7	6.5	48.8	1.8
	精神障がい	13	30.8	23.1	0.0	7.7	7.7	46.2	0.0	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	9.7	12.5	4.2	1.4	4.2	16.7	2.8	59.7	0.0
	特別支援学校	64	12.5	29.7	12.5	3.1	17.2	17.2	7.8	35.9	1.6

単位：%

問19. 子連れの外出先で困ること

【SA】

○「子どもの突発的な行動が不安」が37.9%で最も高く、以下「周囲からどう思われているか気になる」が11.3%、「外出先の建物の設備が不便（段差やトイレなど）」が9.4%、「子どもの突然の体調変化が心配」が8.9%となっています。一方で、「特に困ることはない」は28.1%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、年齢が下がるほど「子どもの突発的な行動が不安」が高い傾向にあります。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「子どもの突発的な行動が不安」が4割を超えて高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「特に困ることはない」、「特別支援学校」は「子どもの突発的な行動が不安」がそれぞれ最も高くなっています。

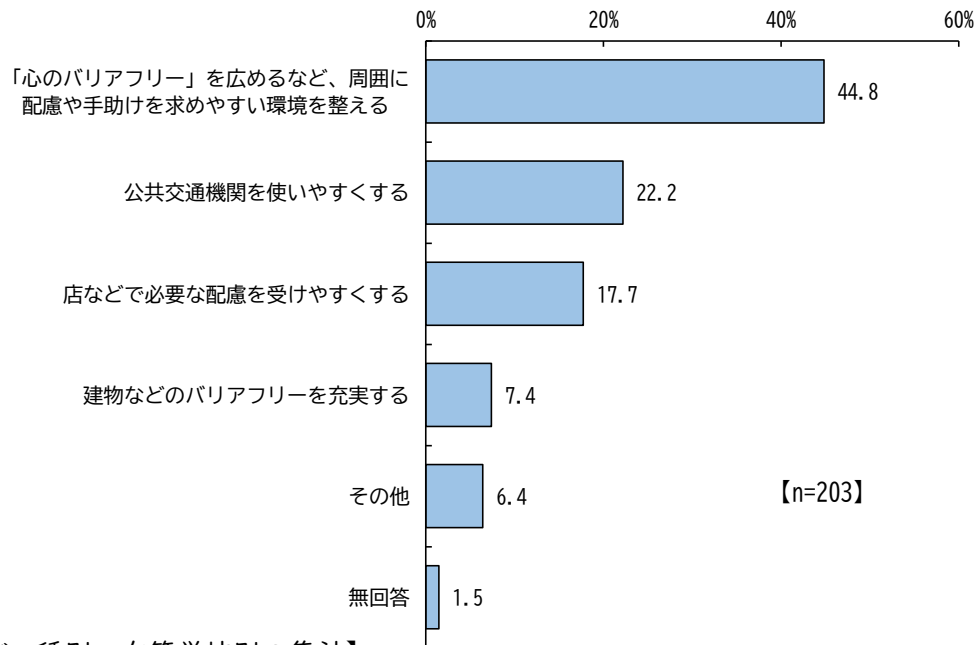
		合計(n)	外出先の建物の設備が不便（段差やトイレなど）	障害者専用駐車場が少ない、または、利用できない	子どもの突発的な行動が不安	子どもの突然の体調変化が心配	周囲からどう思われているか気になる	特に困ることはない	無回答
全体		203	9.4	3.9	37.9	8.9	11.3	28.1	0.5
年齢別	6歳未満	36	13.9	8.3	52.8	5.6	8.3	11.1	0.0
	6～11歳	82	7.3	3.7	46.3	8.5	11.0	23.2	0.0
	12～14歳	39	10.3	2.6	30.8	5.1	15.4	35.9	0.0
	15歳以上	44	9.1	2.3	18.2	13.6	11.4	43.2	2.3
障がい種別	身体障がい	34	17.6	17.6	11.8	14.7	5.9	32.4	0.0
	知的障がい	168	8.3	3.0	43.5	6.5	11.3	26.8	0.6
	精神障がい	13	7.7	0.0	23.1	30.8	23.1	15.4	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	2.8	1.4	33.3	6.9	12.5	43.1	0.0
	特別支援学校	64	14.1	4.7	35.9	12.5	12.5	20.3	0.0

単位：％

問 20. 外出しやすくするために市に望む取組

【SA】

○「『心のバリアフリー』を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える」が44.8%で最も高く、以下「公共交通機関を使いやすくする」が22.2%、「店などで必要な配慮を受けやすくする」が17.7%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「『心のバリアフリー』を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える」が最も高く、「12～14歳」以上は「公共交通機関を使いやすくする」も約3割と高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”で「建物などのバリアフリーを充実する」、それ以外の障がいで「公共交通機関を使いやすくする」が高い割合となっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「『心のバリアフリー』を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える」が最も高く、次いで“特別支援学級”は「公共交通機関を使いやすくする」が3割以上、“特別支援学校”は「店などで必要な配慮を受けやすくする」が2割半ばで高くなっています。

		合計(n)	公共交通機関を使いやすくする	建物などのバリアフリーを充実する	店などで必要な配慮を受けやすくする	「心のバリアフリー」を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える	その他	無回答
全体		203	22.2	7.4	17.7	44.8	6.4	1.5
年齢別	6歳未満	36	8.3	13.9	16.7	52.8	8.3	0.0
	6～11歳	82	20.7	9.8	19.5	39.0	8.5	2.4
	12～14歳	39	28.2	2.6	12.8	48.7	5.1	2.6
	15歳以上	44	29.5	2.3	20.5	45.5	2.3	0.0
障がい種別	身体障がい	34	17.6	26.5	11.8	35.3	8.8	0.0
	知的障がい	168	22.6	4.8	18.5	45.8	6.5	1.8
	精神障がい	13	38.5	0.0	7.7	53.8	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	31.9	4.2	12.5	44.4	4.2	2.8
	特別支援学校	64	17.2	4.7	25.0	43.8	9.4	0.0

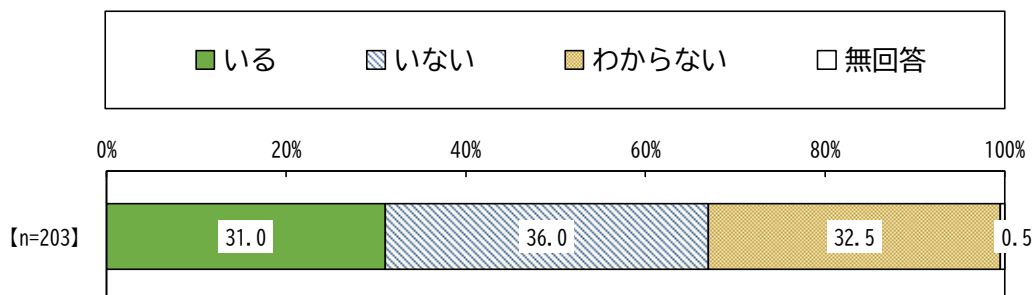
単位：％

5. 災害時の対応について

問 21. 災害時、近所で手助けしてくれそうな人

【SA】

○「いる」が31.0%、「いない」が36.0%、「わからない」が32.5%となっています。



【年齢別・障がい種別・居住地域別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”を除いて「いない」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「わからない」が4割を超えています。

○居住地域別にみると、“南部”は「いない」が最も高く、4割半ばとなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「いる」が最も高い一方、“特別支援学校”は「いない」が半数を超えています。

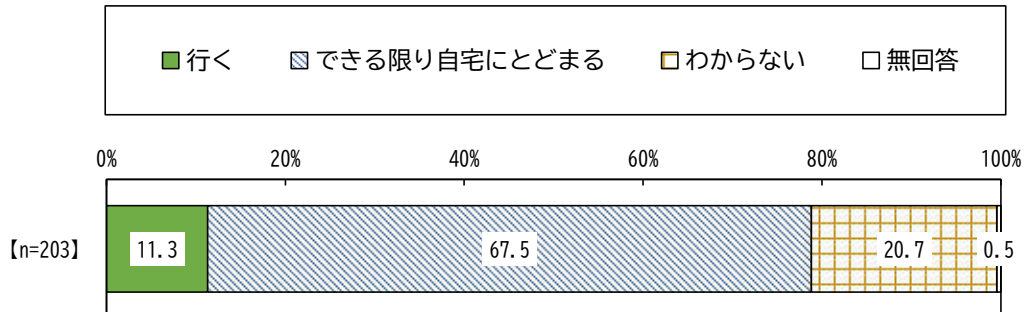
		合計(n)	いる	いない	わからない	無回答
全体		203	31.0	36.0	32.5	0.5
年齢別	6歳未満	36	19.4	33.3	47.2	0.0
	6～11歳	82	34.1	35.4	29.3	1.2
	12～14歳	39	33.3	35.9	30.8	0.0
	15歳以上	44	31.8	38.6	29.5	0.0
障がい種別	身体障がい	34	20.6	38.2	41.2	0.0
	知的障がい	168	31.5	35.1	32.7	0.6
	精神障がい	13	23.1	53.8	23.1	0.0
居住地域	北部	24	37.5	33.3	29.2	0.0
	南部	69	26.1	44.9	27.5	1.4
	船穂・草深	49	34.7	26.5	38.8	0.0
	印旛	14	42.9	28.6	28.6	0.0
	本埜	46	28.3	34.8	37.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	45.8	20.8	33.3	0.0
	特別支援学校	64	15.6	51.6	32.8	0.0

単位：％

問 22. 災害時に積極的に避難所に行くか

【SA】

○「できる限り自宅にとどまる」が67.5%で最も高く、以下「わからない」が20.7%、「行く」が11.3%となっています。



【年齢別・障がい種別・居住地域別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「できる限り自宅にとどまる」が最も高く、“6歳未満”は7割を超えています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「できる限り自宅にとどまる」が7割近くと高くなっています。

○居住地域別にみると、“船穂・草深”と“本埜”は「できる限り自宅にとどまる」が7割を超えて高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学校”は「できる限り自宅にとどまる」が約8割と“特別支援学級”を大きく上回ります。“特別支援学級”は「わからない」が2割となっています。

		合計(n)	行く	できる限り自宅にとどまる	わからない	無回答
全体		203	11.3	67.5	20.7	0.5
年齢別	6歳未満	36	2.8	72.2	25.0	0.0
	6～11歳	82	13.4	68.3	17.1	1.2
	12～14歳	39	12.8	69.2	17.9	0.0
	15歳以上	44	13.6	59.1	27.3	0.0
障がい種別	身体障がい	34	11.8	64.7	23.5	0.0
	知的障がい	168	11.3	68.5	19.6	0.6
	精神障がい	13	15.4	53.8	30.8	0.0
居住地域	北部	24	16.7	66.7	16.7	0.0
	南部	69	13.0	65.2	20.3	1.4
	船穂・草深	49	6.1	73.5	20.4	0.0
	印旛	14	21.4	28.6	50.0	0.0
	本埜	46	8.7	76.1	15.2	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	13.9	65.3	20.8	0.0
	特別支援学校	64	4.7	79.7	15.6	0.0

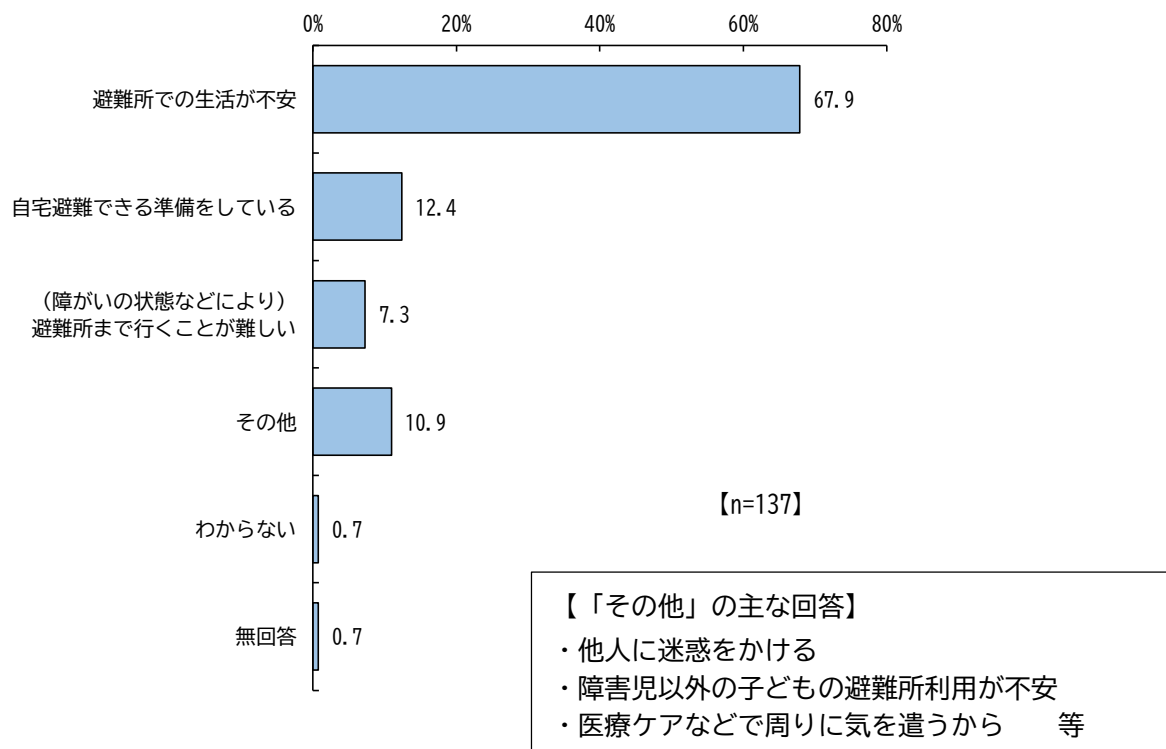
単位：％

【問 22 において「2 できる限り自宅にとどまる」を回答した方限定】

問 22-1. 自宅にとどまる理由

【SA】

○「避難所での生活が不安」が 67.9%で最も高く、以下「自宅避難できる準備をしている」が 12.4%、「（障がいの状態などにより）避難所まで行くことが難しい」が 7.3%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“15 歳以上”は「避難所での生活が不安」が 8 割を超えて他の年齢を上回ります。“12～14 歳”は「自宅避難できる準備をしている」が 2 割以上となっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「避難所での生活が不安」が 7 割近くとなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「避難所での生活が不安」が最も高い一方、“特別支援学級”は「自宅避難できる準備をしている」が 2 割を超え、“特別支援学校”を大きく上回ります。

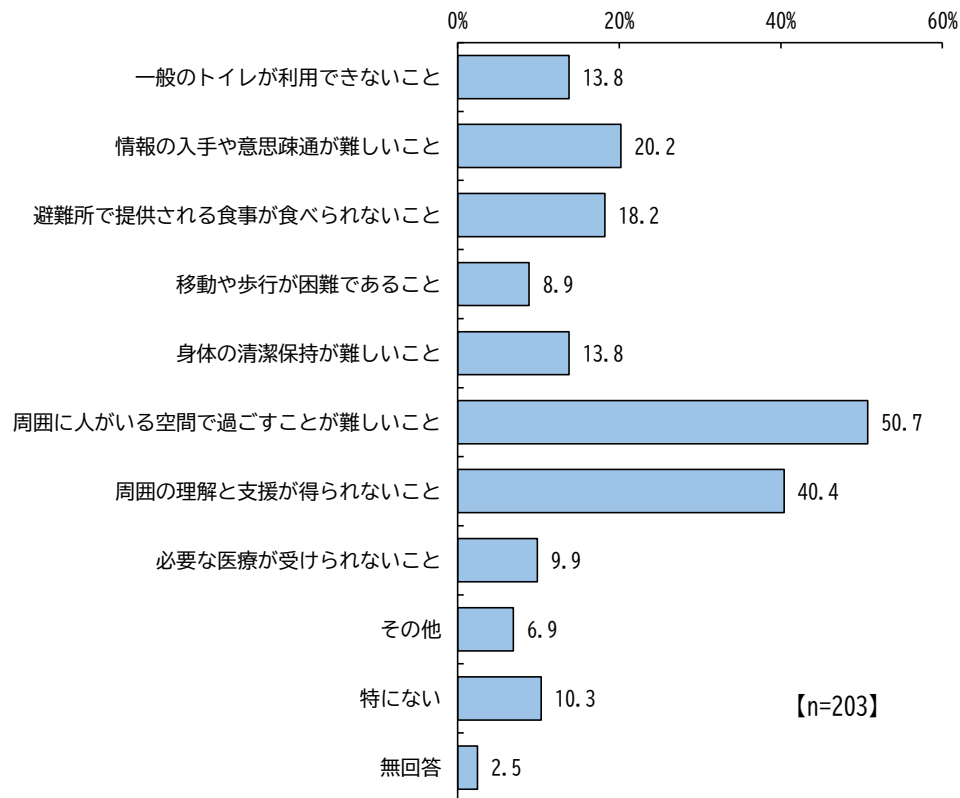
		合計(n)	避難所での生活が不安	(障がいの状態などにより) 避難所まで行くことが難しい	自宅避難できる準備をしている	その他	わからない	無回答
全体		137	67.9	7.3	12.4	10.9	0.7	0.7
年齢別	6 歳未満	26	76.9	7.7	7.7	7.7	0.0	0.0
	6～11 歳	56	60.7	7.1	14.3	16.1	0.0	1.8
	12～14 歳	27	59.3	7.4	22.2	11.1	0.0	0.0
	15 歳以上	26	84.6	3.8	3.8	3.8	3.8	0.0
障がい種別	身体障がい	22	50.0	22.7	4.5	22.7	0.0	0.0
	知的障がい	115	68.7	6.1	12.2	11.3	0.9	0.9
	精神障がい	7	71.4	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	47	63.8	0.0	21.3	12.8	0.0	2.1
	特別支援学校	51	68.6	9.8	7.8	11.8	2.0	0.0

単位：％

問 23. 避難所での生活で心配なこと

【MA】

○「周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと」が50.7%で最も高く、以下「周囲の理解と支援が得られないこと」が40.4%、「情報の入手や意思疎通が難しいこと」が20.2%、「避難所で提供される食事が食べられないこと」が18.2%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”を除いて「周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと」が最も高く、“6歳未満”で「周囲の理解と支援が得られないこと」が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”を除いて「周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと」が最も高くなっています。“知的障がい”は「周囲の理解と支援が得られないこと」が4割を超えて高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学校”は「周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと」が6割半ば、「周囲の理解と支援が得られないこと」が5割半ばと“特別支援学級”を大きく上回ります。“特別支援学級”は「情報入手や意思疎通が難しいこと」がやや高くなっています。

		合計(n)	一般のトイレが利用できないこと	情報の入手や意思疎通が難しいこと	避難所で提供される食事が食べられないこと	移動や歩行が困難であること	身体の清潔保持が難しいこと	周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと
全体		203	13.8	20.2	18.2	8.9	13.8	50.7
年齢別	6歳未満	36	11.1	13.9	11.1	16.7	22.2	50.0
	6～11歳	82	12.2	22.0	22.0	7.3	17.1	53.7
	12～14歳	39	15.4	15.4	17.9	7.7	10.3	46.2
	15歳以上	44	18.2	27.3	18.2	6.8	4.5	50.0
障がい種別	身体障がい	34	26.5	5.9	17.6	41.2	5.9	14.7
	知的障がい	168	13.1	22.6	17.3	6.0	13.1	52.4
	精神障がい	13	7.7	23.1	46.2	0.0	30.8	100.0
学校・学級	特別支援学級	72	9.7	23.6	15.3	2.8	16.7	43.1
	特別支援学校	64	18.8	25.0	25.0	7.8	4.7	64.1

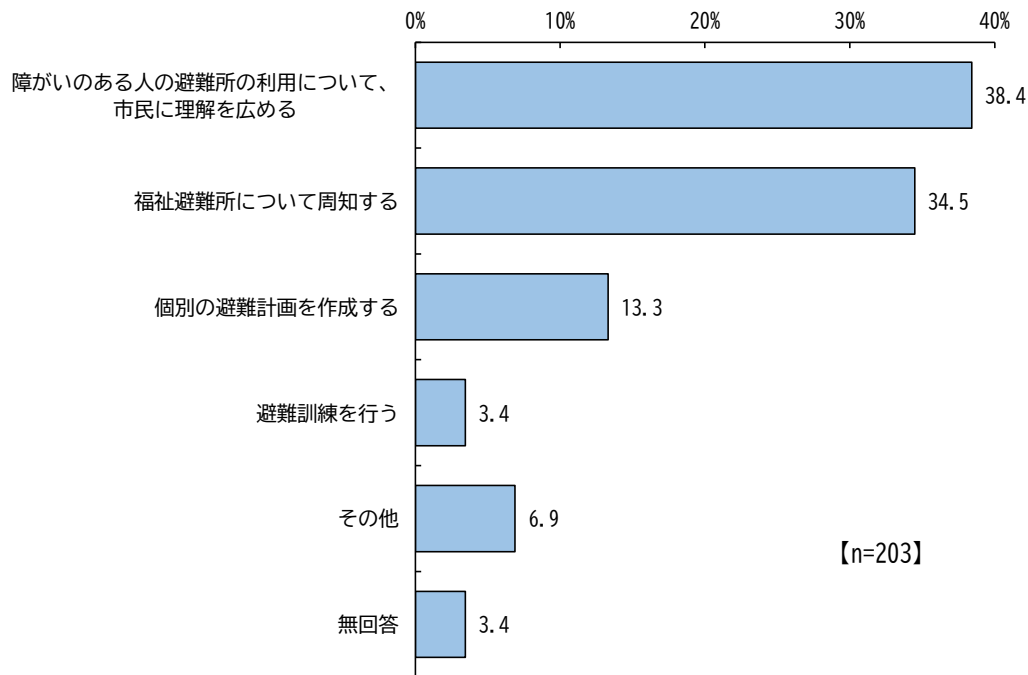
		合計(n)	周囲の理解と支援が得られないこと	必要な医療が受けられないこと	その他	特になし	無回答
全体		203	40.4	9.9	6.9	10.3	2.5
年齢別	6歳未満	36	52.8	16.7	8.3	0.0	0.0
	6～11歳	82	46.3	7.3	3.7	8.5	1.2
	12～14歳	39	30.8	10.3	10.3	17.9	5.1
	15歳以上	44	29.5	6.8	9.1	15.9	4.5
障がい種別	身体障がい	34	35.3	26.5	11.8	2.9	2.9
	知的障がい	168	42.3	8.3	6.0	11.9	2.4
	精神障がい	13	38.5	0.0	7.7	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	20.8	5.6	6.9	19.4	2.8
	特別支援学校	64	56.3	7.8	4.7	4.7	3.1

単位：％

問 24. 災害時の不安解消のために市に望む取組

【SA】

○「障がいのある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が38.4%で最も高く、以下「福祉避難所について周知する」が34.5%、「個別の避難計画を作成する」が13.3%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”と“12～14歳”は「福祉避難所について周知する」、「6～11歳」と“15歳以上”は「障がいのある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「障がいのある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が約4割と最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「障がいのある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が最も高く、37.5%で同率となっています。

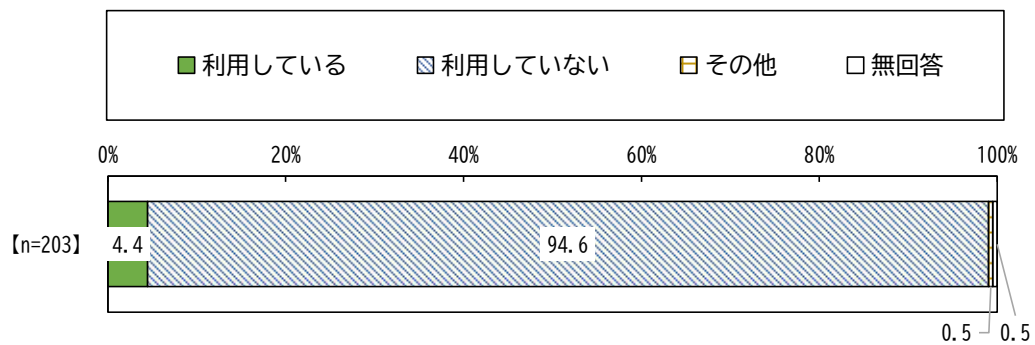
		合計(n)	避難訓練 を行う	個別の避難 計画を作成する	福祉避難 所について周知する	障がいのある人の 避難所の利用について、市民に理解 を広める	その他	無回答
全体		203	3.4	13.3	34.5	38.4	6.9	3.4
年齢別	6歳未満	36	0.0	16.7	52.8	30.6	0.0	0.0
	6～11歳	82	6.1	12.2	29.3	41.5	8.5	2.4
	12～14歳	39	0.0	15.4	38.5	35.9	7.7	2.6
	15歳以上	44	4.5	11.4	25.0	40.9	9.1	9.1
障がい種別	身体障がい	34	5.9	14.7	38.2	29.4	11.8	0.0
	知的障がい	168	3.6	14.3	32.7	39.9	5.4	4.2
	精神障がい	13	0.0	7.7	46.2	38.5	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	6.9	13.9	30.6	37.5	6.9	4.2
	特別支援学校	64	3.1	10.9	34.4	37.5	10.9	3.1

単位：％

問 25. 在宅時の電気を必要とする医療機器の利用有無

【SA】

○「利用していない」が94.6%、「利用している」が4.4%となっています。



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”は「利用している」が他の年齢を上回ります。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「利用している」が3割近くとなっています。

		合計(n)	利用して いる	利用して いない	その他	無回答
全体		203	4.4	94.6	0.5	0.5
年 齢 別	6歳未満	36	13.9	86.1	0.0	0.0
	6～11歳	82	2.4	96.3	0.0	1.2
	12～14歳	39	2.6	97.4	0.0	0.0
	15歳以上	44	2.3	97.7	0.0	0.0
障がい 種別	身体障がい	34	26.5	73.5	0.0	0.0
	知的障がい	168	0.6	98.2	0.6	0.6
	精神障がい	13	0.0	100.0	0.0	0.0

単位：％

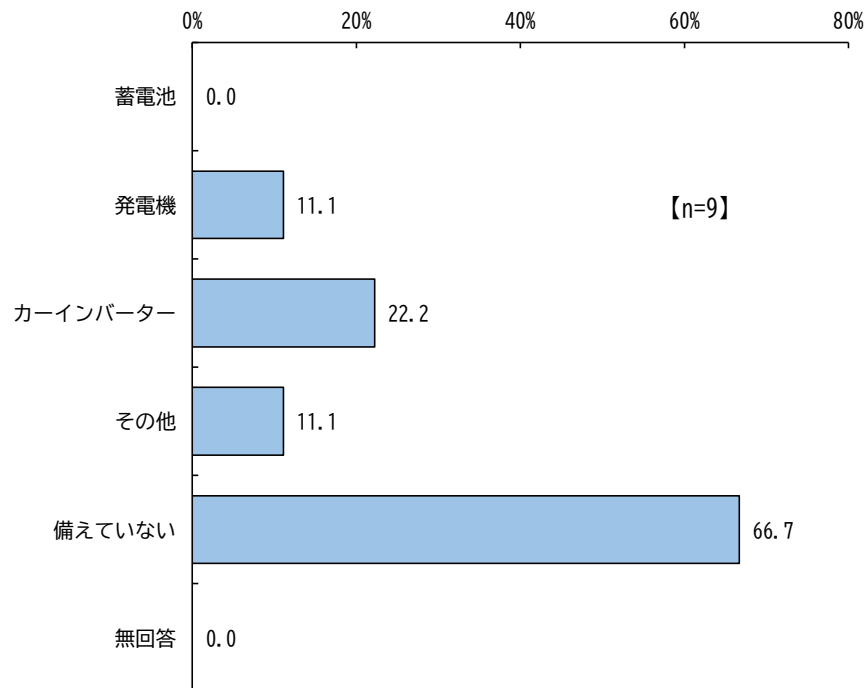
【問 25 において「I 利用している」を回答した方限定】

問 25-1. 停電時の備え

【MA】

○備えているものでは、「カーインバーター」が22.2%で最も高く、以下「発電機」が11.1%となっています。一方で、「備えていない」は66.7%となっています。

※回答数（n）が少ないため、参考値にて掲載



【年齢別・障がい種別の集計】

○年齢別、障がいの種類別にみると、多くの年齢と障がいで「備えていない」が最も高くなっています。

		合計(n)	蓄電池	発電機	カーインバーター	その他	備えていない	無回答
全体		9	0.0	11.1	22.2	11.1	66.7	0.0
年齢別	6歳未満	5	0.0	20.0	20.0	0.0	80.0	0.0
	6～11歳	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	12～14歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	15歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
障がい種別	身体障がい	9	0.0	11.1	22.2	11.1	66.7	0.0
	知的障がい	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	精神障がい	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

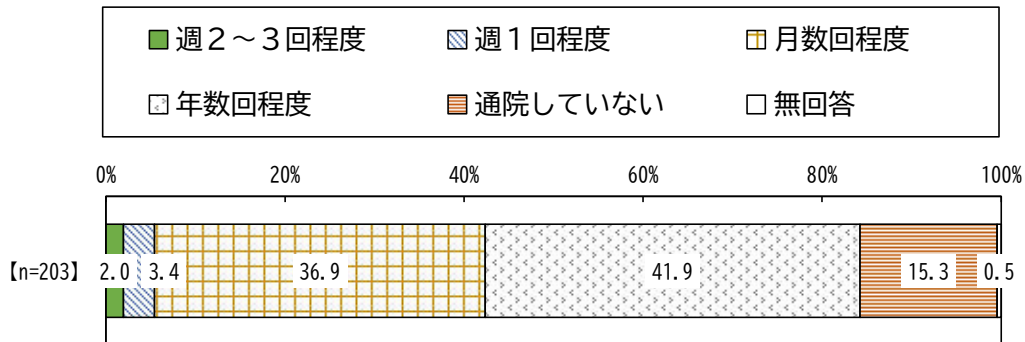
単位：％

6. 医療について

問 26. 通院頻度

【SA】

○「年数回程度」が41.9%で最も高く、以下「月数回程度」が36.9%、「通院していない」が15.3%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“15歳以上”は「月数回程度」43.2%が最も高い一方、“12～14歳”は「通院していない」が約2割となっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「年数回程度」や「月数回程度」が最も高い一方、“知的障がい”は「通院していない」が2割近くとなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「月数回程度」、「特別支援学校」は「年数回程度」がそれぞれ最も高くなっています。“特別支援学級”は「通院していない」が2割近くとなっています。

		合計(n)	週2～3回程度	週1回程度	月数回程度	年数回程度	通院していない	無回答
全体		203	2.0	3.4	36.9	41.9	15.3	0.5
年齢別	6歳未満	36	5.6	8.3	25.0	44.4	16.7	0.0
	6～11歳	82	1.2	3.7	40.2	42.7	11.0	1.2
	12～14歳	39	2.6	0.0	33.3	43.6	20.5	0.0
	15歳以上	44	0.0	2.3	43.2	36.4	18.2	0.0
障がい種別	身体障がい	34	8.8	11.8	35.3	38.2	5.9	0.0
	知的障がい	168	0.6	1.8	39.3	41.1	16.7	0.6
	精神障がい	13	7.7	0.0	30.8	53.8	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	0.0	1.4	40.3	38.9	19.4	0.0
	特別支援学校	64	0.0	3.1	42.2	43.8	10.9	0.0

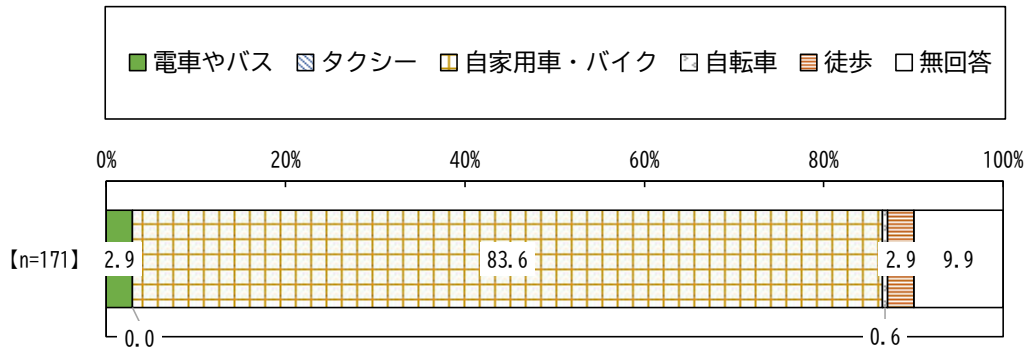
単位：％

【問 26 において「1 週 2～3 回程度」から「4 年数回程度」を回答した方限定】

問 26-1. 病院への移動手段

【SA】

○「自家用車・バイク」が 83.6%で最も高く、以下「電車やバス」と「徒歩」がともに 2.9%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6～11 歳”は「電車やバス」、「15 歳以上」は「徒歩」がやや高くなっています。

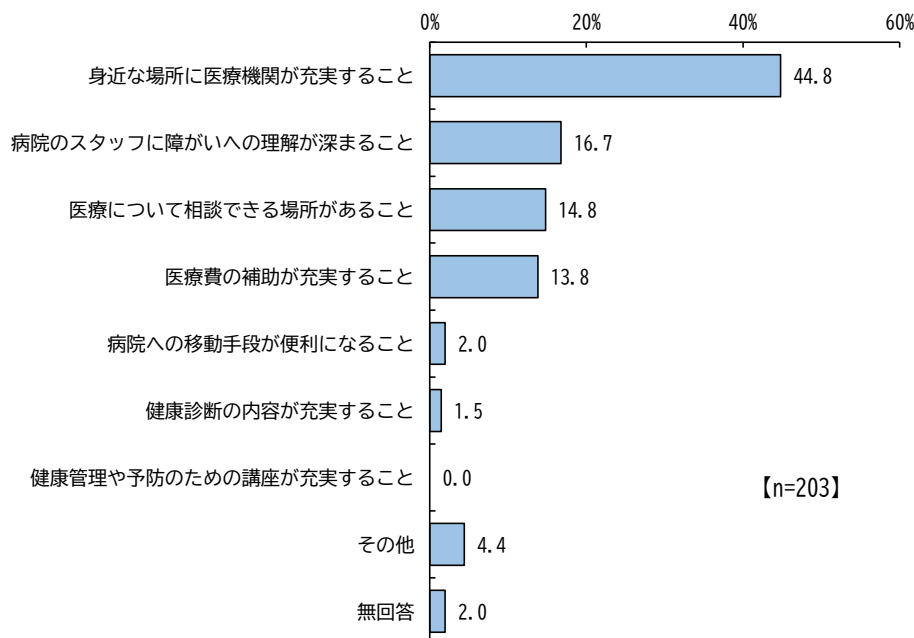
○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「自家用車・バイク」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「自家用車・バイク」が最も高くなっています。

		合計(n)	電車やバス	タクシー	自家用車・バイク	自転車	徒歩	無回答
全体		171	2.9	0.0	83.6	0.6	2.9	9.9
年齢別	6歳未満	30	0.0	0.0	83.3	0.0	3.3	13.3
	6～11歳	72	5.6	0.0	84.7	0.0	2.8	6.9
	12～14歳	31	0.0	0.0	87.1	0.0	0.0	12.9
	15歳以上	36	2.8	0.0	77.8	2.8	5.6	11.1
障がい種別	身体障がい	32	3.1	0.0	87.5	0.0	0.0	9.4
	知的障がい	139	3.6	0.0	81.3	0.7	3.6	10.8
	精神障がい	12	8.3	0.0	83.3	0.0	0.0	8.3
学校・学級	特別支援学級	58	5.2	0.0	86.2	1.7	0.0	6.9
	特別支援学校	57	3.5	0.0	78.9	0.0	3.5	14.0

単位：％

○「身近な場所に医療機関が充実すること」が44.8%で最も高く、以下「病院のスタッフに障がいへの理解が深まること」が16.7%、「医療について相談できる場所があること」が14.8%、「医療費の補助が充実すること」が13.8%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、は“12～14歳”は「病院のスタッフに障がいへの理解が深まること」、「15歳以上」は「医療について相談できる場所があること」、が2割を超えています。

○障がいの種類別にみると、“精神障がい”を除いて「身近な場所に医療機関が充実すること」が最も高くなっています。

○居住地域別にみると、いずれの地域も「身近な場所に医療機関が充実すること」が最も高く、“船穂・草深”は「医療について相談できる場所があること」、「南部」は「病院のスタッフに障がいへの理解が深まること」が2割を超え、他の地域を上回ります。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「医療費の補助が充実すること」が1割半ば、“特別支援学校”は「病院のスタッフに障がいへの理解が深まること」が2割半ばで、それぞれ他の学校・学級を上回ります。

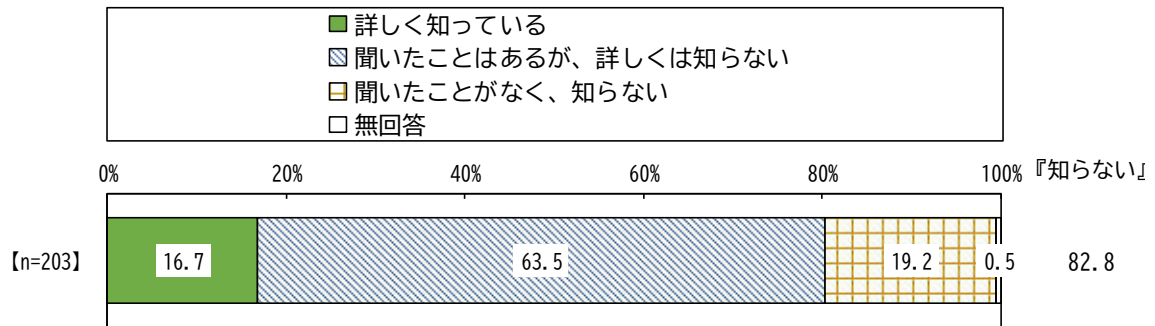
		合計(n)	身近な場所に医療機関が充実すること	医療について相談できる場所があること	医療費の補助が充実すること	健康管理や予防のための講座が充実すること	健康診断の内容が充実すること	病院のスタッフに障がいへの理解が深まること	病院への移動手段が便利になること	その他	無回答
全体		203	44.8	14.8	13.8	0.0	1.5	16.7	2.0	4.4	2.0
年齢別	6歳未満	36	50.0	16.7	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	8.3	2.8
	6～11歳	82	47.6	11.0	18.3	0.0	2.4	17.1	0.0	3.7	0.0
	12～14歳	39	48.7	10.3	10.3	0.0	0.0	20.5	2.6	2.6	5.1
	15歳以上	44	34.1	20.5	11.4	0.0	2.3	18.2	6.8	4.5	2.3
障がい種別	身体障がい	34	55.9	14.7	14.7	0.0	0.0	0.0	5.9	8.8	0.0
	知的障がい	168	45.2	15.5	12.5	0.0	1.8	17.3	2.4	3.0	2.4
	精神障がい	13	30.8	0.0	15.4	0.0	0.0	38.5	0.0	15.4	0.0
居住地域	北部	24	50.0	12.5	12.5	0.0	0.0	16.7	0.0	4.2	4.2
	南部	69	46.4	13.0	11.6	0.0	0.0	23.2	0.0	4.3	1.4
	船穂・草深	49	38.8	20.4	14.3	0.0	2.0	18.4	0.0	4.1	2.0
	印旛	14	35.7	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	28.6	7.1	0.0
	本埜	46	50.0	10.9	19.6	0.0	4.3	8.7	0.0	4.3	2.2
学校・学級	特別支援学級	72	48.6	13.9	15.3	0.0	2.8	13.9	0.0	2.8	2.8
	特別支援学校	64	40.6	14.1	9.4	0.0	1.6	25.0	4.7	3.1	1.6

単位：%

7. 障がいに対する理解について

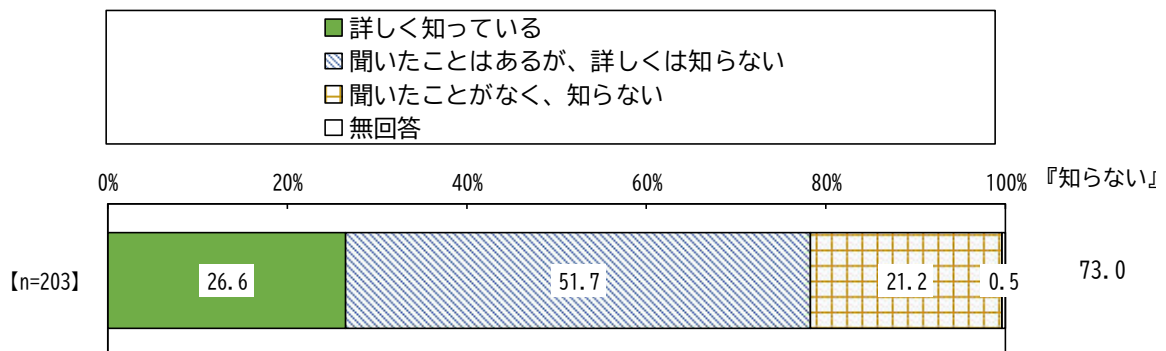
問 28. 障害者虐待防止法の内容（虐待の禁止、通報義務等）を知っているか 【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が63.5%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は82.8%となっています。



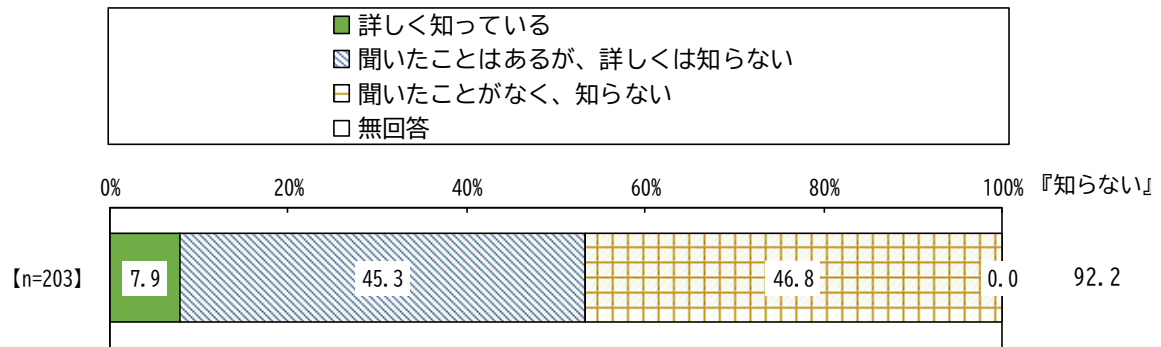
問 29. 障害者差別解消法の内容（障害を理由とした差別の禁止、「合理的配慮」の提供等）を知っているか 【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が51.7%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は73.0%となっています。



問 30. 手話施策推進法の内容（重要な意思疎通の手段として位置付け）を知っているか【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が45.3%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は92.2%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○【問 28.障害者虐待防止法】【問 29. 障害者差別解消法】【問 30.手話施策推進法】の各内容の認知度について年齢別にみると、【問 29. 障害者差別解消法】で“6 歳未満”は「聞いたことがなく、知らない」41.7%が最も高くなっています。【問 30.手話施策推進法】では、“6 歳未満”と“15 歳以上”は「聞いたことがなく、知らない」、「6～11 歳」と“12～14 歳”は「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が高くなっています。

○障がい種別にみると、【問 28. 障害者虐待防止法】と【問 29. 障害者差別解消法】はいずれの障がいも「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も高く、【問 30. 手話施策推進法】で“精神障がい”を除いて「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、【問 28. 障害者虐待防止法】で“特別支援学級”は「聞いたことがなく、知らない」が2 割を超え“特別支援学校”を大きく上回り、【問 29. 障害者差別解消法】では“特別支援学校”で「詳しく知っている」が3 割を超えて“特別支援学級”を上回ります。【問 30. 手話施策推進法】は、“特別支援学校”は「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も高い一方、“特別支援学級”は「聞いたことがなく、知らない」が高くなっています。

		問28. 障害者虐待防止法の内容の認知度					問29. 障害者差別解消法の内容の認知度				
		合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答	合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答
全体		203	16.7	63.5	19.2	0.5	203	26.6	51.7	21.2	0.5
年齢別	6歳未満	36	13.9	63.9	22.2	0.0	36	19.4	38.9	41.7	0.0
	6～11歳	82	15.9	68.3	15.9	0.0	82	26.8	59.8	13.4	0.0
	12～14歳	39	23.1	53.8	23.1	0.0	39	25.6	51.3	23.1	0.0
	15歳以上	44	15.9	65.9	15.9	2.3	44	34.1	50.0	15.9	0.0
障がい種別	身体障がい	34	14.7	67.6	17.6	0.0	34	32.4	44.1	23.5	0.0
	知的障がい	168	17.3	64.3	17.9	0.6	168	25.0	55.4	19.0	0.6
	精神障がい	13	23.1	53.8	23.1	0.0	13	30.8	46.2	23.1	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	19.4	58.3	22.2	0.0	72	22.2	59.7	18.1	0.0
	特別支援学校	64	18.8	73.4	6.3	1.6	64	32.8	56.3	10.9	0.0

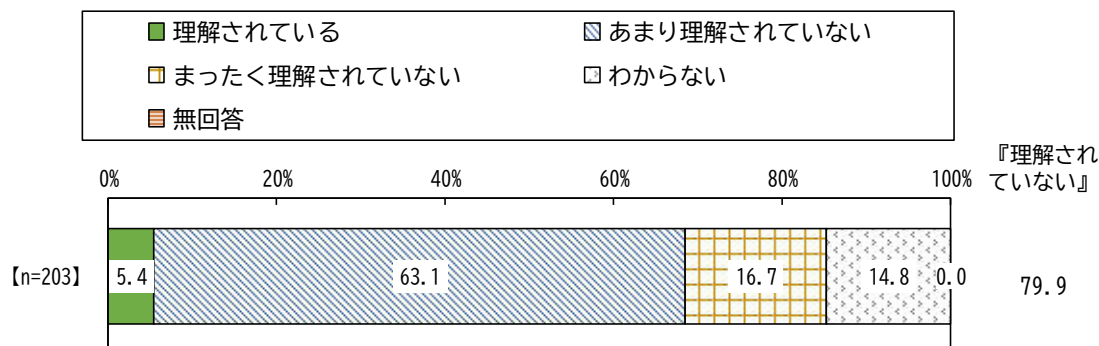
		問30. 手話施策推進法の内容の認知度				
		合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答
全体		203	7.9	45.3	46.8	0.0
年齢別	6歳未満	36	8.3	38.9	52.8	0.0
	6～11歳	82	8.5	48.8	42.7	0.0
	12～14歳	39	7.7	51.3	41.0	0.0
	15歳以上	44	6.8	38.6	54.5	0.0
障がい種別	身体障がい	34	2.9	52.9	44.1	0.0
	知的障がい	168	7.7	46.4	45.8	0.0
	精神障がい	13	15.4	23.1	61.5	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	9.7	43.1	47.2	0.0
	特別支援学校	64	6.3	50.0	43.8	0.0

単位：％

問 31. 障がいに対する市民の理解

【SA】

○「あまり理解されていない」が 63.1%で最も高くなっています。「あまり理解されていない」と「まったく理解されていない」を合わせた『理解されていない』が79.9%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「あまり理解していない」が最も高い一方、“12～14歳”以上は「全く理解されていない」が2割を超えています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「全く理解されていない」が約3割となっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「あまり理解していない」が最も高く、“特別支援学校”では約7割となっています。“特別支援学級”は「わからない」が2割を超えて“特別支援学校”を大きく上回ります。

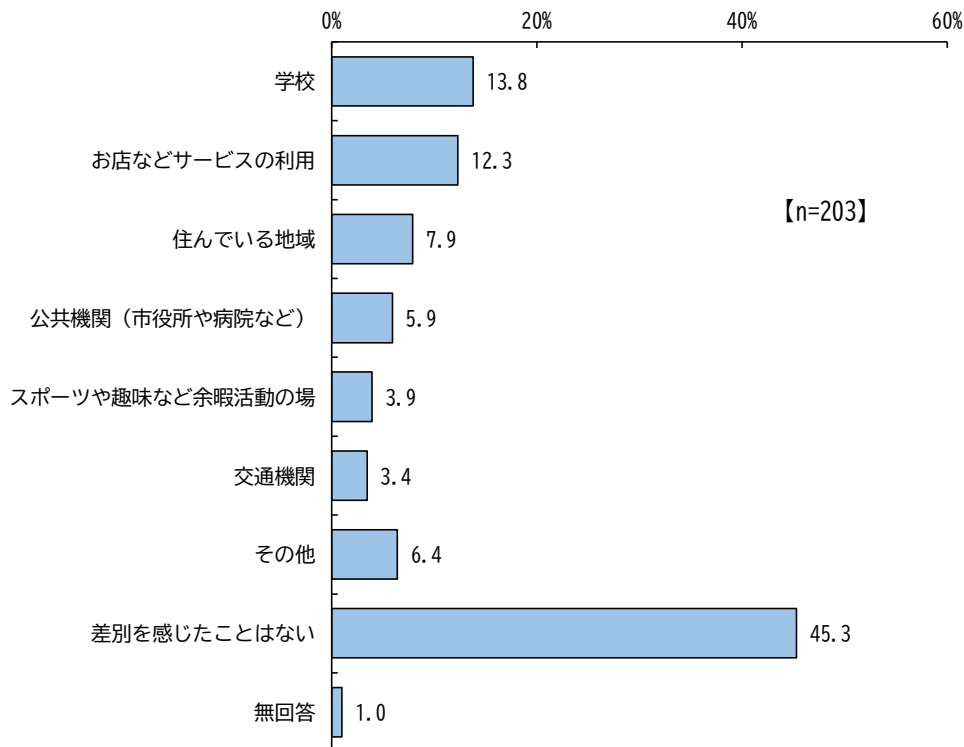
		合計(n)	理解されている	あまり理解されていない	まったく理解されていない	わからない	無回答
全体		203	5.4	63.1	16.7	14.8	0.0
年齢別	6歳未満	36	5.6	69.4	13.9	11.1	0.0
	6～11歳	82	4.9	68.3	13.4	13.4	0.0
	12～14歳	39	2.6	56.4	23.1	17.9	0.0
	15歳以上	44	9.1	56.8	20.5	13.6	0.0
障がい種別	身体障がい	34	2.9	55.9	29.4	11.8	0.0
	知的障がい	168	5.4	66.7	13.7	14.3	0.0
	精神障がい	13	7.7	46.2	38.5	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	4.2	58.3	13.9	23.6	0.0
	特別支援学校	64	4.7	70.3	18.8	6.3	0.0

単位：％

問 32. 1 年以内に差別・偏見を感じた場面

【SA】

○差別を感じた場面では、「学校」が13.8%で最も高く、以下「お店などサービスの利用」が12.3%、「住んでいる地域」が7.9%となっています。一方で、「差別を感じたことはない」は45.3%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、差別・偏見を感じた場面では“12～14 歳”は「学校」23.1%が2 割を超えて最も高くなっています。“15 歳以上”は「お店などサービスの利用」15.9%が他の年齢を上回ります。

○障がいの種類別にみると、差別・偏見を感じた場面では“身体障がい”と“精神障がい”は「学校」、 “知的障がい”は「お店などサービスの利用」が高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、差別・偏見を感じた場面では“特別支援学級”は「学校」、 “特別支援学校”は「お店などサービスの利用」がそれぞれ2 割を超えて高くなっています。

		合計(n)	差別を感じたことはない	学校	公共機関 (市役所 や病院など)	住んでいる 地域	交通機関	お店など サービスの 利用	スポーツ や趣味な ど余暇活 動の場	その他	無回答
全体		203	45.3	13.8	5.9	7.9	3.4	12.3	3.9	6.4	1.0
年齢別	6歳未満	36	52.8	8.3	2.8	11.1	0.0	13.9	8.3	2.8	0.0
	6～11歳	82	46.3	12.2	8.5	6.1	4.9	9.8	3.7	7.3	1.2
	12～14歳	39	38.5	23.1	5.1	7.7	2.6	12.8	5.1	5.1	0.0
	15歳以上	44	45.5	11.4	4.5	9.1	4.5	15.9	0.0	6.8	2.3
障がい種別	身体障がい	34	47.1	14.7	5.9	11.8	0.0	11.8	5.9	2.9	0.0
	知的障がい	168	43.5	12.5	6.5	7.7	4.2	13.7	4.2	6.5	1.2
	精神障がい	13	30.8	38.5	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	50.0	23.6	5.6	4.2	1.4	4.2	1.4	8.3	1.4
	特別支援学校	64	37.5	3.1	9.4	7.8	6.3	23.4	6.3	6.3	0.0

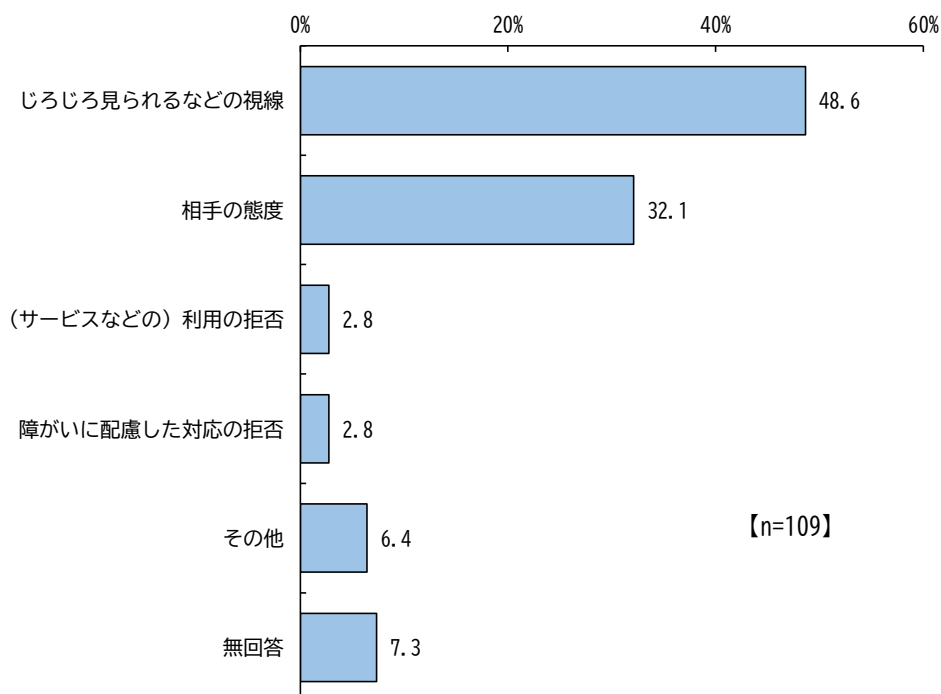
単位：％

【問 32 で「1 差別を感じたことはない」以外を回答した方限定】

問 32-1. 差別・偏見を受けた場面

【SA】

○「じろじろ見られるなどの視線」が48.6%、次いで「相手の態度」が32.1%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“12～14歳”を除いて「じろじろ見られるなどの視線」が最も高く、“6～11歳”は約6割となっています。“12～14歳”は「相手の態度」が6割を超え高くなっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいで「じろじろ見られるなどの視線」が最も高く、“知的障がい”は「相手の態度」が3割以上となっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「相手の態度」が最も高い一方、“特別支援学校”は「じろじろ見られるなどの視線」が6割を超え“特別支援学級”を大きく上回ります。

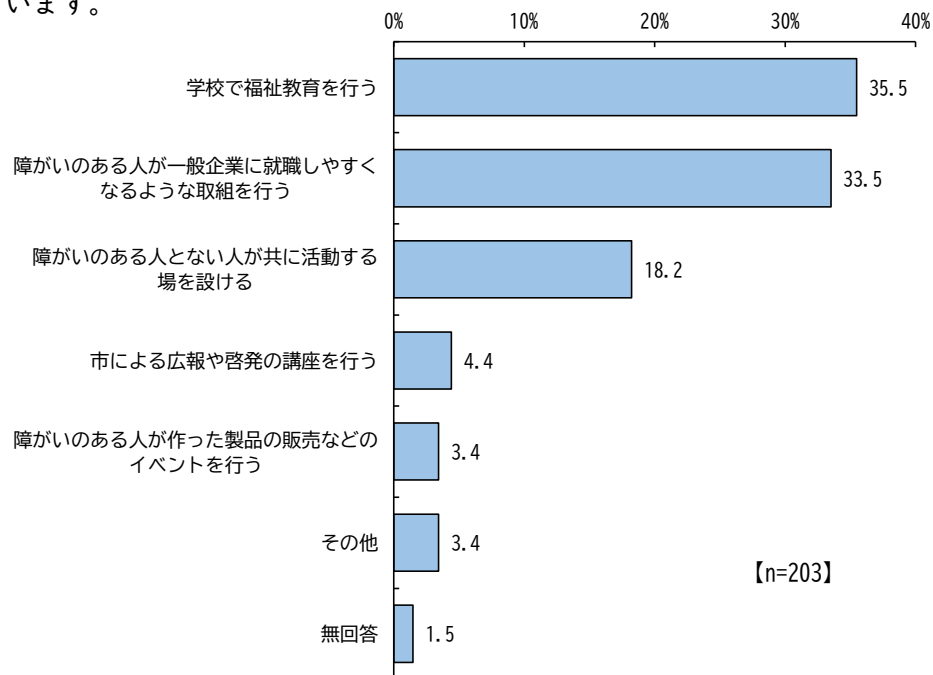
		合計(n)	(サービスなどの) 利用の拒否	障がいに配慮した対応の拒否	じろじろ見られるなどの視線	相手の態度	その他	無回答
全体		109	2.8	2.8	48.6	32.1	6.4	7.3
年齢別	6歳未満	17	5.9	5.9	52.9	23.5	11.8	0.0
	6～11歳	43	2.3	0.0	60.5	25.6	2.3	9.3
	12～14歳	24	0.0	0.0	29.2	62.5	0.0	8.3
	15歳以上	23	4.3	8.7	47.8	21.7	13.0	4.3
障がい種別	身体障がい	18	0.0	5.6	66.7	22.2	0.0	5.6
	知的障がい	93	3.2	3.2	47.3	33.3	7.5	5.4
	精神障がい	9	0.0	0.0	44.4	33.3	0.0	22.2
学校・学級	特別支援学級	35	2.9	2.9	28.6	45.7	2.9	17.1
	特別支援学校	40	2.5	2.5	62.5	25.0	7.5	0.0

単位：%

問 33. 社会で障がいへの理解を深めるために市に望む取組

【SA】

○「学校で福祉教育を行う」が35.5%で最も高く、以下「障がいのある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う」が33.5%、「障がいのある人とない人が共に活動する場を設ける」が18.2%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、「6歳未満」と「6～11歳」は「学校で福祉教育を行う」が最も高く、「12～14歳」と「15歳以上」は「障がいのある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う」が高くなっています。

○障がいの種類別にみると、「身体障がい」と「精神障がい」は「学校で福祉教育を行う」、「知的障がい」は「障がいのある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「障がいのある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う」が最も高くなっています。「特別支援学級」は「学校で福祉教育を行う」、「特別支援学校」は「障がいのある人とない人が共に活動する場を設ける」がそれぞれやや高くなっています。

		合計(n)	学校で福祉教育を行う	市による広報や啓発の講座を行う	障がいのある人とない人が共に活動する場を設ける	障がいのある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う	障がいのある人が作った製品の販売などのイベントを行う	その他	無回答
全体		203	35.5	4.4	18.2	33.5	3.4	3.4	1.5
年齢別	6歳未満	36	33.3	8.3	22.2	25.0	2.8	5.6	2.8
	6～11歳	82	43.9	1.2	19.5	26.8	2.4	3.7	2.4
	12～14歳	39	28.2	7.7	15.4	43.6	2.6	2.6	0.0
	15歳以上	44	29.5	4.5	13.6	43.2	6.8	2.3	0.0
障がい種別	身体障がい	34	44.1	0.0	29.4	11.8	2.9	8.8	2.9
	知的障がい	168	32.7	5.4	18.5	35.1	3.6	3.6	1.2
	精神障がい	13	53.8	7.7	7.7	30.8	0.0	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	36.1	4.2	13.9	40.3	2.8	1.4	1.4
	特別支援学校	64	32.8	3.1	20.3	34.4	3.1	4.7	1.6

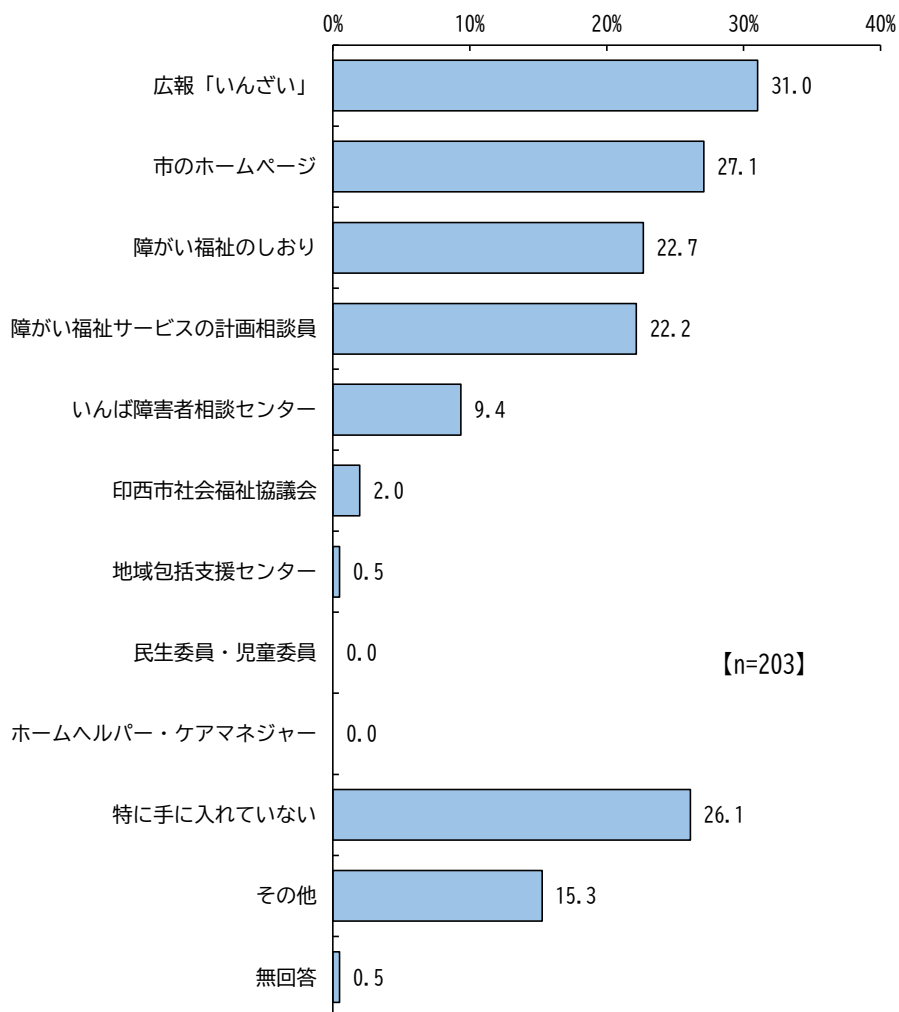
単位：%

8. 情報や相談について

問 34. 障がい福祉に関する情報の入手先

【MA】

○「広報『いんざい』」が31.0%で最も高く、以下「市のホームページ」が27.1%、「障がい福祉のしおり」が22.7%、「障がい福祉サービスの計画相談員」が22.2%となっています。一方で、「特に手に入れていない」も26.1%となっています。



【「その他」の主な回答】

- ・同じ障がいを持つ親や同級生
- ・施設の職員
- ・障がい福祉課 ・友人 等

【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6～11歳”は「障害福祉のしおり」、「12～14歳」と“15歳以上”は「広報『いんざい』」が最も高く、“6歳未満”は「特に手に入れていない」が約3割となっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「広報『いんざい』」が最も高く、“精神障がい”は「特に手に入れていない」が高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「広報『いんざい』」が最も高く、“特別支援学級”は「市のホームページ」、「特別支援学校」は「障がい福祉のしおり」も高くなっています。

		合計(n)	広報「いんざい」	市のホームページ	障がい福祉のしおり	障がい福祉サービスの計画相談員	いんば障害者相談センター	民生委員・児童委員
全体		203	31.0	27.1	22.7	22.2	9.4	0.0
年齢別	6歳未満	36	8.3	22.2	16.7	27.8	11.1	0.0
	6～11歳	82	29.3	34.1	35.4	30.5	9.8	0.0
	12～14歳	39	48.7	20.5	12.8	15.4	10.3	0.0
	15歳以上	44	38.6	25.0	13.6	9.1	6.8	0.0
障がい種別	身体障がい	34	23.5	20.6	29.4	11.8	14.7	0.0
	知的障がい	168	32.7	26.8	24.4	25.0	8.9	0.0
	精神障がい	13	30.8	15.4	7.7	23.1	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	38.9	29.2	20.8	22.2	4.2	0.0
	特別支援学校	64	40.6	28.1	29.7	20.3	7.8	0.0

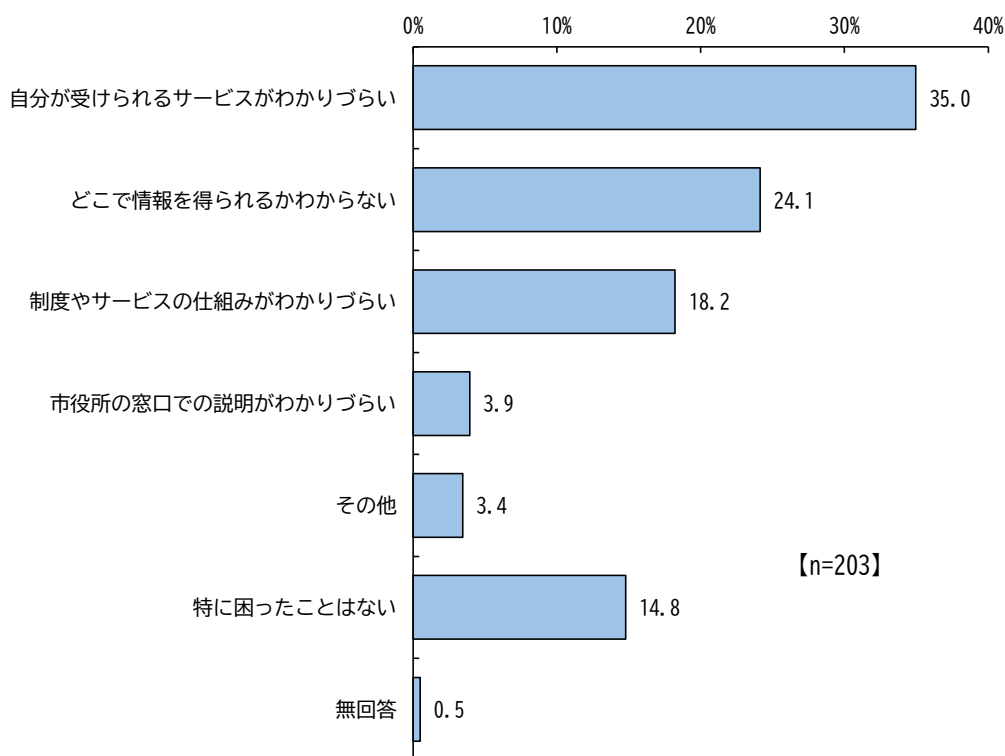
		合計(n)	ホームヘルパー・ケアマネジャー	地域包括支援センター	印西市社会福祉協議会	特に手に入れていない	その他	無回答
全体		203	0.0	0.5	2.0	26.1	15.3	0.5
年齢別	6歳未満	36	0.0	2.8	2.8	30.6	25.0	0.0
	6～11歳	82	0.0	0.0	3.7	22.0	9.8	1.2
	12～14歳	39	0.0	0.0	0.0	20.5	15.4	0.0
	15歳以上	44	0.0	0.0	0.0	31.8	18.2	0.0
障がい種別	身体障がい	34	0.0	0.0	2.9	23.5	32.4	0.0
	知的障がい	168	0.0	0.6	1.8	23.2	14.3	0.6
	精神障がい	13	0.0	0.0	0.0	53.8	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	0.0	0.0	2.8	25.0	8.3	0.0
	特別支援学校	64	0.0	0.0	1.6	21.9	15.6	1.6

単位：％

問 35. 障がい福祉の情報を得るために困ったこと

【SA】

○「自分が受けられるサービスがわかりづらい」が 35.0%で最も高く、以下「どこで情報を得られるかわからない」が 24.1%、「制度やサービスの仕組みがわかりづらい」が 18.2%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“15歳以上”は「どこで情報を得られるかわからない」34.1%が他の年齢を大きく上回ります。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「自分が受けられるサービスがわかりづらい」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「自分が受けられるサービスがわかりづらい」が最も高く、“特別支援学校”では約4割となっています。そのほか、“特別支援学級”は「制度やサービスの仕組みがわかりづらい」、「特別支援学校」は「どこで情報を得られるかわからない」がそれぞれやや高くなっています。

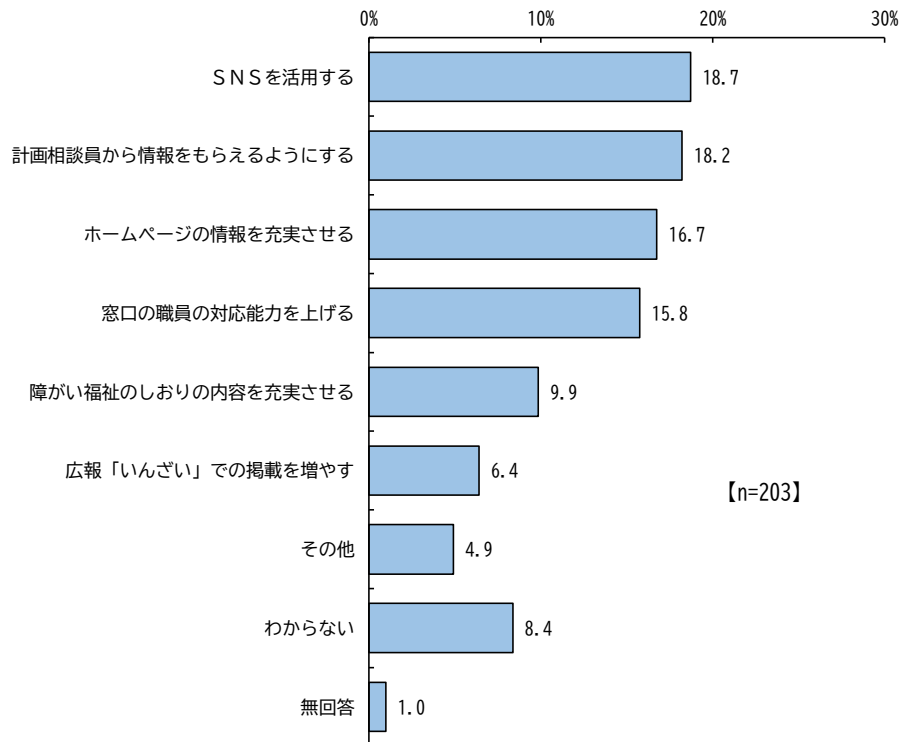
		合計(n)	どこで情報を得られるかわからない	制度やサービスの仕組みがわかりづらい	自分が受けられるサービスがわかりづらい	市役所の窓口での説明がわかりづらい	その他	特に困ったことはない	無回答
全体		203	24.1	18.2	35.0	3.9	3.4	14.8	0.5
年齢別	6歳未満	36	19.4	19.4	41.7	5.6	2.8	11.1	0.0
	6～11歳	82	22.0	17.1	32.9	3.7	3.7	19.5	1.2
	12～14歳	39	20.5	20.5	33.3	5.1	2.6	17.9	0.0
	15歳以上	44	34.1	15.9	36.4	2.3	4.5	6.8	0.0
障がい種別	身体障がい	34	20.6	8.8	44.1	2.9	5.9	17.6	0.0
	知的障がい	168	25.0	18.5	33.3	3.6	4.2	14.9	0.6
	精神障がい	13	23.1	15.4	53.8	0.0	0.0	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	22.2	27.8	29.2	2.8	1.4	16.7	0.0
	特別支援学校	64	26.6	10.9	39.1	6.3	4.7	10.9	1.6

単位：％

問 36. 障がい福祉の情報を得やすくするために望むこと

【SA】

○「SNS を活用する」が18.7%で最も高く、以下「計画相談員から情報をもらえるようにする」が18.2%、「ホームページの情報を充実させる」が16.7%、「窓口の職員の対応能力を上げる」が15.8%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、「6～11歳」は「計画相談員から情報をもらえるようにする」19.5%、「12～14歳」は「窓口の職員の対応能力を上げる」20.5%、「15歳以上」は「SNSを活用する」25.0%が最も高くなっています。（「6歳未満」は「窓口の職員の対応能力を上げる」と「計画相談員から情報をもらえるようにする」が同率で最も高い。）

○障がいの種類別にみると、「身体障がい」は「窓口の職員の対応能力を上げる」29.4%が約3割と他の障がいを上回っています。「知的障がい」は「SNSを活用する」と「計画相談員から情報をもらえるようにする」がともに18.5%で同率となっています。

○在籍学校・学級別にみると、「特別支援学級」は「SNSを活用する」、「特別支援学校」は「窓口の職員の対応能力を上げる」がそれぞれ2割で最も高くなっています。

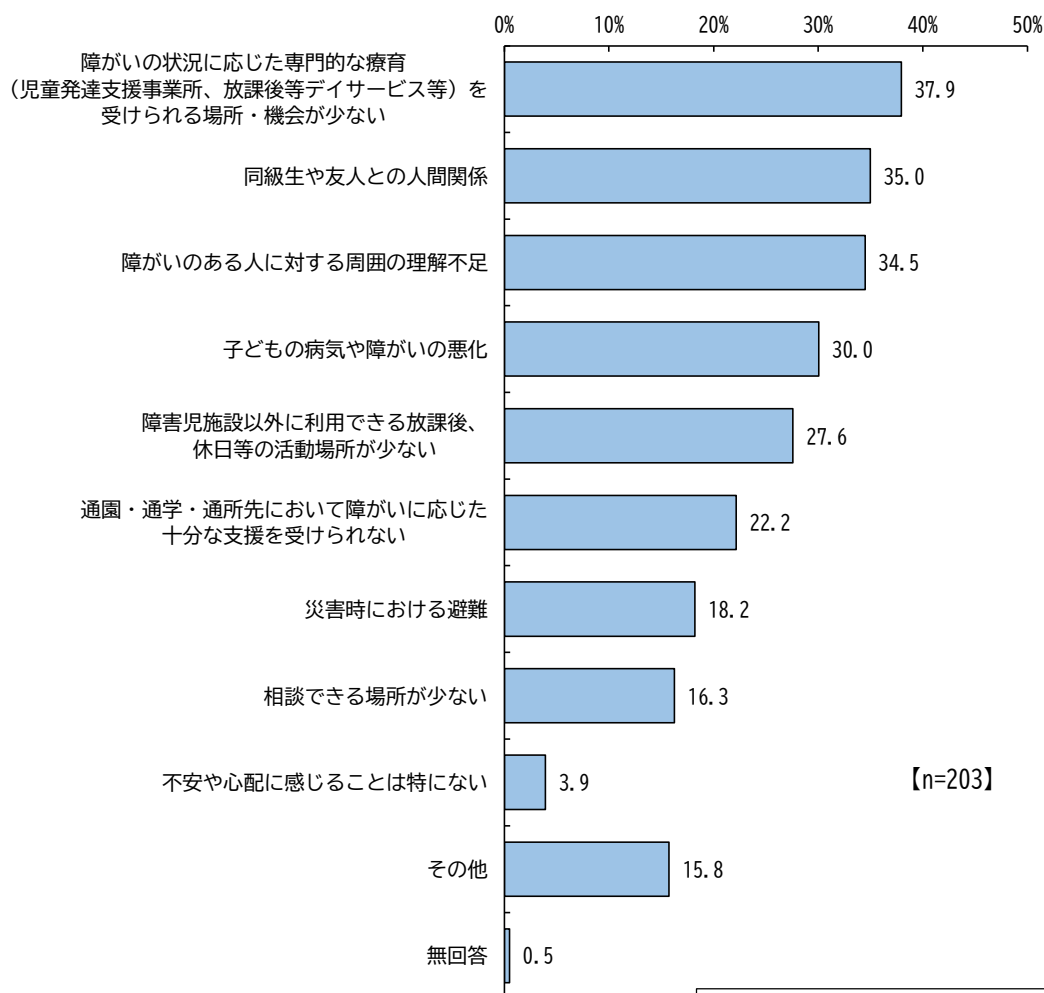
		合計(n)	障がい福祉のしおりの内容を充実させる	ホームページの情報を充実させる	広報「いんざい」での掲載を増やす	SNSを活用する	窓口の職員の対応能力を上げる	計画相談員から情報をもらえるようにする	その他	わからない	無回答
全体		203	9.9	16.7	6.4	18.7	15.8	18.2	4.9	8.4	1.0
年齢別	6歳未満	36	11.1	22.2	0.0	13.9	25.0	25.0	2.8	0.0	0.0
	6～11歳	82	9.8	18.3	9.8	18.3	11.0	19.5	2.4	9.8	1.2
	12～14歳	39	5.1	15.4	7.7	17.9	20.5	12.8	7.7	12.8	0.0
	15歳以上	44	13.6	11.4	4.5	25.0	11.4	15.9	9.1	6.8	2.3
障がい種別	身体障がい	34	5.9	11.8	2.9	8.8	29.4	20.6	8.8	11.8	0.0
	知的障がい	168	11.3	17.3	7.1	18.5	13.1	18.5	4.2	8.9	1.2
	精神障がい	13	7.7	15.4	0.0	38.5	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	6.9	16.7	8.3	20.8	12.5	18.1	2.8	12.5	1.4
	特別支援学校	64	15.6	17.2	7.8	14.1	20.3	7.8	7.8	7.8	1.6

単位：%

問 37. 現在または将来に対する不安や心配ごと

【MA】

○「障がいの状況に応じた専門的な療育（児童発達支援事業所、放課後等デイサービス等）を受けられる場所・機会が少ない」が 37.9%で最も高く、以下「同級生や友人との人間関係」が 35.0%、「障がいのある人に対する周囲の理解不足」が 34.5%となっています。



【「その他」の主な回答】

- ・子どもの進路
- ・就労や施設の入所について
- ・親亡き後のこと 等

【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、“6歳未満”と“6～11歳”は「障がいの状況に応じた専門的な療育（児童発達支援事業所、放課後等デイサービス等）を受けられる場所・機会が少ない」、「12～14歳」は「同級生や友人との人間関係」、「15歳以上」は「障がいのある人に対する周囲の理解不足」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「子どもの病気や障がいの悪化」が5割と他の障がいを大きく上回ります。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「同級生や友人との人間関係」が5割を超え最も高い一方、“特別支援学校”は「障がいのある人に対する周囲の理解不足」が約4割で高くなっています。

		合計(n)	子どもの病気や障がいの悪化	通園・通学・通所先において障がいに応じた十分な支援を受けられない	障がいの状況に応じた専門的な療育（児童発達支援事業所、放課後等デイサービス等）を受けられる場所・機会が少ない	障害児施設以外に利用できる放課後、休日等の活動場所が少ない	相談できる場所が少ない	障がいのある人に対する周囲の理解不足
全体		203	30.0	22.2	37.9	27.6	16.3	34.5
年齢別	6歳未満	36	27.8	41.7	55.6	36.1	5.6	19.4
	6～11歳	82	29.3	20.7	43.9	34.1	13.4	37.8
	12～14歳	39	33.3	17.9	38.5	23.1	15.4	38.5
	15歳以上	44	29.5	13.6	13.6	13.6	27.3	38.6
障がい種別	身体障がい	34	50.0	26.5	41.2	14.7	11.8	29.4
	知的障がい	168	25.6	23.2	38.1	29.8	16.7	35.7
	精神障がい	13	30.8	15.4	46.2	23.1	30.8	46.2
学校・学級	特別支援学級	72	22.2	22.2	34.7	29.2	16.7	36.1
	特別支援学校	64	32.8	14.1	34.4	26.6	25.0	40.6

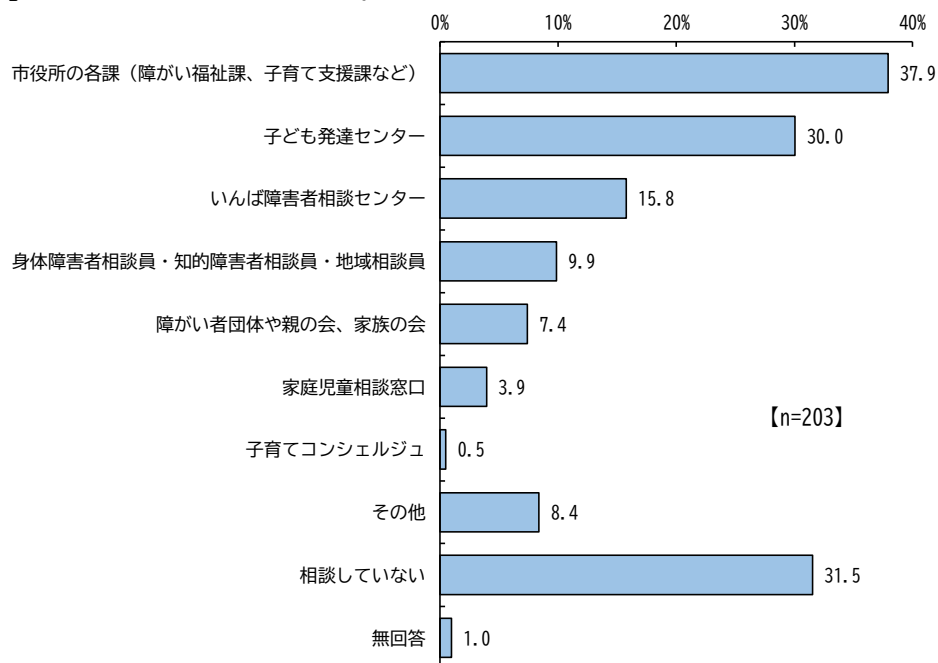
		合計(n)	災害時における避難	同級生や友人との人間関係	不安や心配に感じることが特にはない	その他	無回答
全体		203	18.2	35.0	3.9	15.8	0.5
年齢別	6歳未満	36	16.7	36.1	5.6	8.3	0.0
	6～11歳	82	17.1	34.1	1.2	15.9	1.2
	12～14歳	39	15.4	46.2	2.6	10.3	0.0
	15歳以上	44	25.0	25.0	9.1	27.3	0.0
障がい種別	身体障がい	34	32.4	20.6	5.9	17.6	0.0
	知的障がい	168	17.3	34.5	3.6	17.3	0.6
	精神障がい	13	15.4	46.2	0.0	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	6.9	51.4	2.8	13.9	1.4
	特別支援学校	64	35.9	10.9	3.1	23.4	0.0

単位：％

問 38. 3 年以内に相談した相談窓口

【MA】

○「市役所の各課（障がい福祉課、子育て支援課など）」が37.9%で最も高く、以下「子ども発達センター」が30.0%、「いんば障害者相談センター」が15.8%となっています。一方で、「相談していない」は31.5%となっています。



【年齢別・障がい種別・居住地域別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、「6歳未満」は「子ども発達センター」、「6～11歳」は「市役所の各課（障がい福祉課、子育て支援課など）」が最も高くなっています。「12～14歳」と「15歳以上」は「相談していない」が約5割となっています。

○障がいの種類別にみると、いずれの障がいも「市役所の各課（障がい福祉課、子育て支援課など）」が最も高い一方、「知的障がい」は「子ども発達センター」が約3割となっています。

○居住地域別にみると、「船穂・草深」と「本埜」は「市役所の各課（障がい福祉課、子育て支援課など）」、「北部」は「子ども発達センター」が最も高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「相談していない」が最も高くなっています。（「特別支援学校」は「相談していない」と「市役所の各課（障がい福祉課、子育て支援課など）」が同率で最も高い。）

	合計(n)	子ども発達センター	いんば障害者相談センター	市役所の各課（障がい福祉課、子育て支援課など）	家庭児童相談窓口	身体障害者相談員・知的障害者相談員・地域相談員	子育てコンシェルジュ	障がい者団体や親の会、家族の会	その他	相談していない	無回答
全体	203	30.0	15.8	37.9	3.9	9.9	0.5	7.4	8.4	31.5	1.0
年齢別											
6歳未満	36	77.8	13.9	52.8	0.0	8.3	2.8	11.1	11.1	5.6	0.0
6～11歳	82	31.7	13.4	45.1	2.4	9.8	0.0	12.2	8.5	25.6	2.4
12～14歳	39	5.1	17.9	23.1	5.1	15.4	0.0	0.0	7.7	51.3	0.0
15歳以上	44	9.1	20.5	25.0	9.1	4.5	0.0	2.3	6.8	47.7	0.0
障がい種別											
身体障がい	34	20.6	26.5	44.1	0.0	11.8	0.0	14.7	8.8	26.5	0.0
知的障がい	168	29.8	15.5	36.3	3.6	8.9	0.6	7.7	8.3	32.7	1.2
精神障がい	13	23.1	7.7	53.8	15.4	23.1	0.0	7.7	0.0	30.8	0.0
居住地域											
北部	24	37.5	33.3	33.3	12.5	8.3	0.0	0.0	0.0	29.2	0.0
南部	69	23.2	10.1	36.2	4.3	5.8	0.0	8.7	7.2	37.7	0.0
船穂・草深	49	40.8	20.4	44.9	2.0	12.2	2.0	12.2	12.2	14.3	4.1
印旛	14	7.1	14.3	14.3	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	50.0	0.0
本埜	46	32.6	10.9	43.5	2.2	13.0	0.0	4.3	10.9	37.0	0.0
学校・学級											
特別支援学級	72	15.3	6.9	30.6	6.9	9.7	0.0	6.9	11.1	43.1	0.0
特別支援学校	64	15.6	18.8	37.5	3.1	9.4	0.0	7.8	7.8	37.5	1.6

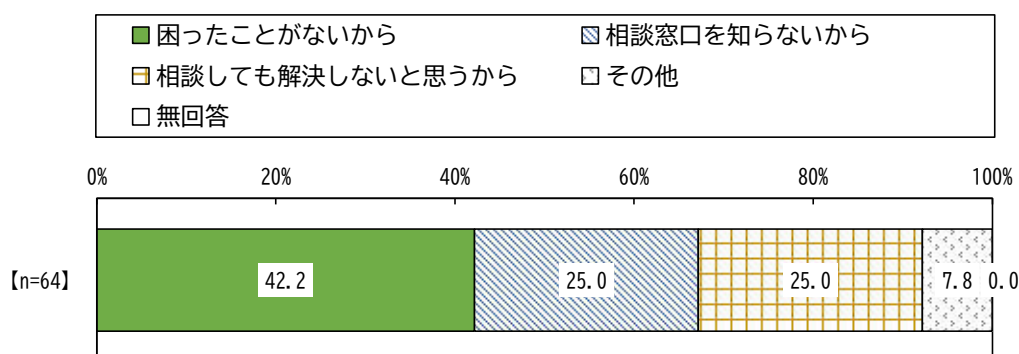
単位：%

【問38で「9 相談していない」を回答した方限定】

問38-1. 相談していない理由

【SA】

○「困ったことがないから」が42.2%で最も高く、以下「相談窓口を知らないから」と「相談しても解決しないと思うから」がともに25.0%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、「6～11歳」と「15歳以上」は「相談窓口を知らないから」がともに28.6%とやや高くなっています。

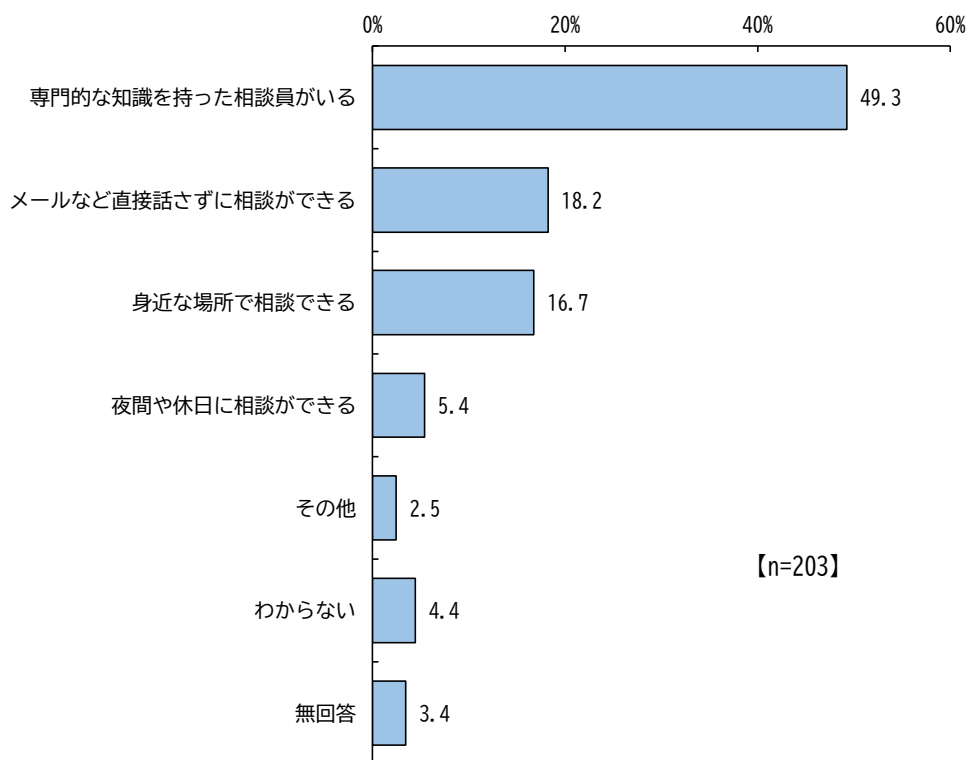
○障がいの種類別にみると、「知的障がい」は「相談しても解決しないと思うから」が3割近くとなっています。

○在籍学校・学級別にみると、「特別支援学校」は「相談しても解決しないと思うから」が3割近くとやや高くなっています。

		合計(n)	困ったことがないから	相談窓口を知らないから	相談しても解決しないと思うから	その他	無回答
全体		64	42.2	25.0	25.0	7.8	0.0
年齢別	6歳未満	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	6～11歳	21	47.6	28.6	19.0	4.8	0.0
	12～14歳	20	40.0	20.0	25.0	15.0	0.0
	15歳以上	21	38.1	28.6	28.6	4.8	0.0
障がい種別	身体障がい	9	33.3	33.3	22.2	11.1	0.0
	知的障がい	55	40.0	25.5	27.3	7.3	0.0
	精神障がい	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	31	35.5	25.8	25.8	12.9	0.0
	特別支援学校	24	45.8	25.0	29.2	0.0	0.0

単位：%

○「専門的な知識を持った相談員がいる」が49.3%で最も高く、以下「メールなど直接話さずに相談ができる」が18.2%、「身近な場所で相談できる」が16.7%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「専門的な知識を持った相談員がいる」が最も高く、“15 歳以上”は「身近な場所で相談できる」25.0%が他の年齢を上回ります。

○障がいの種類別にみると、“身体障がい”は「専門的な知識を持った相談員がいる」が5割半ばで他の障がいを上回ります。“知的障がい”は「メールなど直接話さずに相談が出来る」が約2割とやや高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「専門的な知識を持った相談員がいる」が最も高く、“特別支援学級”では5割となっています。

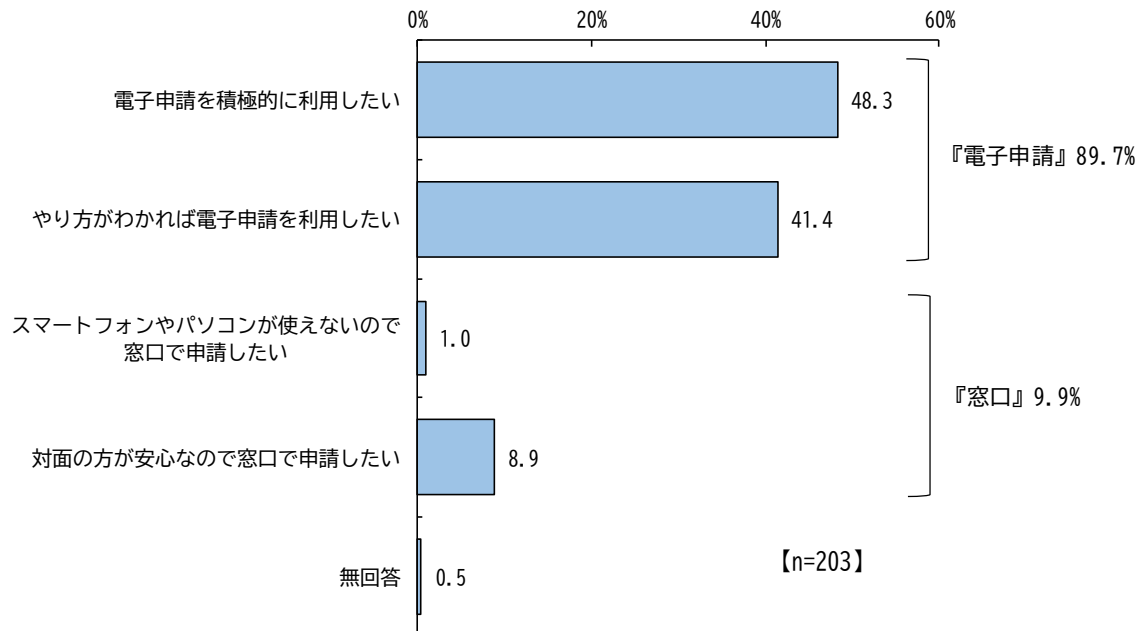
		合計(n)	身近な場所 で相談 できる	専門的な 知識を 持った相 談員が いる	メールな ど直接話 さずに相 談がで きる	夜間や休 日に相談 ができる	その他	わから ない	無回答
全体		203	16.7	49.3	18.2	5.4	2.5	4.4	3.4
年 齢 別	6歳未満	36	5.6	63.9	11.1	8.3	0.0	5.6	5.6
	6～11歳	82	15.9	48.8	17.1	7.3	3.7	4.9	2.4
	12～14歳	39	15.4	48.7	23.1	2.6	2.6	5.1	2.6
	15歳以上	44	25.0	40.9	22.7	2.3	2.3	2.3	4.5
障がい 種別	身体障がい	34	8.8	55.9	11.8	2.9	5.9	11.8	2.9
	知的障がい	168	18.5	48.8	19.6	4.2	1.8	3.6	3.6
	精神障がい	13	7.7	46.2	15.4	23.1	0.0	7.7	0.0
学校・ 学級	特別支援学級	72	18.1	50.0	16.7	2.8	2.8	6.9	2.8
	特別支援学校	64	21.9	42.2	20.3	6.3	4.7	1.6	3.1

単位：％

問 40. 市の電子化の方向性について

【S A】

○「電子申請を積極的に利用したい」が48.3%で最も高く、「やり方がわかれば電子申請を利用したい」（41.4%）と合わせた『電子申請』は89.7%にのびります。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○障がいの種類別にみると、“6歳未満”と“6～11歳”は「電子申請を積極的に利用したい」、「12～14歳」と“15歳以上”は「やり方が分かれば電子申請したい」が最も高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”は「電子申請を積極的に利用したい」が5割近くとなっています。

○在籍学校・学級別にみると、“特別支援学級”は「やり方が分かれば電子申請したい」が最も高い一方、“特別支援学校”は「電子申請を積極的に利用したい」が5割と高くなっています。

		合計(n)	電子申請を積極的に利用したい	やり方がわかれば電子申請を利用したい	スマートフォンやパソコンが使えないので窓口で申請したい	対面の方が安心なので窓口で申請したい	無回答
全体		203	48.3	41.4	1.0	8.9	0.5
年齢別	6歳未満	36	63.9	25.0	0.0	11.1	0.0
	6～11歳	82	50.0	42.7	0.0	7.3	0.0
	12～14歳	39	46.2	48.7	2.6	2.6	0.0
	15歳以上	44	36.4	45.5	2.3	13.6	2.3
障がい種別	身体障がい	34	44.1	41.2	2.9	8.8	2.9
	知的障がい	168	48.8	40.5	1.2	8.9	0.6
	精神障がい	13	46.2	46.2	0.0	7.7	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	41.7	47.2	0.0	11.1	0.0
	特別支援学校	64	50.0	40.6	1.6	6.3	1.6

単位：％

9. 障がい者施策について

問 41. 市が管理する公共施設のバリアフリーについての問題点

【F A】

○自由意見として、35 人から、35 件の回答がありました。主な内容は次のとおりです。

◆設備（10 件）

- ・市役所で重いドアなどが多くて、車いすの方が困っていました。もっと開けやすいドア→自動ドアなどに変えてはどうでしょうか。特に消費者センターまで行く途中のドアなどが重いです。市役所なのにバリアフリー完備していないのが残念です。
- ・バリアフリーとは異なりますが、オムツ用のゴミ箱があるとありがたいです。
- ・車から降りることなく図書館の本が借りたり返せると利用しやすい。児童館は狭くて健常児向けだなと思う。
- ・装具を着用している我が子は装具を脱いでオムツを替える必要があり、脱いで立てるスペースがあると助かります。小さなベッドでは使えません。
- ・児童館や子ども支援センターなど、障害があると、なかなか使いづらい
- ・何処も水道が古いタイプ、蛇口や押すタイプで大変、階段の手すりが左片側しかない所、小さな段差が多い少しのスロープに変えて欲しい、毎回スロープの場所を探している時間が大変、右片麻痺なので右側が使えない時を少し考えていただけたら、この後車椅子の老人の方も増えると思うので。

◆トイレ（8 件）

- ・個室のトイレでないとパットの交換がやりづらいため、多目的トイレを増やしてほしい。
- ・市役所本庁舎の障害者用トイレにユニバーサルシートが設置されていない。小倉台図書館も狭かったような覚えがあります。（トイレ）駐車場も乗り降りが怖かったです。
- ・子供用のトイレを充実してほしい（両親が共に入れるようなもの）
- ・性別が異なる介助者も一緒に入れるようなトイレを増やしてほしいです。
- ・本埜図書館のトイレ、多目的トイレがくらい。
- ・ユニバーサルシートの設置がないトイレがほとんど

◆施設他（6 件）

- ・公園全般がフェンスがないので突発行動がある子供にとって安心して遊べる場ではない。インクルーシブ公園もいいのですが、その逆で障害者専用の貸切公園など選択肢が増えるのが理想です。
- ・障害がある子が優先的(安心して)に使用出来る公園があると嬉しいです。
- ・聴覚過敏の人が利用できるような音が遮断できるクールダウンのスペースが欲しい
- ・前回のアンケートでも回答しましたが、インクルーシブ公園がありません。公園がたくさんあることは嬉しいですが、肢体不自由な子どもでも座位が難しい子どもでも遊べる遊具を設置してください。
- ・本庁舎と支所の役割分担について、政府などで期間が定められたもの（例・マイナンバー申請や交付など）だけでも、どの支所へ行っても対応いただけるような体制を検討して欲しい。

◆交通・歩道（3件）

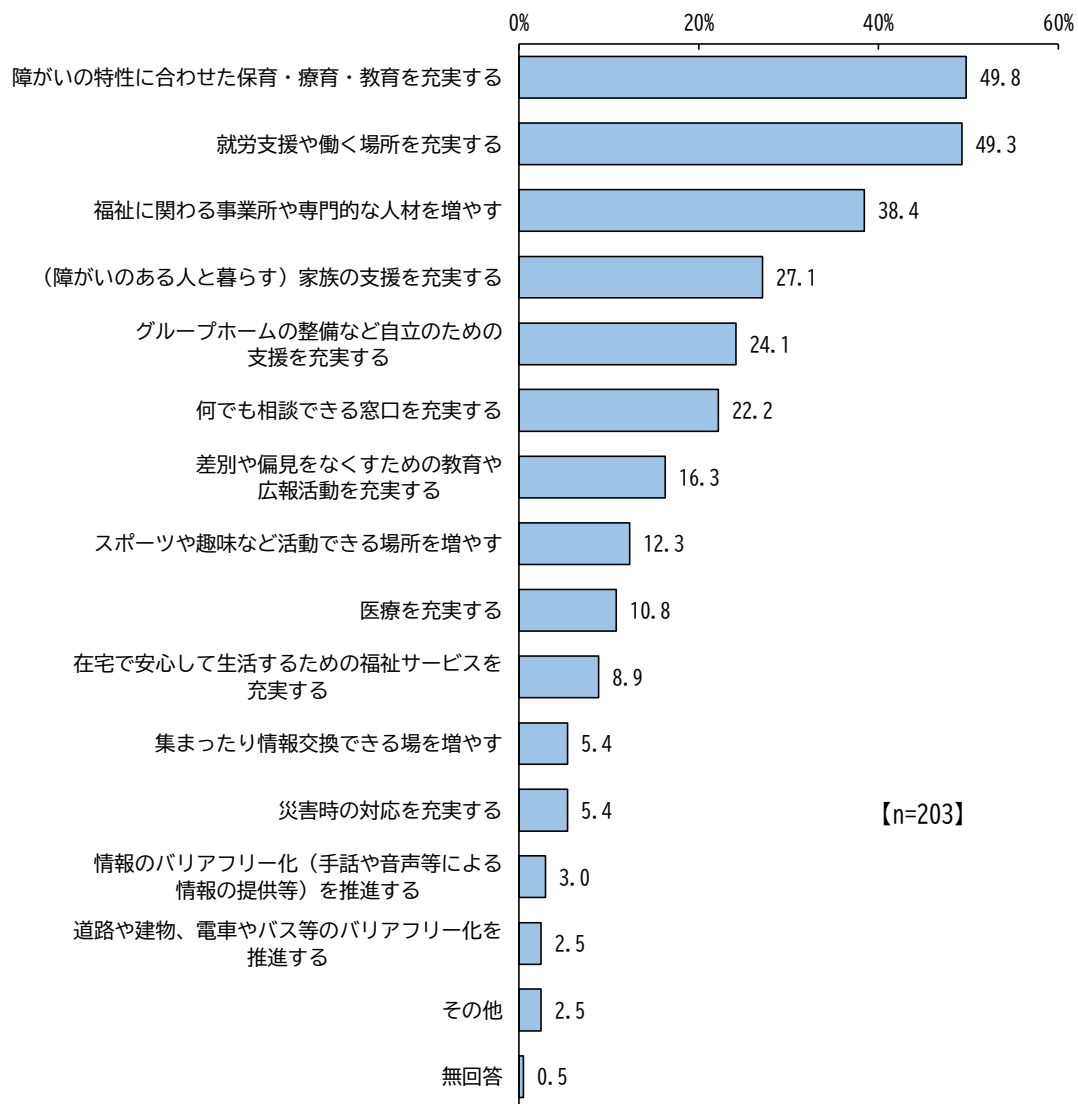
- ・音響式信号機をたくさん付けてほしい。視覚障害者用誘導用ブロックをつけてほしい。
- ・療育施設マーブルキッズが駐車場などコンクリートや柵がたくさんあったりと整備してあると助かります。どこの療育施設でも柵やコンクリートだと利用しやすいと感じます。

◆案内・掲示（3件）

- ・印西市総合福祉センターの場所がわかりづらい。看板などありますか？何度か訪ねましたが通り過ぎたり、市役所の周りを探して行き止まりになってUターンしました。（自動車学校に間違っって入ってしまった）改善されると嬉しいです。道路標識がないように感じました。
- ・新しくできたコスモスパレット、1Fのトイレを使用した際に入口の標示が黒で、わかりにくい人にはわかりにくいのかなと思いました。子どもに知的障がい（男児）があり、青が男の子で赤が女の子、緑がママと一緒に入れるトイレだと教えています。
- ・市内だけではないですが、点字の位置が分かりにくい感じがします。そもそも見えにくいのに背景と同色なので、今は基本一緒に出かけるので声掛けですが、ひとりで外出した際の使用頻度はどのくらいなのか気になります。

◆わからない・不明等（5件）

○「障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する」が49.8%、「就労支援や働く場所を充実する」が49.3%、「福祉に関わる事業所や専門的な人材を増やす」が38.4%となっています。



【年齢別・障がい種別・在籍学校別の集計】

○年齢別にみると、障がいの種類別にみると、“6歳未満”と“6～11歳”は「障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する」が最も高く、“12～14歳”と“15歳以上”は「就労支援や働く場所を充実する」が約6割と高くなっています。

○障がいの種類別にみると、“知的障がい”を除いて「障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する」が最も高く、“知的障がい”は「就労支援や働く場所を充実する」が5割半ばと高くなっています。

○在籍学校・学級別にみると、いずれの学校・学級も「就労支援や働く場所を充実する」が最も高く、約6割となっています。そのほか、“特別支援学級”は「障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する」が5割半ば、“特別支援学校”は「グループホームの整備など自立のための支援を充実する」が約4割でそれぞれ高くなっています。

		合計(n)	何でも相談できる窓口を充実する	情報のバリアフリー化（手話や音声等による情報の提供等）を推進する	福祉に関わる事業所や専門的な人材を増やす	在宅で安心して生活するための福祉サービスを充実する	医療を充実する	障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する	就労支援や働く場所を充実する	（障がいのある人と暮らす）家族の支援を充実する
年齢別	全体	203	22.2	3.0	38.4	8.9	10.8	49.8	49.3	27.1
	6歳未満	36	13.9	2.8	41.7	13.9	11.1	69.4	36.1	41.7
	6～11歳	82	20.7	3.7	40.2	9.8	11.0	57.3	45.1	30.5
	12～14歳	39	12.8	2.6	38.5	7.7	15.4	41.0	59.0	20.5
	15歳以上	44	38.6	2.3	34.1	4.5	6.8	27.3	59.1	13.6
障がい種別	身体障がい	34	23.5	2.9	38.2	17.6	20.6	41.2	23.5	23.5
	知的障がい	168	20.8	2.4	37.5	8.3	10.1	48.8	56.0	27.4
	精神障がい	13	30.8	7.7	46.2	0.0	7.7	61.5	30.8	15.4
学校・学級	特別支援学級	72	20.8	4.2	37.5	5.6	11.1	55.6	61.1	18.1
	特別支援学校	64	28.1	1.6	35.9	9.4	9.4	31.3	59.4	25.0

		合計(n)	集まったり情報交換できる場を増やす	道路や建物、電車やバス等のバリアフリー化を推進する	グループホームの整備など自立のための支援を充実する	差別や偏見をなくするための教育や広報活動を充実する	スポーツや趣味など活動できる場所を増やす	災害時の対応を充実する	その他	無回答
年齢別	全体	203	5.4	2.5	24.1	16.3	12.3	5.4	2.5	0.5
	6歳未満	36	5.6	0.0	22.2	11.1	11.1	2.8	2.8	0.0
	6～11歳	82	1.2	0.0	23.2	17.1	8.5	6.1	3.7	1.2
	12～14歳	39	5.1	2.6	25.6	23.1	15.4	7.7	2.6	0.0
	15歳以上	44	11.4	9.1	27.3	13.6	15.9	4.5	0.0	0.0
障がい種別	身体障がい	34	5.9	5.9	20.6	17.6	14.7	5.9	8.8	2.9
	知的障がい	168	6.0	1.2	28.6	15.5	10.7	4.8	1.8	0.6
	精神障がい	13	0.0	7.7	0.0	46.2	23.1	7.7	0.0	0.0
学校・学級	特別支援学級	72	4.2	0.0	18.1	18.1	15.3	5.6	0.0	1.4
	特別支援学校	64	4.7	1.6	40.6	12.5	9.4	7.8	4.7	0.0

単位：％

○自由意見として、88 人から、102 件の回答がありました。主な内容は次のとおりです。

主な意見	件数
相談支援・福祉サービス	33 件
◇障害に応じた放課後デイサービスの施設が少ない(送迎が来れないので、学校帰ってから送っていかないと行けないのが負担) 通院等がお金がかかる場合も多く、特別給付の世帯年収を撤廃してほしい。 ◇幼稚園を卒業するまでは、子育て発達センターを利用できたが、小学生以降パツタリと頼れる場所がなくなってしまう。放課後デイも断られたり相談できる場所がないと家族は疲弊する。カウンセリングできる病院を増やしたり、親やきょうだい児の支援を望みます。 ◇市役所は気軽に相談できる雰囲気ではないと感じます。気軽に相談に行ける場所を増やして民間とも連携してほしいです。 ◇障害福祉が、色々法律が変わり年々わかりづらく、放課後デイサービスもしばりが強くなり、利用が限られたりしている。 印西市は知的障がいの子に対して、もう少し支援を手厚くしてほしい。 ◇更新手続き等が近くの出張所でできたらいいのになと思います。 市役所まで車で行っていますが、運転が苦手なのと年をとった時大丈夫なのかなと不安があります。 マイナンバーがあるのでオンラインでできたらいいと思います。	
人材確保・教育	20 件
◇学校の先生や市役所の職員など実際に関わる方たちに障がいの理解を深めていただきたい。 ◇小学校の規模が大きくなり支援級や障がい児支援の教育体制が不安です。先生の理解度やクラス編制など整っているとうれしいです。 ◇小学校ごとに障がい児支援の対応にばらつきがあり、制度や運用面で不公平さを感じています。 特に、教頭や管理職の判断によって対応が大きく異なるように見受けられ、学校間での差が生じている点に課題を感じます。 ◇幼稚園、保育園で肢体不自由に対応できる園が少ない。人員が不足している。 ◇軽度から中度の知的障害や高次脳機能障害のある子どもにとって、地域の特別支援学級では人員や支援体制が十分とは言えない場合もあり、学習を継続して伸ばしていける環境なのか不安があります。	
情報アクセシビリティ	10 件
◇障がい児や障がい者、また保護者向けの情報を得られる機会があったとしても、情報を人伝えにきくことが多い。障がいのある人は自ら情報を得ること自体難しいので、広く発信をお願いしたい。 ◇もっと福祉政策が 該当者に使いやすくご家族に浸透するように発信力を増やして欲しい。 ◇障害児を育てる家庭の多くは、日々のケアや生活に追われ、自ら情報を収集しに行く時間的・精神的な余裕がないのが現状です。 そのため、行政側から個々の状況に合わせた情報や「場」の提供を能動的に行っていただけるような支援を強く希望します。 ◇どこに相談し、医療はどこに受診できそうなのかが分かりませんでした。また、習い事等色々なことに挑戦したかったですが、拒否され習える所が有りませんでした。	

経済的援助	9 件
◇障害児がいると、療育の送迎など用事が多い為パートとしてさえも働くことが難しいので、手当等で家族支援をしてほしい。 ◇印西市の児童は給食費無償化になったのに、特別支援学校へ通う児童への支援がない。受給者証の利用の所得制限があるため、少しでも所得が上回ると利用が難しくなる。今までの利用料金の8倍になってしまう。利用控えしなければならなくなり、兄弟児や親への負担が高く、市から補助して欲しい。 ◇印西市の給食費は無償化されたと聞いています。我孫子特別支援学校はなぜ補助してくれないのでしょうか。	
就労・雇用	8 件
◇通院や放課後の時間制限があり、なかなか仕事をするのが難しいと感じる。 ◇印西市子ども発達センターの療育を利用したいが、保育時間が短く、就労との両立が難しい。保育時間を短く設定するなら送迎付きにする等の工夫をしてほしい。障がいのある子どもがいても就労しやすい環境を整えてほしい。 ◇就労施設を増やして欲しい。大きな企業の倉庫などたくさん印西市はあるのに、就労先がすくなくすぎる。市でサポートしながら増やして欲しい。 ◇保育園の入園にあたり、標準時間では預かれないなど、今まで通り仕事をするのが難しくなるのでそこが改善できたら嬉しい。 ◇学校卒業後の就労先が少なく、選べない。	
権利擁護・障がいの理解・啓発	8 件
◇学校等で障がいのある児童に対するいじめ、いやがらせが多くあり、とてもつらいです。もっといじめなどに対する対策、防止するための活動に力を入れるべきだと思います。 ◇医療的ケア児支援法について知ってもらいたい。生活介護事業所やグループホームなど重度障害者の将来の居場所が少ないので心配。 ◇子どもも思春期なので障がいに対してもシビアに反応します。いじめまではいかなくとも、見えない糸で境界線を引いています。グレーゾーンの子の居場所がないです。	
文化活動・交流	6 件
◇障害者も可能な幅広いスポーツチーム、レッスンも受けたりもできたり、障害者スポーツにも力が入る印西市を作ってほしい。 ◇今まで感じたことは障がい児の親が情報交換できる SNS やデイサービスの休日利用等の充実、福祉事業所の増設、グループホームの増設を実現していただけるととてもありがたいと思います。 ◇休日の預け先（療育、放課後デイ）が増えたり、障害児の家族、きょうだいが一緒に交流出来る場所がたくさんあったらいいなと感じます。	
その他・アンケートについて	8 件
◇日々の生活で手が一杯なのかもと。アンケートの内容で、福祉避難所を知らなかったことに気付きました。 ◇障害者福祉の充実を図る取り組み、ありがとうございます。子供が生涯にわたって、印西市で安心して暮らせるよう願っています。教育、生活、就労、親亡き後など、不安なことは多々ありますが、将来的に、福祉を受けながら、少しでも自立した生活ができるよう、育てていきたいと思っています。	

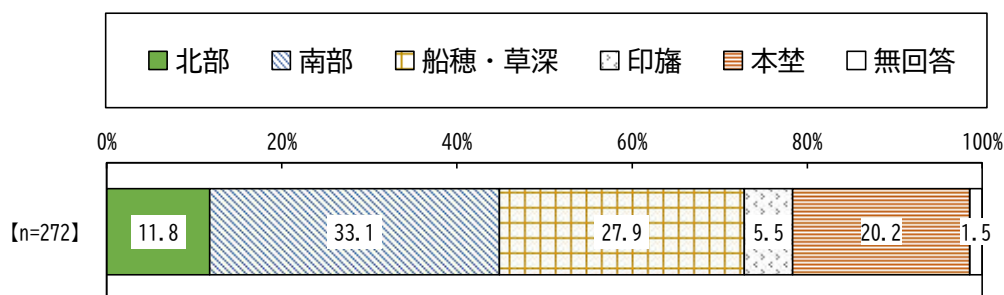
第4章 保護者アンケート

1. 子どものことについて

問1. 居住地域

【SA】

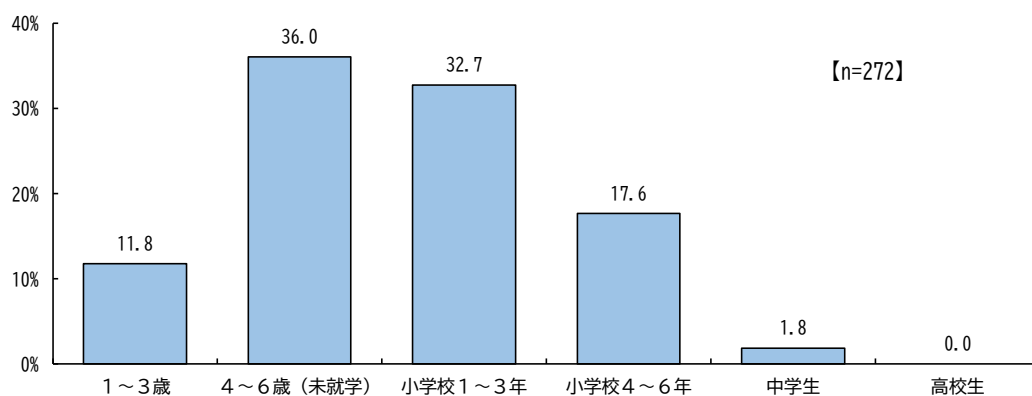
○「南部」が33.1%で最も高く、以下「船穂・草深」が27.9%、「本埜」が20.2%、「北部」が11.8%、「印旛」が5.5%の順となっています。



問2. 子どもの年齢 ※令和8年1月1日時点

【SA】

○「4～6歳（未就学）」が36.0%で最も高く、以下「小学校1～3年」が32.7%、「小学校4～6年」が17.6%となっています。

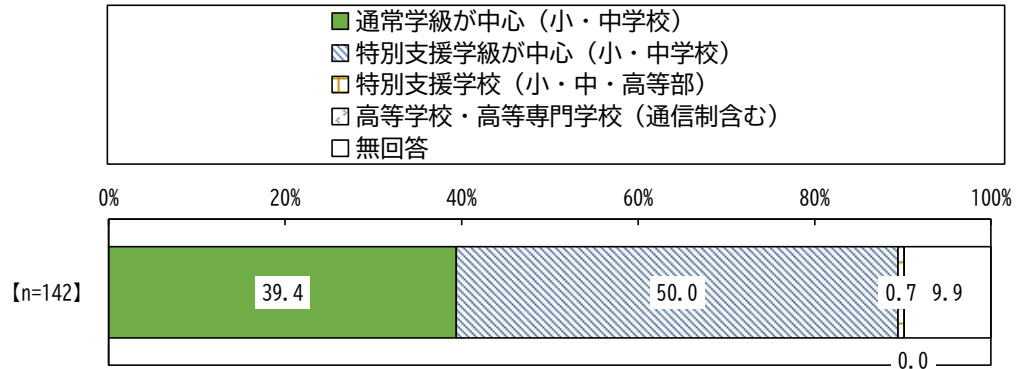


【問2において「3 小学校1～3年」から「6 高校生」を回答した方限定】

問2-1. 現在在籍中の学校・学級

【SA】

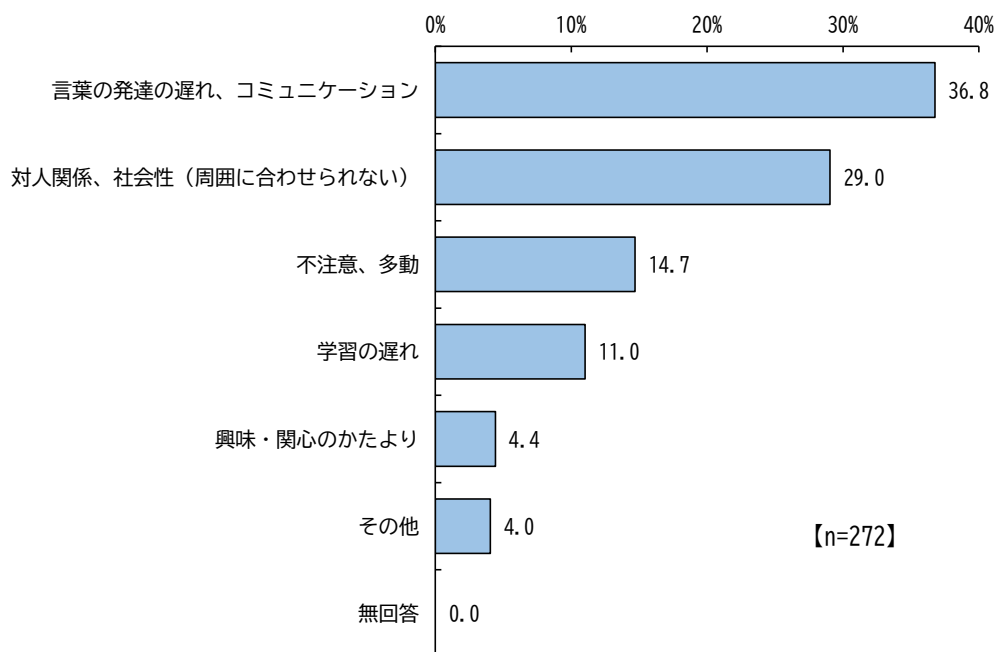
○「特別支援学級が中心（小・中学校）」が50.0%で最も高く、以下「通常学級が中心（小・中学校）」が39.4%、「特別支援学校（小・中学校・高等部）」が0.7%となっています。



問 3. 子どもの発達面の課題

【SA】

○「言葉の発達の遅れ、コミュニケーション」が36.8%で最も高く、以下「対人関係、社会性（周囲に合わせられない）」が29.0%、「不注意、多動」が14.7%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“未就学児”では「言葉の発達の遅れ、コミュニケーション」、「小学生」は「対人関係、社会性（周囲に合わせられない）」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「対人関係、社会性（周囲に合わせられない）」が最も高く、次いで“通常学級”では「不注意、他動」、「特別支援学級」では「言葉の発達の遅れ、コミュニケーション」の順となっています。

		合計(n)	不注意、多動	言葉の発達の遅れ、コミュニケーション	学習の遅れ	対人関係、社会性（周囲に合わせられない）	興味・関心のかたより	その他	無回答
全体		272	14.7	36.8	11.0	29.0	4.4	4.0	0.0
年齢別	1～3歳	32	15.6	62.5	0.0	15.6	0.0	6.3	0.0
	4～6歳（未就学）	98	9.2	58.2	2.0	23.5	5.1	2.0	0.0
	小学校1～3年	89	16.9	16.9	18.0	37.1	5.6	5.6	0.0
	小学校4～6年	48	20.8	14.6	20.8	35.4	4.2	4.2	0.0
	中学生	5	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	21.4	14.3	17.9	33.9	5.4	7.1	0.0
	特別支援学級	71	16.9	21.1	18.3	35.2	5.6	2.8	0.0

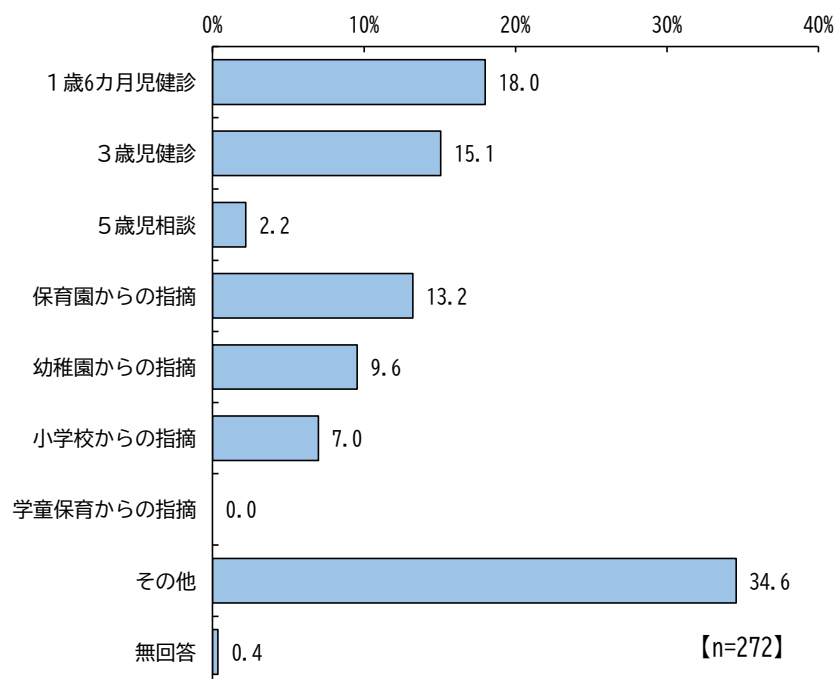
単位：%

2. 療育(児童発達支援・放課後等デイサービス)の利用について

問4. 療育の必要性に気付いた最初のきっかけ

【SA】

○「1歳6ヶ月児健診」が18.0%で最も高く、「3歳児健診」が15.1%、「保育園からの指摘」が13.2%となっています。



【「その他」の主な回答】

- ・親として心配、気になって
- ・保健センターや発達支援センター
- ・医師の指摘
- ・言葉や学習の遅れにより 等

【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「その他」が多くなっています。そのほか、“未就学児”では「1歳6ヶ月児健診」、「小学校4～6年」では「小学校からの指摘」の割合が他の年齢を上回ります。

○在籍学級別にみると、“通常学級”では「小学校からの指摘」、「特別支援学級」では「3歳児健診」の割合が他の学級を大きく上回ります。

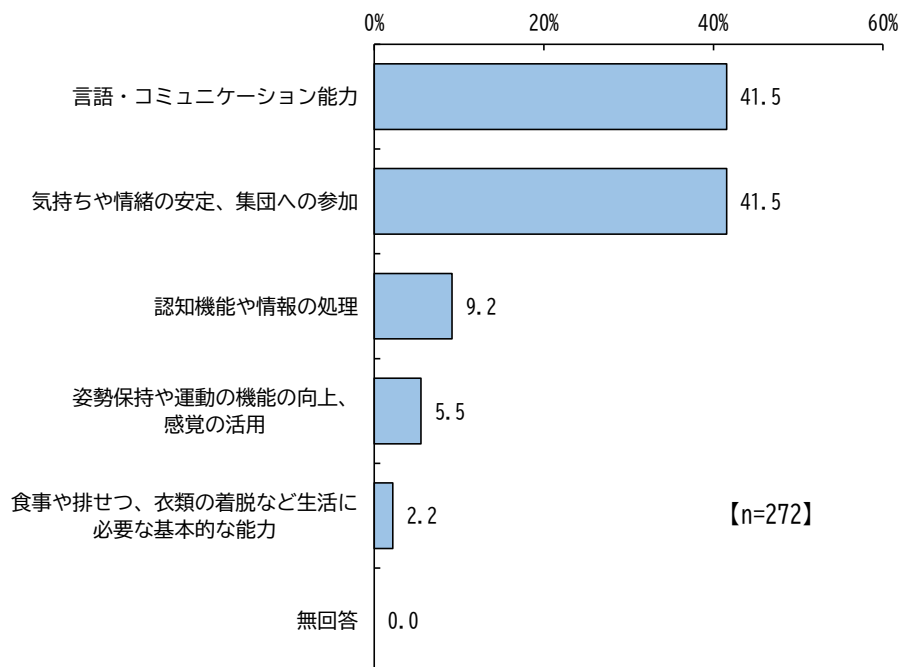
		合計(n)	1歳6ヶ月児健診	3歳児健診	5歳児相談	保育園からの指摘	幼稚園からの指摘	小学校からの指摘	学童保育からの指摘	その他	無回答
全体		272	18.0	15.1	2.2	13.2	9.6	7.0	0.0	34.6	0.4
年齢別	1～3歳	32	40.6	3.1	0.0	6.3	3.1	0.0	0.0	46.9	0.0
	4～6歳(未就学)	98	23.5	18.4	3.1	15.3	9.2	0.0	0.0	29.6	1.0
	小学校1～3年	89	10.1	18.0	1.1	15.7	11.2	7.9	0.0	36.0	0.0
	小学校4～6年	48	6.3	12.5	4.2	8.3	10.4	25.0	0.0	33.3	0.0
	中学生	5	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	10.7	10.7	0.0	14.3	7.1	19.6	0.0	37.5	0.0
	特別支援学級	71	8.5	21.1	2.8	12.7	14.1	7.0	0.0	33.8	0.0

単位：%

問 5. 療育によって伸ばしたい点

【SA】

○「言語・コミュニケーション能力」と「気持ちや情緒の安定、集団への参加」がともに 41.5%で高く、以下「認知機能や情報の処理」が9.2%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“未就学児”では「言語・コミュニケーション能力」、「小学生」は「気持ちや情緒の安定、集団への参加」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「気持ちや情緒の安定、集団への参加」が最も高くなっています。

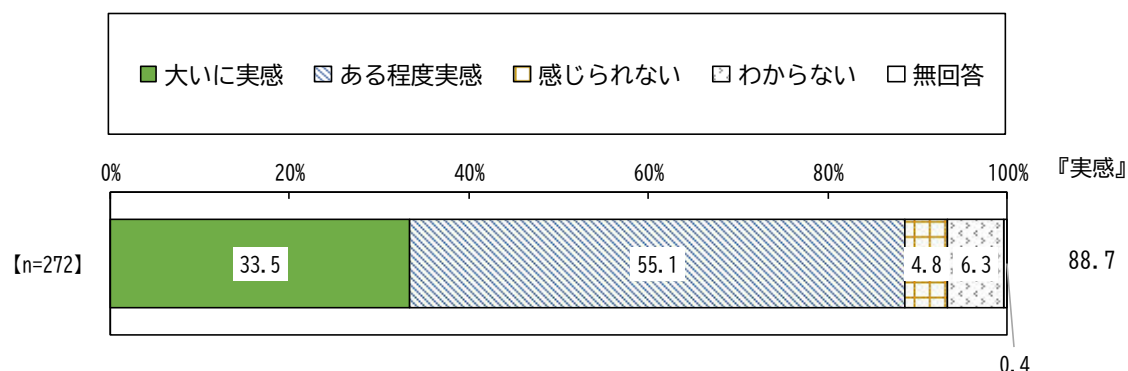
		合計(n)	食事や排せつ、衣類の着脱など生活に必要な基本的な能力	姿勢保持や運動の機能の向上、感覚の活用	認知機能や情報の処理	言語・コミュニケーション能力	気持ちや情緒の安定、集団への参加	無回答
全体		272	2.2	5.5	9.2	41.5	41.5	0.0
年齢別	1～3歳	32	9.4	9.4	3.1	56.3	21.9	0.0
	4～6歳（未就学）	98	3.1	8.2	8.2	48.0	32.7	0.0
	小学校1～3年	89	0.0	3.4	11.2	37.1	48.3	0.0
	小学校4～6年	48	0.0	2.1	8.3	29.2	60.4	0.0
	中学生	5	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	0.0	3.6	7.1	35.7	53.6	0.0
	特別支援学級	71	0.0	2.8	14.1	33.8	49.3	0.0

単位：％

問6. 療育による子どもの成長・変化の実感

【SA】

○「ある程度実感」が55.1%で最も高くなっています。「大いに実感」と「ある程度実感」を合わせた『実感』は88.7%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「ある程度実感」が最も高くなっています。『実感』は“4～6歳（未就学）”で9割半ばと他の年齢を上回ります。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「ある程度実感」が最も高くなっています。『実感』は“特別支援学級”で“通常学級”をやや上回ります。

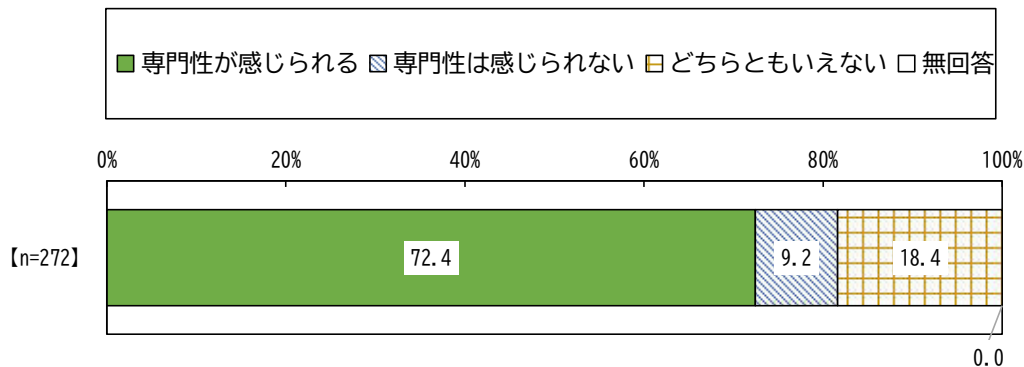
		合計(n)	大いに実感	ある程度実感	感じられない	わからない	無回答
全体		272	33.5	55.1	4.8	6.3	0.4
年齢別	1～3歳	32	37.5	50.0	6.3	3.1	3.1
	4～6歳（未就学）	98	37.8	57.1	3.1	2.0	0.0
	小学校1～3年	89	27.0	61.8	3.4	7.9	0.0
	小学校4～6年	48	35.4	39.6	10.4	14.6	0.0
	中学生	5	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	28.6	55.4	5.4	10.7	0.0
	特別支援学級	71	25.4	60.6	4.2	9.9	0.0

単位：%

問 7. 療育先のスタッフの専門性

【SA】

○「専門性が感じられる」が72.4%で最も高く、以下「どちらともいえない」が18.4%、「専門性は感じられない」が9.2%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「専門性が感じられる」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「専門性が感じられる」が最も高いものの、「専門性は感じられない」は“通常学級”で約2割と“特別支援学級”を上回ります。

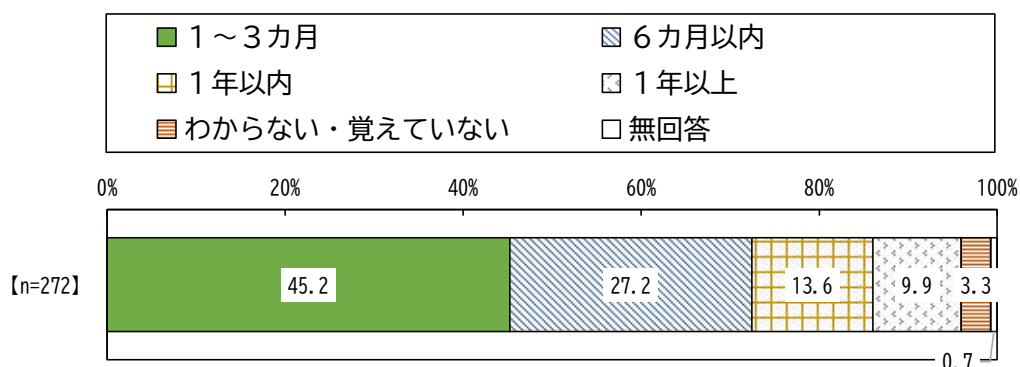
		合計(n)	専門性が感じられる	専門性は感じられない	どちらともいえない	無回答
全体		272	72.4	9.2	18.4	0.0
年齢別	1～3歳	32	78.1	0.0	21.9	0.0
	4～6歳（未就学）	98	74.5	5.1	20.4	0.0
	小学校1～3年	89	68.5	13.5	18.0	0.0
	小学校4～6年	48	70.8	14.6	14.6	0.0
	中学生	5	80.0	20.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	66.1	17.9	16.1	0.0
	特別支援学級	71	70.4	11.3	18.3	0.0

単位：％

問 8. 事業所の利用開始までに要した期間

【SA】

○「1～3 カ月」が45.2%で最も高く、以下「6 カ月以内」が27.2%、「1 年以内」が13.6%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「1～3 カ月」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「1～3 カ月」が最も高く、“通常学級”は「1～3 カ月」と「6 ヶ月以内」がそれぞれ“特別支援学級”を上回ります。

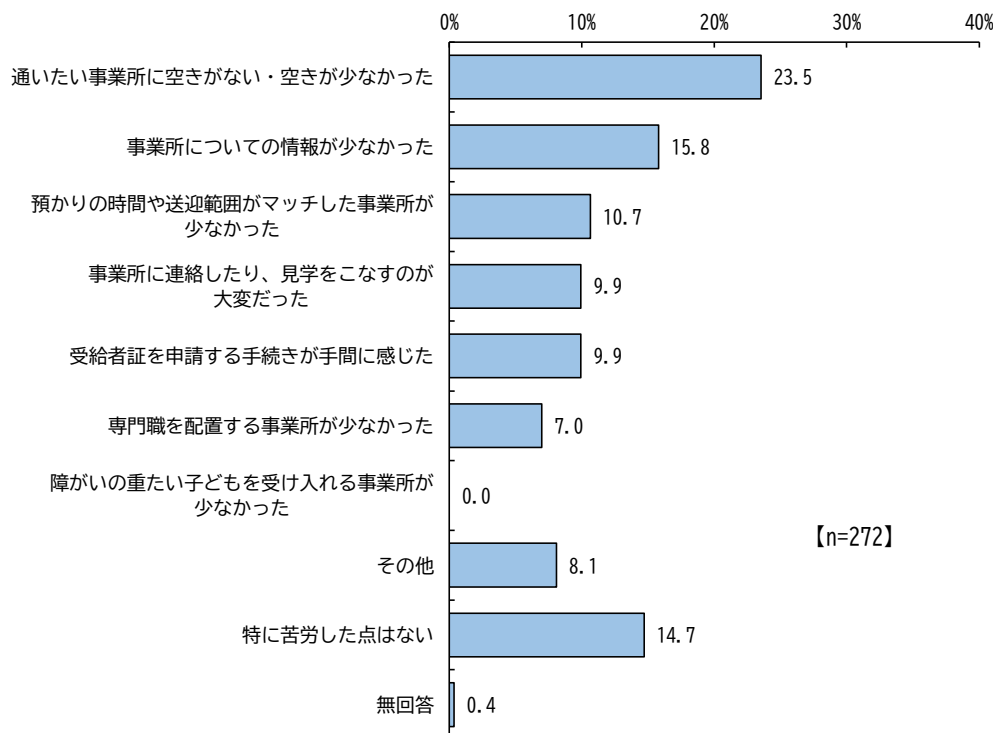
		合計(n)	1～3 カ月	6カ月 以内	1年以 内	1年以 上	わから ない・ 覚えて いない	無回答
全体		272	45.2	27.2	13.6	9.9	3.3	0.7
年 齢 別	1～3 歳	32	56.3	25.0	12.5	6.3	0.0	0.0
	4～6 歳（未就学）	98	45.9	27.6	15.3	9.2	0.0	2.0
	小学校 1～3 年	89	40.4	29.2	16.9	9.0	4.5	0.0
	小学校 4～6 年	48	41.7	27.1	6.3	14.6	10.4	0.0
	中学生	5	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
学校・ 学級	通常学級	56	46.4	28.6	12.5	10.7	1.8	0.0
	特別支援学級	71	40.8	22.5	14.1	12.7	9.9	0.0

単位：%

問 9. 事業所の利用までに苦労した点

【SA】

○「通いたい事業所に空きがない・空きが少なかった」が23.5%で最も高く、以下「事業所についての情報が少なかった」が15.8%、「預かりの時間や送迎範囲がマッチした事業所が少なかった」が10.7%となっています。一方で、「特に苦労した点はない」は14.7%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“1～3歳”は「特に苦労した点はない」、それ以上の年齢では「通いたい事業所に空きがない・空きが少なかった」が最も高くなっています。“未就学児”では「事業所に連絡したり、見学をこなすのが大変だった」、年齢が上がるほど「事業所についての情報が少なかった」の割合が高い傾向にあります。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「通いたい事業所に空きがない・空きが少なかった」が最も高くなっています。そのほか、“通常学級”は「専門職を配置する事業所が少なかった」、 “特別支援学級”は「事業所についての情報が少なかった」でやや高く、それぞれの学級を上回ります。

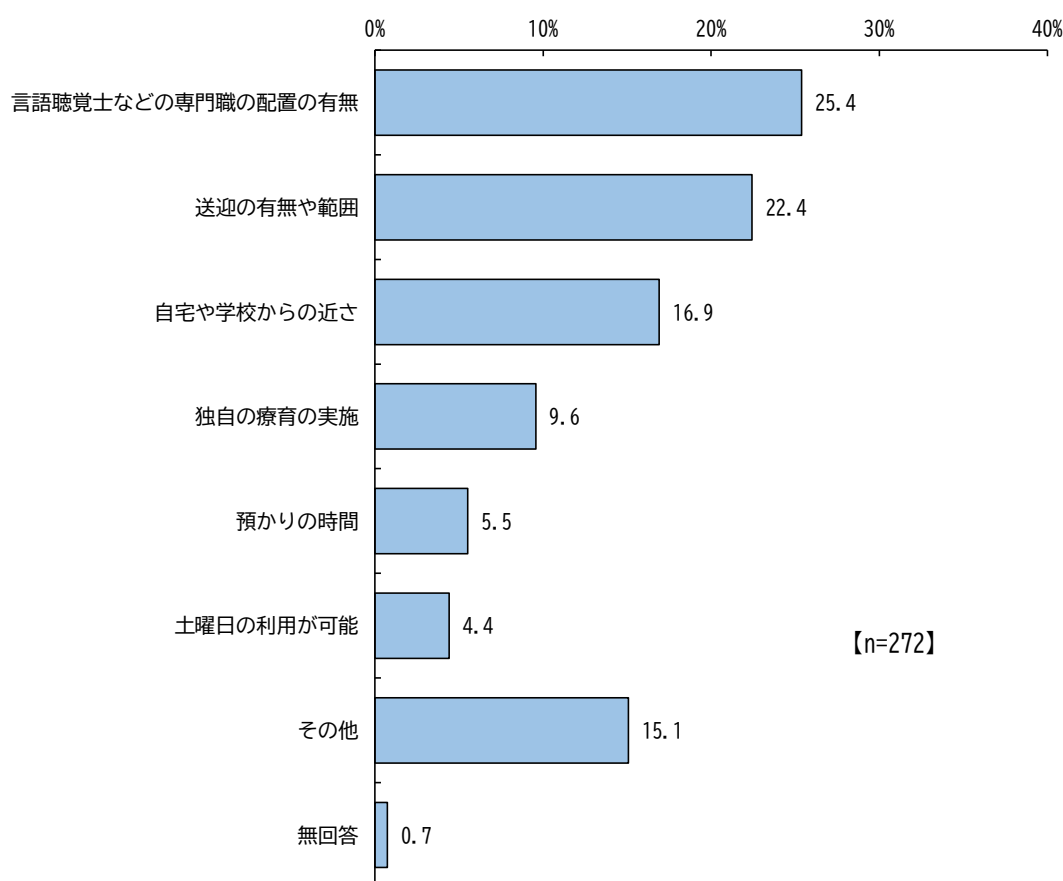
		合計(n)	通いたい事業所に空きがない・空きが少なかった	専門職を配置する事業所が少なかった	事業所についての情報が少なかった	障がいの重たい子どもを受け入れる事業所が少なかった	事業所に連絡したり、見学をこなすのが大変だった	受給者証を申請する手続きが手間に感じた	預かりの時間や送迎範囲がマッチした事業所が少なかった	その他	特に苦労した点はない	無回答
全体		272	23.5	7.0	15.8	0.0	9.9	9.9	10.7	8.1	14.7	0.4
年齢別	1～3歳	32	15.6	6.3	6.3	0.0	18.8	3.1	6.3	9.4	34.4	0.0
	4～6歳（未就学）	98	18.4	5.1	17.3	0.0	12.2	13.3	12.2	4.1	16.3	1.0
	小学校1～3年	89	31.5	10.1	16.9	0.0	9.0	5.6	9.0	11.2	6.7	0.0
	小学校4～6年	48	27.1	4.2	16.7	0.0	2.1	16.7	12.5	8.3	12.5	0.0
	中学生	5	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	32.1	14.3	14.3	0.0	5.4	10.7	7.1	7.1	8.9	0.0
	特別支援学級	71	23.9	5.6	19.7	0.0	7.0	7.0	11.3	15.5	9.9	0.0

単位：%

問10. 療育先の選定時に重視する点

【SA】

○「言語聴覚士などの専門職の配置の有無」が25.4%で最も高く、「送迎の有無や範囲」が22.4%、「自宅や学校からの近さ」が16.9%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

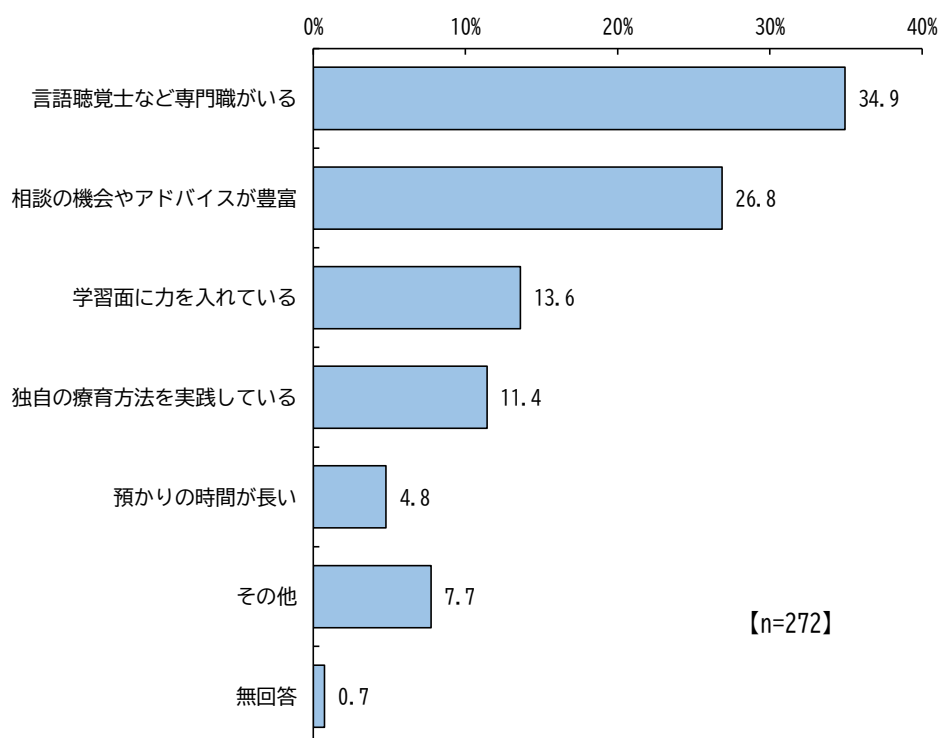
○年齢別にみると、「未就学児」は「言語聴覚士などの専門職の配置の有無」、それ以上の年齢では「送迎の有無や範囲」が最も高くなっています。また、「4～6歳（未就学）」では「自宅や学校からの近さ」が2割半ばと他の年齢を上回ります。

○在籍学級別にみると、「通常学級」では「言語聴覚士などの専門職の配置の有無」、「特別支援学級」では「送迎の有無や範囲」がそれぞれ最も高くなっています。

		合計(n)	自宅や学校からの近さ	言語聴覚士などの専門職の配置の有無	送迎の有無や範囲	預かりの時間	土曜日の利用が可能	独自の療育の実施	その他	無回答
全体		272	16.9	25.4	22.4	5.5	4.4	9.6	15.1	0.7
年齢別	1～3歳	32	9.4	34.4	18.8	6.3	3.1	3.1	25.0	0.0
	4～6歳（未就学）	98	25.5	26.5	15.3	5.1	4.1	7.1	15.3	1.0
	小学校1～3年	89	14.6	22.5	24.7	5.6	1.1	15.7	14.6	1.1
	小学校4～6年	48	10.4	22.9	33.3	6.3	10.4	8.3	8.3	0.0
	中学生	5	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	12.5	28.6	26.8	3.6	1.8	14.3	12.5	0.0
	特別支援学級	71	12.7	19.7	29.6	5.6	4.2	11.3	15.5	1.4

単位：％

○「言語聴覚士など専門職がいる」が34.9%で最も高く、以下「相談の機会やアドバイスが豊富」が26.8%、「学習面に力を入れている」が13.6%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「言語聴覚士など専門職がいる」が最も高くなっていますが、“小学生”では「相談の機会やアドバイスが豊富」や「学習面に力を入れている」が高い傾向にあります。（“小学校4～6年”は「相談の機会やアドバイスが豊富」と「言語聴覚士など専門職がいる」が同率で高い。）

○在籍学級別にみると、“通常学級”では「相談の機会やアドバイスが豊富」、「特別支援学級」では「言語聴覚士など専門職がいる」がそれぞれ最も高くなっています。

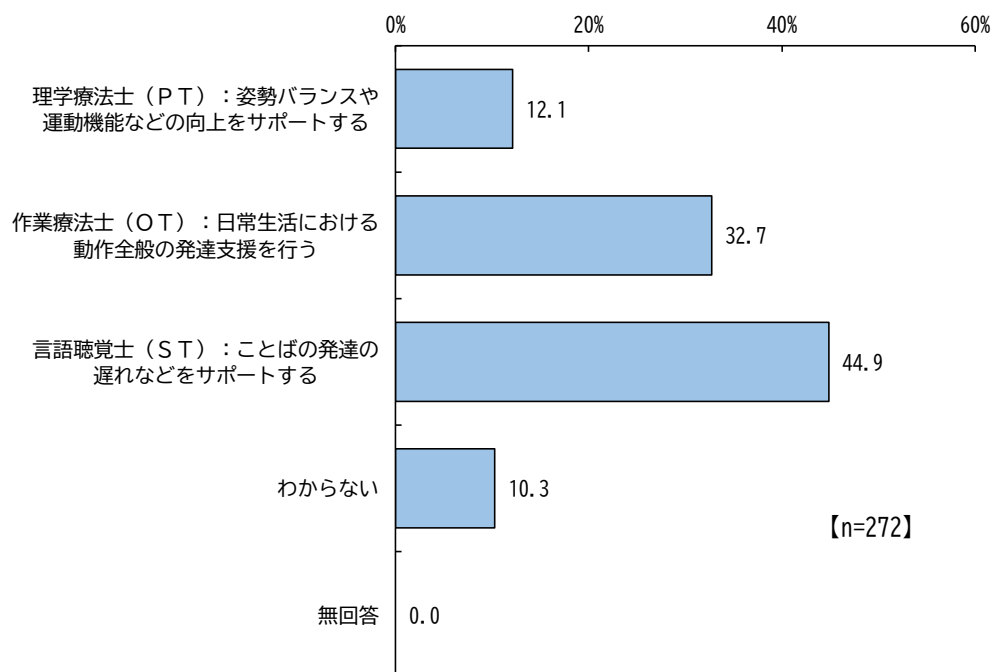
		合計(n)	独自の療育方法を実践している	相談の機会やアドバイスが豊富	言語聴覚士など専門職がいる	学習面に力を入れている	預かりの時間が長い	その他	無回答
全体		272	11.4	26.8	34.9	13.6	4.8	7.7	0.7
年齢別	1～3歳	32	9.4	21.9	56.3	0.0	3.1	6.3	3.1
	4～6歳（未就学）	98	9.2	27.6	38.8	8.2	6.1	9.2	1.0
	小学校1～3年	89	12.4	29.2	27.0	20.2	3.4	7.9	0.0
	小学校4～6年	48	16.7	25.0	25.0	20.8	6.3	6.3	0.0
	中学生	5	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	10.7	30.4	28.6	21.4	0.0	8.9	0.0
	特別支援学級	71	15.5	25.4	28.2	18.3	7.0	5.6	0.0

単位：%

問12. 事業所に配置してほしい専門職

【SA】

○「言語聴覚士（ST）：ことばの発達の遅れなどをサポートする」が44.9%、「作業療法士（OT）：日常生活における動作全般の発達支援を行う」が32.7%、「理学療法士（PT）：姿勢バランスや運動機能などの向上をサポートする」が12.1%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“未就学児”で「言語聴覚士（ST）」、“小学生”で「作業療法士（OT）」の割合が高い傾向にあります。

○在籍学級別にみると、“通常学級”では「言語聴覚士（ST）」、“特別支援学級”では「作業療法士（OT）」がそれぞれ最も高くなっています。

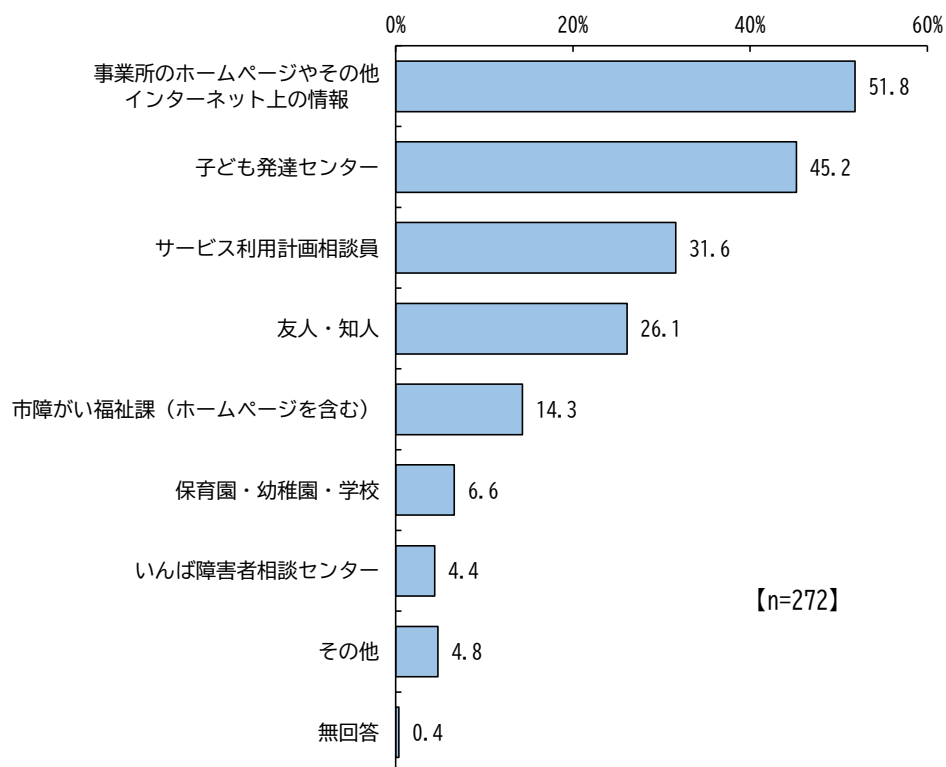
		合計(n)	理学療法士（PT）：姿勢バランスや運動機能などの向上をサポートする	作業療法士（OT）：日常生活における動作全般の発達支援を行う	言語聴覚士（ST）：ことばの発達の遅れなどをサポートする	わからない	無回答
全体		272	12.1	32.7	44.9	10.3	0.0
年齢別	1～3歳	32	0.0	25.0	68.8	6.3	0.0
	4～6歳（未就学）	98	10.2	32.7	53.1	4.1	0.0
	小学校1～3年	89	15.7	36.0	33.7	14.6	0.0
	小学校4～6年	48	12.5	35.4	35.4	16.7	0.0
	中学生	5	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	12.5	30.4	41.1	16.1	0.0
	特別支援学級	71	18.3	36.6	28.2	16.9	0.0

単位：%

問 13. 事業所の情報の入手先

【MA】

○「事業所のホームページやその他インターネット上の情報」が51.8%、「子ども発達センター」が45.2%、「サービス利用計画相談員」が31.6%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“未就学児”で「子ども発達センター」、「小学生」で「事業所のホームページやその他インターネット上の情報」が最も高くなっています。また、「友人・知人」は、年齢が上がるほど高い割合となっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「事業所のホームページやその他インターネット上の情報」が最も高く、“特別支援学級”では約6割となっています。

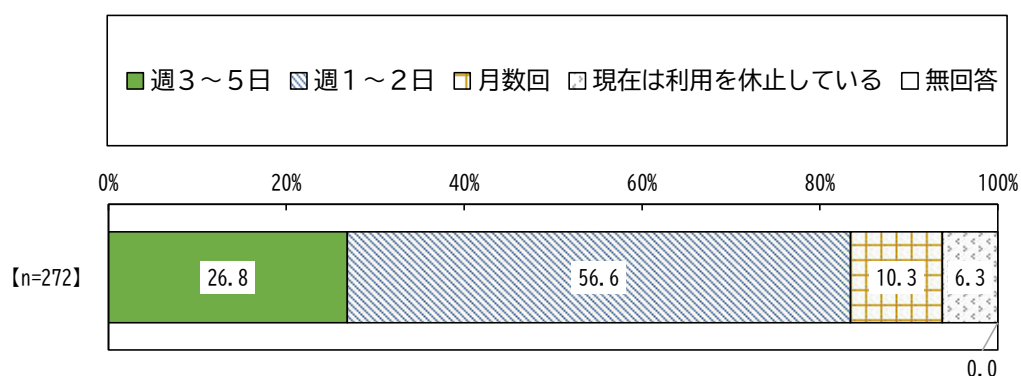
		合計(n)	事業所のホームページやその他インターネット上の情報	サービス利用計画相談員	子ども発達センター	いんば障害者相談センター	市障がい福祉課（ホームページを含む）	友人・知人	保育園・幼稚園・学校	その他	無回答
全体		272	51.8	31.6	45.2	4.4	14.3	26.1	6.6	4.8	0.4
年齢別	1～3歳	32	40.6	25.0	59.4	0.0	9.4	6.3	6.3	15.6	0.0
	4～6歳（未就学）	98	46.9	26.5	69.4	2.0	8.2	19.4	9.2	2.0	0.0
	小学校1～3年	89	64.0	38.2	33.7	3.4	21.3	31.5	3.4	3.4	1.1
	小学校4～6年	48	47.9	33.3	10.4	12.5	16.7	37.5	8.3	2.1	0.0
	中学生	5	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0	80.0	0.0	40.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	48.2	35.7	17.9	7.1	25.0	37.5	1.8	5.4	1.8
	特別支援学級	71	59.2	36.6	33.8	7.0	18.3	31.0	8.5	4.2	0.0

単位：%

問14. 現在の通所日数

【SA】

○「週1～2日」が56.6%で最も高く、以下「週3～5日」が26.8%、「月数回」が10.3%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「週1～2日」が最も高くなっています。“1～3歳”では「週3～5日」が3割半ば、“小学校4～6年生”では「月数回」が2割近く、「現在は利用を休止している」が1割半ばであるなど、年齢が上がるほど、通所頻度が低い傾向にあります。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「週1～2日」が最も高くなっています。そのほか、“特別支援学級”では「週3～5日」が4割近く、“通常学級”では「現在は利用を休止している」が2割近くと他の学級を上回ります。

		合計(n)	週3～5日	週1～2日	月数回	現在は利用を休止している	無回答
全体		272	26.8	56.6	10.3	6.3	0.0
年齢別	1～3歳	32	34.4	59.4	6.3	0.0	0.0
	4～6歳（未就学）	98	22.4	70.4	6.1	1.0	0.0
	小学校1～3年	89	29.2	53.9	10.1	6.7	0.0
	小学校4～6年	48	29.2	37.5	18.8	14.6	0.0
	中学生	5	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	16.1	51.8	14.3	17.9	0.0
	特別支援学級	71	38.0	42.3	12.7	7.0	0.0

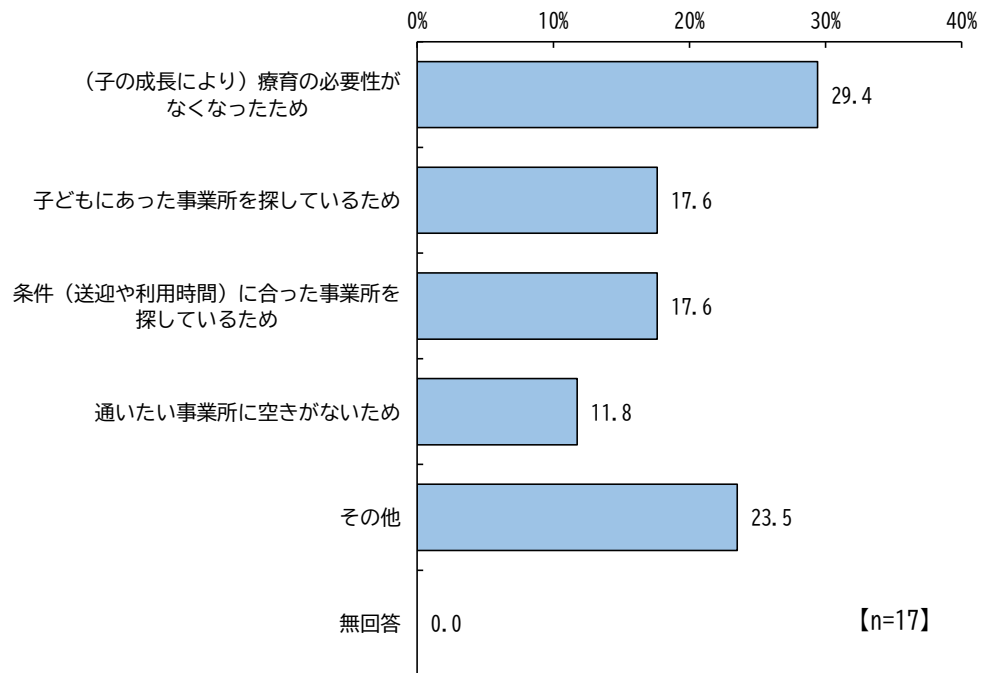
単位：%

【問 14 において「4 利用を休止している理由」を回答した方限定】

問 14-1. 利用を休止している理由

【SA】

○「（子の成長により）療育の必要性がなくなったため」が 29.4%で最も高く、以下「子どもにあった事業所を探しているため」と「条件（送迎や利用時間）に合った事業所を探しているため」がともに 17.6%となっています。



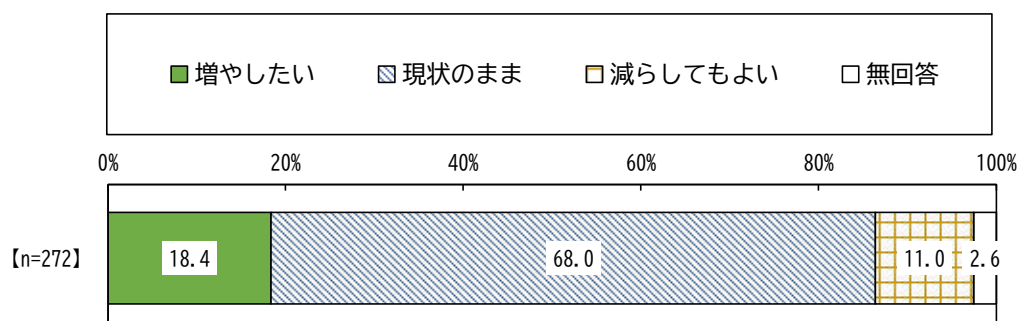
【「その他」の主な回答】

- ・子どもが行きたがらない
- ・下校時刻が遅くなったため 等

問15. 今後の通所日数

【SA】

○「現状のまま」が68.0%で最も高く、以下「増やしたい」が18.4%、「減らしてもよい」が11.0%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「現状のまま」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「現状のまま」が最も高いものの、“特別支援学級”では「増やしたい」、「通常学級」では「減らしてもよい」がやや高い傾向にあります。

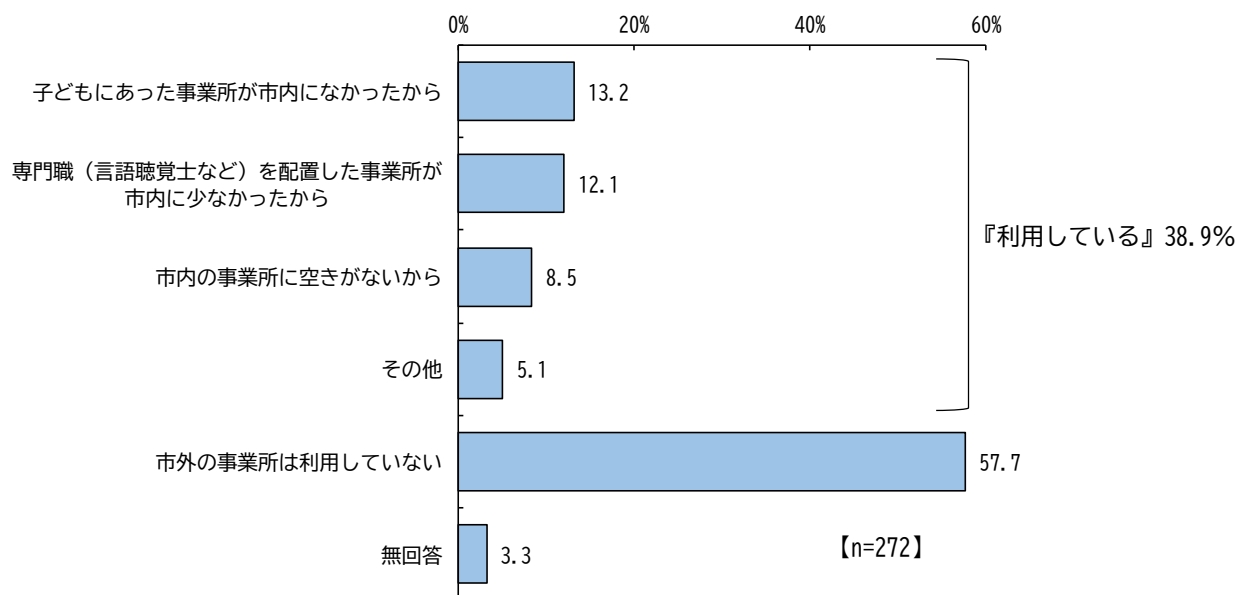
		合計(n)	増やしたい	現状のまま	減らしてもよい	無回答
全体		272	18.4	68.0	11.0	2.6
年齢別	1～3歳	32	18.8	71.9	9.4	0.0
	4～6歳（未就学）	98	18.4	67.3	11.2	3.1
	小学校1～3年	89	21.3	65.2	11.2	2.2
	小学校4～6年	48	14.6	68.8	12.5	4.2
	中学生	5	0.0	100.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	14.3	64.3	16.1	5.4
	特別支援学級	71	22.5	69.0	7.0	1.4

単位：％

問 16. 市外の事業所を利用する理由

【SA】

○「子どもにあった事業所が市内になかったから」が13.2%で最も高く、以下「専門職（言語聴覚士など）を配置した事業所が市内に少なかったから」が12.1%、「市内の事業所に空きがないから」が8.5%であり、「その他」を含め、市外事業所を『利用している』割合は38.9%となっています。一方で、「市外の事業所は利用していない」は57.7%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「市外の事業所は利用していない」が最も高くなっています。市外の事業所を『利用している』割合は、“1～3歳”で5割近くなど、年齢が低いほど高い傾向にあります。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「市外の事業所は利用していない」が最も高くなっています。市外の事業所を『利用している』割合は、“特別支援学級”が4割近くで“通常学級”を上回ります。

		合計(n)	市内の事業所に空きがないから	子どもにあった事業所が市内になかったから	専門職（言語聴覚士など）を配置した事業所が市内に少なかったから	その他	市外の事業所は利用していない	無回答
全体		272	8.5	13.2	12.1	5.1	57.7	3.3
年齢別	1～3歳	32	3.1	18.8	15.6	9.4	43.8	9.4
	4～6歳（未就学）	98	12.2	14.3	8.2	7.1	54.1	4.1
	小学校1～3年	89	9.0	7.9	18.0	2.2	60.7	2.2
	小学校4～6年	48	4.2	14.6	8.3	4.2	68.8	0.0
	中学生	5	0.0	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	7.1	12.5	12.5	1.8	62.5	3.6
	特別支援学級	71	8.5	8.5	18.3	4.2	60.6	0.0

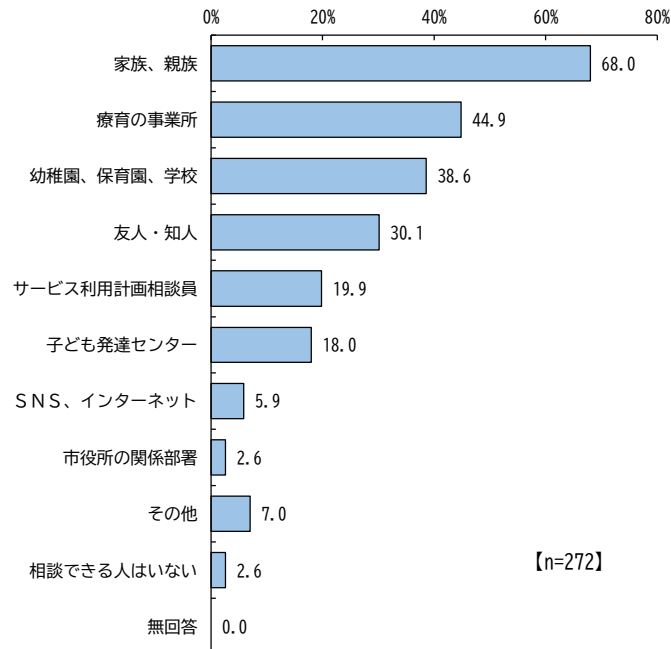
単位：％

3. 保護者のことについて

問17. 子育ての主な相談先

【MA】

○「家族、親族」が68.0%で最も高く、以下「療育の事業所」44.9%、「幼稚園、保育園、学校」が38.6%、「友人・知人」が30.1%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「家族、親族」が最も高くなっています。そのほか、“未就学児”で「子ども発達センター」、「4～6歳（未就学）」で「幼稚園、保育園、学校」、「小学校4～6年」で「サービス利用計画相談員」の割合が他の年齢に比べ高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「家族、親族」が最も高くなっています。そのほか、“通常学級”で「療育の事業所」が5割半ば、“特別支援学級”で「幼稚園、保育園、学校」が約4割と高くなっています。

		合計(n)	家族、親族	子ども発達センター	市役所の関係部署	幼稚園、保育園、学校	サービス利用計画相談員	療育の事業所
全体		272	68.0	18.0	2.6	38.6	19.9	44.9
年齢別	1～3歳	32	78.1	34.4	3.1	31.3	9.4	53.1
	4～6歳（未就学）	98	75.5	32.7	1.0	49.0	11.2	38.8
	小学校1～3年	89	64.0	5.6	2.2	32.6	22.5	52.8
	小学校4～6年	48	54.2	2.1	4.2	37.5	39.6	37.5
	中学生	5	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	40.0
学校・学級	通常学級	56	62.5	1.8	3.6	19.6	30.4	55.4
	特別支援学級	71	60.6	5.6	4.2	40.8	22.5	45.1

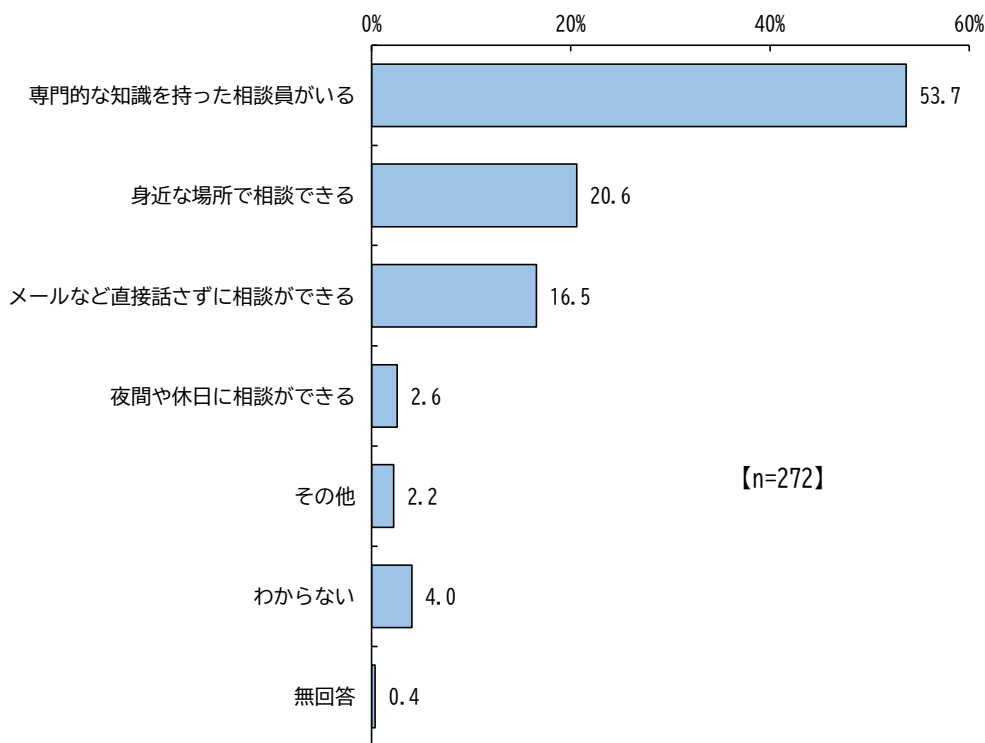
		合計(n)	友人・知人	SNS、インターネット	その他	相談できる人はいない	無回答
全体		272	30.1	5.9	7.0	2.6	0.0
年齢別	1～3歳	32	12.5	3.1	6.3	3.1	0.0
	4～6歳（未就学）	98	30.6	3.1	1.0	2.0	0.0
	小学校1～3年	89	33.7	9.0	9.0	3.4	0.0
	小学校4～6年	48	33.3	4.2	12.5	2.1	0.0
	中学生	5	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	35.7	8.9	16.1	1.8	0.0
	特別支援学級	71	31.0	9.9	7.0	4.2	0.0

単位：％

問 18. 相談しやすい相談窓口

【SA】

○「専門的な知識を持った相談員がいる」が53.7%で最も高く、以下「身近な場所で相談できる」が20.6%、「メールなど直接話さずに相談ができる」が16.5%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「専門的な知識を持った相談員がいる」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「専門的な知識を持った相談員がいる」が最も高く、“通常学級”では6割半ばとなっています。“特別支援学級”では「身近な場所で相談できる」が2割半ばでやや高くなっています。

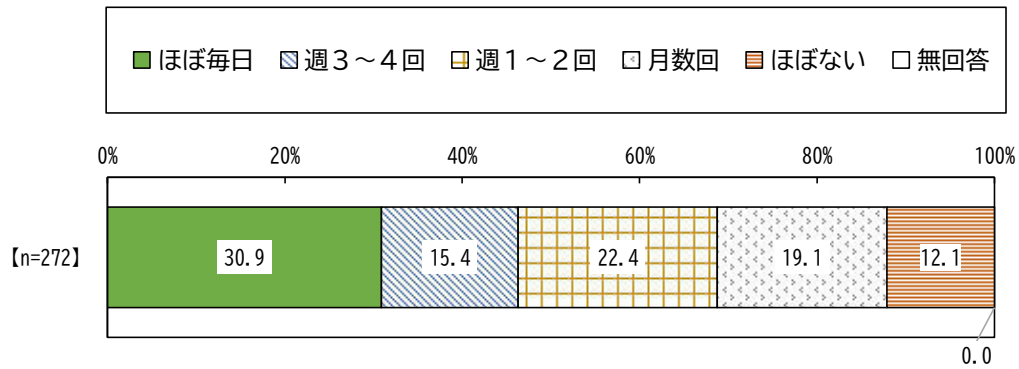
		合計(n)	身近な 場所で 相談で きる	専門的 な知識 を持った 相談員 がいる	メール など直 接話さ ずに相 談がで きる	夜間や 休日に 相談が できる	その他	わから ない	無回答
全体		272	20.6	53.7	16.5	2.6	2.2	4.0	0.4
年齢別	1～3歳	32	21.9	50.0	12.5	6.3	3.1	6.3	0.0
	4～6歳（未就学）	98	22.4	51.0	20.4	2.0	2.0	2.0	0.0
	小学校1～3年	89	20.2	49.4	20.2	2.2	3.4	3.4	1.1
	小学校4～6年	48	18.8	66.7	4.2	2.1	0.0	8.3	0.0
	中学生	5	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	14.3	64.3	14.3	0.0	3.6	3.6	0.0
	特別支援学級	71	23.9	46.5	18.3	2.8	1.4	5.6	1.4

単位：%

問19. 子どもと接することで強いストレスを感じる頻度

【SA】

○「ほぼ毎日」が30.9%で最も高く、以下「週1～2回」が22.4%、「月数回」が19.1%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「ほぼ毎日」が最も高いものの、“通常学級”では「週1～2回」が約2割、“特別支援学級”では「週3～4回」が約3割とそれぞれの学級を上回ります。

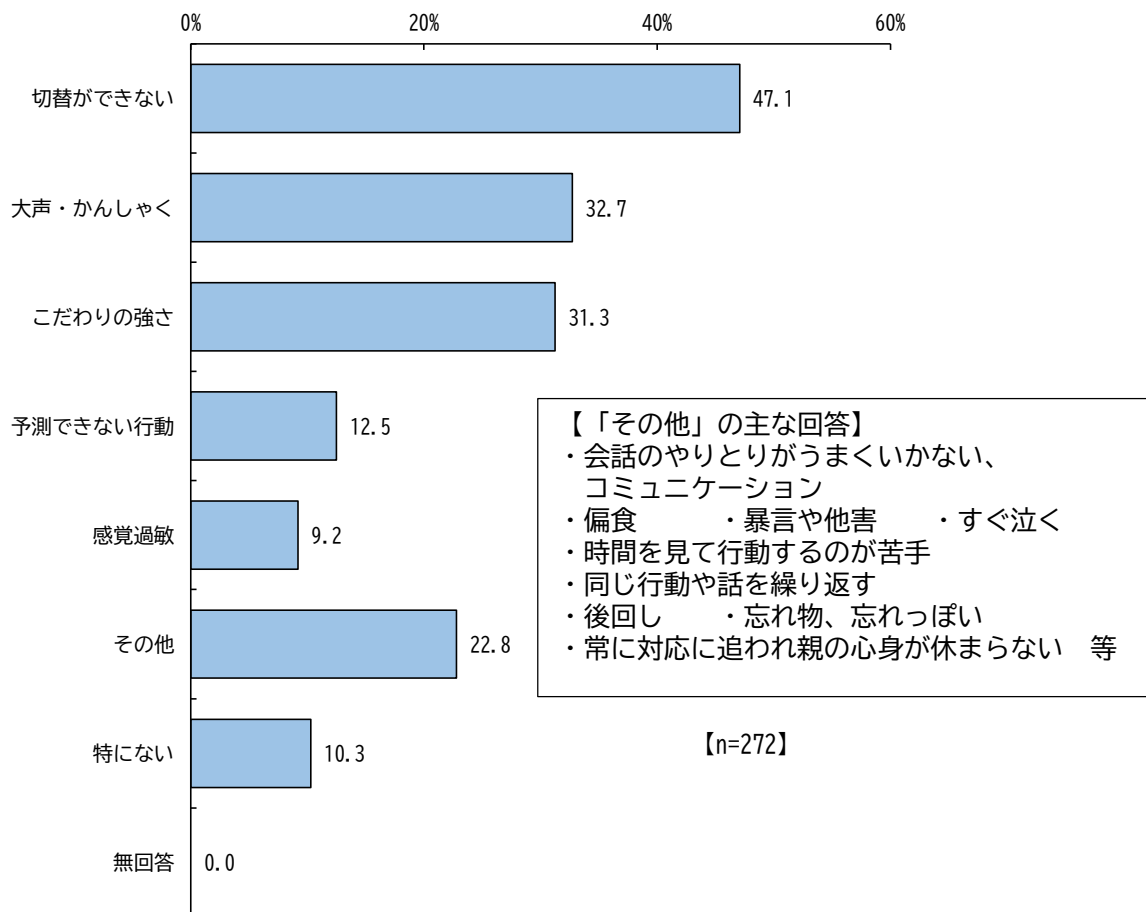
		合計(n)	ほぼ毎日	週3～4回	週1～2回	月数回	ほぼない	無回答
全体		272	30.9	15.4	22.4	19.1	12.1	0.0
年齢別	1～3歳	32	25.0	3.1	25.0	21.9	25.0	0.0
	4～6歳(未就学)	98	31.6	18.4	23.5	13.3	13.3	0.0
	小学校1～3年	89	30.3	18.0	20.2	24.7	6.7	0.0
	小学校4～6年	48	33.3	12.5	25.0	18.8	10.4	0.0
	中学生	5	40.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	30.4	10.7	28.6	21.4	8.9	0.0
	特別支援学級	71	32.4	19.7	18.3	22.5	7.0	0.0

単位：％

問 20. ストレスを感じる子どもの特性

【MA】

○「切替ができない」が47.1%で最も高く、以下「大声・かんしゃく」が32.7%、「こだわりの強さ」が31.3%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「切替ができない」、「4～6歳（未就学）」で「大声・かんしゃく」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「切替ができない」が最も高くなっています。そのほか、“通常学級”では「こだわりの強さ」、「特別支援学級」では「大声・かんしゃく」が3割を超えて高くなっています。

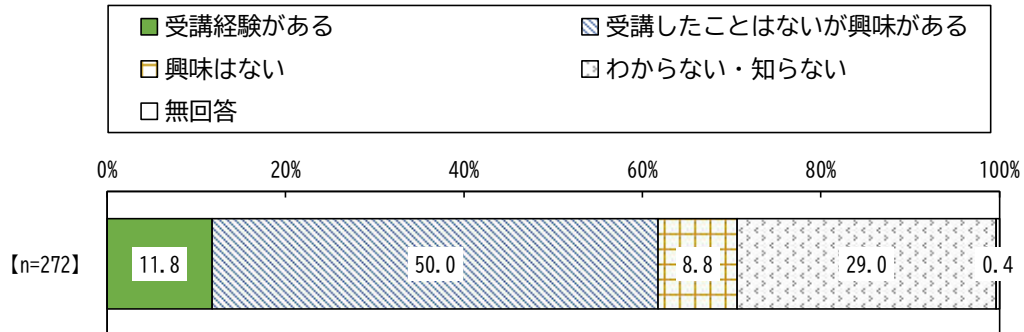
		合計(n)	こだわりの強さ	大声・かんしゃく	切替ができない	予測できない行動	感覚過敏	その他	特にない	無回答
全体		272	31.3	32.7	47.1	12.5	9.2	22.8	10.3	0.0
年齢別	1～3歳	32	25.0	25.0	34.4	18.8	3.1	15.6	25.0	0.0
	4～6歳（未就学）	98	32.7	41.8	38.8	12.2	7.1	15.3	11.2	0.0
	小学校1～3年	89	32.6	32.6	52.8	12.4	13.5	31.5	3.4	0.0
	小学校4～6年	48	27.1	22.9	60.4	8.3	8.3	27.1	10.4	0.0
	中学生	5	60.0	0.0	60.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	32.1	28.6	50.0	7.1	10.7	32.1	8.9	0.0
	特別支援学級	71	26.8	32.4	57.7	12.7	12.7	31.0	5.6	0.0

単位：％

問21. 「ペアレント・トレーニング」について

【SA】

○「受講したことはないが興味がある」が50.0%で最も高く、以下「わからない・知らない」が29.0%、「受講経験がある」が11.8%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“1～3歳”では「わからない・知らない」、それ以外の年齢では「受講したことはないが興味がある」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「受講したことはないが興味がある」が最も高くなっています。そのほか、“通常学級”では「受講経験がある」が2割半ば、“特別支援学級”では「わからない・知らない」が2割以上とそれぞれの学級を上回っています。

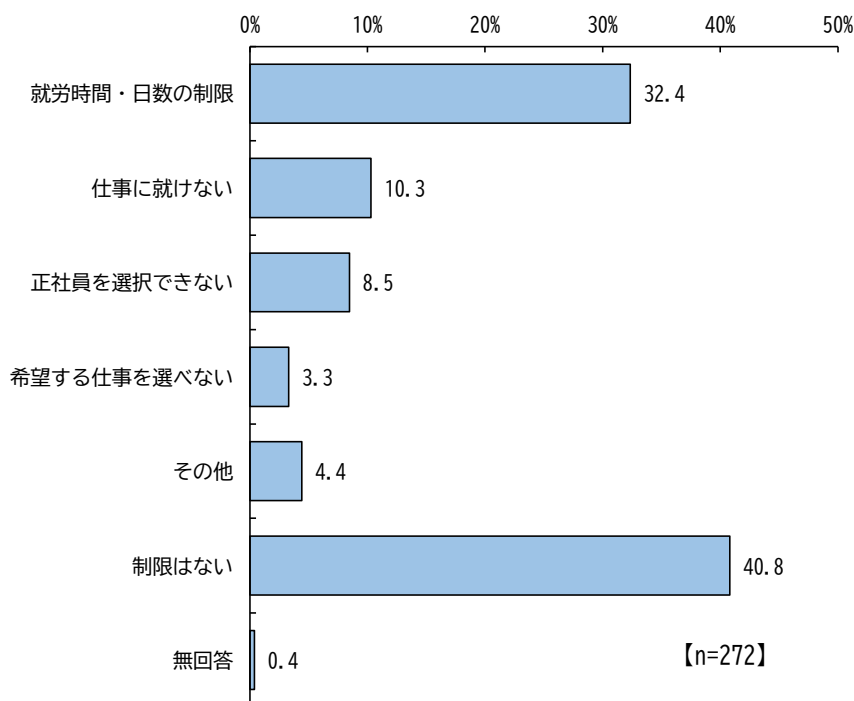
		合計(n)	受講経験がある	受講したことはないが興味がある	興味はない	わからない・知らない	無回答
全体		272	11.8	50.0	8.8	29.0	0.4
年齢別	1～3歳	32	0.0	40.6	6.3	53.1	0.0
	4～6歳（未就学）	98	8.2	48.0	9.2	34.7	0.0
	小学校1～3年	89	11.2	53.9	11.2	22.5	1.1
	小学校4～6年	48	27.1	52.1	6.3	14.6	0.0
	中学生	5	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	25.0	46.4	10.7	16.1	1.8
	特別支援学級	71	11.3	56.3	8.5	23.9	0.0

単位：%

問 22. 子どもの特性による保護者の就労制限

【SA】

○「就労時間・日数の制限」が32.4%で最も高く、以下「仕事に就けない」が10.3%、「正社員を選択できない」が8.5%となっています。一方で、「制限はない」は40.8%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「制限はない」が最も高くなっています。（“1～3歳”では「就労時間・日数の制限」と「制限はない」が同率で高い。）

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「制限はない」が最も高く、次いで「就労時間・日数の制限」がそれぞれ3割を超え高い傾向にあります。“特別支援学級”では「仕事に就けない」が“通常学級”を大きく上回ります。

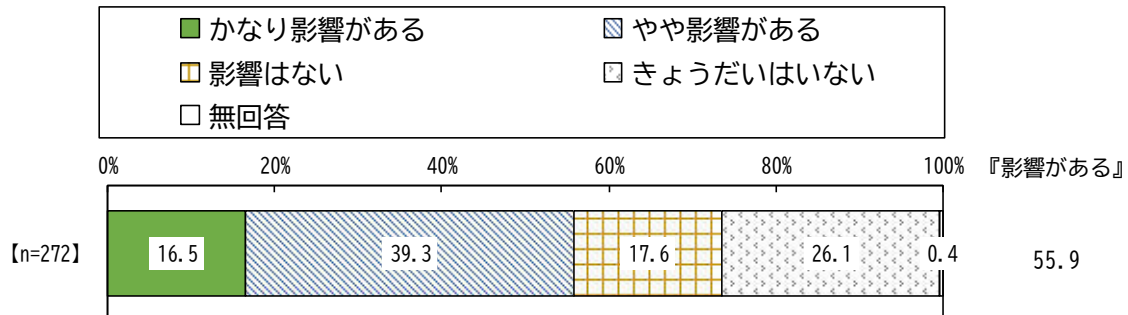
		合計(n)	仕事に 就けな い	就労時 間・日 数の制 限	正社員 を選択 できな い	希望す る仕事 を選べ ない	その他	制限は ない	無回答
全体		272	10.3	32.4	8.5	3.3	4.4	40.8	0.4
年 齢 別	1～3歳	32	6.3	37.5	6.3	6.3	6.3	37.5	0.0
	4～6歳（未就学）	98	9.2	31.6	9.2	2.0	5.1	42.9	0.0
	小学校1～3年	89	13.5	32.6	7.9	2.2	3.4	39.3	1.1
	小学校4～6年	48	8.3	27.1	10.4	6.3	4.2	43.8	0.0
	中学生	5	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
学校・ 学級	通常学級	56	7.1	33.9	10.7	1.8	8.9	37.5	0.0
	特別支援学級	71	16.9	31.0	8.5	5.6	0.0	36.6	1.4

単位：%

問 23. 子どもの特性によるきょうだい児の子育てへの影響

【S A】

○「やや影響がある」が 39.3%で最も高くなっています。「かなり影響がある」と「やや影響がある」を合わせた『影響がある』は 55.9%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“1～3歳”では「きょうだいはいない」、それ以外の年齢では「やや影響がある」が最も高くなっています。『影響がある』は、“未就学児”が4割台であるのに対し、“小学生”では6割を超え高くなっています。

○在籍学級別にみると、“通常学級”では「かなり影響がある」が3割を超えて高くなっています。『影響がある』は、“通常学級”が約7割と、“特別支援学級”の6割を上回ります。

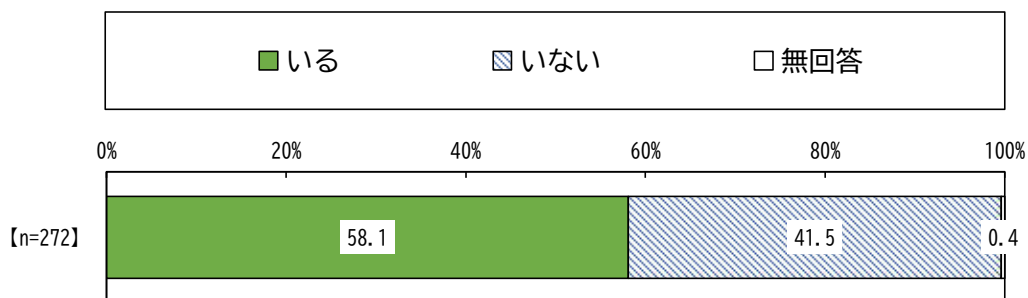
		合計(n)	かなり影響がある	やや影響がある	影響はない	きょうだいはいない	無回答
全体		272	16.5	39.3	17.6	26.1	0.4
年齢別	1～3歳	32	18.8	21.9	12.5	46.9	0.0
	4～6歳(未就学)	98	5.1	41.8	23.5	29.6	0.0
	小学校1～3年	89	23.6	42.7	12.4	20.2	1.1
	小学校4～6年	48	22.9	37.5	20.8	18.8	0.0
	中学生	5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	33.9	35.7	12.5	17.9	0.0
	特別支援学級	71	18.3	42.3	15.5	22.5	1.4

単位：%

問 24. 保護者の入院時などの子どもの預け先

【SA】

○「いる」が58.1%、「いない」が41.5%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“未就学児”では「いる」が最も高くなっているものの、“小学生”では「いる」と「いない」が同率となっています。

○在籍学級別にみると、“特別支援学級”では「いない」が最も高く、“通常学級”では「いる」と「いない」が5割で同率となっています。

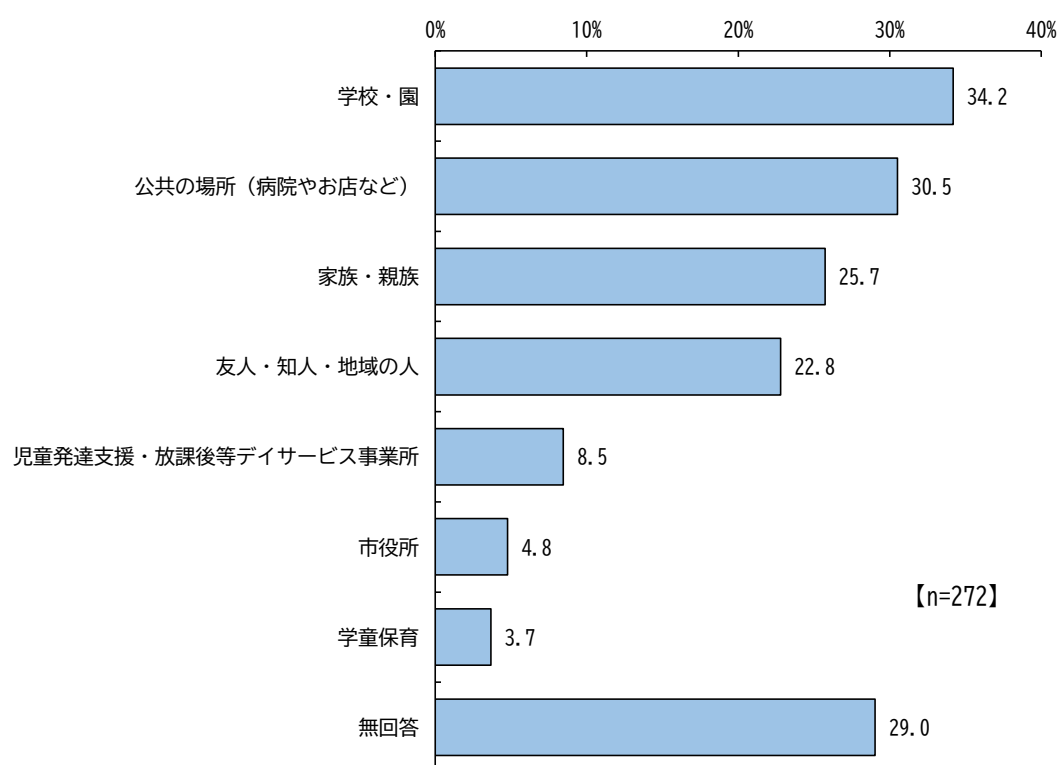
		合計(n)	いる	いない	無回答
全体		272	58.1	41.5	0.4
年齢別	1～3歳	32	78.1	21.9	0.0
	4～6歳（未就学）	98	64.3	35.7	0.0
	小学校1～3年	89	49.4	49.4	1.1
	小学校4～6年	48	50.0	50.0	0.0
	中学生	5	40.0	60.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	50.0	50.0	0.0
	特別支援学級	71	46.5	52.1	1.4

単位：%

問 25. 子どもの特性への理解の無い対応の経験

【MA】

○「学校・園」が 34.2%で最も高く、以下「公共の場所（病院やお店など）」が 30.5%、「家族、親族」が 25.7%、「友人・知人・地域の人」が 22.8%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

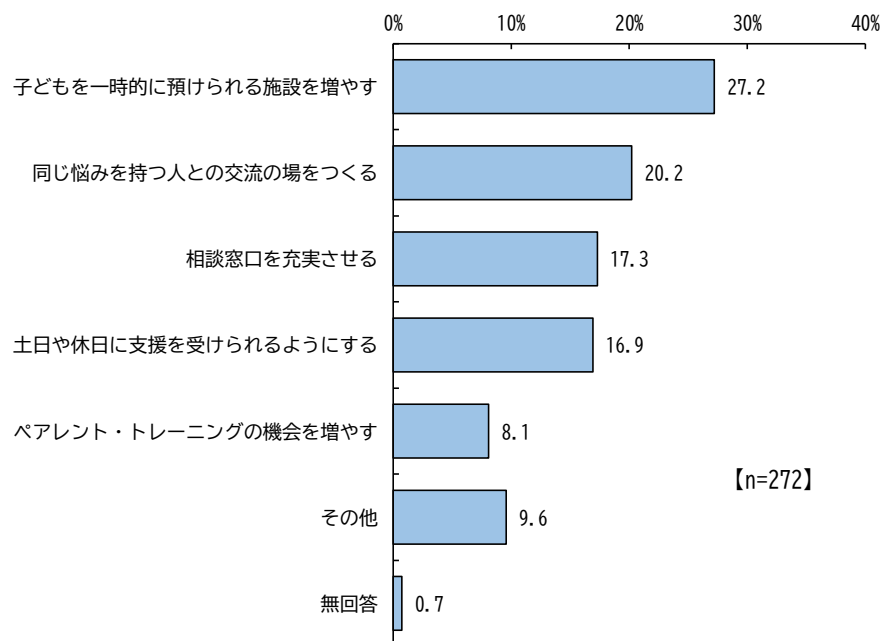
○年齢別にみると、“未就学児”では「公共の場所（病院やお店など）」、「小学生」では「学校・園」が最も高くなっています。（“1～3歳”では「公共の場所（病院やお店など）」と「家族・親族」が同率で高い。）

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「学校・園」が最も高く、ほぼ同率の一方、“特別支援学級”では「公共の場所（病院やお店など）」が3割半ばとやや高くなっています。

		合計(n)	学校・園	公共の場所 (病院やお店など)	市役所	児童発達支援・放課後等 デイサービス事業所	学童保育	家族・親族	友人・知人・ 地域の人	無回答
全体		272	34.2	30.5	4.8	8.5	3.7	25.7	22.8	29.0
年齢別	1～3歳	32	12.5	21.9	9.4	0.0	0.0	21.9	12.5	46.9
	4～6歳（未就学）	98	19.4	30.6	3.1	8.2	0.0	19.4	17.3	38.8
	小学校1～3年	89	48.3	36.0	6.7	11.2	6.7	32.6	29.2	18.0
	小学校4～6年	48	50.0	25.0	0.0	10.4	8.3	22.9	25.0	20.8
	中学生	5	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	80.0	60.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	50.0	30.4	5.4	7.1	7.1	32.1	28.6	17.9
	特別支援学級	71	49.3	36.6	5.6	14.1	7.0	33.8	31.0	15.5

単位：％

○「子どもを一時的に預けられる施設を増やす」が27.2%で最も高く、以下「同じ悩みを持つ人との交流の場をつくる」が20.2%、「相談窓口を充実させる」が17.3%、「土日や休日に支援を受けられるようにする」が16.9%となっています。



【「その他」の主な回答】

- ・子どもと関わる医師やPT（理学療法士）・ST（言語聴覚士）等の専門職、学校担任等での間のカンファレンスや知識を共有する機会
- ・市民と教員の特性への理解促進
- ・教員（支援級だけでなく）に特性についての教育や対応方法など、知識や理解を深める場
- ・特性のある子の学校の選択肢や進路選択等の情報発信 等

【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“1～3歳”では「同じ悩みを持つ人との交流の場をつくる」、「4～6歳（未就学児）」と“小学1～3年”では「子どもを一時的に預けられる施設を増やす」、「小学4～6年」では「相談窓口を充実させる」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、“特別支援学級”では「子どもを一時的に預けられる施設を増やす」が最も高くなっているものの、“通常学級”では「相談窓口を充実させる」と「同じ悩みを持つ人との交流の場をつくる」が同率となっています。

		合計(n)	相談窓口を充実させる	ペアレント・トレーニングの機会を増やす	土日や休日に支援を受けられるようにする	子どもを一時的に預けられる施設を増やす	同じ悩みを持つ人との交流の場をつくる	その他	無回答
全体		272	17.3	8.1	16.9	27.2	20.2	9.6	0.7
年齢別	1～3歳	32	9.4	6.3	25.0	21.9	37.5	0.0	0.0
	4～6歳（未就学）	98	17.3	8.2	19.4	29.6	15.3	10.2	0.0
	小学校1～3年	89	16.9	7.9	13.5	31.5	19.1	10.1	1.1
	小学校4～6年	48	25.0	8.3	10.4	20.8	22.9	10.4	2.1
	中学生	5	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	40.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	21.4	14.3	14.3	17.9	21.4	10.7	0.0
	特別支援学級	71	16.9	2.8	12.7	35.2	18.3	11.3	2.8

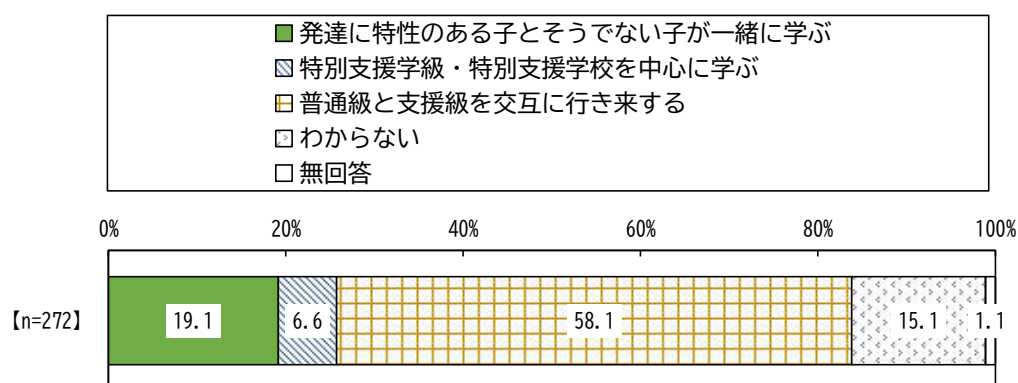
単位：%

4. 教育などについて

問 27. 発達特性のある子どもの学校教育について

【SA】

○「普通級と支援級を交互に行き来する」が58.1%で最も高く、以下「発達に特性のある子とそうでない子が一緒に学ぶ」が19.1%、「わからない」が15.1%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「普通級と支援級を交互に行き来する」が最も高くなっています。

また、“1～3歳”では「わからない」が3割半ばと他の年齢を大きく上回ります。

○年齢別にみると、いずれの学級も「普通級と支援級を交互に行き来する」が最も高く、“特別支援学級”では約7割と高くなっています。“通常学級”では「発達に特性のある子とそうでない子が一緒に学ぶ」が3割近くと“特別支援学級”を大きく上回ります。

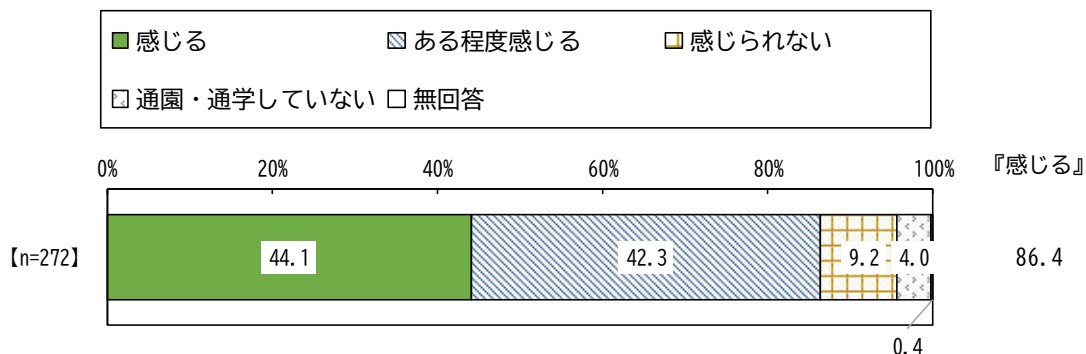
		合計(n)	発達に特性のある子とそうでない子が一緒に学ぶ	特別支援学級・特別支援学校を中心に学ぶ	普通級と支援級を交互に行き来する	わからない	無回答
全体		272	19.1	6.6	58.1	15.1	1.1
年齢別	1～3歳	32	18.8	6.3	40.6	34.4	0.0
	4～6歳（未就学）	98	18.4	11.2	56.1	14.3	0.0
	小学校1～3年	89	16.9	3.4	65.2	12.4	2.2
	小学校4～6年	48	25.0	4.2	60.4	8.3	2.1
	中学生	5	20.0	0.0	60.0	20.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	26.8	1.8	55.4	12.5	3.6
	特別支援学級	71	14.1	5.6	69.0	9.9	1.4

単位：%

問 28. 所属の学校や園の発達特性への対応について

【SA】

○「感じる」が44.1%、「ある程度感じる」が42.3%であり、「感じる」と「ある程度感じる」を合わせた『感じる』は86.4%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“未就学児”で「感じる」、「小学生」で「ある程度感じる」が最も高くなっています。『感じる』割合は、“小学校4～6年”で9割を超え、他の年齢を大きく上回ります。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「ある程度感じる」が最も高くなっています（“特別支援学級”は「感じる」と「ある程度感じる」が同率で高い。）。『感じる』割合は、“特別支援学級”で9割を超え、“通常学級”を上回ります。

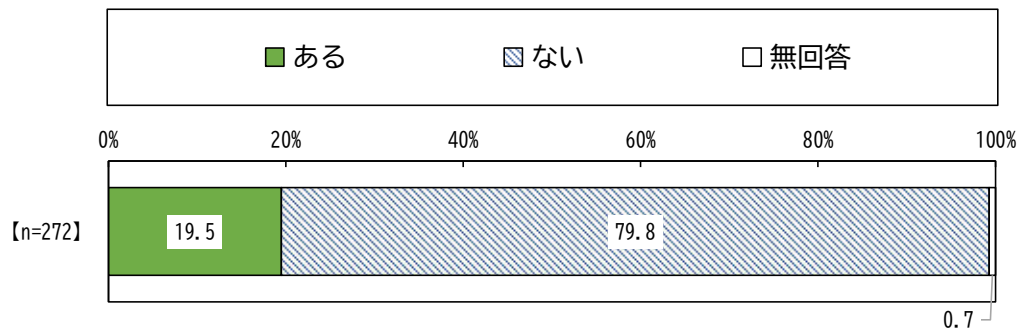
		合計(n)	感じる	ある程度感じる	感じられない	通園・通学していない	無回答
全体		272	44.1	42.3	9.2	4.0	0.4
年齢別	1～3歳	32	40.6	28.1	3.1	28.1	0.0
	4～6歳（未就学）	98	51.0	35.7	12.2	1.0	0.0
	小学校1～3年	89	43.8	44.9	9.0	1.1	1.1
	小学校4～6年	48	37.5	58.3	4.2	0.0	0.0
	中学生	5	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	33.9	51.8	14.3	0.0	0.0
	特別支援学級	71	46.5	46.5	4.2	1.4	1.4

単位：％

問 29. 子どもの不登校・園の経験

【SA】

○「ある」が19.5%、「ない」が79.8%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「ない」が「ある」を上回るものの、年齢が上がるほど「ある」割合が高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「ない」が最も高くなっています。“特別支援学級”は「ある」が3割近くと“通常学級”をやや上回ります。

		合計(n)	ある	ない	無回答
全体		272	19.5	79.8	0.7
年齢別	1～3歳	32	0.0	96.9	3.1
	4～6歳（未就学）	98	13.3	86.7	0.0
	小学校1～3年	89	22.5	76.4	1.1
	小学校4～6年	48	35.4	64.6	0.0
	中学生	5	60.0	40.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	23.2	76.8	0.0
	特別支援学級	71	26.8	71.8	1.4

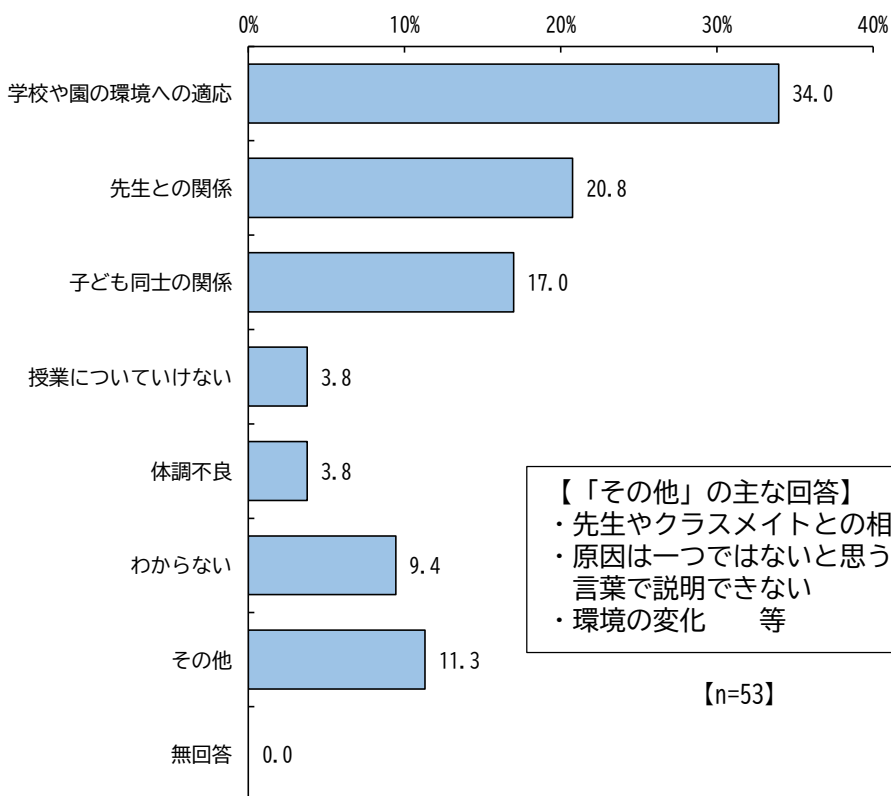
単位：％

【問 29 において「I ある」を回答した方限定】

問 29-1. 不登校・園の原因

【SA】

○「学校や園の環境への適応」が 34.0%で最も高く、以下「先生との関係」が 20.8%、「子ども同士の関係」が 17.0%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“4～6歳（未就学）”と“小学校1～3年”では「学校や園の環境への適応」、
“小学校4～6年”では「先生との関係」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「学校や園の環境への適応」が最も高くなっています。（“通常学級”は「先生との関係」と「学校や園の環境への適応」が同率で高い。）。

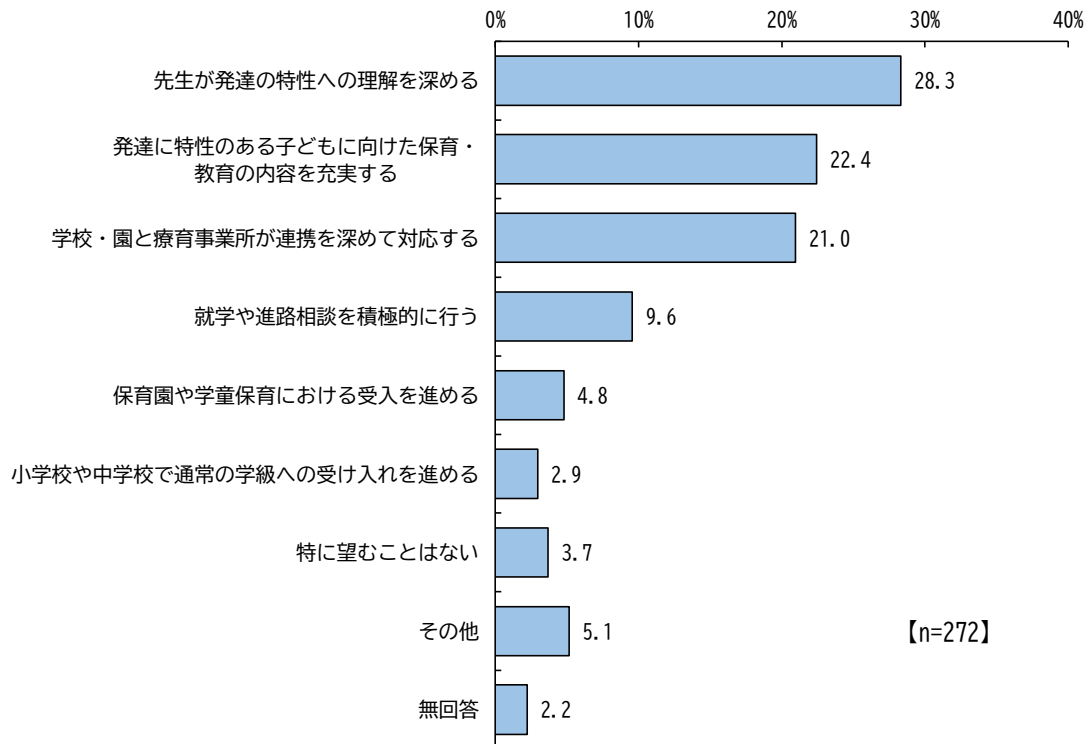
		合計(n)	子ども 同士の 関係	先生と の関係	授業に ついて いけない	体調不 良	学校や 園の環 境への 適応	わから ない	その他	無回答
全体		272	17.0	20.8	3.8	3.8	34.0	9.4	11.3	0.0
年齢 別	1～3歳	32	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4～6歳（未就学）	98	15.4	7.7	0.0	15.4	30.8	7.7	23.1	0.0
	小学校1～3年	89	15.0	20.0	5.0	0.0	50.0	10.0	0.0	0.0
	小学校4～6年	48	17.6	29.4	5.9	0.0	17.6	11.8	17.6	0.0
	中学生	5	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
学校・ 学級	通常学級	13	15.4	30.8	0.0	0.0	30.8	7.7	15.4	0.0
	特別支援学級	19	15.8	15.8	5.3	0.0	42.1	15.8	5.3	0.0

単位：％

問 30. 教育など、市に優先してほしい取組

【SA】

○「先生が発達の特性への理解を深める」が28.3%で最も高く、以下「発達に特性のある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する」が22.4%、「学校・園と療育事業所が連携を深めて対応する」が21.0%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、“1～3歳”では「発達に特性のある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する」、「4～6歳（未就学）」では「学校・園と療育事業所が連携を深めて対応する」、それ以上の年齢では「先生が発達の特性への理解を深める」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「先生が発達の特性への理解を深める」が最も高くなっています。そのほか、“通常学級”では「学校・園と療育事業所が連携を深めて対応する」、「特別支援学級」では「発達に特性のある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する」が高くなっています。

		合計(n)	先生が発達の特性への理解を深める	就学や進路相談を積極的に行う	小学校や中学校で通常の学級への受け入れを進める	保育園や学童保育における受入を進める	発達に特性のある子どもに向けた保育・教育の内容を充実する	学校・園と療育事業所が連携を深めて対応する	特に望むことはない	その他	無回答
全体		272	28.3	9.6	2.9	4.8	22.4	21.0	3.7	5.1	2.2
年齢別	1～3歳	32	6.3	0.0	0.0	18.8	34.4	28.1	9.4	3.1	0.0
	4～6歳（未就学）	98	21.4	9.2	3.1	6.1	25.5	26.5	4.1	2.0	2.0
	小学校1～3年	89	34.8	11.2	3.4	1.1	19.1	16.9	2.2	6.7	4.5
	小学校4～6年	48	41.7	14.6	4.2	0.0	16.7	14.6	2.1	6.3	0.0
	中学生	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	37.5	8.9	1.8	0.0	14.3	17.9	1.8	14.3	3.6
	特別支援学級	71	33.8	15.5	4.2	1.4	19.7	15.5	2.8	4.2	2.8

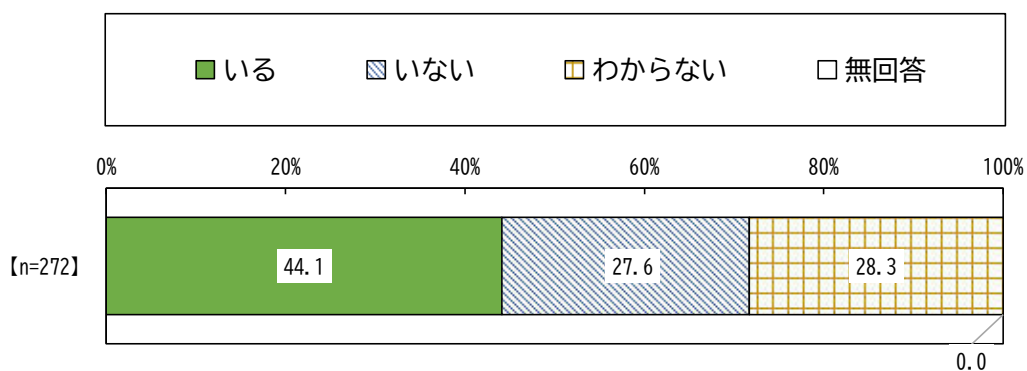
単位：％

5. 災害対策について

問 31. 災害時に手助けしてくれそうな近所の人

【SA】

○「いる」が44.1%、「いない」が27.6%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「いる」が最も高いものの、「いない」や「わからない」も2～3割台であるなど、拮抗しています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「いる」が最も高いものの、“通常学級”では「いない」、 “特別支援学級”では「わからない」がそれぞれ3割を超えて高くなっています。

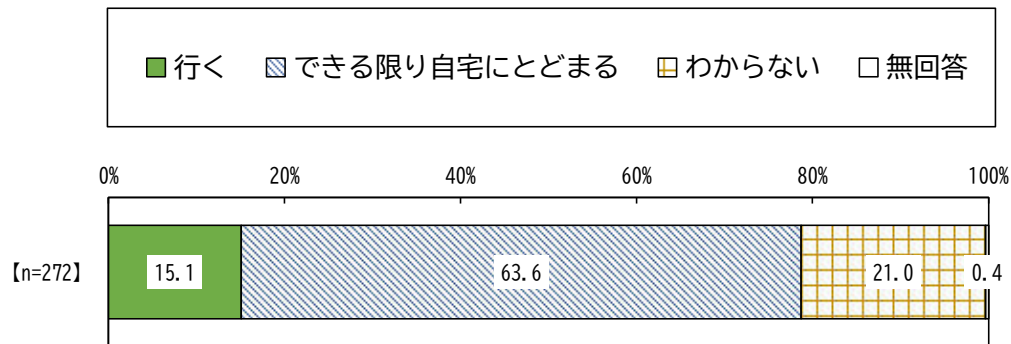
		合計(n)	いる	いない	わからない	無回答
全体		272	44.1	27.6	28.3	0.0
年齢別	1～3歳	32	37.5	28.1	34.4	0.0
	4～6歳（未就学）	98	49.0	23.5	27.6	0.0
	小学校1～3年	89	43.8	30.3	25.8	0.0
	小学校4～6年	48	37.5	31.3	31.3	0.0
	中学生	5	60.0	20.0	20.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	41.1	37.5	21.4	0.0
	特別支援学級	71	38.0	28.2	33.8	0.0

単位：%

問 32. 災害時に積極的に避難所に行くか

【SA】

○「できる限り自宅にとどまる」が63.6%で最も高く、以下「わからない」が21.0%、「行く」が15.1%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「できる限り自宅にとどまる」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「できる限り自宅にとどまる」が最も高く、“特別支援学級”では7割を超えて“通常学級”を上回ります。

		合計(n)	行く	できる 限り自 宅にと どまる	わから ない	無回答
全体		272	15.1	63.6	21.0	0.4
年 齢 別	1～3歳	32	12.5	59.4	28.1	0.0
	4～6歳(未就学)	98	15.3	62.2	22.4	0.0
	小学校1～3年	89	15.7	70.8	13.5	0.0
	小学校4～6年	48	14.6	54.2	29.2	2.1
	中学生	5	20.0	80.0	0.0	0.0
学校・ 学級	通常学級	56	17.9	64.3	17.9	0.0
	特別支援学級	71	11.3	70.4	16.9	1.4

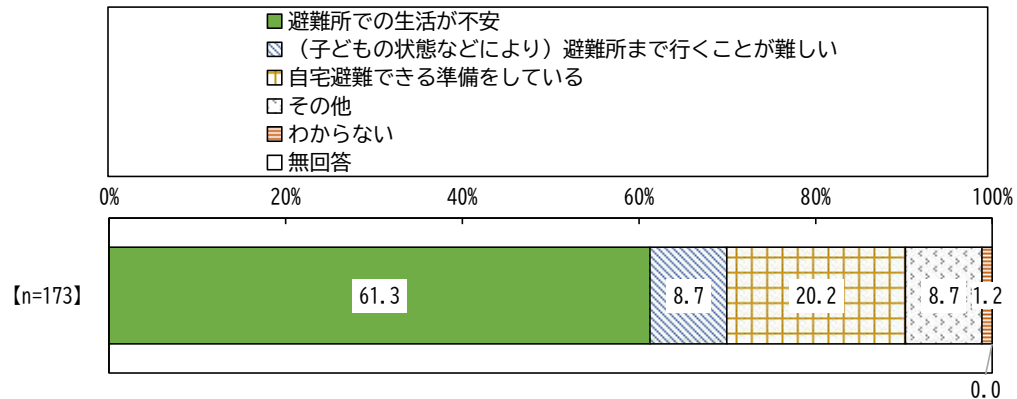
単位：%

【問 32 において「2 できる限り自宅にとどまる」を回答した方限定】

問 32-1. 自宅にとどまる理由

【SA】

○「避難所での生活が不安」が 61.3%で最も高く、以下「自宅避難できる準備をしている」が 20.2%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「避難所での生活が不安」が最も高くなっています。

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「避難所での生活が不安」が最も高くなっています。

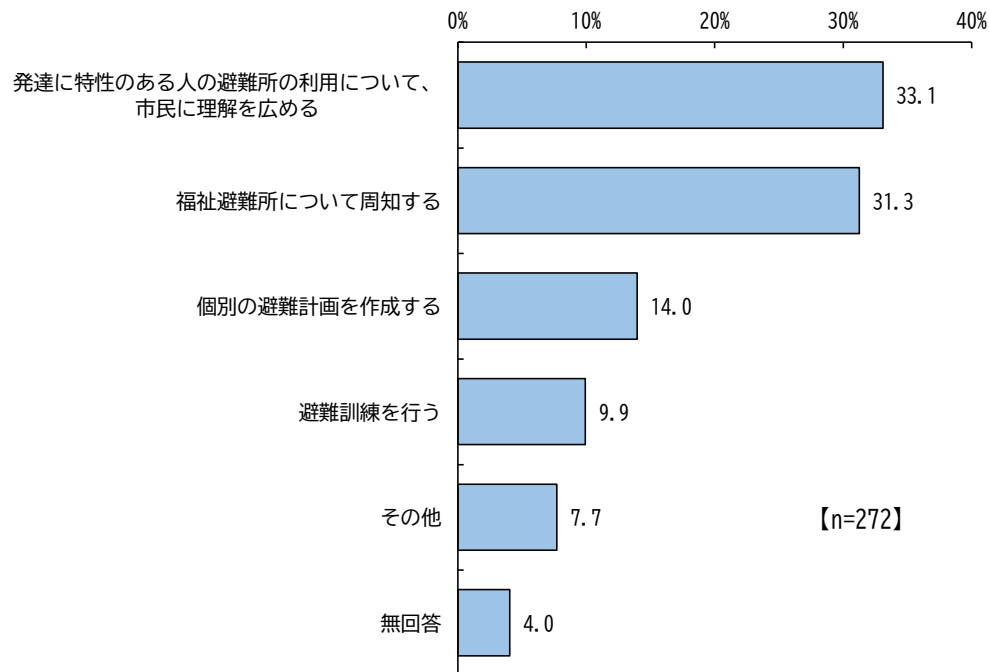
		合計(n)	避難所での生活が不安	(子どもの状態などにより) 避難所まで行くことが難しい	自宅避難できる準備をしている	その他	わからない	無回答
全体		173	61.3	8.7	20.2	8.7	1.2	0.0
年齢別	1～3歳	19	57.9	10.5	21.1	5.3	5.3	0.0
	4～6歳(未就学)	61	59.0	6.6	23.0	11.5	0.0	0.0
	小学校1～3年	63	66.7	9.5	15.9	7.9	0.0	0.0
	小学校4～6年	26	50.0	11.5	26.9	7.7	3.8	0.0
	中学生	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	36	72.2	2.8	19.4	5.6	0.0	0.0
	特別支援学級	50	58.0	14.0	16.0	10.0	2.0	0.0

単位：%

問 33. 災害時の不安解消のために市に望む取組

【SA】

○「発達に特性のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が33.1%で最も高く、以下「福祉避難所について周知する」が31.3%、「個別の避難計画を作成する」が14.0%となっています。



【子どもの年齢別・在籍学級別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「発達に特性のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が最も高くなっています。（“1～3歳”と“小学校1～3年”では「福祉避難所について周知する」と「発達に特性のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が同率で高い。）

○在籍学級別にみると、いずれの学級も「福祉避難所について周知する」が最も高くなっています。（“特別支援学級”では「福祉避難所について周知する」と「発達に特性のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が同率で高い。）

		合計(n)	避難訓練を行う	個別の避難計画を作成する	福祉避難所について周知する	発達に特性のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める	その他	無回答
全体		272	9.9	14.0	31.3	33.1	7.7	4.0
年齢別	1～3歳	32	21.9	15.6	25.0	25.0	9.4	3.1
	4～6歳（未就学）	98	6.1	20.4	31.6	33.7	6.1	2.0
	小学校1～3年	89	10.1	12.4	32.6	32.6	6.7	5.6
	小学校4～6年	48	10.4	4.2	31.3	35.4	12.5	6.3
	中学生	5	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0
学校・学級	通常学級	56	8.9	12.5	35.7	26.8	7.1	8.9
	特別支援学級	71	9.9	8.5	35.2	35.2	8.5	2.8

単位：％

6. 市の施策について

問 34. 印西市の障がい福祉施策について、日頃感じていること

【FA】

○自由意見として、132 人から、133 件の回答がありました。主な内容は次のとおりです。

主な意見	件数
療育について	55 件
◇市外の病院で小児リハビリ（ST、OT）を受け、市外の放課後等デイサービスに通所しているので、市内にも同じような病院・放課後等デイサービスが増えるといいなと思います。市内の放課後等デイサービスは日々のトレーニングやレクがなく、ただ預かるだけの事業所が多いのかなと感じました。 ◇療育について相談事業所や放課後等デイサービスの充実を願います。市のパンフレットにあるデイサービスや事業所はいっぱいで受け付けてくださるところを探すのが大変でした。これだけ子育てに充実している市なのに療育に関しての情報が少ない。パンフレットなどの更新も願います。高齢者（認知症理解）の方への理解とともに、子どもの支援が必要な方に向けての講義や交流会なども楽しく行えたら良いですね。遊び（キャンプや自然体験）を通して子どもにかけける言葉、行動など専門の方や他の父兄の方との交流もあると楽しそうです。 ◇相談員の方と契約して計画書を作成していただくなど、家族以外で手続き等も含めお話しできる相談できることは大変心強く思っておりますが、ただ、相談員の方の人数が少なく、相談員の方とお話しする機会も含めもっと相談しやすい環境が増えるとありがたいと思います。 ◇支援学級への進学進級や受給者証発行の対応に印西市に住んでいて本当に良かったと感じております。障がい福祉課にたどり着きさえすれば本当にスムーズでした。そこまでは保護者がいかに動けるかになるので、障がい福祉課の枠ではありませんが健診等での見過ごしが減るようになれば良いなと思っております。放課後等デイサービス、児童発達支援の事業所に辿り着けるかはかなり運やタイミング次第になっていると感じております。療育内容等ではなく定員に空きの有無で事業所を選んでいる状況もあります。事業所そのものや情報が不足していると感じます。また需要の問題もあるかと思いますが、学年が上がるにつれて年齢相応の療育・支援内容の事業所が少なく思いますので、そのあたりが増えていけば良いなと思います。 ◇放課後等デイサービスが少なく、入れません。家の近くは空きが無いし、空いたとしても親の送迎が必須と言われて通えません。仕方なく市外へ通わせています。印西市の放課後等デイサービスが増えて欲しいです。また、児童発達支援では手厚く療育してくれていましたが、放課後等デイサービスは預かりがメインだなと感じます。もう少し専門性のある療育をして欲しいと思います。	
支援体制の充実（情報提供、相談体制、経済的支援）	30 件
◇学校や放課後等デイサービスを利用したことで子どもが成長していると感じていて感謝してもしきれません。しかし、預かり時間が短く（特に長期休暇）、仕事を続けていくことに不安を感じています。 ◇放課後等デイサービスに入ることが出来ない人が多数いる。通うことで子どもに合っていればとても良い居場所になります。私にはとても協力してくださる方（いんば障相さんやデイサービスの先生、事業所の言語聴覚士さん）がたくさんいるので相談に困ったことはありません。子どもにとって児童発達支援や放課後等デイサービスも大切ですが、何より母のメンタルケアも重要だと思います。母が病めば共倒れです。母をケアす	

る方が必要です。ペアレントトレーニングを受けるところが近くにありません。ぜひ増やしてほしいです。 ◇障がい者雇用枠に将来入れないであろうボーダーの進路、就労に関する相談がしたいが、そこに関するノウハウや情報を持っている人や組織がなく、現状は知人やネットに頼るのみになっている。これをなんとかできないものでしょうか。 ◇福祉サービスを受ける際の利用者負担上限額が所得が増えたことにより月に3万円程、負担額が増えました。家庭内に福祉サービスを必要としている者が複数人おり、この状況が家計を圧迫しております。このことに対しての負担軽減等があると躊躇することなくサービスを利用できると思っております。 ◇私は印西市の児童発達支援での事業所の説明は不足を感じ、早めに動かないと一杯で入れない事もあると聞いていたため、自分でも調べたりが入園の準備と重なり大変でした。事業所に入れるかも不安でしたが、幼稚園に入ってから行き渋りや親もまだ幼稚園に慣れないのとスケジュール管理でかなり疲れました。もう少し、印西近辺、印西市外で、印西市の方がよく利用している施設の情報もあるとよいと思いました。後々、幼稚園の周りのママに聞いた方がよく知っていたので、最初からもう少し情報があると、これから利用を考えている方達の負担が少しでも減らせるのではと思いました。	
教育・保育	28 件
◇先生、市の職員など障がい者にかかわる人達の専門性を高めてほしい。まずは知ること、知識が重要。障がい者、障がい者家族が何に困っていて、どんなところに疲弊しているのかを理解しない限り、本当に必要な支援の提供等はできない。他人事ではなく、「自分の立場だったら」と想像してほしい。 ◇市外の幼稚園に通園しているため、市内の小学校の情報があまり入ってこなくて不安に感じていることがあります。 ◇数年前、上の子が幼児の時に引っ越してきた当時よりは支援が届くように工夫されているように感じられます。様々なお子さんがいますので、療育にしても学校の進路にしてもいろいろな選択肢が用意され、行き場のないお子さんが出ないような社会になることを希望します。 ◇支援級の先生によって発達の特性への理解に差があると感じます。経験値によってある程度の差は仕方ないと存じますが、専門職でないにしても支援級を担当するにあたっての基準はないのかと、こちらが感じてしまうくらいの先生もいらっしゃいます。 ◇就学時の通常級か支援級かが学校によって異なると聞きました。何が違うのかオープンにして欲しいと感じています。どちらに通うのか選択が途中では変えられなかったりするので情報が欲しいです。	
市の対応・市の障がい者施策について	17 件
◇受給者証の更新で窓口に向った際、「療育を探すにあたり、こうだったらいいなと思うことはありましたか」と聞かれ、職員の方とお話をする機会がありました。そこでお話しした「こうだったらいいな」が数カ月後には形になって市のHPに掲載されており、そのスピーディーな対応に思わず感心してしまいました。正直、障がい児育児は大変だろうと想像することは容易くても、その本質はやったことがある人にしかわからないと思います。市民のニーズを聞き取り、迅速に施策に反映していける職員の方々が印西市にはいるのだな、と安心しました。児童発達支援や放課後等デイサービスは市の負担も大きく、予算を取る上でもなかなか苦勞なさるかと思いますが、必要な人に必要な分だけ支援が届くよう、今後ともよろしく願います。 ◇市の障がい福祉課窓口で、どのような療育の場があるのかなど教えていただけると助かります。ほとんど手続きのみしか利用する機会がない。	

◇印西市は他の市に比べて、グレーの子に対して手厚くとても助かっております。ただ、横並びの日本ならではのいいこともあります。こういう子どもには時に辛くもあります。日本じゃなかったら、個々の強みになるのになと思うことも多々あります。こういう問題に向き合おうとしてくれる、印西市に感謝します。 ◇周辺の市町村と比べて、医療的ケア児への制度や体制、その前提となる理解が十分でないと感じる機会が多いです。 例①：医療的ケア児が通える学校や園がほとんどありません。 例②：1歳半健診の歳に子供の病状を伝えたくて保護者2名で伺うこと、なるべく最初の方にしてもらいたいことを役所の人に頼んだところ、にべもなく断られたため、子供の安全を考え参加を断念しました。集団の場に行くことが命にかかわる病気の子どもがいることも理解し柔軟に対応してほしいです。以上、印西市は税金が全国でも優良なため、至急の拡充を強く求めます。	
アンケートについて	3件
◇選択する質問が一つしか選べないのがすごく悩みましたが、一つに絞りました。助けていただいている面もたくさんあり、力を借していただけるサポートにあれこれ手を伸ばしてみる勇氣も必要だなと日々感じています。 ◇初めてこのようなアンケートに参加しましたが、このアンケートによって発達に特性のある子供達をもっと周りの人達に理解をしてもらえるようになるといい。	

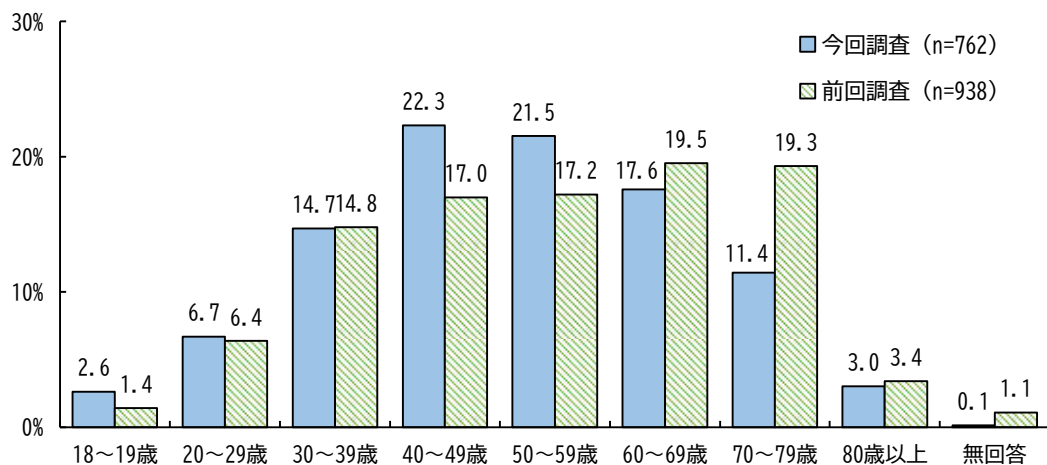
第5章 一般アンケート

1. あなたのことについて

問1. 年齢 ※令和8年1月1日時点

【SA】

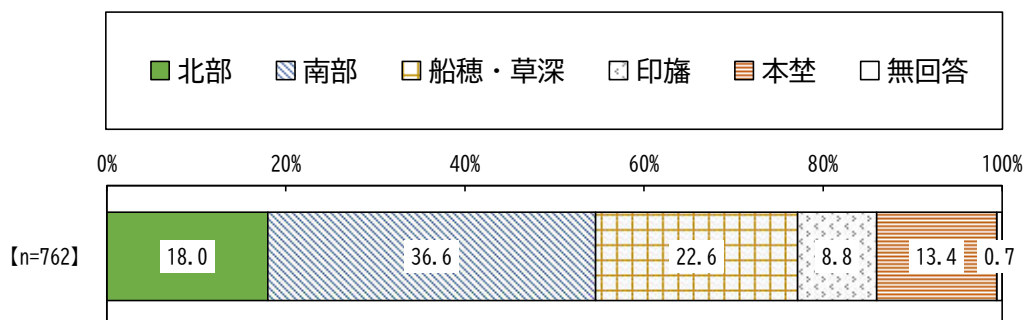
- 「40～49歳」が22.3%で最も多く、以下「50～59歳」が21.5%、「60～69歳」が17.6%、「30～39歳」が14.7%、「70～79歳」が11.4%の順となっています。
- 前回調査と比べると、「40～49歳」や「50～59歳」で増加傾向となっています。



問2. 居住地域

【SA】

- 「南部」が36.6%で最も高く、以下「船穂・草深」が22.6%、「北部」が18.0%、「本埜」が13.4%、「印旛」が8.8%の順となっています。

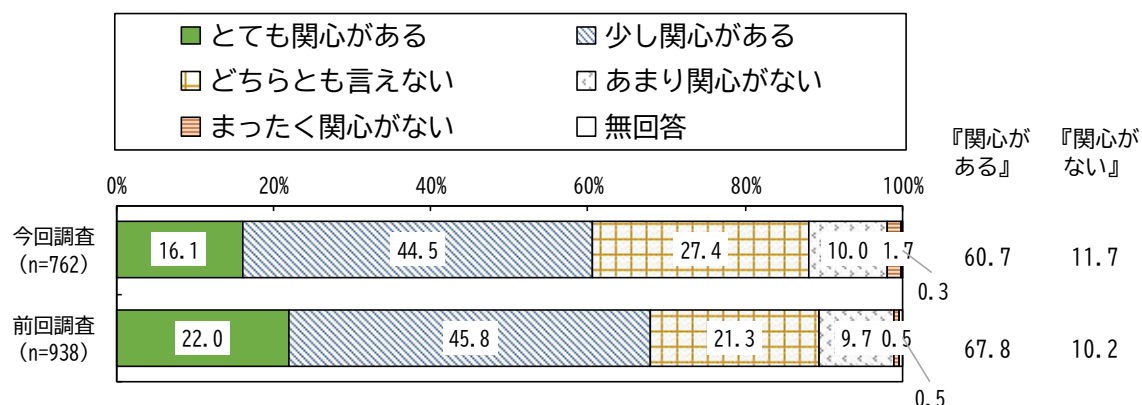


問3. 障がい福祉について関心があるか

【SA】

○「とても関心がある」と「少し関心がある」を合わせた『関心がある』が60.7%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』が11.7%となっています。

○前回調査と比べ、『関心がある』が7.1ポイント減少しています。



【年齢別・地域別の集計】

○年齢別にみると、多くの年代で「少し関心がある」最も高くなっていますが、“70歳以上”は「とても関心がある」が2割半ばと他の年齢を上回るなど、『関心がある』割合は、年齢が上がるほど高くなっています。一方で、「どちらともいえない」や『関心がない』割合は、若い世代ほど高い傾向にあります。

○地域別にみると、いずれの地域も「少し関心がある」が最も高くなっています。

		合計(n)	とても関心がある	少し関心がある	どちらとも言えない	あまり関心がない	まったく関心がない	無回答
全体		762	16.1	44.5	27.4	10.0	1.7	0.3
年齢別	10～20歳代	71	9.9	35.2	35.2	12.7	7.0	0.0
	30歳代	112	11.6	33.9	34.8	16.1	3.6	0.0
	40歳代	170	12.4	47.1	30.0	9.4	1.2	0.0
	50歳代	164	21.3	42.7	26.2	7.9	1.2	0.6
	60歳代	134	13.4	49.3	26.1	10.4	0.0	0.7
	70歳以上	110	25.5	54.5	14.5	5.5	0.0	0.0
	70歳以上	110	25.5	54.5	14.5	5.5	0.0	0.0
居住地域	北部	137	21.9	37.2	25.5	13.9	0.7	0.7
	南部	279	16.5	48.7	24.4	8.6	1.8	0.0
	船穂・草深	172	13.4	40.1	33.7	9.9	2.3	0.6
	印旛	67	16.4	55.2	20.9	6.0	1.5	0.0
	本埜	102	11.8	42.2	32.4	11.8	2.0	0.0

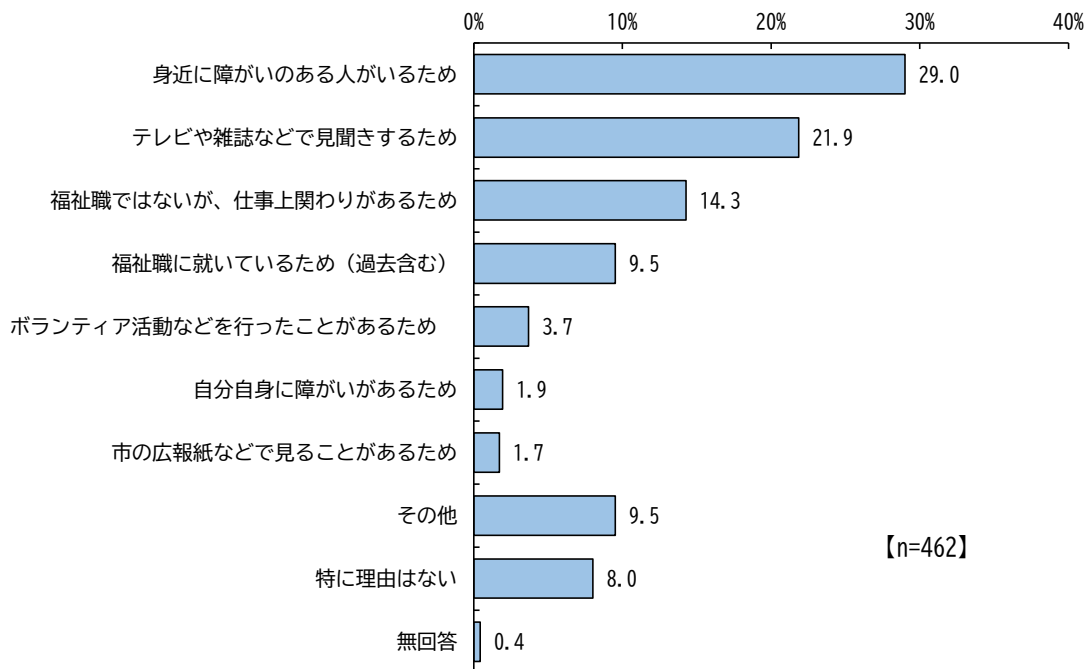
単位：％

【問3において「1 とても関心がある」「2 少し関心がある」を回答した方限定】

問3-1. 障がい福祉に関心がある理由やきっかけ

【SA】

○「身近に障がいのある人がいるため」が29.0%で最も高く、以下「テレビや雑誌などで見聞きするため」が21.9%、「福祉職ではないが、仕事上関わりがあるため」が14.3%となっています。



【年齢別・地域別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「身近に障がいのある人がいるため」が高くなっていますが、“30歳代”では福祉職ではないが、仕事上関わりがあるため」が最も高くなっています。（“10～20歳代”は「身近に障がいのある人がいるため」と「テレビや雑誌等で見聞きするため」が同率で最も高い。）

○地域別にみると、“本埜”では「テレビや雑誌等で見聞きするため」、それ以外の地域ではいずれも「身近に障がいのある人がいるため」が最も高くなっています。

		合計(n)	自分自身 に障がい があるた め	身近に障 がいのある 人がいる ため	福祉職に 就いてい るため (過去含 む)	福祉職で はない が、仕事 上関わり があるた め	ボラン ティア活 動などを 行ったこ とがある ため	テレビや 雑誌など で見聞き するため	市の広報 紙などで 見ることが あるため	その他	特に理由 はない	無回答
全体		462	1.9	29.0	9.5	14.3	3.7	21.9	1.7	9.5	8.0	0.4
年齢別	10～20歳代	32	3.1	25.0	6.3	15.6	6.3	25.0	0.0	12.5	6.3	0.0
	30歳代	51	2.0	19.6	17.6	23.5	5.9	17.6	2.0	7.8	3.9	0.0
	40歳代	101	1.0	22.8	11.9	21.8	4.0	21.8	2.0	4.0	10.9	0.0
	50歳代	105	1.0	28.6	8.6	13.3	4.8	21.0	0.0	12.4	10.5	0.0
	60歳代	84	1.2	35.7	10.7	14.3	1.2	17.9	4.8	10.7	2.4	1.2
	70歳以上	88	4.5	37.5	3.4	1.1	2.3	27.3	1.1	11.4	10.2	1.1
居住地域	北部	81	2.5	35.8	14.8	11.1	4.9	21.0	1.2	3.7	4.9	0.0
	南部	182	1.1	34.1	6.0	12.6	5.5	18.1	2.2	9.9	9.3	1.1
	船穂・草深	92	3.3	27.2	8.7	19.6	2.2	22.8	3.3	6.5	6.5	0.0
	印旛	48	0.0	27.1	12.5	6.3	0.0	25.0	0.0	18.8	10.4	0.0
	本埜	55	1.8	9.1	10.9	23.6	1.8	30.9	0.0	14.5	7.3	0.0

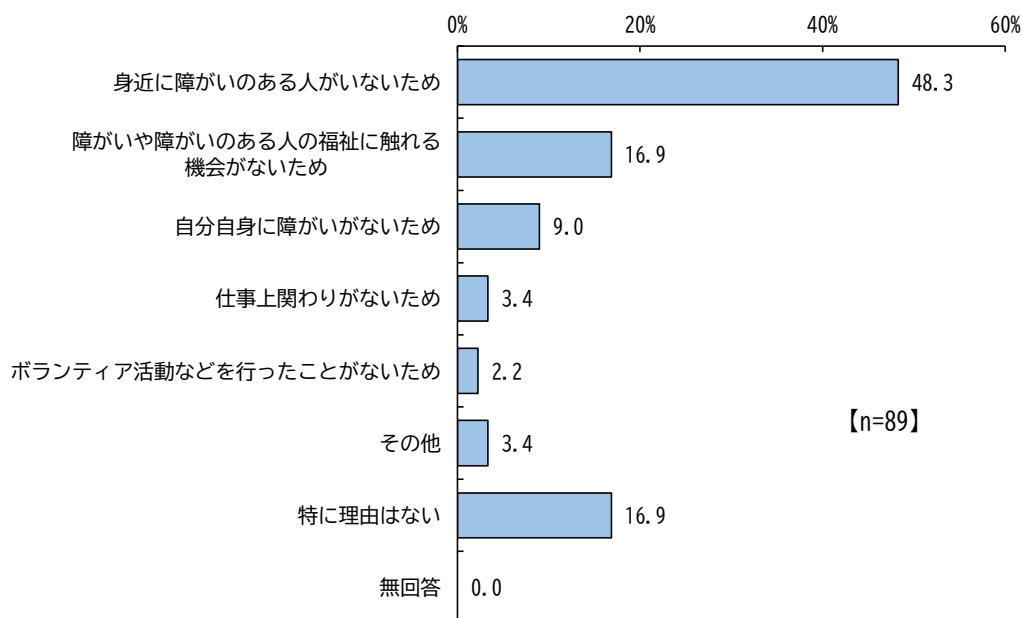
単位：%

【問3において「4 あまり関心がない」「5 まったく関心がない」を回答した方限定】

問3-2. 障がい福祉に関心がない理由

【SA】

○「身近に障がいのある人がいないため」が48.3%で最も高く、以下「障がいや障がいのある人の福祉に触れる機会がないため」と「特に理由はない」がともに16.9%、「自分自身に障がいがないため」が9.0%となっています。



【年齢別・地域別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「身近に障がいのある人がいないため」が最も高くなっています。

（“50歳代”は「身近に障がいのある人がいないため」と「特に理由はない」が同率で最も高い。）

○地域別にみると、いずれの地域も「身近に障がいのある人がいないため」が最も高くなっています。

		合計(n)	自分自身 に障がい がないた め	身近に障 がいのある 人がい ないため	仕事上関 わりがな いため	ボラン ティア活 動などを 行ったこ とがない ため	障がいや 障がいのある 人の福祉に 触れる機会 がないため	その他	特に理由 はない	無回答
全体		89	9.0	48.3	3.4	2.2	16.9	3.4	16.9	0.0
年齢別	10～20歳代	14	0.0	35.7	7.1	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0
	30歳代	22	18.2	45.5	9.1	0.0	22.7	0.0	4.5	0.0
	40歳代	18	5.6	72.2	0.0	0.0	5.6	5.6	11.1	0.0
	50歳代	15	13.3	26.7	0.0	0.0	20.0	13.3	26.7	0.0
	60歳代	14	0.0	50.0	0.0	14.3	14.3	0.0	21.4	0.0
	70歳以上	6	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
居住地域	北部	20	10.0	50.0	0.0	0.0	10.0	5.0	25.0	0.0
	南部	29	17.2	44.8	0.0	3.4	24.1	6.9	3.4	0.0
	船穂・草深	21	0.0	42.9	9.5	4.8	19.0	0.0	23.8	0.0
	印旛	5	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	本埜	14	7.1	57.1	7.1	0.0	7.1	0.0	21.4	0.0

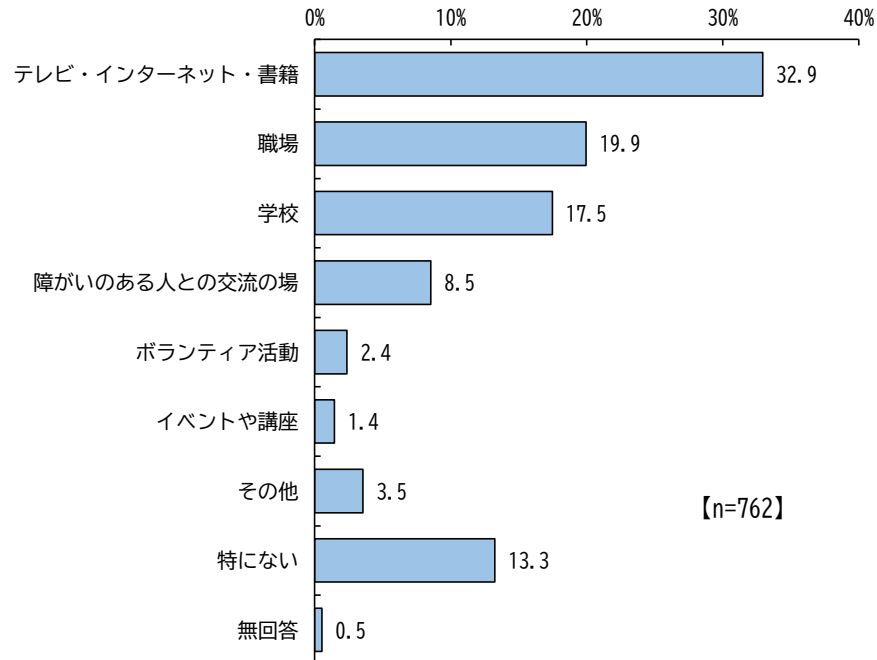
単位：%

2. 障がいへの理解について

問 4. 障がい福祉などを学ぶ機会印象が強かったもの

【SA】

○「テレビ・インターネット・書籍」が32.9%で最も高く、以下「職場」が19.9%、「学校」が17.5%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「テレビ・インターネット・書籍」が最も高くなっていますが、“10～20歳代”では「学校」が6割以上と、他の年齢を大きく上回ります。

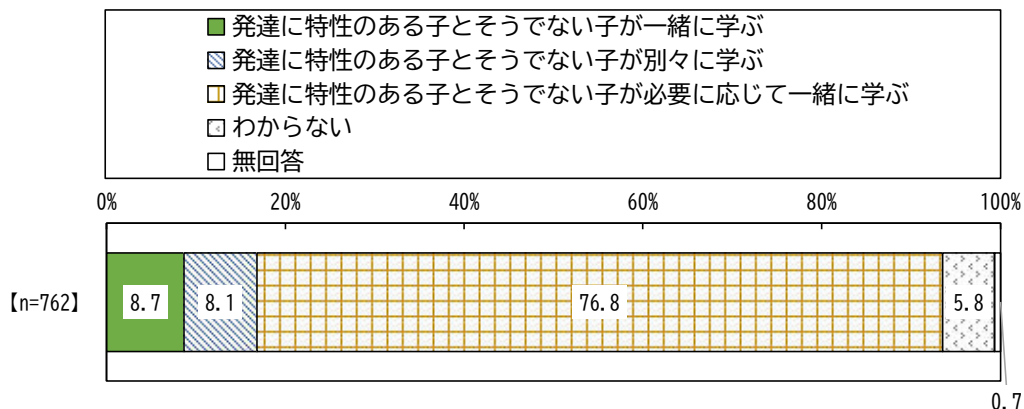
	合計(n)	学校	テレビ・インターネット・書籍	障がいのある人との交流の場	職場	ボランティア活動	イベントや講座	その他	特にない	無回答
全体	762	17.5	32.9	8.5	19.9	2.4	1.4	3.5	13.3	0.5
年齢別										
10～20歳代	71	62.0	16.9	2.8	7.0	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0
30歳代	112	24.1	31.3	9.8	18.8	4.5	1.8	0.9	8.9	0.0
40歳代	170	20.6	32.4	7.1	24.1	2.9	1.2	1.2	10.6	0.0
50歳代	164	10.4	31.7	12.2	22.6	1.8	1.8	3.7	15.9	0.0
60歳代	134	6.0	35.1	7.5	25.4	0.0	2.2	6.0	17.9	0.0
70歳以上	110	1.8	44.5	9.1	12.7	4.5	0.9	5.5	17.3	3.6

単位：％

問 5. 発達特性のある子どもの学校教育について

【SA】

○「発達に特性のある子とそうでない子が必要に応じて一緒に学ぶ」が76.8%で最も高く、以下「発達に特性のある子とそうでない子が一緒に学ぶ」が8.7%、「発達に特性のある子とそうでない子が別々に学ぶ」が8.1%、「発達に特性のある子とそうでない子が必要に応じて一緒に学ぶ」が5.8%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「発達に特性のある子とそうでない子が必要に応じて一緒に学ぶ」が最も高くなっています。

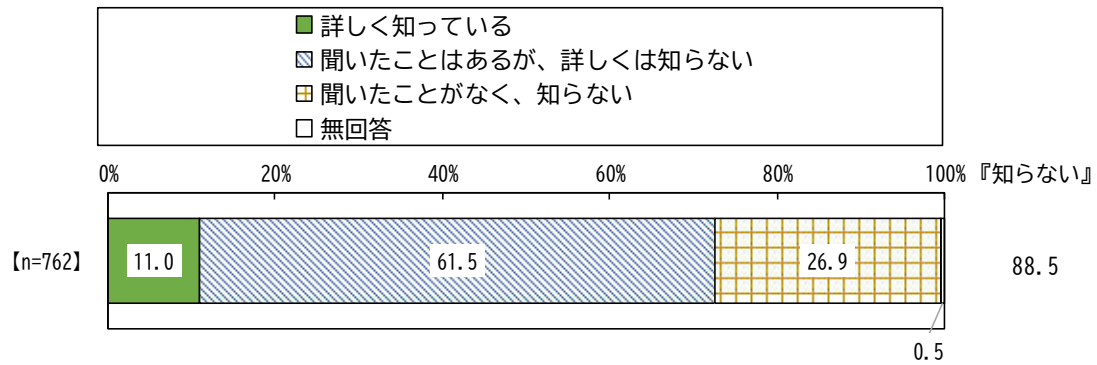
		合計(n)	発達に特性のある子とそうでない子が一緒に学ぶ	発達に特性のある子とそうでない子が別々に学ぶ	発達に特性のある子とそうでない子が必要に応じて一緒に学ぶ	わからない	無回答
全体		762	8.7	8.1	76.8	5.8	0.7
年齢別	10～20歳代	71	2.8	21.1	70.4	5.6	0.0
	30歳代	112	8.9	14.3	73.2	2.7	0.9
	40歳代	170	5.3	7.1	83.5	3.5	0.6
	50歳代	164	10.4	6.7	78.0	4.9	0.0
	60歳代	134	7.5	4.5	82.1	6.0	0.0
	70歳以上	110	16.4	1.8	66.4	12.7	2.7

単位：％

問6. 障害者虐待防止法の内容（虐待の禁止、通報義務等）を知っているか

【SA】

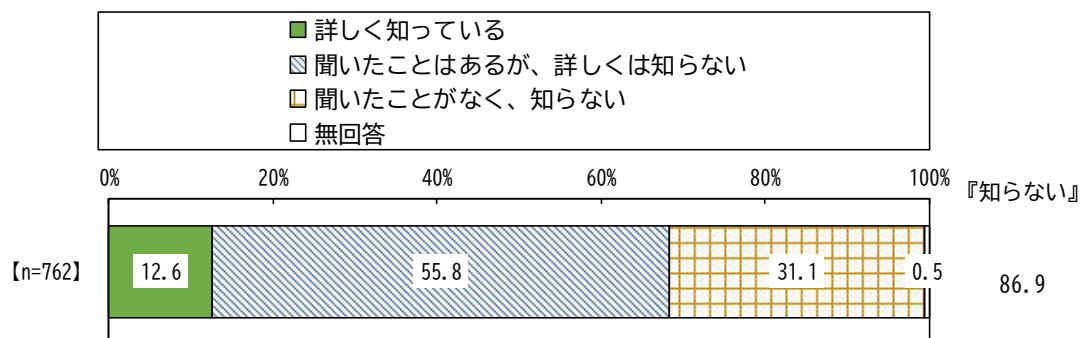
○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が61.5%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は88.5%となっています。



問7. 障害者差別解消法の内容（障害を理由とした差別の禁止、「合理的配慮」の提供等）を知っているか

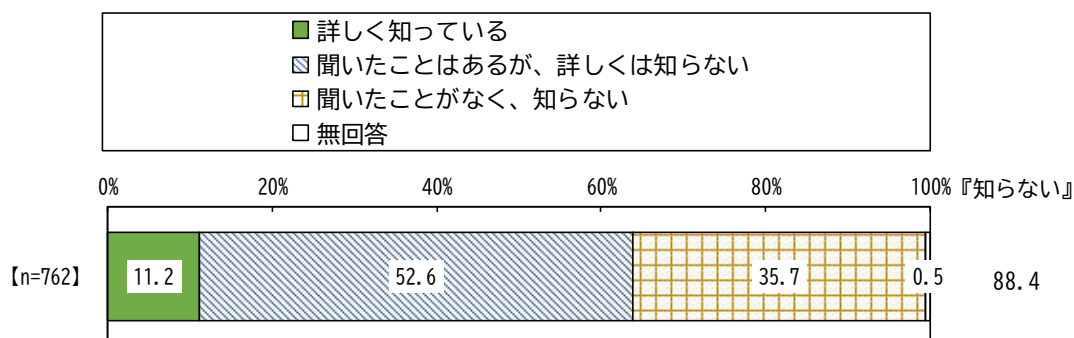
【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が55.8%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は86.9%となっています。



問 8. 手話施策推進法の内容（重要な意思疎通の手段として位置付け）を知っているか 【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が52.6%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は88.4%となっています。



【年齢別の集計】

○【問6.障害者虐待防止法】【問7.合理的配慮】【問8.手話施策推進法】の各内容の認知度について年齢別にみると、いずれの年齢も「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も高くなっています。（【問8.手話施策推進法】で、“40歳代”は「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」が同率で最も高い。）

		問6. 障害者虐待防止法の内容の認知度					問7. 障害者差別解消法の内容の認知度				
		合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答	合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答
全体		762	11.0	61.5	26.9	0.5	762	12.6	55.8	31.1	0.5
年齢別	10～20歳代	71	16.9	49.3	32.4	1.4	71	16.9	56.3	26.8	0.0
	30歳代	112	9.8	56.3	33.9	0.0	112	10.7	53.6	35.7	0.0
	40歳代	170	10.0	60.0	30.0	0.0	170	14.7	51.8	33.5	0.0
	50歳代	164	13.4	61.6	25.0	0.0	164	14.6	54.3	31.1	0.0
	60歳代	134	7.5	70.1	21.6	0.7	134	9.0	59.0	30.6	1.5
	70歳以上	110	10.9	66.4	20.9	1.8	110	10.0	62.7	25.5	1.8

		問8. 手話施策推進法の内容の認知度				
		合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答
全体		762	11.2	52.6	35.7	0.5
年齢別	10～20歳代	71	21.1	40.8	36.6	1.4
	30歳代	112	8.9	57.1	33.9	0.0
	40歳代	170	12.9	43.5	43.5	0.0
	50歳代	164	9.8	50.6	39.6	0.0
	60歳代	134	6.7	62.7	29.9	0.7
	70歳以上	110	11.8	60.9	25.5	1.8

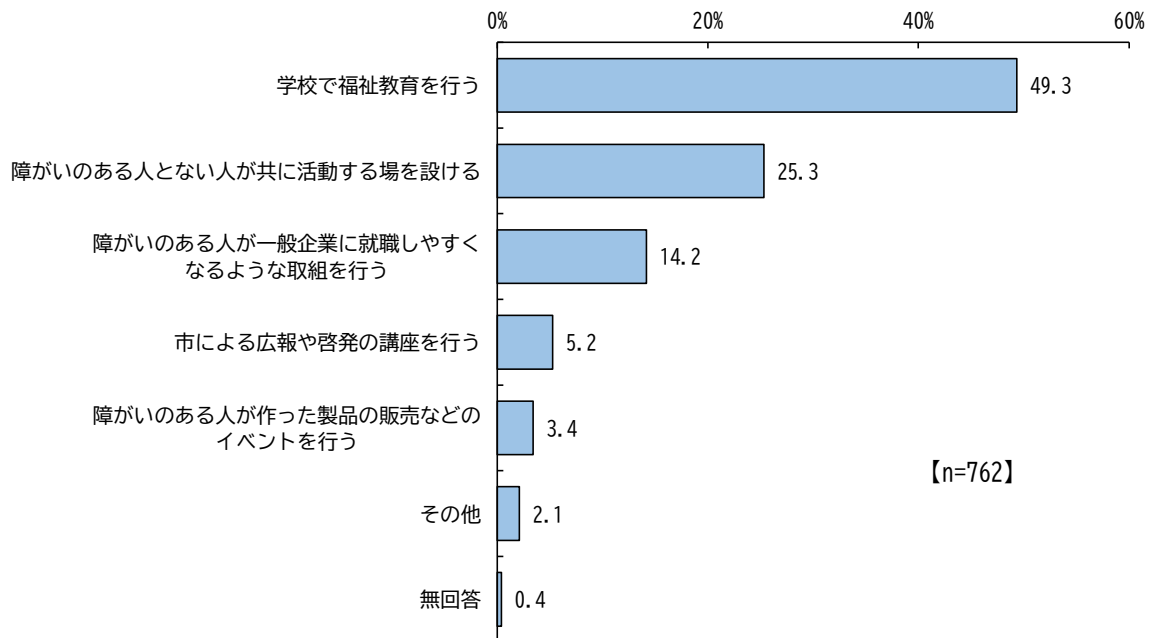
単位：%

【問9において「聞いたことがあり、内容もおおよそ知っている」を回答した方限定】

問9. 社会で障がいへの理解を深めるために効果的な取組

【SA】

○「学校で福祉教育を行う」が49.3%で最も高く、以下「障がいのある人となない人が共に活動する場を設ける」が25.3%、「障害のある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う」が14.2%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「学校で福祉教育を行う」が最も高くなっています。“50歳代～60歳代”では、「障がいのある人となない人が共に活動する場を設ける」が3割以上と他の年齢を上回ります。

		合計(n)	学校で福祉教育を行う	市による広報や啓発の講座を行う	障がいのある人となない人が共に活動する場を設ける	障がいのある人が一般企業に就職しやすくなるような取組を行う	障がいのある人が作った製品の販売などのイベントを行う	その他	無回答
年齢別	全体	762	49.3	5.2	25.3	14.2	3.4	2.1	0.4
	10～20歳代	71	64.8	5.6	9.9	8.5	7.0	4.2	0.0
	30歳代	112	51.8	0.9	22.3	18.8	4.5	1.8	0.0
	40歳代	170	53.5	2.9	21.8	15.3	3.5	2.9	0.0
	50歳代	164	45.7	3.7	31.7	12.2	3.7	3.0	0.0
	60歳代	134	39.6	10.4	32.8	13.4	2.2	0.7	0.7
	70歳以上	110	48.2	9.1	25.5	14.5	0.9	0.0	1.8

単位：%

問 10. 知っているシンボルマーク

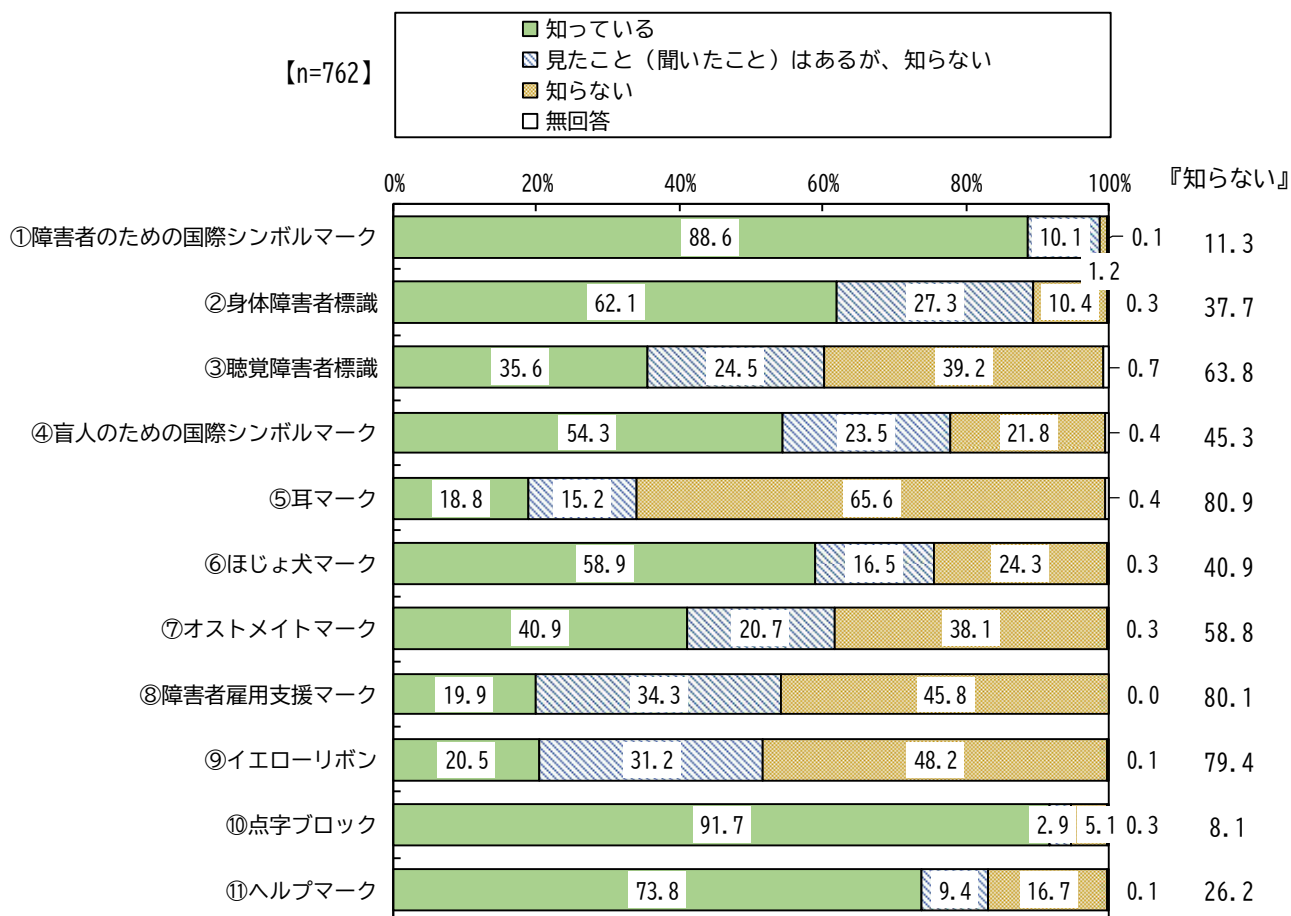
【SA】

○「知っている」シンボルマークについては、“⑩点字ブロック”が91.7%で最も高く、以下“①障害者のための国際シンボルマーク”が88.6%、“⑪ヘルプマーク”が73.8%となっています。

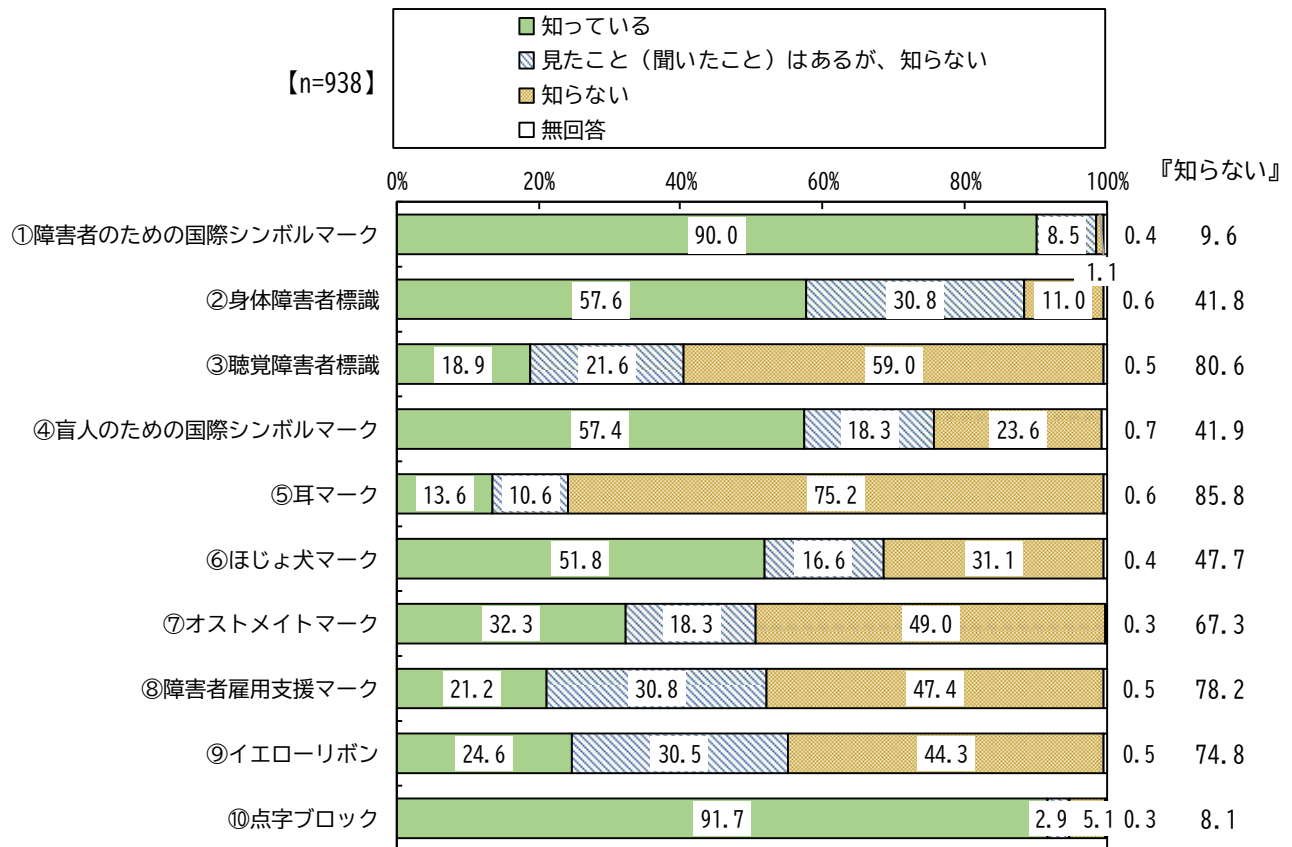
『知らない（「見たこと（聞いたこと）はあるが、知らない」と「知らない」の合計）』シンボルマークについては、⑤耳マーク”が80.9%で最も高く、以下“⑧障害者雇用支援マーク”が80.1%、“⑨イエローリボン”が79.4%となっています。

○前回調査と比べると、『知らない』は“③聴覚障害者標識”で16.8ポイント減少、“⑦オストメイトマーク”“③聴覚障害者標識”においても減少しています（各8.5/6.8ポイント）。

【今回調査】



【前回調査】

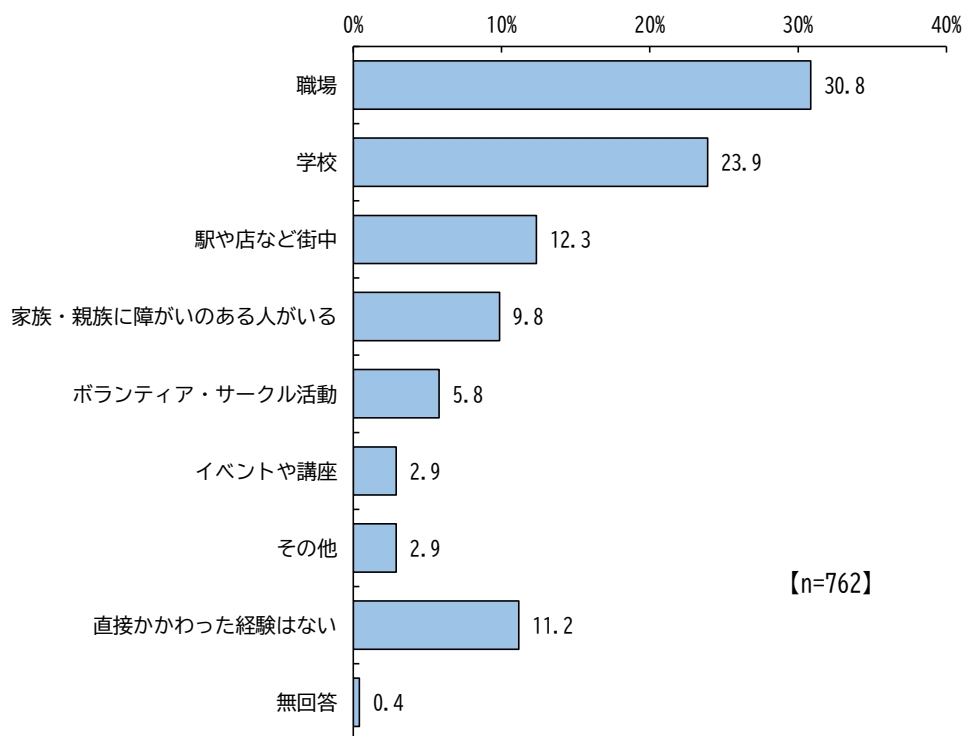


3. 障がいのある人の社会参加について

問11. 障がいのある人と直接かかわった場所で印象が強かったもの

【SA】

○「職場」が30.8%で最も高く、以下「学校」が23.9%、「駅や店など街中」が12.3%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、“10～30歳代”では「学校」、「40～60歳代」では「職場」、「70歳以上」は「直接かかわった経験はない」が最も高くなっています。

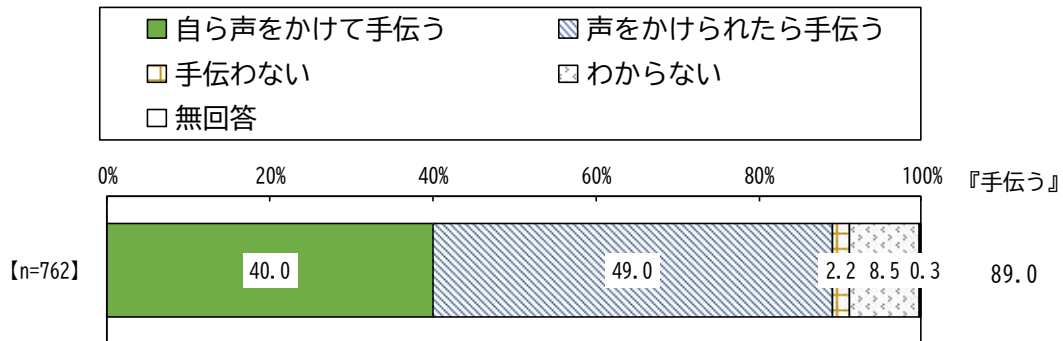
		合計(n)	学校	職場	家族・親族に障がいのある人がいる	ボランティア・サークル活動	イベントや講座	駅や店など街中	その他	直接かかわった経験はない	無回答
年齢別	全体	762	23.9	30.8	9.8	5.8	2.9	12.3	2.9	11.2	0.4
	10～20歳代	71	56.3	9.9	5.6	5.6	0.0	5.6	4.2	12.7	0.0
	30歳代	112	39.3	25.9	9.8	6.3	0.9	7.1	1.8	8.9	0.0
	40歳代	170	21.8	38.2	10.6	6.5	4.1	11.8	1.8	5.3	0.0
	50歳代	164	24.4	34.8	10.4	4.9	3.7	11.0	2.4	8.5	0.0
	60歳代	134	9.7	39.6	10.4	4.5	3.0	15.7	3.7	12.7	0.7
	70歳以上	110	7.3	21.8	10.0	7.3	3.6	20.0	4.5	23.6	1.8

単位：％

問12. 障がいのある人が困っていた場合の行動

【SA】

○「声をかけられたら手伝う」が49.0%で最も高くなっています。「自ら声をかけて手伝う」と「声をかけられたら手伝う」を合わせた『手伝う』は89.0%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、多くの年齢で「声をかけたら手伝う」、「70 歳以上」は「自ら声をかけて手伝う」が最も高くなっています。『手伝う』は年齢が上がるほど高い傾向にあります。

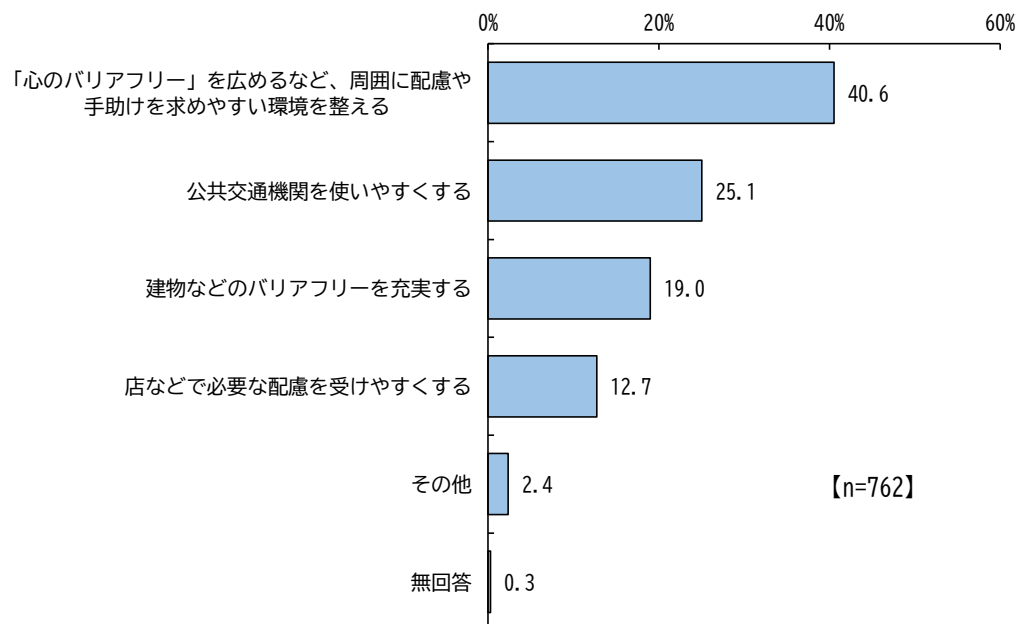
		合計(n)	自ら声をかけて手伝う	声をかけられたら手伝う	手伝わない	わからない	無回答
	全体	762	40.0	49.0	2.2	8.5	0.3
年齢別	10～20歳代	71	25.4	56.3	5.6	12.7	0.0
	30歳代	112	31.3	50.9	6.3	10.7	0.9
	40歳代	170	44.1	45.3	1.8	8.8	0.0
	50歳代	164	45.1	46.3	0.6	7.9	0.0
	60歳代	134	36.6	53.7	1.5	8.2	0.0
	70歳以上	110	49.1	45.5	0.0	4.5	0.9

単位：％

問 13. 障がいのある人が外出しやすくするために効果的な取組

【SA】

○「『心のバリアフリー』を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える」が40.6%で最も高く、以下「公共交通機関を使いやすくする」が25.1%、「建物などのバリアフリーを充実する」が19.0%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「『心のバリアフリー』を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える」が最も高くなっています。

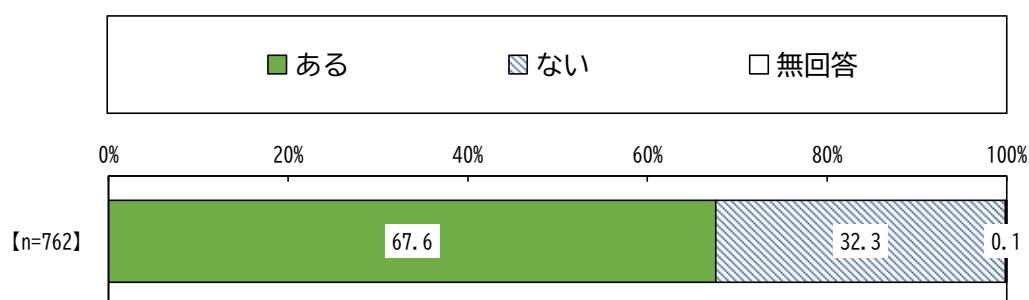
		合計(n)	公共交通機関を使いやすくする	建物などのバリアフリーを充実する	店などで必要な配慮を受けやすくする	「心のバリアフリー」を広めるなど、周囲に配慮や手助けを求めやすい環境を整える	その他	無回答
	全体	762	25.1	19.0	12.7	40.6	2.4	0.3
年齢別	10～20歳代	71	23.9	28.2	11.3	32.4	4.2	0.0
	30歳代	112	26.8	25.9	13.4	33.9	0.0	0.0
	40歳代	170	20.6	17.1	17.6	42.4	2.4	0.0
	50歳代	164	24.4	16.5	12.2	43.3	3.7	0.0
	60歳代	134	23.9	17.9	11.2	43.3	3.0	0.7
	70歳以上	110	32.7	14.5	8.2	42.7	0.9	0.9

単位：%

問14. 障がいのある人が製造にかかわった商品の購入経験

【SA】

○「ある」が67.6%、「ない」が32.3%となっています。



【年齢別・地域別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”は「ない」、それ以外の年齢は「ある」が最も高くなっています。

○地域別にみると、いずれの地域も「ある」が最も高くなっています。特に“南部”が7割以上と他の地域を上回ります。

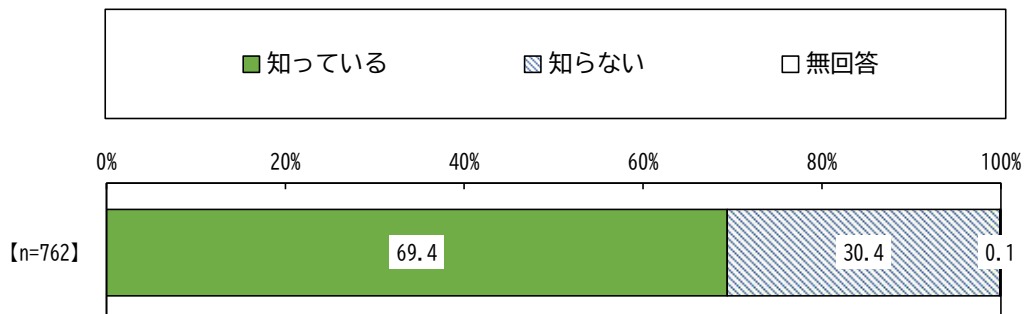
		合計(n)	ある	ない	無回答
全体		762	67.6	32.3	0.1
年齢別	10～20歳代	71	33.8	66.2	0.0
	30歳代	112	58.9	41.1	0.0
	40歳代	170	81.2	18.8	0.0
	50歳代	164	80.5	19.5	0.0
	60歳代	134	67.2	32.8	0.0
	70歳以上	110	58.2	40.9	0.9
居住地域	北部	137	65.0	34.3	0.7
	南部	279	73.8	26.2	0.0
	船穂・草深	172	62.8	37.2	0.0
	印旛	67	62.7	37.3	0.0
	本埜	102	66.7	33.3	0.0

単位：%

問 15. 障がいのある人が販売活動を行っている場所などについて

【SA】

○「知っている」が69.4%、「知らない」が30.4%となっています。



【年齢別・地域別の集計】

○年齢別にみると、いずれの年齢も「知っている」が最も高くなっています。

○地域別にみると、いずれの地域も「知っている」が最も高くなっています。

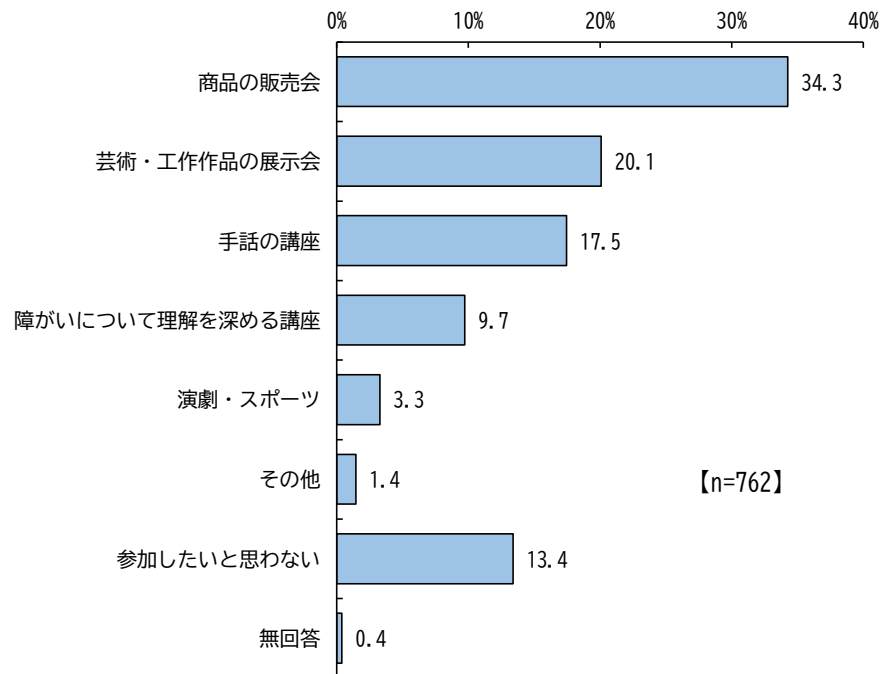
		合計(n)	知っている	知らない	無回答
全体		762	69.4	30.4	0.1
年齢別	10～20歳代	71	53.5	46.5	0.0
	30歳代	112	66.1	33.9	0.0
	40歳代	170	76.5	23.5	0.0
	50歳代	164	81.1	18.9	0.0
	60歳代	134	67.2	32.8	0.0
	70歳以上	110	58.2	41.8	0.0
居住地域	北部	137	60.6	38.7	0.7
	南部	279	73.8	26.2	0.0
	船穂・草深	172	70.3	29.7	0.0
	印旛	67	70.1	29.9	0.0
	本埜	102	66.7	33.3	0.0

単位：％

問16. 障がいのある人がかかわる催して参加してみたいもの

【SA】

○「商品の販売会」が34.3%で最も高く、以下「芸術・工作作品の展示会」が20.1%、「手話の講座」が17.5%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、「10～20歳代」は「手話の講座」、それ以外の年齢は「商品の販売会」が最も高くなっています。

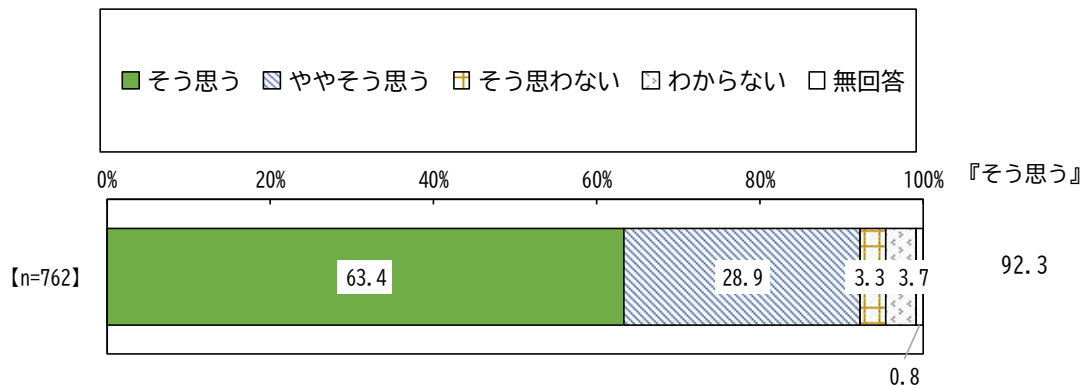
	合計(n)	芸術・工作作品の展示会	商品の販売会	演劇・スポーツ	障がいについて理解を深める講座	手話の講座	その他	参加したいと思わない	無回答
全体	762	20.1	34.3	3.3	9.7	17.5	1.4	13.4	0.4
年齢別									
10～20歳代	71	12.7	25.4	4.2	9.9	26.8	0.0	21.1	0.0
30歳代	112	21.4	28.6	3.6	9.8	15.2	0.9	20.5	0.0
40歳代	170	17.6	39.4	2.9	10.6	17.1	0.6	11.8	0.0
50歳代	164	16.5	41.5	1.8	9.8	18.9	2.4	8.5	0.6
60歳代	134	24.6	32.8	3.7	6.7	17.2	0.7	13.4	0.7
70歳以上	110	27.3	29.1	4.5	11.8	12.7	3.6	10.0	0.9

単位：%

問 17. 共生社会の考え方について

【SA】

○「そう思う」が63.4%で最も高くなっています。「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は92.3%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「そう思う」が最も高くなっています。『そう思う』は、“10～20歳代”を除き9割を超えています。“10～20歳代”は「わからない」が約1割と他の年齢を上回ります。

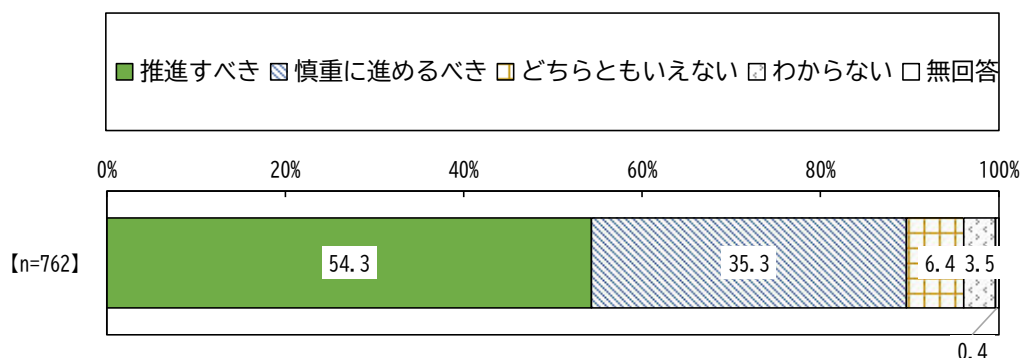
		合計(n)	そう思う	ややそう思う	そう思わない	わからない	無回答
全体		762	63.4	28.9	3.3	3.7	0.8
年齢別	10～20歳代	71	56.3	23.9	8.5	9.9	1.4
	30歳代	112	58.9	33.0	6.3	1.8	0.0
	40歳代	170	64.7	29.4	1.2	4.7	0.0
	50歳代	164	62.8	29.9	3.7	3.0	0.6
	60歳代	134	67.2	29.9	1.5	1.5	0.0
	70歳以上	110	67.3	24.5	1.8	3.6	2.7

単位：％

問18. 障がいのある人の自立のための場所を増やす取組について

【SA】

○「推進すべき」が54.3%で最も高く、以下「慎重に進めるべき」が35.3%、「どちらともいえない」が6.4%となっています。



【年齢別・地域別の集計】

○年齢別にみると、“10～20歳代”は「慎重に進めるべき」、それ以外の年齢では「推進すべき」が最も高くなっています。

○地域別にみると、いずれの地域でも「推進すべき」が最も高くなっていますが、「慎重に進めるべき」は北部のみ4割以上と他の地域を上回ります。

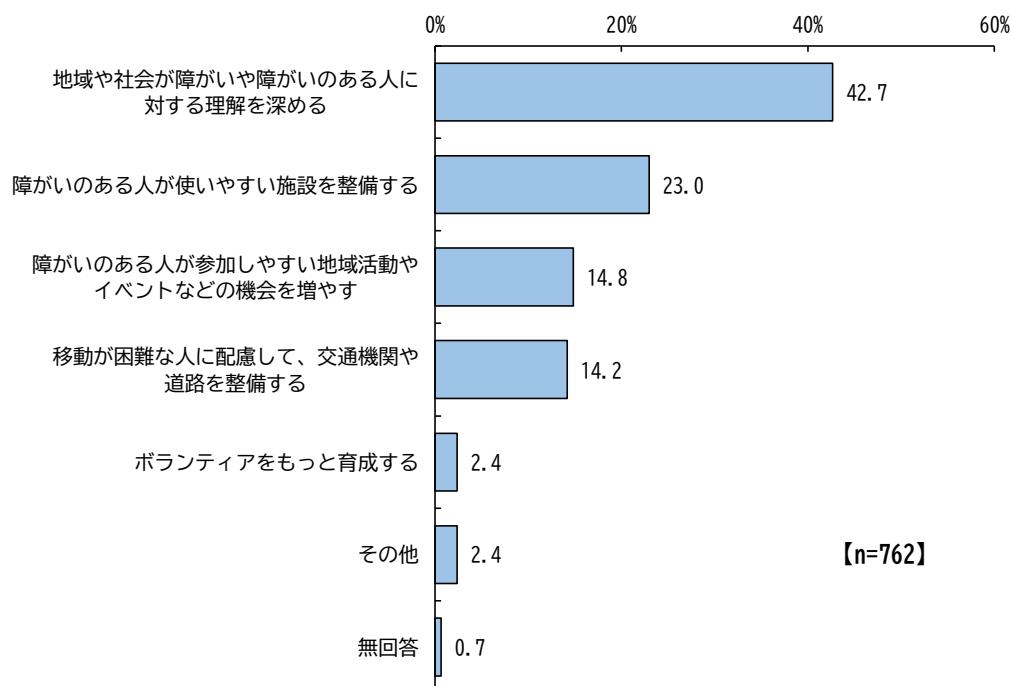
		合計(n)	推進すべき	慎重に進めるべき	どちらともいえない	わからない	無回答
全体		762	54.3	35.3	6.4	3.5	0.4
年齢別	10～20歳代	71	43.7	46.5	5.6	4.2	0.0
	30歳代	112	43.8	42.9	9.8	3.6	0.0
	40歳代	170	56.5	32.4	7.6	3.5	0.0
	50歳代	164	60.4	31.7	6.1	1.8	0.0
	60歳代	134	54.5	35.8	5.2	4.5	0.0
	70歳以上	110	60.0	30.0	3.6	4.5	1.8
居住地別	北部	137	43.1	42.3	9.5	3.6	1.5
	南部	279	59.5	31.5	4.3	4.3	0.4
	船穂・草深	172	54.7	36.6	5.2	3.5	0.0
	印旛	67	55.2	35.8	7.5	1.5	0.0
	本埜	102	53.9	33.3	9.8	2.9	0.0

単位：％

問 19. 障がいのある人が社会に積極的に参加するために重要だと思うこと

【SA】

○「地域や社会が障がいや障がいのある人に対する理解を深める」が42.7%で最も高く、以下「障がいのある人が使いやすい施設を整備する」が23.0%、「障がいのある人が参加しやすい地域活動やイベントなどの機会を増やす」が14.8%、「移動が困難な人に配慮して、交通機関や道路を整備する」が14.2%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「地域や社会が障がいや障がいのある人に対する理解を深める」が最も高くなっています。“10～20歳代”と“30歳代”では「障がいのある人が使いやすい施設を整備する」が約3割と他の年齢を上回ります。

		合計(n)	障がいのある人が参加しやすい地域活動やイベントなどの機会を増やす	障がいのある人が使いやすい施設を整備する	移動が困難な人に配慮して、交通機関や道路を整備する	地域や社会が障がいや障がいのある人に対する理解を深める	ボランティアをもっと育成する	その他	無回答
全体		762	14.8	23.0	14.2	42.7	2.4	2.4	0.7
年齢別	10～20歳代	71	11.3	31.0	15.5	38.0	1.4	2.8	0.0
	30歳代	112	8.9	29.5	23.2	36.6	0.0	0.9	0.9
	40歳代	170	10.0	25.9	10.6	47.6	3.5	2.4	0.0
	50歳代	164	18.3	17.7	15.9	40.2	3.7	3.7	0.6
	60歳代	134	17.2	18.7	11.9	47.0	2.2	3.0	0.0
	70歳以上	110	22.7	20.0	10.0	42.7	1.8	0.9	1.8

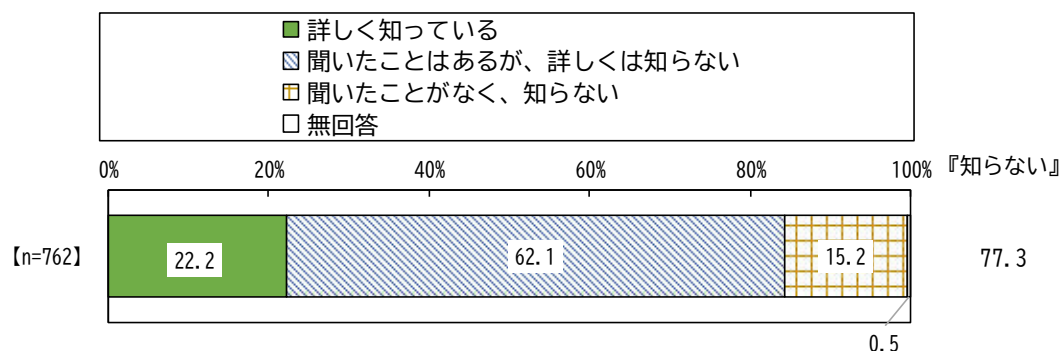
単位：%

4. 障がい者雇用について

問 20. 障害者雇用促進法を知っているか

【SA】

○「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が62.1%で最も高くなっています。「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と「聞いたことがなく、知らない」を合わせた『知らない』は77.3%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も高くなっています。「聞いたことがなく、知らない」は若い世代ほど高い傾向にあります。

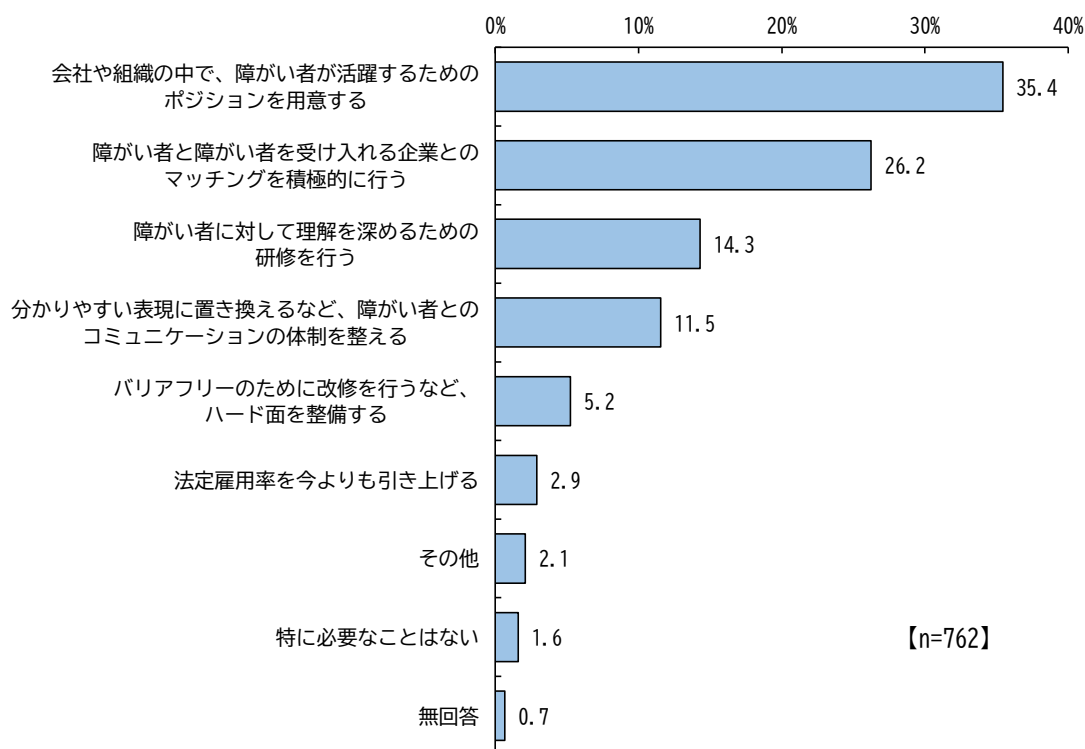
		合計(n)	詳しく知っている	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがなく、知らない	無回答
全体		762	22.2	62.1	15.2	0.5
年齢別	10～20歳代	71	9.9	50.7	39.4	0.0
	30歳代	112	25.9	52.7	20.5	0.9
	40歳代	170	24.7	61.8	13.5	0.0
	50歳代	164	23.8	62.8	13.4	0.0
	60歳代	134	24.6	67.9	7.5	0.0
	70歳以上	110	17.3	71.8	9.1	1.8

単位：%

問 21. 障がい者の雇用促進のために必要なこと

【SA】

○「会社や組織の中で、障がい者が活躍するためのポジションを用意する」が35.4%で最も高く、以下「障がい者と障がい者を受け入れる企業とのマッチングを積極的に行う」が26.2%、「障がい者に対して理解を深めるための研修を行う」が14.3%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「会社や組織の中で、障がい者が活躍するためのポジションを用意する」が最も高く、次いで「障がい者と障がい者を受け入れる企業とのマッチングを積極的に行う」の順となっています。

		合計(n)	障がい者と障がい者を受け入れる企業とのマッチングを積極的に行う	会社や組織の中で、障がい者が活躍するためのポジションを用意する	分かりやすい表現に置き換えるなど、障がい者とのコミュニケーションの体制を整える	バリアフリーのために改修を行うなど、ハード面を整備する	障がい者に対して理解を深めるための研修を行う	法定雇用率を今よりも引き上げる	その他	特に必要なことはない	無回答
年齢別	全体	762	26.2	35.4	11.5	5.2	14.3	2.9	2.1	1.6	0.7
	10～20歳代	71	28.2	31.0	12.7	7.0	14.1	1.4	1.4	4.2	0.0
	30歳代	112	26.8	37.5	9.8	6.3	14.3	0.9	1.8	1.8	0.9
	40歳代	170	26.5	38.2	8.8	4.7	16.5	1.8	2.9	0.6	0.0
	50歳代	164	25.6	32.3	14.0	4.3	15.2	3.7	2.4	2.4	0.0
	60歳代	134	26.9	35.1	12.7	6.0	10.4	5.2	2.2	1.5	0.0
	70歳以上	110	24.5	37.3	11.8	4.5	14.5	3.6	0.9	0.0	2.7

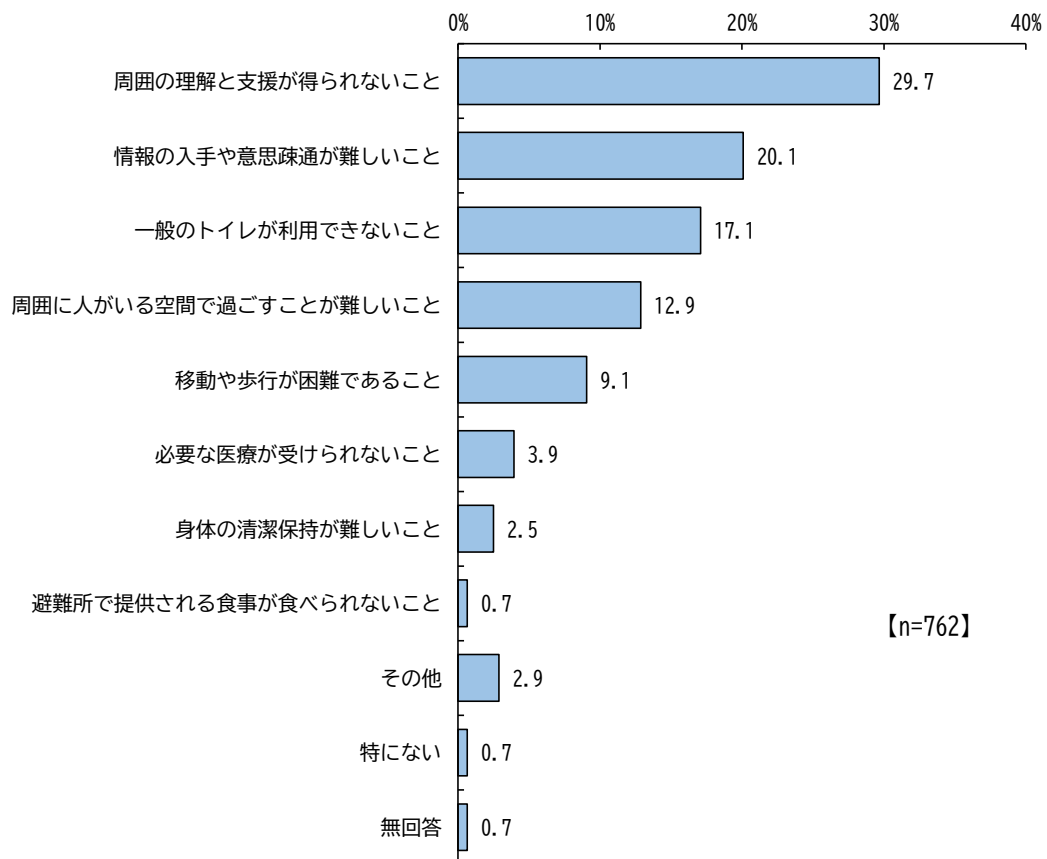
単位：%

5. 福祉のまちづくりについて

問 22. 障がいのある人が避難所の生活で困ると思うこと

【SA】

○「周囲の理解と支援が得られないこと」が29.7%で最も高く、以下「情報の入手や意思疎通が難しいこと」が20.1%、「一般のトイレが利用できないこと」が17.1%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、“70 歳以上”で「一般のトイレが利用できないこと」、それ以外の年齢では「周囲の理解と支援が得られないこと」が最も高くなっています。

		合計(n)	一般のトイレが利用できないこと	情報の入手や意思疎通が難しいこと	避難所で提供される食事が食べられないこと	移動や歩行が困難であること	身体の高潔保持が難しいこと	周囲に人がいる空間で過ごすことが難しいこと
全体		762	17.1	20.1	0.7	9.1	2.5	12.9
年齢別	10～20歳代	71	7.0	15.5	1.4	11.3	5.6	12.7
	30歳代	112	14.3	20.5	0.9	6.3	3.6	8.9
	40歳代	170	16.5	19.4	1.2	4.7	1.8	14.1
	50歳代	164	17.7	21.3	0.6	11.6	1.2	12.2
	60歳代	134	18.7	20.1	0.0	12.7	1.5	19.4
	70歳以上	110	24.5	21.8	0.0	9.1	3.6	8.2

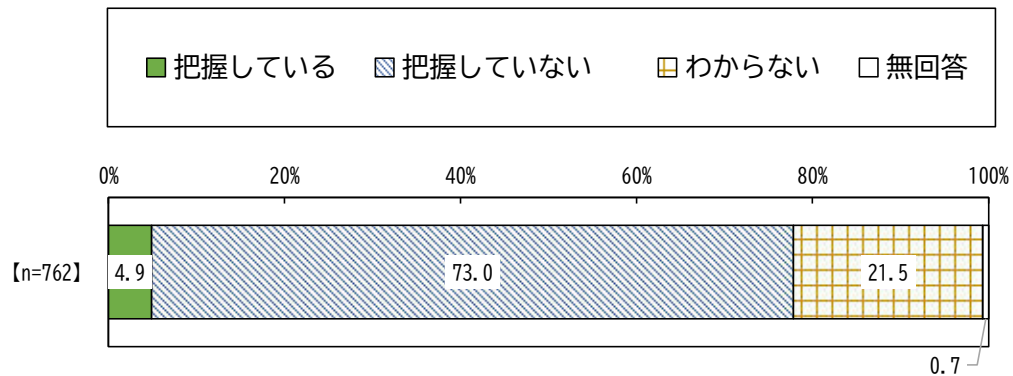
		合計(n)	周囲の理解と支援が得られないこと	必要な医療が受けられないこと	その他	特にな	無回答
全体		762	29.7	3.9	2.9	0.7	0.7
年齢別	10～20歳代	71	35.2	9.9	0.0	1.4	0.0
	30歳代	112	40.2	1.8	0.9	1.8	0.9
	40歳代	170	33.5	3.5	4.7	0.0	0.6
	50歳代	164	27.4	2.4	4.3	1.2	0.0
	60歳代	134	21.6	2.2	3.0	0.0	0.7
	70歳以上	110	22.7	7.3	1.8	0.0	0.9

単位：％

問 23. 災害時に自力避難が困難な障害のある人の把握について

【SA】

○「把握していない」が73.0%で最も高く、以下「わからない」が21.5%、「把握している」が4.9%となっています。



【年齢別・地域別の集計】

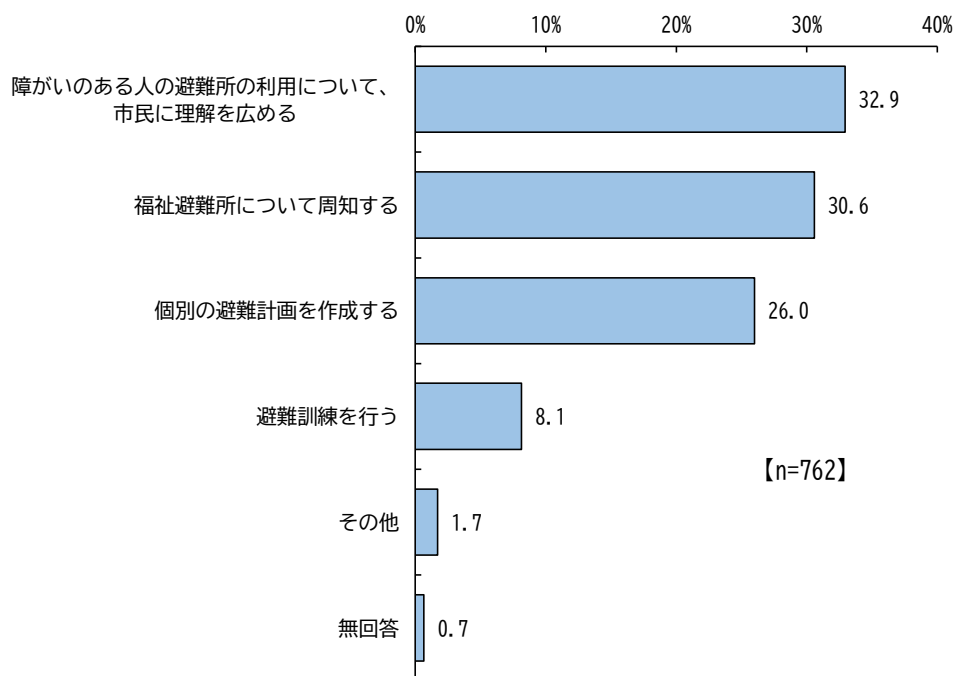
○年齢別にみると、すべての年代で「把握していない」が最も高くなっています。

○地域別にみると、すべての地域で「把握していない」が最も高く、特に“印旛”で8割以上と他の地域を上回ります。

		合計(n)	把握している	把握していない	わからない	無回答
全体		762	4.9	73.0	21.5	0.7
年齢別	10～20歳代	71	8.5	70.4	21.1	0.0
	30歳代	112	4.5	80.4	14.3	0.9
	40歳代	170	0.6	77.6	21.2	0.6
	50歳代	164	4.9	76.8	18.3	0.0
	60歳代	134	6.7	63.4	29.9	0.0
	70歳以上	110	7.3	66.4	24.5	1.8
居住地域	北部	137	5.8	68.6	23.4	2.2
	南部	279	4.7	72.0	22.6	0.7
	船穂・草深	172	4.1	72.1	23.8	0.0
	印旛	67	3.0	82.1	14.9	0.0
	本埜	102	5.9	76.5	17.6	0.0

単位：％

○「障害のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が 32.9%で最も高く、以下「福祉避難所について周知する」が 30.6%、「個別の避難計画を作成する」が 26.0%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、“10～20 歳代”と“40 歳代”では「福祉避難所について周知する」、それ以外の年齢では「障害のある人の避難所の利用について、市民に理解を広める」が最も高くなっています。

		合計(n)	避難訓練 を行う	個別の避難 計画を作成する	福祉避難 所について周知する	障がいのある人の 避難所の利用について、市民に理解 を広める	その他	無回答
全体		762	8.1	26.0	30.6	32.9	1.7	0.7
年齢別	10～20歳代	71	15.5	26.8	33.8	23.9	0.0	0.0
	30歳代	112	10.7	28.6	28.6	31.3	0.9	0.0
	40歳代	170	5.9	27.1	34.1	31.2	1.8	0.0
	50歳代	164	4.9	20.7	34.8	36.0	3.0	0.6
	60歳代	134	6.0	31.3	23.9	35.8	2.2	0.7
	70歳以上	110	11.8	22.7	27.3	35.5	0.9	1.8

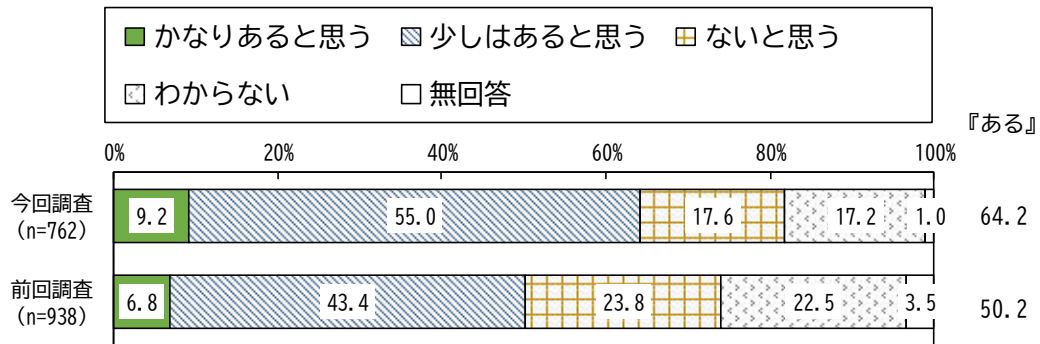
単位：%

問 25. 周囲に障がいが理由の差別・偏見があるか

【SA】

○「少しはあると思う」が55.0%で最も高く、「かなりあると思う」と合わせた『ある』は64.2%となっています。

○前回調査と比べ、『ある』は14ポイント増加しています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、すべての年齢で「少しはあると思う」が最も高く、『ある』は“40歳代”で7割を超えています。

		合計(n)	かなりあると思う	少しはあると思う	ないと思う	わからない	無回答
全体		762	9.2	55.0	17.6	17.2	1.0
年齢別	10～20歳代	71	15.5	43.7	28.2	11.3	1.4
	30歳代	112	6.3	62.5	15.2	15.2	0.9
	40歳代	170	11.2	62.9	14.1	11.8	0.0
	50歳代	164	9.8	54.9	16.5	18.3	0.6
	60歳代	134	8.2	50.7	20.1	20.9	0.0
	70歳以上	110	5.5	48.2	17.3	25.5	3.6

単位：％

○自由意見として、48 人から、49 件の回答がありました。主な内容は次のとおりです。

◆公共施設の設備（24 件）

- ・市役所本庁舎、支所のトイレが古くて狭い（2 件）
- ・市役所のトイレの場所がわかりにくい、市役所自体不便な場所にあると思う。
- ・役所のトイレに入る際に扉が閉まりにくい記憶がある。
- ・古い市役所は狭くて不便を感じる。
- ・市役所にエレベーターが 1 台しかないのは不便。
- ・本庁舎が全体的に古い印象、フロアを集約して上の階に行かなくてもいいようにしてほしい。
- ・点字や点字ブロックを増やしたり。階段のとなりにスロープを作った方がいいと思う。
- ・全体的に言えるのが、トイレ等、車椅子専用でもペーパーホルダーの位置が車椅子の人が使う高さになかったり、全く考えられていない。介護に携わっている人も設計時に聞かれるまちづくりが全てにおいて必要になる。
- ・各市のバリアフリーの差がある、駐車場の整備、台数をもう少し増やす。
- ・施設が古い、現在の市の中心地に機能が配置されていないので、そもそもバリアフリーとは言えないと思う。
- ・小倉台の図書館のトレイが狭い（2 件）
- ・小倉台図書館のトイレが狭いし少ないので障がいのある方は特に利用しにくいと思う。
- ・図書館の通路が狭い場所がある
- ・中央公民館のトイレに段差があり身体障がい者は使用が難しいと思う。
- ・車椅子で入れない、バリアフリーになっていない施設がある、整備されていないところがある。
- ・古い施設は元々バリアフリー設計になっていないので全て刷新するか、改装しなければ中途半端になってしまう。
- ・近くの印旛支所、図書館改装中につき改築結果に期待したい。
- ・各地域の庁舎が老朽化している。古い庁舎の現状を理解し、トイレ、冷暖房等の設備を整備してください。特に中央公民館のリフォームが必要だと感じました。館長が不在なのも不思議です。
- ・バリアフリーは随分進んでいると思います。避難所のトイレが狭い、避難所がバリアフリーになっていない。
- ・公共トイレのバリアフリー化
- ・温水センターの風呂が狭い

◆当事者意見の反映、介助（8 件）

- ・市内の公共施設は健常者目線でバリアフリー化になっていると思います。障がいのある方々の意見を集約して改修工事をすべきです。
- ・健常者の立場としては、現状のものを当たり前を感じ生活しているため特に問題は感じていない。障がいのある方が思う箇所の改善をしていけば更に住みやすくなると思う。
- ・周知することが浸透していない点に尽きると思う。
- ・合理的かつ効果的に行う。建前ではなく合理的に利用を考えた税金利用が求められる。市民の力も活用して安全確保の取り組みが望まれます。

- ・公共施設でそのような人がいるのを見たことがないが、外に出ないのではないかと。福祉を本気で考えてこのようなアンケートなら市がもっと海外を学ぶなど動いてくれないと何とも言えない。本気で考える気があると思えないアンケートです。
- ・土足厳禁の施設について、障がいのある方に靴の履き替えを求めているが利用しづらいと思う。段差に配慮したり、援助が必要なときは職員を呼べるような表示をしたり仕組みが必要。
- ・電車に乗るまでホームで誰かに付いていてほしい。公共施設はかなりよくはなっているが行くまでの手段などを考えてほしい。
- ・エスカレーターの乗り方に工夫が必要。

◆道路環境・交通の利便性（8件）

- ・道路の段差が非常に多い。車椅子を外で使いたくても自由に使えないので外出できない。
- ・歩道の段差
- ・木下や大森は歩道が狭く高齢の方が歩くのも危ない。バリアフリー以前の話である。（印西警察署の入口の信号から踏み切りにかけてが危険）
- ・車の通行量が多いのに歩道のない道路が多く、障がいのある人には危険である。介助者が同伴していても危険。
- ・公共施設は改修工事も進み問題があるとは思っていません。国が管理する道路に面した歩道の段差が高すぎて、車椅子の方が車道を使わないといけない状況の場所があります。
- ・その視点では十分に計画を進めていると思いますが、まずその施設に気軽に辿り着くためのインフラの整備がされていないと感じます。
- ・公共施設を千葉ニュータウン駅付近に集合させてほしい、点在していると行きにくい。現在の市役所に行くにも不便です。
- ・公共施設に行くまでの交通機関が悪いのでそもそも利用できない。

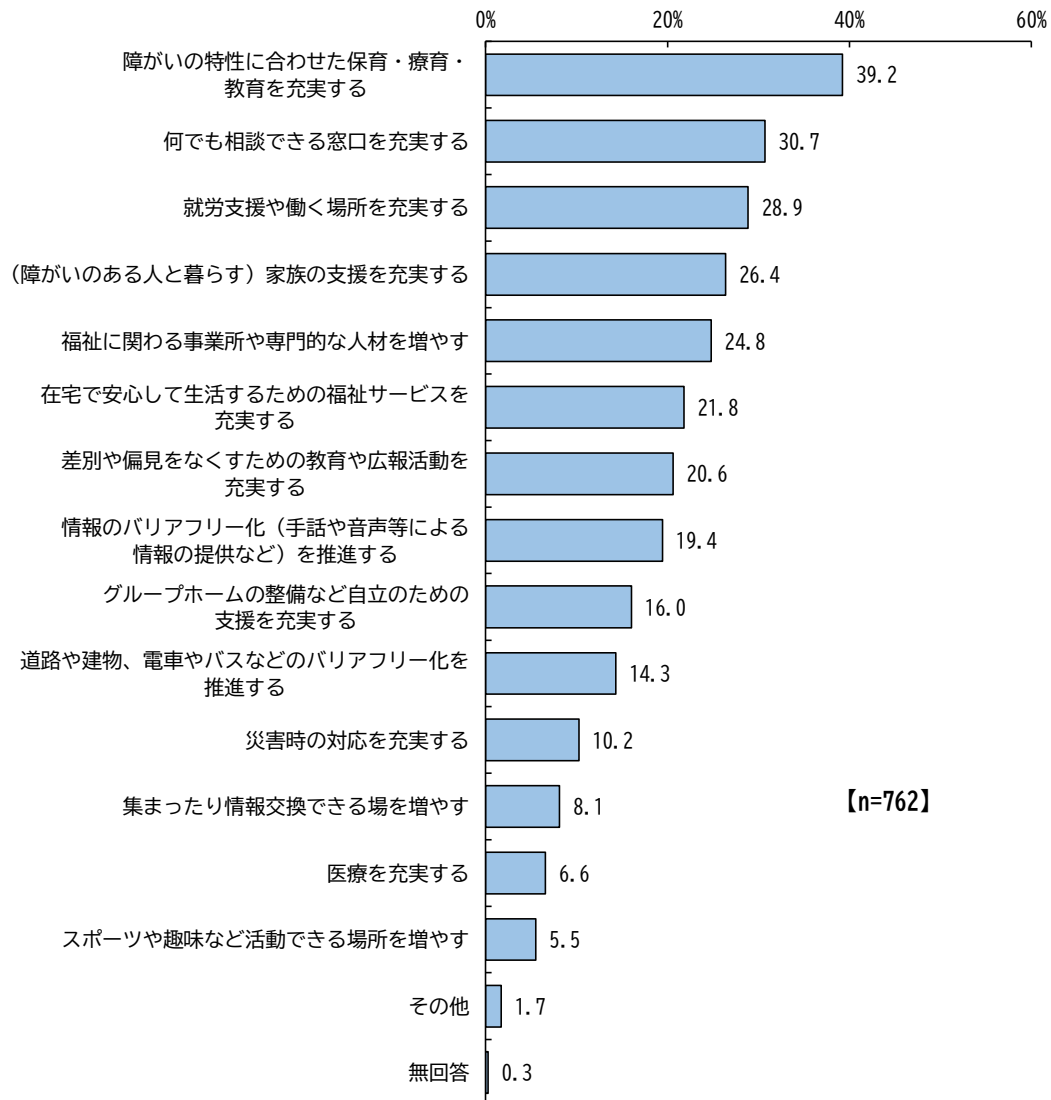
◆サインや表示（7件）

- ・視覚障がい者のための国際シンボルマークを知らなかったが、市が管理している公共施設で該当するマークがあった場合、意味も含めて大きく啓示してほしい。
- ・市役所の案内表示がわかりにくい。市役所の入口が駐車場からだと坂道になっていて利用者は大変だと思う。
- ・トイレ等、優先の方を後回しにして使用している人がいるので、表示をしっかりとしてほしい。
- ・身近な公園のトイレは手すりがあると思うが、案内表示はなかったと思う。
- ・障がいのある方専用の駐車場が少ない、あっても位置がわかりづらい。
- ・ピクトグラムで色をつけて大きく表示する。
- ・障がい者専用駐車場を健常者が平気で利用している、意識の低さを痛感します。

◆当事者でないため考えられない（2件）

- ・自分が障がい者ではないのでこのような質問には答えられない。失礼だが、障がいのある人の目線で考えたり見たりすることはない。
- ・十分だと思う。健常者である自分には理解が及ばない領域がある。

○「障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する」が39.2%で最も高く、以下「何でも相談できる窓口を充実する」が30.7%、「就労支援や働く場所を充実する」が28.9%、「（障がいのある人と暮らす）家族の支援を充実する」が26.4%となっています。



【年齢別の集計】

○年齢別にみると、“70歳以上”は「何でも相談できる窓口を充実する」、それ以外の年齢では「障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する」が最も高くなっています。（“10～20歳代”は「障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する」と「（障がいのある人と暮らす）家族の支援を充実する」が同率で最も高い。）

		合計(n)	何でも相談できる窓口を充実する	情報のバリアフリー化（手話や音声等による情報の提供など）を推進する	福祉に関わる事業所や専門的な人材を増やす	在宅で安心して生活するための福祉サービスを充実する	医療を充実する	障がいの特性に合わせた保育・療育・教育を充実する	就労支援や働く場所を充実する	（障がいのある人と暮らす）家族の支援を充実する
全体		762	30.7	19.4	24.8	21.8	6.6	39.2	28.9	26.4
年齢別	10～20歳代	71	22.5	29.6	15.5	21.1	7.0	33.8	28.2	33.8
	30歳代	112	21.4	20.5	25.0	17.0	8.0	50.0	26.8	29.5
	40歳代	170	27.6	20.0	28.2	14.7	6.5	40.6	32.4	29.4
	50歳代	164	31.7	18.9	23.8	19.5	7.3	39.6	26.2	26.2
	60歳代	134	36.6	18.7	25.4	29.1	5.2	38.1	25.4	23.9
	70歳以上	110	41.8	12.7	26.4	32.7	5.5	30.9	34.5	17.3

		合計(n)	集まった情報交換できる場を増やす	道路や建物、電車やバスなどのバリアフリー化を推進する	グループホームの整備など自立のための支援を充実する	差別や偏見をなくするための教育や広報活動を充実する	スポーツや趣味など活動できる場所を増やす	災害時の対応を充実する	その他	無回答
全体		762	8.1	14.3	16.0	20.6	5.5	10.2	1.7	0.3
年齢別	10～20歳代	71	5.6	16.9	14.1	18.3	4.2	14.1	1.4	0.0
	30歳代	112	7.1	16.1	13.4	13.4	5.4	10.7	0.0	0.0
	40歳代	170	7.6	14.1	12.4	22.4	5.3	9.4	1.8	0.0
	50歳代	164	10.4	14.6	19.5	23.2	4.9	5.5	3.7	0.0
	60歳代	134	9.0	11.9	20.1	19.4	6.0	9.0	0.7	0.0
	70歳以上	110	7.3	13.6	15.5	24.5	7.3	17.3	1.8	0.9

単位：％

○自由意見として、205 人から、212 件の回答がありました。主な内容は次のとおりです。

主な意見	件数
アンケートについて	51 件
◇このアンケートに答えるにあたって、障がいの内容・程度が様々なので全部の障がい者を想定して考え答えるのはとても難しいと思った。 ◇アンケートの返信用封筒が小さいと感じました。 ◇このアンケートを通じて自分自身の障がい福祉への知識度が非常に低いことを再認識しました。これから日頃の生活で視野を広げて知識を増やしていきたいと感じました。さらによりよい印西市になっていくのを応援すると共に自分も何か貢献できたらと思います。 ◇障がいのある方の目線で、普段過ごしてなかったのもので、アンケートの内容で回答できない部分があった。障がい者に優しいまちづくりをお願いしたいが、当事者達の意見を一番にきいてほしい。 ◇障がいと一括りにしても幅広すぎて回答が難しかった。障がいがあってもなくても、人それぞれ特性があり、苦手なこと得意なことを補い合って生きていけばいいと思っています。	
行政・行政施策	28 件
◇温水センターのように障がいのある人（軽度であったり、多少の介助で独歩可能な方）と健常者や子どもが同じ場所でプール、風呂を使うのはとても良いと思っている。活動する場所を分断されない空間を、市で整備していくことは、障がい者福祉を考える上で大切だと思う。老朽化している、取り壊しが決まっているかと同様の施設を市の中心部に作ってほしい。 ◇家族・親類に障がい者不在のため福祉施設等についてはほとんど知識がない。このアンケートを通じ自身もいずれ当事者になる可能性をふまえ考えた。現在把握されている障がい者の方に対する計画については具体的な意見要望をふまえ計画・実施されるでしょう。問題は確実にやってくる高齢者社会を考慮した上で高齢者から障がい者へと移行する未知数の人員を予測し計画を立てるか、また組織の垣根を越えた施設の有効活用。 ◇障がいのある方とのタウンミーティングもよいのではないかと思います。 ◇市の施設に計画書が閲覧できるようになっていますが、そこに足を運んだ人の中で見る方はあまり多くないと思います。市の広報誌に障がい福祉の特集ページを設けて、計画書が閲覧できるための QR コードを貼るなど、市民の方が知る機会を柔軟に増やしたらいいと思います。 ◇福祉施策に、熱心に取り組んでいると思いますが実際の所では関心を持てる様に感じている人が少ない様に感じます。難しいとは思いますが頑張ってくださいたいです。	
障がいへの理解・共生社会	27 件
◇障がいの種類や程度、症状もさまざまだと思いますので、一人一人の特性に合った対応は非常に難しいものだと思います。今回のアンケートは無作為に抽出したとのことですが、障がい者とその家族一人一人が何を求めているか聞くことがまず大切なのだと感じました。職域においては、まだまだ障がい者に対する理解は足りていないと感じています。差別はしないと漠然としか考えておらず、特に発達障がいや精神疾患に関しては、その障がいのある人と距離を取ろうとする人が多いと感じます。一方で障がい者を多く雇用すれば職場での負担が大きくなるとも思います。まずは障がい者に対する理解を深	

めることが必要と思います。 ◇印西市の公共施設はバリアフリーが導入されている所が多く点字ブロックや車イススロープなどがあり、障がい者の方が使いやすく生活できるように設備が整っている印象を受けます。障がい者の方と普段は関わりがほとんどないのですが、こちらのアンケートを通して法律やマークについて詳しく知ることが出来て良かったです。改めて理解を深めていきたいと思いました。障がいがあるないに関わらず平等で対等な社会になってほしいと感じました。 ◇手を差し伸べる準備ができている人たちが、障がい者に対しどのように手を差し伸べるのがベストなのか、正直ある程度の模範が欲しいと思う。手を差し伸べる以前の問題ではありますが、障がい者が正直何が求められているのかを考えてしまい声はかけづらく足が止まってしまう。そういう意味ではヘルプマークはある程度の要求が書き記されてることが多いので声をかけやすいと思う。障がい者本人へのサポートも必要だが、それを支える家族や教育機関、医療機関へのケアも大事だと思う。 ◇支援施設や特別避難場所は知らなかったし、日頃使っている施設でどこが使いづらいか思い浮かばなかった。障がいのある方に関する情報に触れる機会が少なく考える機会が少ないからかなと思った。学生時代にボランティア活動で関わっていた頃はもっと考えていたので、市民が学校生活や社会生活で関わる機会を多く設けることで、まち全体が主体的に考え取り組んでいけるきっかけになるのかなと思った。	
福祉サービスや相談支援体制	23 件
◇障がい福祉に限らず、本当に困っている人でも相談のしかたがわからない、電話相談窓口等の情報はわかっていても一歩踏み出すのが難しい、そういう人も多いと思う。困ったら相談してくださいばかりでなく、市の方から相談できる場面を定期的に作るのも良いのではないかなと思う。 ◇最近印西市においても精神障がい者の A 型、B 型等の就労支援施設が整ってきており、喜ばしい限りです。ただ、親亡き後など将来の生活支援を考えた場合、グループホームが最適と考えるが印西市には存在しない。精神障がいの場合、共同生活はかなり難しいと思うので、いわゆるサテライト型の独立した住居にして見守り支援が必要だと思います。 ◇障がいのある方の理解を深めるために、教育を小さいうちから行った方が良いと思います。また、家族への心と身体の負担を軽減できるような仕組みを構築できると良いと思います。例えば LINE 等気軽に相談できるような形にするなど。また教育現場での教員の方々の対応や知識を深めること(勤務時間等の関係で困難な場合はフォローの体制をもっと充実するなど)。いろいろな方が住みよい市になることを願っています。 ◇全国一律的な行政サービスから脱却し、魅力ある印西市として特色のあるサービスを充実すべき。特に共働き世代が増加しており、保育預かりサービスなど同世代が要望する何らかの障がい福祉サービスに取り組んでほしい。	
バリアフリー	19 件
◇イオンへ行くと車イスに乗った人をたくさん見かけます。バリアフリーで通路が広く、健常者でも過ごしやすいです。公共施設のトイレは必ず「だれでもトイレ」があるべきです。高齢者も外出しやすいように、歩道にベンチを至る所に設置してほしいです。(緑道やバス停)ベンチがないので石の上に座っている人を見かけます。車イス利用者だけでなく、足腰弱っている高齢者のための福祉対策も考えてほしいです。 ◇障がい福祉のための施設や整備の充実は必要だとは思いますが、そのため、その他の財源が圧迫されてはいけないと思う。関心のない人が多数だと思うので、心のバリアフリーがまず第一だと思う。	

◇バリアフリー施設等の対策は、障がい者に限らず高齢化社会にとっても重要な対策だと思います。私の理解が浅い部分はあると思うのですが、あまり特別視しないことや、高齢者等の支援が必要な方向けの対策として推進する部分があっても良いと思いました。	
情報発信・周知啓発	18 件
◇このようなアンケートを通して、障がい者の方々への意識が変わる人も多いと思うので実施されて良かったと思います。障がいのマークを見たことはあるけど詳しくは知らないマークがほとんどでしたので、地域で詳細がわかるものが配られたりすると、災害時、より多くの理解や受け入れがあるのではないのでしょうか。 ◇福祉施設等、私自身があまり考えたことがなかったこともあり、印西市にどのような施設があるのかよくわかっていない。どのような施設があって、障がいの方々はどう接したり、そういう場があるのかなど、よくわかるように発信してもらいたい。 ◇一般公開されている情報が少ない。 サービスや施設など検索すればすぐに知りたい情報が得られる、かつわかりやすいまとまった資料などがあると便利。 ◇意識や興味を持たないと福祉施策に気付きにくいので、目にしやすいような情報提供をいただけると助かります。	
教育・保育、障がい児支援	19 件
◇印西市における子ども発達センターの充実を希望します。民間ではなく、市で運営することに意味があり、信頼ある施設になるのではないかと思います。 ◇印西市の障がい福祉施策についてはまだ熟知していません。障がいが重いほど、インテグレーション教育は年令が低いほど周囲の子どもが受け入れやすい。そこで年令の小さいうちに自然にそうした子に触れる機会を設けることは生涯にわたってもそうした子（人）を受け入れられる下地を作れると思う。小学校は教育が主となるため、障がいがある場合は保育園、幼稚園自体までの関わりとなるが、そうした機会、場所を設けられるようにしていけるとよい。場合によっては正規Ⅰ，看護士Ⅰを一人につけなければならぬだろうが（園全体の人は別に）。そして同時にその子たちの療育の機会も同時進行していけるとよい。 ◇印西市に障がいのあるお子さんが通える幼稚園や保育園、習い事が少ない気がします。佐倉市や成田市など市外に通わなければならないと保護者の方の負担も大きいと思います。また、障がいを持ったお子さんも大人も 1 人の人間なんだという認識がとても大事だと思います。交流する機会やイベントなどが必要だと思います。特に、幼稚園、小学校、中学校での教育の場でも必要だと強く感じます。	
交流・ボランティア	8 件
◇障がいのある方々がもっと外へ出て、多くの人とふれあえる場を設ける必要があるのではないのでしょうか。 ◇市内にある障がい者の方が働くピザのお店は美味しくて私もお気に入りです、そのようなお店が増えれば、お客様側も障がい者の方との距離も縮まり偏見などもなくなり障がい者の方々が住みやすい市になると思います。 ◇高校、大学、社会人になっていくにつれ、障がいのある人との交流が減ってしまうので、お互いの理解を深めるための交流の場が、常にあるとよいと思う。そして、協力し合う意識をみんなが自然にもつ社会になっていきたいと思う。	
雇用・就労	6 件
◇「ピッツェリア オソロク」がどういう形で運営されているのかよく知らないが、野菜を作って食材に使ったりと障がいにある人でもできるところで働き、美味しい食事を提供していることは、社会参加という点で素晴らしい取り組みだと、行く度に感じている。	

同じお金を使うなら障がいのある人達に少しでも協力できればと思う。こうした店が増えてくればうれしいし必ず行くと思う。一般企業ではなじめず、難しいこともあると思う。市で、障がいのある人達が働ける場所を作ってあげられないか、考えてほしい。障がいのある子の親は、自分が高齢で働けなくなったらと心配することもあると思う。生涯入れるグループホーム等、施設の充実もぜひ考えてほしい。 ◇学校生活が終わったあとにどういう道があるのかを早々に示したり、案内によって選択肢が小さい頃からわかると抵抗がなくなるのではないのでしょうか。親もわからないことだらけ、就職ができるような道筋を明確に提示が必要。	
交通・移動支援	3件
◇印西市は公園も多いし、商業施設も他の市と比べると比較的良いが、基本的に車社会だと思う。生活をする上で移動手段がネックになってくるので、交通インフラの充実や、車が使えない人や今後高齢化していく住民が困らないような施策も考えていくべきでは。誰でも無料で使える循環バスなどを走らせて、病院や商業施設と行き来できると、交通弱者と言われる人々も活動範囲を広げられるのではないのでしょうか。	
その他	17件
◇ご参考になるかはわかりませんが、今「(株)ヘラルボニー」という会社が注目されています。障がいのある人のイメージ変容と共生社会の実現を目指している会社です。つくば市役所内には障がい者の方が作った商品のお店「融点(ゆうてん)」があるようです。 ◇以前学校で障がいに関する講座を受けたことはあるが、自分の知っていることは少しだけで、まだまだ知らないことがたくさんあると思いました。 ◇ロボット技術が役に立っていく事は想像出来ます。そのような技術を持った企業や研究機関に協力的な動きをする事で良い効果が生まれれば良いと感じます。	

印西市 障がい福祉に関する アンケート調査 結果報告書

発行年月：令和 8 年 5 月

編集・発行：印西市福祉部 障がい福祉課

〒270-1396 千葉県印西市大森2364-2

TEL：0476-33-4639

FAX：0476-42-0381